

# ひ

**ひあがる (干上) 【自ラ五】** 1) よく乾く 乾ききる 水気が無くなる 2) 潮が干ききって陸地になる すっかり潮がひいてしまう 3) 生活しかねる 口なヒアガル [会話] 1) 飯な (が) ヒアガルとか、たあ (田) の水なきれると (無くなると) 田もヒアガッて ひびな割れとる (割れ目が出来て居る) とか、畑も水つきゃ (水の多い所は) ジャブジャブしとたけど (して居たが)、ヒアガッタレ (た) 言うて。水な (が) すいてくと (行くと) 川の水も ヒアガッたりして、じつきん (すぐに) 雨やなあ (だ) 言うて、乾いて 水が無くなる 水がすいてた (地下に吸い込まれた) 言う事。

**ひあし (日脚) 【名詞】** 1) 日の差している状態 2) 日の差している時間

**ひあそび (火遊) 【名詞】** 1) 火をもて遊ぶ事 火なぶり 2) 危険な情事 [用例] 1) ヒアソビすると ねしよんべすんど (寝小便をするぞ)。

**ひあたり (日当) 【名詞】** 日がよく差す所 日の差す様子 [会話] こか (此処は) どいらい (大変) ヒアタリな (が) ええなあ (よい) 言うて。よく 日な (が) 当るとこ (所) ヒアタリなええとこ 言うて、日な (が) 差すとこ。

**ひい (樋) 【名詞】** 1) 船中に魚介を生かして置く時に海水の流れをよくするための穴につめる栓 (志 (浜島、布施田)、桑郡、桑市、員、三、鈴郡、鈴市、亀、安、津、一、久、松、多、上、阿、張、賀、度、伊、鳥、北、尾、南、熊) 2) 風呂釜などに水を貯へる時 排水口につめる栓 3) 更にすべて 水の流れを止める堰 [会話] 1) ヒイ挿せ言うて。舟の ヒイも挿さんと (挿さずに) そやれ (それ) 言うて、ヒイも 挿さな (なければ) 水舟んなんど (になるぞ) 言うてなあ。かんこ (生簀) のヒイは 魚 活けんならんよって (にはならないから) ヒイは 抜いといて (ておいて) 表 (船首) のヒイは かつとお (堅く) 打つとけよお (ておけ) 言うてなあ。2) 酒よけ (沢山) 飲む人もなあ おおた ヒイな (が) 抜けとる (ている) 位やなあ (だ)、いくら飲んでも 飲んでも 飲む人な (が) おるやろ (居るでしょう)、あの人 ヒイな (が) 抜けとんねどなあ (ているのだ) 言うて。栓とか 詰めもん (物) とか言うのを、ヒイヤ (だ) 言うのなあ (です)。しよいだる (醤油樽) も ヒイな

(が) ぬるうて (ゆるくて) 皆 漏ってかれ (行く) えごと (完全に) ねじとけよお (ておけ) 言うて、しよいだるや すうだる (酢樽) や、さかだる (酒樽) や言うてなあ 皆 ヒイな (が) 打って有るやんかい (有ります)。

**ひい (火) 【名詞】** 1) 燈火 あかり 物体が燃える時に出す炎や熱 また燃えたり 熱せられたりして赤熱した物 (志 (布施田)、桑郡、桑市、員、三、鈴郡、鈴市、亀、安、津、一、久、松、多、上、阿、張、名、度、伊、鳥、北、尾、南、熊) 2) 神佛に供える燈明 [会話] 1) ヒイ (火) に なつとんな (なつて居るのだ) 怒って、顔もなんも ヒイに しとるてやら (して居るとか)、火 焚くと 早よ (く) ヒイな (が) おこつとるうち (燃えて居る間に) 餅 焼かなはざん (なければいけない) 言うて。ヒイな (が) おこつとるうち 言うて、堅炭や消し炭 コンロい (へ) 入れて おこすやんない (でしょう) ヒイおこしとけ (ておけ) 言うて、ヒイな (が) おこつとる (燃えて居ると) おきな (燠炭火が) 燃えてきたれ (来た) 言うて。炭火な (が) おこつて来るやんない、おきや (だ) 言うの (のです)。餅も焼いとけ、魚も焼いとけ (ておけ) ヒイな (が) おきとるうち (間) 言うて、残り 勿体ないわれ (です) 言うて。たね (火種) に 燠 残しとけよおてやら (ておきなさいとか)、炬燵い (へ) 燠 入れとけよお (ておきなさい) 言うたり、ヒイを 燠や (だ) 言うて。燠もいけたか 言うて。ヒイな 燃えとるとこやなしん (所でなくて) 燃えた傍んどこ (の所) を、薪 焚くやんない (でしょう) 割木やどけ (など) 焚くと 燠なよけ (沢山) 出来て 勿体ない言うて 消し壺い (へ) 皆 それ入れて 炭にして そして こんだ (今度は) それをつける (着火する) 事を 燠 おこしとけ (ておけ) 言うて。○ 爺さんな (の) めえ (目) も一緒に 火鉢い (へ) 燠 入れといて (入れておいて) ○○小父の 目とか けたら 何と解く言うて 神の島と 解くわいなあ 言うたら その心は、目一杯おき。目一杯 體 (海) 言うのを 神の島 沖中に有る言うて 神島は 此れ (海岸) から 三里も 沖やよつてんなあ (だから) 神の島や 言うて おき 火鉢の中に有る 言うて。2) 神さんや (とか) 佛さんに ともす 御燈明の事も ヒイ 言うて、神さんへ 御燈明あげえ (あげなさい) 言

うて ヒイ着けんの (着けるのを) 御燈明や (だ) 言うて。 ほとくさん (仏様) へつけるのを みやかし (みあかし) 言うてなあ、みあかし つけたとか言うて。 1) もお一つ ヒイ (火) 言うて 真っ暗がりになって来た時 ヒイも着けよ、ランプ着けよ言うての (のを)、ランプい (へ) ヒイ ともせ言うて。昔や ほや (ガラスの覆い) あげといて (ておいて) マッチ擦って ひゅっとしよおった (して居ました)。わしら子供の時分にや (頃には) ランプのほや 磨かなはざんし (なければいけないのです) がっこ (学校) から来ると ほやも磨いときやええけど (ておけばよいのに) 言うて、油煙でくすぼつとると (くすぶって居ると 煤で汚れて居ると)。 あんまり (あまり) かりたてると (芯を多く出すと) 油煙な (が) よけ出られ (沢山出る) 言うて くうらい (黒い) 煙を 油煙や (だ) 言うて。

**ひい (火) 【名詞】** 月経 (志)

**ひい (日) 【名詞】** 1) 太陽 2) おひさま 太陽の出てる間 朝から夕方迄 ひるま (三重県全域) 3) 日 [会話] 2) ヒイ (日) 一杯。今日はまあ まら一杯やったなあ (だった) 言うて。一杯 日な (が) 暮れる迄働くと 日がずんぶりいれる迄 (とつぶり入る迄) 働いとると (て居ると)。今日はよだやったなあ (だった)。よだ こいたなあ言うて。お日さん出とるあいだ (て居る間) ヒイ一杯言うて お日さんの有るうち (間) 仕事しとると (して居ると) ヒイ一杯しとた (して居た)。

**ひい (碑) 【名詞】** 石碑 記念碑等

**ひい (日) 【名詞】** 天候 (多)

**ひい (一) 一つ** ヒの長音化

**ひいあたる** 暖をとる 火を燃やして暖を取る [用例] 海女さんのヒアタルとこ (所) ひば言うの (のです)。

**ひいいちんち 【名詞】** 1) 日一日 物事が日に日に進行して行くのを表す、一日ごと 2) 一日中 まる一日 [用例] 1) ヒイチンチ ぬくたなって来た (暖かくなって来た)。

**ひいいっぱい 【名詞】** 日一杯 終日 太陽の出てる間 いっぱい 副詞 限度であるさま ありったけ ひい (日) 参照 (志)

**ひいか 【名詞】** 1) 燈火を好んで集まる小さいいか じんどういか ジンドウイカ科 小形のイカで胴長約10cm。肉鱗は菱形で胴の約半分をしめ甲は薄質半透明の暗紫色。食用。2) 乾かしたいか 干鳥賊 (南)

[会話] 2) ヒイカ 干したいかをなあ (です)。 1) ちっちゃあい (小さい) いかに 火むいてよお (向ってよく) 集まって来る いかに、ひい (火へ) 着く言うなあ (言います)、たかってくと、いかな (が) 火へ ついたよおななあ (ようだ) 言うなあ (言います)。 人ら (が) なんへでも (なににでも) たかるやんない (集まるでしょう) いかな (が) ヒイついたぐらいや (だ) 言うて、ヒイカ言うんやろなあ (言うのでしょう)。 いかに釣りは、みんな (皆) 火 焚いて するやろ (するでしょう) そおすと (そおすると) いかな (が) ひいへ 皆 寄って来るのなあ (集まって来るのです) そんで (それで) いかな (が) 火、ついたよおななあ 言うて たかって来ると たかる言うのは 寄ってくの (て行くのを)。

**ひいき (最良) 【名詞】** 片手落ち 一人の人を持ち上げる事 (三重県全域) [会話] ヒイキな (が) 有って、先生な (が) ヒイキすんのも (するの)も 有るしなあ。 なんやかや しなもん (品物) 分けても あの人にや (には) ヒイキで よけ (多く) やる言うて、そやってすんのを (そのようにしてするのを) ヒイキ 言う時もあるし、ちよいちよいつ (少しづつ) よけいつやんのを (よけいにやるのを) ヒイキや (だ) 言うて。あれ (彼を) ヒイキした 肩持って言うて 肩入れする事を ヒイキ。

**ひいけ (火活) 【名詞】** 火種 火の気 炭火を消えないように灰の中に埋めておくこと [会話] 堅炭言うて そげんよけ (そんなに沢山) 使かわせん (使かいません) ヒイケだけで。

**ひいさん (日様) 【名詞】** 太陽 ‘お’ をつけて、おひいさんの事が多い (一、度) [会話] オヒイサン。 オヒイサンな (が) よお (よく) 当るとこや (所だ) 言うて。 オヒイサンを あなたや (だ) 言うの (のです)。

**ひいじいさん (ひいぢいさん) 【名詞】** 曾祖父 ヒジジの長音化 (広辞苑) (鈴市、一、南、熊)

**ひいじゅう (日中) 【名詞】** 一日中 日の有る間 (志 (鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乘)) [会話] 一日中 言う事を ヒガナヒイジウ 言うの (のです)。 ヒガナヒイジウ 今日 立ちづめやった (立ち通しだった) とか、ヒガナヒイジウ 働きづめ (詰め、通し) で言うて、一日の事を ヒガナ ヒイジウ。毎日すると、日にもまい (毎) にもしとる (して居る) 言うて。あした (明日) も あさって (明後日) もすると 日にも毎にも うなし (同じ) よおな事ばつか (ばかり) して言うて。

ひいせせり。ひいせせりちんぼせせり。ひいせせりばぼせせり【俚諺】 焚火をしている時、いつも、火をなぶっている人 [会話] 火場で ひい (火) 当つとる (ている) 時 ひいな (火が) 燃えて ひいばっか (火ばかり) なぶつとる (ている)、火箸 置かんと (ずに) なぶつとるにげ (人間) を ヒイセセリ言うて ヒイセセリ チンボセセリ言うて ヒイセセリボボセセリやたら (だとか)。

ひいた 干潮を言う (志)

ひいた 1) 仲間から退いた 2) 遠慮した

ひいたき【名詞】 火を焚くこと、またその人 [会話] 婆な (が) ひいたきさんえ (に) むこて (座って) ヒイタキしてなあ、ヒイタキ言うのは 火を焚く事をそして 焚く人も ヒイタキ言うてなあ。

ひいたきざ。ひいたきざん。ひいたくさん。ひいたきば【火焚座】【名詞】 かまどの前の座 (志 (布施田、鶴方、神明、立神、甲賀、国府、安乗)、鳥 (国崎)) [会話] ヒイタキザ言うて 火 (ひい) 焚くとこ (所) を。ヒイタキザ言うのを ヒイタキザン言うて、ヒイタキザン 踏ん張つとられ (座って居る) 言うて。年寄りや (は) ヒイタキザン むかうのなあ (座るのです)、婆な (が) ヒイタキザンで 踏んぼつとられ 言うて。きよくば (薪置き場) と つがい (一対) をヒイタキザン言うのなあ (のです)。

ひいつぐ 大晦日の火種から新年の火を取る [会話] ヒイツグ言うて、火種を かったい (堅い) 炭を、おつごも (大晦日) 水あげてから (供えてから) いけとくと (埋めておくと) 朝迄 かんかんしとるやんない (しているでしょう) それ ヒイツグ言うて。

ひいて【名詞】 1) 一日 終日 ひひて ひして ひ (日) ひと日 (一日) の約 (大言海) 日の第一日日 (志 (御座、布施田、立神、志島、甲賀、安乗)、鳥 (神島)、飯、度) 2) ある日 [会話] 1) 一日の事 ヒイテ言うて。朔の事を 一日言うのを ヒイテ言うの (のです)。ヒイテ (一日) ふつか (二日) みっか (三日) よっか (四日) 言うて。ヒイテ ついたち ふつか みっか と 勘定してたら (して行ったら) 一つおおなつて来た (多くなって来た) 言うて。

ひいてあい【名詞】 一日置き 一日間隔 [会話] 一日 あい (間隔) 置いて 次の日ん (に) 行くのを、ヒイテアイ言うて ヒイテアイん (に) 通とんね (通っているのだ) 言うて。

ひいておき【名詞】 一日置き 隔日 (志 (浜島)) [会話] 一日あい (間隔) 置いて、ヒイテオキに 来て

くれ (下さい) とか言うて 一日あい (間) 置いて、ヒイテオキ言うて。ふつか (二日) おきに言うたら (言ったら) 二日あい (間) 置いて。

ひいてく 1) 盗んで行く 持って行く 2) 干潮になる 潮なヒイテク

ひいてくる 1) 下げて来る 2) 盗んで来る [会話] 1) 座敷のてびき (大皿) ちよいと (少し) てえ (手) つけて、半分位ん (に) になると ヒイテキテ、また新しの出して しとよおったの (して居たのです)。

ひいてくれ 飲んでくれ 食べてくれ (南)

ひいてじお【名詞】 昼間に干潮になる 第一日目 しお参照 [会話] 今日は ヒイテジオ言うて。

ひいてじゅう【名詞】 一日中 終日

ひいでとる すぐれて居る 抜きん出て居る ホ (徳) イズの転 (広辞苑)

ひいてふつか (日一日二日)【名詞】 一日か二日 一両日 [会話] 朔 ふつか (二日) 言うのをなあ (です)。朔言うのを ひいて (一日) 言うんやんかい (言うのです)。物、借りる時ん (に) 一日、二日借してくれ (下さい) 言うのを ヒイテか フツカ 借してくれ言うて ヒイテフツカ 借してもらおかいなあ (貰います) 借して貰うわい (貰います) 言うて。

ひいてぼし (一日干し)【名詞】 一日干した干物 未だ水分を多く含んだ干物 [会話] 魚を 一日干したのおを (のを) ヒイテボシ言うて。きんこ (芋の煮切り干し) でも 一日干したなあ (のは) ヒイテボシや (だ) 言うて。いかの ヒイテボシや (は) 美味しいのになあ。ちよいと (少し) しるけな (汁気・水分が) 取れた程度で ヒイテボシや 美味しい言うやんか (言います)、干物こおて来ても (買って来て)も。

ひいなおりた。ひいなわりなる 月経になった 月経になって火が穢れた [会話] 月経に (に) なった時でも、ヒイナ (火が) オリタ。ヒイナワリナツタ 言うて。いつ (何時) なんか ヒイナオリルヤラ (月経になるか) 判らせん (ない) 言うて。

ひいぬいてくる 小便をしてくる [用例] ビール よけ (沢山) 飲んで、ヒイヌイテクルワイ。

ひいぬく 小便する

ひいばあさん【名詞】 曾祖母 ヒババの長音化、訛 (広辞苑) (熊) [会話] ひこばあさんの事を ヒイバアサン ひいまごの有る人なあ。

ひいひい【名詞】 1) 下痢 (張) 2) 初心者 小さな子供 べえべえとも言う (上、阿) 3) 泣き声 笛の音 4) 金の無い事 [会話] 1) ピーピー、腹下し (下

痢)。腹い(へ) なんやら当てられて (何か中毒して) きしょくなわりて (気持ちが悪くて) パイパイやよお (だ) 言うて。腹な (が) 那智いさん 打ったよお (那智山普陀楽寺にお詣りした普陀楽くだすに掛けて有る) 言うて。3) 笛も パイパイや (だ)、言うて。4) 財布の中な (が) パイパイや (だ) 空ん (に) になったの (のを) ひんけつ病 (金欠病) で 財布あ (は) パイパイやよお (だ) 言うて、2) 習いたてのもの (初心者) に パイパイ 言うて、ちっちゃあいこお (小さい子) をなあ こや (これは) まだ パイパイやもん で (だから) 言うて、嘴な (が) きいよい (黄色い) と パイパイや (だ) 言うて、入りたて (入ったばかり) の もん (者) を 言うのなあ (言います)。

**ひいふきだけ【名詞】** 火吹き竹 (北)

**ひいまご(曾孫)【名詞】** 曾孫 子供の孫 ひまご 曾は重なる義 (大言海) ヒマゴの長音化 (広辞苑) (南)

**ひいみんな【俚諺】** 火を見るな 火は火事の事。妊娠中の婦人は火事を見たと子供に疰が出来る

**ひいやり【形容詞】** 冷たい感じ ひんやりに同じ [会話] 夏に 冷たい水飲むと おおた ヒイヤリとええなあ (よい)、ヒイヤリ と言うてなあ。ヒイヤリ しい (し) 過ぎて よお (よく) 冷えるなあ、さぶい (寒い) ぐらいやなあ (だ)。

**ビールびんからきぬいと** 高くよく響く声 [会話] 歌唄うと ものすごお (大変) きい (黄) な声 出して来る人な 有るやんな (でしよう)。そと、あや (するとあれは) ビールピンカラ キヌイトやなあ (だ)、歌唄うの ものすごお (大変) 上手な きいろい (黄色の) 声 出して来ると。

**ひいろい。ひいろおい【形容詞】** 広い (志、度) [会話] こげな (こんな) 大きな ヒイロオイ がんど (大鋸) で しとりおったわい (していました)。

**ひいろお** 広く

**ひうきだけ【名詞】** 火吹き竹 [会話] 火吹き竹。ひいな (火が) 消えてくと (て行くと)、ヒウケダケ で 吹いたれ (てやれ) 言うて、マッチ 使かわまい (使かわないでおこう) 言うてなあ。ヒウケダケ で ふうふう 言うて 吹くと、ついて来るやんない (でしよう)。

**ひうけ【名詞】** 日当り 日射を受けること 又 その土地 (一、南) [会話] ヒウケな (が) ええよってなあ (よいから)、日なよお (がよく) 当るとこ (所) を。ヒウケな (が) ええとこ (よい所) 干しとけ (てお

け) 言うてなあ。日当りの ええとこや (よい所だ) とかなあ、ヒウケのええとこい干しとかな (ておかなければ) 乾かせんわれ (ない)、ひもん (干物) も言うて。ひいうけとると (ていると) よお (よく) 乾くやんない (でしよう) 日当りも ヒウケも 一緒やなあ (です)。

**ひうけだけ【名詞】** 火吹き竹 [会話] 火吹き竹、ひいな (火が) 消えてくと (ていくと) ヒウケダケ で 吹いたれ (てやれ) 言うて。

**ひうち(比打)【名詞】** 衣類を作る時 布と布の間に入れる別布 [会話] ほかんな (他の物は) 横にするけど (が)、縦にしといて (しておいて) ヒウチ入れんの (入れるのを) てっぽそでや (だ) 言うね (言うの) (です)。

**ひうちばこ【名詞】** 付け木などを入れて置く木箱 とおつけき参照 [会話] ヒウチバコ、此の位んのおを (20×10×5cm の、のを)、ひい (火) 焚くとこん (所に) 掛けて有って、それい (それへ) 付け木 きさい (割って) さいて有りおった (入れて有りました)。

**ひえ(冷)【名詞】** 冷気を含んだ湿気 冷える事 又 その程度 [会話] ヒエな (冷が) あがった 言うて 床な (が) ひっくい (低い) と じばな (地場が) か つたい (堅) と 畳まくると しいるなるやろ (白くなるでしよう)、あれ ヒエな (が) あがってなあ 言うて、床な (が) ひっくい、ヒエな (が) あがる。

**ひえ(冷)【名詞】** 梅毒 (冷気のため起ると考へられた所から) (志(鶴方)、鳥(鳥羽)、張) [会話] ヒエや (とか) かさや (瘡とか) 言うて 昔や (は) よお 言いおったなあ (よく言っていました) 昔の どくや (です)、梅毒 そんな (それが) 昔の ヒエ。

**ひえかき【名詞】** 梅毒を病む人 [会話] ヒエカキ 言う な (のは) 梅毒やけどなあ (です)。

**ひえかきじゃわん。ひえかきぢゃわん。ひえじゃわん【名詞】** 粗末な茶碗 安物の茶碗 [会話] ヒエカキ チャワン。ヒエチャワン 言うて、焼きのわり (悪い) きい (黄色) の うつつうい (薄い)、土とも (より) 濃いよおな 茶碗な (が) 有りおったわい (有りました)。ヒエチャワン 言うたら べつんも (特別に) 飯や (は) 美味ないなあ 言うて。

**ひえこむ(冷込)【自マ五】** 1) 寒くなる 冷たくなる 2) やる気を失う (志(布施田)、鳥、尾)

**ひえしよ。ひえしよお(ひえしよ へえしやう)【冷性】【名詞】** 体の一部 特に腰 下肢などが他の体部に比し異常に冷たく感じる症状 ホルモン分泌 自律

神経の異常によると考えられている。[会話] 足な(が)冷える ヒエショオ。おやまあ(俺は)ヒエショで 足な(が)ぬくとまらんで(温ったまらなくて)言うて、てえ(手)や 足な(が)冷えて ヒエショやなあ(だ)言うて。

**ひえばら(冷腹)【名詞】** 冷気にあたって 腹が痛くなったり、下痢したりすること またその腹 [会話] さぶい(寒い)と 腹な(が)いとなつて(痛くなつて)来てなあ ヒエバラやなあ(だ)言うて、よお言うやんかい(よく言います)。さぶい時ん(に)腹な(が)痛い言うて来ると そや ヒエバラやれ(だ)ぬくとおすや(暖かくすれば)治つてかれ(行く)言うて。

**ひえる(冷)【自ア下一】** 1) 冷たくなる 2) 寒気を感じる ヒ(氷)を活用した語(大言海)

**ひおい(ひをい)【名詞】** 日光をさえぎる物 よしずテント等 ヒオオイ(日覆)の略(南)

**ひおけ(ひをけ)【名詞】** 火鉢 火鉢の円形木製の物

**ひがい(ひがひ)【名詞】** 干して乾かした貝 めえほお参照(志) [会話] 栄螺のめえほお、おおびのめえほおやとか(だとか)ヒガイにしたのを めえほお言うんやろなあ(言うのでしょうか)。

**ひがい【名詞】** ひがえ(火替)に同じ 大掃除(鳥(浦村))

**ひがいかえる** 台所、炊事用具を綺麗にして 新しく火をつける [会話] ヒガイカエル言うて 月に一回つ(一回)全部 勝手(台所)のもの(物)洗ろて(洗らつて)くど(かまど)もなんも 皆 掃除して そげんしいおつたの(そんなに居たのです)。

**ひかえ(ひかへ)【名詞】** 舟を左に廻す事 取り舵(志(布施田、鶴方、神明、志島、甲賀、安乗)、桑市) [会話] どお(櫓)漕ぐのを ヒカエ おさえ言うやろ(言うでしょう)。“ヒカエ おさへはど(櫓)の手でなるた 娘引く手は まだ知らん”言うて、おぶこい(未熟)人な(が)言うた事やろなあ(でしょう)。ヒカエ言うて 左向いて行くんやんか(行くのです) おさへ言うて 右向くの(のです)。突き手の人ら(舳で魚を突いて獲る人)とと(夫)とかか(妻)と 乗つとるやんな(乗って居るでしょう)、突き手 おえんどの(泳いで居る魚を)突くねよつて(のだから)ヒカエ おさへ 漕げ 漕ぐな言うて 漕ぐにげや(人間は)弱りおつた(困りました)。

**ひがえ(火替)【名詞】** 月に一度 月末に 台所 炊事用具を綺麗にして 新しく火をつける。又、不浄のあった時にも行なう。火替と称し、家々に死亡者、或いは女の月水、其の他不浄ある時は勝つて所の食物は悉皆捨てるべし。又竈を始め緒器械を洗い清め、新しき火を拵へて、煮炊きをなしたるなり。よりに不浄のかりたる人と食を同じくせず。(五十鈴の落葉)(志(布施田、鶴方、神明、志島、甲賀、安乗)、伊、尾、北(須賀利)) [会話] ヒガエ言うな(のは)、ひい(火)替える言うのなあ(です)。丁寧に 其処らあるて(洗らつて)くど(かまど)も じっばん(立派に)して、毎月 清よめんの(めるのです)月の末ん(に)なると。家の中を 清よめんの。かまどや神さんから 佛さんから お勝手から 掃除してすんの(するのを)ヒガエ言うて 毎月すんね(するのです)月の末んなると。

**ひかえまあし。ひかえまわし【名詞】** 舟を左に回す事(志) [会話] ろお(櫓)漕ん(い)で ひかえ、おさえ。ひかえ言うのは 前え どお(櫓)かたげてすんのなし(傾けてするのです)、浜い来てなあ 舟つける時ん(に)ヒカエマアシと おさえまあしの時で てざわ(手竿)の 持ち方な(が)違うやんない(でえしょう)。そやもんで(それで)とまえどん(船頭さん)おさえ まあすんかい(すのですか)ひかえ まあすんかい言うて。ヒカエマアス言うて どお(櫓)前へかたげて(傾けて)おさえまあす言う時な 表な(船首が)後ろい 向いてく(て行くのを)右の方へ 向いてくし(て行きます)、ひかえ言うて 前え 表な(船首が)くんの(来るのです)。

**ひかえ、とる** 固定する くくりつける 動かない様に くる(志(布施田))

**ひかえとる** 表立った行動をしない 出しゃばらない

**ひかえめ(ひかへめ)【名詞】【形容詞】** 1) 余り出しゃばらない 2) 何事にも十分にせず余裕を残す [会話] 1) 出しゃばらせん(ない)人を、あのひた(人は)ヒカエメやもんで(なので)よけ喋らせんなあ(あまり喋りません)。

**ひかえる(ひかへる)【自ア下一】** 1) 表立った振舞いをせず側に居る 遠慮する 2) 綱で引いて支える 3) 舟を左へ進ませる [会話] 1) 今日(今日は)喰うの(たべるのを)控えとけ(ておけ)、喰うの(のを)ヒカエルとか、仕事もヒカエルとか、貰うの(のを)ヒカエルとか、もの言うんでも(言うのでも)人が喋つとん(の)い(て居るのへ)わがと(自分)よけ喋ら

んよおん (多く喋らないように)、私 あの人のな (が) 話 してくれるもんで (ので) なんも言わんかったんよお (少しも言いませんでした) 言うて、気持ちを押しへて 出しゃばらん (ない) 事やなあ (です)。にげな (人間が) ひかえめ (控へ目) でなあ言うて、でしゃばらせん (ない) 人を あのひた (人は) ひかへめやもんで (なので) よけ喋らせんなあ (あまり喋らない) 言うて。

**ひかがね【名詞】** 1) 体の関節 (志 (御座、布施田) 鳥) 2) 蝶番のように曲った物 曲がった所 [会話] 1) ヒカガネな (が) いとおて (痛くて)、ひじがねな (肘関節が) 痛い言うて。肘の事も言うしなあ (言いますし)。2) なんか (なにか) しなもん (品物) の事も ヒカガネ言うな (のは) よお使うなあ (よく使います)。ヒカガネ言うて ちよいと (少し) 曲ったよおなのを言わへんのかい (言わないのですか)、ちよおつなぎみたいにして (蝶番のようにして) すんのを (するのを)。

**ひかげもん【名詞】** 妾 表立って世間に出られない者 日陰者

**ひがしじらみ (東白)【名詞】** 夜明け 東の空がしらじらと明るむこと 夜が明け始めること しらしらしてきた参照 (志 (浜島、布施田)) [会話] こなんだ (此の間) 六時んのおで (のので) 伊勢行くのん (の) に 外へ出たや (出たら) 東からちよいと (少し)、しろで (白くなって) 来た。昔しや (昔は) こや (これは) ヒガシジラミや (だ) 言いおつたんなあ (言つて居た) おもて (思もつて)。

**ひかしてもらう** 1) 料理などを下げる時の言葉 2) 役を辞退する時の言葉 [用例] 2) まあ (もう) 年やよって (年令だから) ヒカシテモラウワイ。

**ひがしなる** 東風の音が強い 天候が悪くなる (志 (布施田)) [用例] ヒガシナルよって (から) 天気や (は) おちやなあ (悪くなる)。

**ひかず (日数)【名詞】** 経過した、また これから必要とするひにち (日) の数。[会話] ひにち (日数) の事をなあ、日数の事。ヒカズな (が) 今年や (は) なんも出やざった (少しも出なかった) 言うてなあ。日和な (が) わりと (悪ると) ひにちな出やれんと (出れないと)。ヒカズ、今年や (は) よけ (沢山) 出たよって (から) 大漁やなあ (だ) 言うてなあ。ひにちな (が) よけ出やれんと (出れると) どんだけ (どれだけ) 獲つても 獲るよって (から)。

**ひかちん【名詞】** 物を見た時、両眼の視線が揃わない目

[会話] かんち (片一方無い) の事を ヒカチン言うの (のです)。すがめの事をなあ ひがめや 言うて。めえな (目が) からすめみたよん (鴉の目のように) しとる (している) にげな (人間が) 有るやんない (でしょう)、くろまなこな (黒目が) ひととこい (一ヶ所に) よるの (集まるのを) ひがめ言うてなあ。

**ひかつく** 1) よく光る 2) きらめく

**ひかつとる** 海面が滑らかな状態 風や波の影響が無く鏡の様になって居る様 [会話] 風も、しゃしゃ波 (さざ波) も なんものおて (全く無くて) しとる (している) 時な (が) 有ると 今日 風な (が) よおて (よくて) すべつとんねよお (すべつているのだ) 言うて ヒカツトル言うて。

**ひがないちにち。ひがないちんち【名詞】** 終日 一日中 ひがなひいじゅう参照 (志 (片田、浜島、鶴方)、鳥 (鳥羽、国崎))

**ひかなぎ【名詞】** 海面が鏡のようになっている状態 上風 ひっかりなぎ参照 (北) [会話] 油ひいたよおな 風な (が) なんも (全く) 無い 無風の時 海な (が) すべつとしとる (滑らかにしている) 時 ピカナギや (だ) 言うて。

**ひがなひいじゅう (日がな日中)【名詞】** 日がな一日 一日中 終日 (志 (越賀、船越、浜島、布施田、片田、鶴方、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥 (鳥羽、国崎)) [会話] ヒガナヒイジウ言うのは 一日中。

**ひがなひいて【名詞】** 一日中

**ひがのびる** 1) 昼間の時間が長くなる 2) 妊娠した [会話] 1) ヒナノビタナイ (延びました) 言うて、冬至から 犬のねたけ (寝丈) 程 一日に 日な (が) なあごおなるんてわい (長くなるそうです) 言うて、延びる言う事を。十二月の二十二日が 冬至やんな (でしょう)、冬至から先は (過ぎると) 毎日 犬の寝る影だけぐらいつ (位) なあごお (長く) なる言うて、昔や (は) 時計も コンパスも無いよって (無いのだから) わがら (自分の) けんと (見当・感じ) に、犬のねたけ程 今日から 日な (が) なあごおなる 言うて 言いよつたの (言っていたのです)。そとまあ (そうすると) 今日 一月から (以上) 経つたねよって (のだから) だいぶなごなつたやろ (だいぶん長くなったでしょう)。2) 妊娠した時でも ヒガノビル言うの (言うのです) 月経が止まると ヒナ (火) が ノビトンネ (て居る) 言うの (のです) めぎんでくる事 (芽ぐんで来る事) ヒイ (火) ニノビタ。なたかずいた (鉦担いだ) (妊娠した言うを)。鉦かずいとる



**ひがんづいり。ひがんづゆ【名詞】** 彼岸の頃に降り続く長雨(志) [会話] 彼岸になると 天気な(が) わりんやんかい(悪いのです)、それを ヒガンヅユリ。日和な(が)、わりひいな(悪い日が) 続くもんで(ので)、彼岸日和や、節目日和や言うてなあ。ヒガンヅユリ言うのは 雨な(が) よけ(沢山) 降るやんない(でしょう) 彼岸になると それを言うの(のです)。つゆりの 夕晴れか 姑の朝笑いか言うてなあ、つゆりん(梅雨に) になると 夕晴れな(が) すると そんでも (それでも) あしたん (翌日に) になると 天気な(が) わり (悪い) と こや、つゆりの夕晴れやなあ(だ) 言うて。そして 朝ええ (よい) と こや 姑の朝笑いやれ(だ) 又 よさがた (夕方) 雨やれ (だ) 言うて、朝 天気な(が) よおても (よくても) 雨な(が) 降って来ると、姑の朝笑いやれ言うて長い事 続かせん (ない) 事。

**ひがんなあく** 彼岸が終る [会話] 彼岸に 結婚式したら はざおかれ (駄目だ) ヒガンナ(が) アカナ (あかなければ) 言うて。

**ひがんびより【名詞】** 彼岸の頃の長雨 ひがんづいり参照

**ひき。ひきごと【名詞】** 藁 ひきがえるの別名(志摩市各地、鳥、亀、安、津、一、飯、松、多、度、伊、北尾)

**ひき【名詞】** 1) 盗み 2) 夜の航跡 夜光虫の光り(度) 3) 特別に目をかけて便宜を許すこと 縁故 最良 [会話] 1) なんやかや (何彼) 盗むのおも(のもの) ヒキする 言うて、2) 海では よぶね (夜船) 走ると ヒキな(が) 立つ言うて、よさり (夜) 舟な(が) 走るやんない(でしょう)。そすと (すると) きらきらきらきらと いろんな (いろいろな) 五色の色な(が) ひかんの (光るのです)、そつと (そうすると) ヒキな(が) 立って 気持ちな(が) わりなあ (悪い) 言うて。夜船走らな(なければ) 判らせんね けど(判らないのだが)、昼間は あらしな (風が) あっちゃ (あちら) からと こっちゃ (こちら) からと 揃はせんやろ (揃はないでしょう) よさりん なる と あらしな そろてくるもんで (揃って来るので・一定の方向から吹くので) 夜船走しんね (走ります)。(走ります)。そすと (そうすると) きらきらと 五色の色ん(に) なって、美くしのなあ (美しいのです)。ヒキな(が) 立って 気持ちな(が) わり 言うて、夜船走ると 皆 寝とるけど (寝て居るが) 舵とる もな (者は) 起きとるやろ (起きて居るでしょう) 男の人ら

舵とんねけど(取るのだが) とぎせな (伽・相手しなければ) 言うて、伽しておきとると(起きて居ると) きらきらと 五色の色ん(に) 美くしんけど (美しいが) 気持ちな(が) わり の(悪いのです)。まあや (魔だ) 言うて それが 又 美くしんてや (美しいのです) きらきらと いろんな 色が出て。そやけど (しかし) まあや (魔だ) 言うても ほん と(本当)の事も あんねんなあ (有るのです) 実物に おおた (会った) 事も あんねんなあ (有りました)。工場引き上げて 来んのん (来るのに) ビールを夏中、工場に、人らな のおで (飲んで) ビールペンな(が) 勿体ない もんで (ので)、釜山 いたら (行ったら) こんで (此れで) とふ (豆腐) 替えて 喰おや (食べましよう) 言うて 朝鮮人な(が) 替えん(に) くんね (来るのです)。鮎 替へん(に) 来たりすので(するので)、五斗がます(呟) 米 喰た (食べてしまった) 後に ビールペン入れて 舟の下に入れて 中途なか (途中) 迄 来たねえけど (来たのだが) あらしな のおで(風が無くて) 帆かけんと(掛けずに) 漕がなはざんね(なければいけないのです)。おおた (ああ) つらましなあ (つらい・いやだ) 言うて、おも とおて(重くて) おも て(前の方) な ずりこんどるなあ (海に深く入って居る) 言うて 夜船走らんならんし(走らなければいけないし)、舟も かあるう (軽く) せなはざんのん (しなければいけないのに) ほつたれまあ 言うて、やうちな (一同) が その ビールペンを 港でほつて(捨てて) 飯喰うて 夜船走しんねどお(走らななぞ)。片船 (相手の船) と 分かれてくと(て行くと) よさりや もんで (夜なので) 判らせんもんで (判らないので)、あかり (燈火) を よこがみ い (へ) さがら かけて(吊して) その明りを 上げたり下げたり 消したりして 片船と 合図すんね(するのです) 此処ん(に) おんどお (居るぞ) 言うて。そしてまあ 宵に ほつて (ビールペンを捨てて) 出たや (出発したら) 夜中頃になったら 男の人らと 舵とんのん(取るのに) 伽して、艫で 起きとんね (て居るのです)。そしてしたら (そうしたら) なんやら (何か) どいらい、おも てな(大変前が) ずりこんで来たやんか (沈んで来たぞ) 言うて、艫で 舵とつとると(取って居ると) おも てな(が) 突っ込んで来たんてや (沈んで来たのです)、なしたんかいなあ (どうしたのだろう) 言うて、寝とるもんら (寝て居る者が) 起きて 板まくって見よまあ(見なさい) 言うたら 水な(が)



一杯 入っとて (て居て) そしてしたや、桶やたら (とか) いろいろな もん (物) 積んどるやんない (でいるでしょう)。所帯道具 みんな (皆) 積んど んねやんかい (積んでいるのです)。そして それへ板 敷いて 寝とんねやんかい。そしたら あかな (水垢が) 一杯 入っとる (て居る)、早よ (く) 起きよ言うて みんな (皆が) 布団 かっぱ、ひきず り込んどいて (船庫へ入れて) 杓子言うたてて (ところで) 一本しか (より) 無いし お櫃の飯も 皆 あけて (すてて) やうちな (一同が) かへてかへて (汲み出して) 死にもの狂いや (です)。まあ おさまって かな (行かなければ) 表な (が) 沈んでかれ (で行く) 言うて そしてしたや (そうしたら) そのビールビンで やられたの (のです)。海いなあ (へ) ほる時は 船 走る時 此の杓 うちやれて来たよって (壊れて来たから) ほつたれまあ (捨ててしまへ) 言うて ほる時ん (に) 底を抜いて ほると ええんけど (よいが) 底 付けたまま ほると そんで (それで) かいこまれんのなあ (汲み込まれます、海水を入られるのです)。底 付けたまま ほると、かいこまれんので、ビールビンほつたや (ら) そんで かいこまれて (汲み込まれて) 水船ん (に) なって来て夜中に なんもかもほって (捨てて) 泡喰うて やうちな かえなはざんもんで (水汲み出さなければいけないので) ひいな (樋・栓が) 抜けとんねかいなあ (抜けて居るのだろうか) 言うて かえてから (汲み出してから) 樋な (が) 抜けとらせんか (て居ないか) 見て見よまあ (見て見なさい) 言うて、樋も なんも (全く) 抜けとらせん (て居ない) じっぱんしとんね (立派にして居るのです)。ビールビンで かえこまれてしたの (のです)、判らへんのやんか (ないのです)。魔の もんやよって (物だから) そんで (それで) 海い ほる時や (は) まるっぽ (そのまま) で ほんな (すてるな) 言うな (のは) ほんとやなあ (本当だ) 言うて、うちやつといて (壊しておいて) ほらな (捨てなければ) 言うて、魔のもん (物) 取り舵から 来たね (来たのだ)、言うて 右側は金比羅さんのお礼受けて 表のみよし (へさき) へそれ 張り着けとくの (ておくのです) それは おも舵い (へ) 張るの (のです)、右側へ。左側は 取り舵は なんも (何も) 張って ねえもんで (無いので) 魔のもな (物は) 取り舵い (へ) さがる (吊す・つられる) 言うて、水くれ (下さい) とか言うて 出てるんてわな (来るそうです)。海坊主な (が) 出

る言うやんない (でしょう) おも舵い (へ) は めつたん (絶対) さがつて来やへんの (来ないのです)。取り舵い (へ) さがんの (さがるのです)。取り舵は 神さんのお札も なんも (何も) 貼って無いもんで (ので)、魔のもな (者は) 取り舵い (へ) 水くれとか 杓子くれとか言うて、来るんてわな (来るそうです) そつとそれ (そうすると) 知らんと (知らずに) やるとさいご (与へるとその時) かいこまれんねてや。

**ひき【名詞】** ひき 藁に同じ

**ひきあい (引合) (ひきあひ)【名詞】** 取引 取引き前の条件などを問い合わせること [会話] ヒキアイな (が) 取れやせん (ない) 言うて、かんじょ (計算) して、合わん事を言うしなあ。取引き言うよおな事や (です)。まあ こや (これは) こいな (こんな) 事 やつたら (だったら) ヒキアイな (が) つかせんなあ (ない) 言うて かんじょんあわせん (勘定に合わない) 言う事なあ (です)。

**ひきあう (ひきあふ) (引合)【他ワ五】** 投資と利益が釣り合う 労働や努力に対し それ相当の結果が得られる [会話] 丁度合う言う事や (です) かんじょな (計算が) あう言う事 丁度ええ (よい) 言う事 儲けも有ったなあ言う事やなあ (です) ヒキアウ言うのは。

**ひきあげる (引上)【他ガ下一】** 後進などをうまく行く様に援助する

**ひきあみ (引網)【名詞】** 引き寄せて補魚する網の総称 多くは 袋状で左右に軸網がついており、これを引き回して 船上で引き上げる 手操り網 [会話] ヒキアミ言うのは 餌さ鯛を 浦漁師やわい (です)。ヒキアミこぎや (引き網の乗組員だ) 言うて がつこあがり (学校を卒業したばかりの者) を ヒキアミい (へ) 誘いん来るわい (に来ます)。

**ひきあわん** 売買して利益が無い、割に合わない [会話] ヒキアワン言うのは 儲けもなんも (少しも) 無いなあ 言うたら損、こいな (こんな) ヒキアワン 商売してもはざんわれ (していても駄目だ) 言うて。

**ひきうす (挽臼)【名詞】** 嫁いびりをする姑 [会話] 煮ても 焼いても 喰われんもん (物) は 姑婆かヒキウスか言うて 姑婆な (が) えらいのを (大変なのを) ヒキウスや (と) 言うわい (言います)。

**ひきうす (挽臼)【名詞】** 臼 穀類、豆類を砕いて粉にする道具。上下二ヶの円筒状の石を重ね、上臼の穴から穀粒を落し、上臼を回転させて砕く。上下の臼の接触面は、穀粒を砕くためと、砕いた粉を外側に送り出

すのに都合よい様に、中心から多数の放射線状の溝が有る。(阿)

**ひきうすばば (挽白婆) 【名詞】** 姑を罵って言う語 [会話] 挽白あ (は) 煮ても焼いても喰われやせんやんない (食べられないでしょう) そやもんで (それで) 姑婆な (が) えらい (大変) のを 挽白や言うわい (言います) ヒキウスババや言うて 煮ても焼いても喰われやせん (食べられない)。

**ひきがいる (ひきがひる)。ひきがえる (ひきがへる) 【名詞】** 蝦蟇蛙 ひき参照 (桑市、員、四、鈴市、一、飯、上、阿、張、賀)

**ひきかえ (ひきかへ) (引替) 【名詞】** 交換

**ひきかえし 【名詞】** 風邪などが治りかたて再発する事

**ひきかた 【名詞】** 家を建てて居るまま 移動させる [会話] 家を ちよいとこつちやい (少しこちらへ) 寄せるとか うちやったらんと (壊さずに) ヒキカタするとええんなあ (よいなあ) 言うて。

**ひきぐち 【名詞】** 帰る時 退く時 [会話] 帰る時 ヒキグチ言うね (のです)。

**ひきごと 【名詞】** 藁蛙 がま (志 (神明、志島、甲賀、国府)、鳥、亀、安、津、一、鈴市、松、多、張、賀、度、伊、北、尾) [会話] 藁蛙の事 ヒキゴト。ヒキゴトの顔 みたいなな (のようだ) 言うて、器量な (が) わりと (悪るいと)。奈良の水取り 済まして行くと 西田の方ん (へ) ほんどん (本当に)、よけおんねてや (沢山居るのです)。それ 取りんいて (に行つて) 焼いて 見よまあえ (見なさい)、その旨いのな (が) しょおしょ (少し位) の 旨いのや無いね (のでは無いのです) 口な (が) 離されやせんね (ないのです)。

**ひきさく (裂) 【他カ五】** 破る 力を入れて裂く ひきしゃくに同じ ひっさく参照 [会話] きれ (布) 破ったり、紙 破ったりすんのを (するのを) ヒキサク言うて 腹の立つとる (ている) 時に 力入れて 破つたる (てやる) 事を言うんやろなあ (言うのです)。

**ひきしお (ひきしほ) (干潮) 【名詞】** 干潮になる時 干いて行く潮 海岸線が沖の方へ下がること しょどき参照 (志、鳥) [会話] こみしを言うな (のは) につて (満ちて) 来る事な (です)。干いてく時や (は) ヒキシオ さげしおとも言うしなあ (言います)。

**ひきしおどき (ひきしほどき) (引潮時) 【名詞】** 1) 潮の干く時 2) 退くころあい、帰る頃あい [会話] 1) 潮な (が) 干いて来る時なあ、潮のひきしおん

(に) なつたら 神さんも せえ (しなさい) とか、にちしおんなつたら やれ (しなさい) とか、正月どん やる (する) 時んなあ (に) 潮のにつて (満ちて) 来る時ん (に) やれ 言うて、昔や (は) 言よおつた (言っていました)。昔や (は) しょどきみて やりおつた (して居ました)。潮な (が) 干いてく (て行く) 時をなあ ヒキシオドキ。

**ひきしゃく (裂) 【他カ五】** 力を入れてさく 破る。ひきさく (南) [会話] 腹の立つとる (ている) 時 ヒキシャク 言うて 口汚のお (なく) 言うて。

**ひきしゃくる** 力を入れて一気に手操る [会話] ひつたくる、ひつたくてたない (て行つた) 言うて、人な (が) 持つとんのおを (て居るのを) 無理やりにとてくのを (取つて行くのを) ヒキシャクル言うて。

**ひきずり (引摺) 【名詞】** すき焼き すき焼き鍋 熱された鍋に肉の薄片を入れ引つ張りながら焼いて食べる (志 (布施田、甲賀)、桑郡、員、安、尾、北、一) [会話] 肉のヒキズリ言うて すき焼きを。今日はさぶいよつて (寒いから) ヒキズリしょおや (しましよう)。

**ひきずり (引摺) 【名詞】** 1) 麦藁で編んだ 子供用の乗り物 物を乗せて運ぶ道具 2) 着物のしわのよつた状態 だらしない事 [会話] 1) 子供の時分 (頃) に ヒキズリや (だ) 言うて 麦こくと (脱穀すると) 麦藁を 編んどいて (でにおいて) 船みたいにこさえて (のように作つて) その とんがり (尖つた所・先端) を しばつといて (くくつておいて) それい (へ) 子供乗せて、今日日 (キョオビ・此の頃) の乳母車の代りん (に) して、ヒキズリこしやえよ (作れ) 言うて、麦藁でこしやえおつたの (作つて居たのです) 2) 着りもん (着物) でも こしやえんの (作るのが) 下手なと (だと) ヒキズツテ しわな (が) 寄つてしとると (して居ると) だな (誰が) こしやえたんかいなあ (作つたのか) ヒキズツトンナイ (て居る) 言うて。

**ひきずりさがす。ひきずりさらす** 散らばす 散らばしている 広げ散らばす ひきちらかす参照 [会話] 物、散らかすと ヒキズリサラシテ、片付けやなはざんわれ (なければ駄目だ)。広げとる (ている) 事を。

**ひきずりなべ 【名詞】** すき焼き 又 すき焼きをする鍋 (尾、北) [会話] ぎゅう (牛) のヒキズリなべや (だ) 言うて、ぎゅうのひきずり 冬、食うと旨いなあ言うて、牛 引きずつてくとや (食べていれば) ぎゅうの ひきずりやんかい (だ) 言うて。あれ 引つ

張って 飯くや (食べれば) ぎゅうの ひきずりやわ  
い (だ) 言うて、今し (今) の すき焼きの事 ひき  
ずりや (だ) 言うて、ひきずりで ごっつおやつたな  
あ (御馳走だった) ゆんべや (昨夜は) 言うて。

**ひきずりもち【名詞】** 延ばす 引き延ばす 延期する  
ひきずる参照 (志 (布施田)) [会話] 借金しとんの  
ん (しているのに) 期限 延ばしてくれ (下さい) 言  
うて、ヒキズリモチしとられ (している) いつ迄 引  
き摺とて (ていて)。

**ひきする** 盗みをする 盗む [会話] にげ (人間) も  
ヒキスル時や (は) あやまあ (彼は) しょおなわりね  
よって (性質が悪るいのだから) 言うて、ちょいと  
(少し) 指な (が) 曲る人はなあ。

**ひきずる (引摺)【他ラ五】** 延期させる 引き延ばす [会  
話] なあ (縄) で ヒキズルのも、ひっぱてくやし  
(ですし)。にげ (人間) でも 来い言うて、やや  
(いやだ) 言うのを 引張ってくの (て行くのも)  
ヒキズツテ 来て言うて。借金しとんのん (して居る  
のに) 期限延ばしてくれ (下さい) 言うて 引き摺餅  
しとられ (して居る) いつ迄、ヒキズツテ (て居  
て) 言うて。まあ (もう) たいがい 拂 けてもらわ  
な (拂らってもらわなければ) なんごお (長く) 引き  
摺つてもおたら (もらったら) 困るわ、てな (という  
ような) 事言うて、借金だけやなしん (でなくて) 約  
束 だんだん 延ばしてくのを (て行くのを) ずるず  
るべったり ヒキズル言うて。

**ひきそえる (ひきそへる)** 病気に更に他の病気が併発す  
る

**ひきたくる【他ラ五】** 無理に奪いとる ひき 引 動詞  
についてその意味や語調を強めるのに用いる ひっ  
ひん になる事も多い ひったくる ひんまげる た  
くる 無理やり奪いとる ひきしゃくる参照 (三)  
[会話] ひったくる ヒキタクル。しゃくつてくの  
(力を入れて急に引くの) ひったくられたよお言う  
て。今しや (今は) ハンドバックよお (よく) ヒキタ  
クリン (に) 遭うやんかい (遭います)。

**ひきちがえ【名詞】** 戸 障子などが交叉する様な状態

**ひきちぎる【他ラ五】** もぎ取る 切り離す [会話] ヒ  
キチギル言うな (のは)、ちぎって来るの (のを)、引  
つ張って ちぎってくのを (来るのを) ヒキチギル  
言うて。

**ひきちらかす。ひきちらす【他サ五】** 目茶苦茶に散らす  
ちらかす 散らかす 整理しないで乱れたままにする  
[会話] 其処ら一杯 (一面) 散らかすの (のを) ヒキ

チラカス。なんやかや (何彼) 物 散らかすと ひき  
ずりさらして まあ (もう) 言うて、ひろげとると  
(て居ると) なんやかや よけ (沢山) ひきずりさら  
して、片付けやなはざんわれ (なければ駄目だ)、広  
げとる (て居る) 事も。

**ひきつけ (引付)【名詞】** 1) 痙攣発作 引き付け 発  
作性の全身痙攣 乳幼児に多く 原因は種々 2) て  
んかん発作も言う (阿、張、賀、南) [会話] 1) 疝で  
ヒキツケてた (て行った)、恐怖の虫で ヒキツケて  
た。恐怖の虫で ヒキツケて死んでたんでない (死ん  
だそうだ) 言うて、ヒキツケてくの (て行くのを)  
恐怖の虫や (だ) 言うて。ヒキツケ めえ (目) ひ  
つからかしてくやんない (光らして行くでしょう) そ  
すと (そうすると) 恐怖の虫な (が) 起つて 言いおつ  
たの (言つて居たのです)。あや (彼は) 恐怖の虫持  
ちや (だ) 言うて。

**ひきつける【自カ下一】** 痙攣発作を起す

**ひきつとる** 1) 火傷、出来物の跡が有る 2) 痙攣  
発作をおこして居る 3) 着物などが不出来で着るの  
に障りがある 4) 怒りや驚きで顔をこわばらせて居  
る

**ひきつな (引綱)【名詞】** 1) 海女が 自分の体と磯桶  
とを結んでいる綱 2) 舟の綱 (志) [会話] 2) ヒキ  
ツナ 艦綱、1) はいから (海女の重り) の ヒキツナ、  
普通の綱を ヒキツナもて (持って) 来い言うて、2)  
艦綱でも ヒキツナ言うやんかなあ (言います) 引  
張る綱を ヒキツナで 縛つとけ (ておけ) 言うて。

**ひきつらす** 目をつり上げてこわばった顔。怒り、驚き  
の時 (熊)

**ひきつり。ひきづり (引攀)【名詞】** 火傷 火傷の跡  
火傷などの傷跡の皮膚が縮んで引張った様になる事  
ひつつれ ひつつり (一、上、阿)

**ひきつる【自ラ五】** 1) 引張られて居る 2) 痙攣を  
おこす [会話] 2) 口な (が) ヒキツル言うて、横い  
してくと (にして行くと) 口な (が) ヒキツツたね  
(ていったのだ)、あのかた (人は) がんちゅうやな  
あ (顔の中風だ) 言うてなあ。口な (が) 横い (へ)  
ヒキツルてやら (とか)、めえな (目が) ヒキツツた  
てやらなあ (とか)。きもん (着物) 縫うとても (て  
いても) すつと 縫わんと (ずに) 何処やら 引張  
たと (てやると)、ヒキツツトンネよお (ているの  
だ) こやまあ はざんわい (これは駄目だ) 言うて  
ほどいて、引張られとんの (ているのを) ほかいな  
あ (他へ)。

ひきつれる (引撃) 【自ラ下一】 1) 痙攣を起こして居る 2) 皮膚が火傷や出来物が痕になり 引っ張られて居る [会話] 1) 2) ひきつるも 一緒の事、ヒキツレテタヨオ (て行った) 言うて 一緒や (です)。

ひきつれる 自分が主になり大勢の人を連れて行く 引きいる [会話] あんな (彼が) ヒキツレテ 何処やらい (かへ) 昔 行きおったんよお (行って居ました) 言うて。子供ら よつけ (沢山) つれて行くのをなあ まあ 子供ら ヒキツレテ 言う時もあるしなあ。

ひきて 【名詞】 引出物、招待した来客に主人から贈る物品 [会話] 鯛のかしん (菓子) は ヒキテや (だ) 言うて、一つ 別ん 箱に入れて 目出鯛言うて 落雁で どいろお (大きく) して 赤で塗って じっばなんてや (立派なのです)。

ひきで。ひきでもん 【名詞】 引出物 招待した客に主人から来客へ送る物、招待客への土産物、昔は馬を引き出して送ったところから [会話] 祝い事に 出すもん (物) を ヒキデモンにするもんを 祝儀もん (物)。

ひきど (引戸) 【名詞】 横に引いてあけしめ、するようになっている戸 ひらきど参照 (熊) [会話] 敷居通すのは ヒキドや (だ) 言うて ヒキドん (に) しといてくれ (しておいて下さい) とか、 ひらきん (開き戸に) しといてくれとか 建てる時ん (に)。

ひきどき 【名詞】 1) 止めるのに都合よい時 2) 帰るのに都合よい時 [会話] 1) 商売しとても (していても) やめたり、会社 やめたり すん (る) のなあ、まあ 今し (今) 丁度ええ (よい) しおどきやれ (だ) ヒキドキやれ言うて。

ひきとる (引取) 【他ラ五】 1) 死ぬ 絶息する 2) 引き受ける [会話] 2) ヒキトル言うな (のは) 離婚して こそ (子) を どっちゃい (どちらへ) やったか言うて 男の方へ ヒキトツたんでわれ (たそうだ) とかなあ、おなごな (女が) こそも (子も) ヒキトツたんでない (たそうだ) 言うてなあ。1) 息ヒキトル言うのも有るしなあ、まあ 今し (今) 息ヒキトツたんでない言うてなあ 死んだ言う事なあ (です)。2) しなもん (品物) でも ヒキトル言うしなあ、こやまあ 傷な (が) 有るよって (から) ヒキトツてくれえ (下さい) 言うて 戻しん (に) 行けばあい (場合に) 言うしなあ そして ぜんよお拂わん (拂えない) 時んなあ (に) まあ ぜん (銭) よお拂わんよって これ 取ってくれえ、ヒキトツてくれるか (よく

れますか) 言うてなあ。

ひきのぐ 【他カ五】 脱ぐ [会話] きもん (着物) ヒキノダロン (脱いでやる) 言うてなあ、此れこそたけど (買ったのが) ぜん (銭) 拂わんと (ずに) おって (居て) きもん貫ろてくわい (貰って行きます) 言うて、のんでくんの (脱いで来るのを) ヒキノンデタ (で行った) 言われんの (言われるのです)、きもんヒキノガレタよお まあ ぜん (銭) よお拂わんで (拂えなくて) 言うてなあ。

ひきほどき (引解) 【名詞】 一方を引くとすぐに 解ける結び方 女結び 蝶結び きっちゃむすび参照 (志 (布施田)) [会話] きっちゃむすび言うな (のは) ヒキホドキせんと (せずに) きちっと 男結びなあ (です)。

ひきまあし、ひきまはし (ひきまわし ひきまはし)

【名詞】 外套 (志 (鵜方、神明、志島)、鳥 (鳥羽))

[会話] ヒキマアシ 巻いて 将校マントや言うて。

ひきむしる (引筆) 【他ラ五】 強く筆を取る

ひきもじく 強く引っ張って取る [会話] しゃくる言うな (のは) 勢いよお (よく) 引っ張る言うので、人の持つとんのおを (ているのを) ひったくるとか ヒキモジクとか。

ひきもん 【名詞】 1) 引き出物 (阿、張、賀) 2) 敷物 引き張る物の意 (大言海 (阿、張)) 3) 石臼で粉にした物 (挽物 [会話] 3) ヒキモン こそ (粉) 挽く、今日は さぶうて (寒くて) おじやして 食うのん (に) こそ (粉) 挽いて言うてなあ。今日は 蕎麦団子すんのん (するの) ヒキモンしよおかいなあ (しようか) 言うて、1) 引き出もん (物) の事も ヒキモン言うて。2) そして しきもん (敷物) の事をヒキモン言う人な (が) 有るんなあ (有ります)、しきもん 言うの (のを) よお言わん (言えない) 人な (が)。

ひきもんうす 【名詞】 穀類を粉にするための石臼 挽き白参照 [会話] 芋 剥いて 白干んしといて (にしておいて) 白で びしやいといて (潰しておいて) こんだ (今度ほは) ヒキモンウスで 引いて なかなか (大変) てまな (手間・時間が) 取れんねてや (取れるのです)。

ひきやい 【名詞】 互に引き合うこと 引っ張りあい 引き合いの詠

ひきやい 【名詞】 1) 取引 取引前の条件などを問い合わせること ひきあい 2) 仲直り [会話] 2) 喧嘩しとても (していても) ヒキヤイしよおや (しまし

よう) 言うて 仲直りしょおや (しましう) 言う事をなあ、ヒキヤイしたんでわれ (したそうだ) 言う時もあるしなあ、仲直りした事を。1) ヒキヤイな (が) 取れやせん (ない) 言うて、かんじよな (計算が) 合わん事を こいな (こんな) 事しとたら (していたら)、かんじよん (勘定に) 合わん、言う時んなあ (に) ヒキヤイな (が) 取れやせんよつて (ないから) やめや (止めだ) こいな (こんな) しょおばや (商売は) 言うてなあ。

ひきやう 引合う 利益が出る ひきあう参照

ひきやげる 引き上げる (志 (布施田))

ひきよおもん (ひきょうもん ひけふもん) 【名詞】

卑怯者 物事をするに当って正々堂々としなない者 (上、阿) [会話] ヒキョオモンや (だ) 言うな (のは)、ま 卑怯な事ばつか (ばかり) 言うて、卑怯な事言うな、男のくせん (でありながら) 言うて、まあ そやはざん (それは駄目だ) こやまあ (これは) おや (俺は) 止めとくわ (止めておきます) 言うて、卑怯な乗りかけた舟やのん (だのに)、卑怯な事言わんとやらんかい (言わずにしなさい) 言うて、ヒキョオモン言うのは 気の小さい事やわいなあ (です)。気な (が) ちいそおて (小さくて) 度胸の無い人を言うんやわい (言うのです) 卑怯者言うて。

ひきわりみそ 【名詞】 雑穀を挽き物臼で 挽き割った物を入れた雑炊 [会話] ヒキワリミソや (だ) 言うて、炊きおった (炊いて居ました)。ヒキワリミソは どいな (どんな) 味噌ど (ですか) 言うけど (が)、飯の事 みそや言う (と言います)、やいこお (柔らかく) 炊いといて (ておいて) それを みそや (です)。かぼちゃみそやたら (だとか)、すりわりみそやたら (だとか) 言うてな。

ひきわり。ひきわりむぎ (引割麦) 【名詞】 挽き臼にて粗く砕いた麦

ひきわりめし 【名詞】 穀類を粗挽きした物を入れた芋飯 (志)

ひく (敷) 【他カ五】 物を平にのべ広げる 物を一面に並べる (鳥 (加茂)、桑郡、桑市、員、三、鈴郡、鈴市、安、一、松、多、上、阿、張、賀、度、伊、北、尾、熊) [会話] ケトン (毛布) 巻くやつあ (奴は) 浮気もん (者) 言うて ケトン 何処へでも ヒイテ寝やれる (寝れる)。

ひく (引) 【他カ五】 退く 帰る [会話] 帰る時はヒク言うねなあ (言うのです)。

ひく (退) 終りにする

ひく 抜擢する 鼻頂する

ひく 進む

ひく 干潮になる (志)

ひく (比丘) 【名詞】 少女 ひくに (比丘尼) の略 (志 (立神)、鳥 (鳥羽)、度、松、度、伊、北、南) [会話] おなご (女) の坊主を ビクや (だ) 言うやんかい (言います) 尼さんを。俺家のビクな (が) 言うて ビクな 生れたよお言うて、おなご 生れると。なん (何) もおけたんどい (産みましたか) 言うて ビクやよお (だ) 言うて おなご や言うのを。

ひく 【名詞】 かわはぎ 左右の腹びれは唯一ヶ所の刺で代表されて居る 第一背びれは唯一ヶ所有るだけ 第二背びれの第二軟條は黄色く糸状に伸びて居る事がある 全長 25cm に達する、美味で特に肝臓は喜こばれる皮をはいで料理するので かわはぎ はぎ はげ などの名が出た。[会話] ビク びくしゃ はぎも有るし。

ひくう 【形容詞】 低く (桑郡、桑市、北)

ひくくる ひくくる くくるを強めた語 [会話] いごかれんよおん (動けないように) ヒククッてあんの (有るのを) がんじがらめ言うやんかい (言います)。

ひくげた (低下駄) 【名詞】 駒下駄 歯の低い下駄 日和下駄 (志 (浜島、志島、鶴方、神明、立神)、鳥 (答志、長岡、神島)、上、阿、張、賀) [会話] つかかけ下駄を ヒクゲタ、ヒクゲタ こおてもおて (買って貰って) 言うて ヒクゲタや (とか)、高下駄や (だ) 言うて、はあ (歯) のついとんな (付いて居るのは) 高下駄。

びくしゃはぎ 【名詞】 ひくに同じ 海魚

ひぐち (火口) 【名詞】 火を他に移動する時に用いる、小さな よく燃えるもの、付け木 [会話] ヒグチ 言うの、カチカチとすんのを (するのを) ヒグチや (だ) 言うて、そいな (そんなのを) 使いおったなあ (使っていました)。

びくつく 【自カ五】 びくびくして居る 恐れおののいて居る

ひぐれ (日暮) 【名詞】 夕暮 日の暮れようとする時 (志 (御座、畔名、浜島)、鳥 (坂手、答志)) [会話] ヒグレ ひのくれ。日な (が) 暮れてくのを (行くのを)。よくしんぼ (欲の深い人) の人を、出す事言うたら (言へば) ヒグレの葬儀出すのも嫌い、親 監獄から出すのも 嫌いやれ (だ) 言うて、けちんぼの人を。ヒグレの葬儀も 出した無いんよつて (のだから) あんな (彼が) よくしんぼで。ヒグレの葬儀 晝から (午後) 葬式すんの (するのを) 嫌いおったの

(居たのです)。昼過ぎてから 墓 詣いってくの  
(て行くのを) 嫌いおったのに、今しや (今は) よさり  
り (夜) でも いつでも詣いってくやんかい (行きます)  
す)。今しや ときしよおなしん (に) 詣いってくや  
んか (行きます)。ときしおなし言うと 時間も言わ  
んと (言わずに) 朝でも よさり (夜) でも 昼でも  
すんのを (するのを) ときしおなし。いつでも 朝でも  
昼でも その日 いつでもええわ (よろしい) 言う  
のを、ときしおなし行きやええよって (行けばよいか  
ら)、しおどきな (潮刻が) 無い言うて 海の潮の事  
しおどき言うし (言います) その事 例えて言うんや  
ろなあ (言うのでしょうか)。時刻や (だ) とか 潮の  
みち (満ち) ひき (干潮) とか そげな事 (そんな  
事) 例えて ときしお (刻潮) 無い言うて。

**ひぐれのそおれん**【名詞】夕方に出す葬式 [会話] ヒ  
グレンソオレン 昔や (は) 嫌いおったの (嫌っていま  
しました) 昼から葬式すんの (するの)は 嫌いおったの。

**ひげ。ひげあめ**【名詞】微雨 細かい雨 (志 (浜島、鶴  
方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥、  
度) [会話] ちっさあい (小さい) 雨を ヒゲアメや  
(だ) 言うて。ヒゲアメな (が) 降ると むかいの雨  
やれ (だ) 言うて、〇〇小父や (は) 向い道 (字の  
名) やてや (に居ました) 髭よけ (沢山) 生えとたも  
んで (て居たので) 髭辻 言うて。

**ひげざわ** (ひげざは) (引際)【名詞】1) しまいに近い  
時分 仕事の終り近く 2) 退く時 辞退する時

**ひげぐち**【名詞】帰る時期 [会話] ヒケグチ言うて  
帰る時 ひきぐち言うね (言うのです) ひく、言うね  
なあ (のです)。

**ひげじき**【名詞】帰る時間 ひげどき参照

**ひげしつぽ** (火消壺)【名詞】焚火の残り火、炭火を入  
れて消し炭を作る壺(熊) [会話] ヒケシツボ言うと、  
火 焚いた後の炭を 壺な (が) 有って それい  
(へ) 消して、消し壺い (へ) ひい (火) も 消しと  
けまあ (おきなさい) 勿体ないのん (に) 言うて。  
割り木 (薪) 焚くと 火な (が) 出来るやんない (で  
しょう) その火を 消し壺い (へ) 消しとけ (てお  
け) 言うて。そすと (すると) コンロン (に) 火おこ  
すのん 消し炭な (が) あると じつきん (すぐに)  
火なおこるやんない (火が付くでしょう)。堅炭 す  
ぐい (直接) すると なかなかおきやへん (付かない)  
い。そよよって (それだから) 消し炭しとけまあ  
(しておきなさい) 言うて、消し壺い (へ) 入れえお  
ったの (入れて居たのです)、火焚いた後を。親父な

(が) 怒って来ると 親父入れとけ (ておけ) 消し壺  
い (へ) 言うて、怒ると たんびにふたをとる 言うて  
消し壺い 入れとけ (ておけ) 言うて。

**ひげぞ。ひげぞお** (ひげぞう)【名詞】髭の多い人 髭  
の濃いさま ひげもぞに関係有るか (志 (浜島、布施  
田、鶴方、神明、立神、甲賀、国府、安乗)) [会話]  
髭な (が) よつけ (沢山) 生えとる (ている) 人、あ  
の人 ヒゲゾやなあ (だ) 言うてなあ。

**ひげづら** (髭面)【名詞】髭の多く生えて居る顔、その  
人

**ひけてく** 少なくなる。盗まれる。[会話] ヒケテくん  
てわれ (行くそう)だ あの家い (に) なんもかも (す  
べて) 言うてなあ。親元な (が) びんぼ (貧乏) で  
嫁な (が) なんやかや (いろいろ) 運ぶとなあ、嫁な  
(が) 皆 あの家い (へ) ひっこむねてない (そう  
だ) なんもかも 皆 ヒケテカレ (て行く) 言うてなあ。  
なんやかや無いおもや (思えば) 皆 ヒケテクね  
ない (行くのだ) あしこい (あすこへ) 言うて。

**ひげどき** (退時)【名詞】退出の時間 その場から退り  
ぞくのに適した時間 [会話] ヒキドキ言うのを ヒ  
ケドキ 言うて。一緒やわいなあ (です)、今し (今)  
まあ、ヒキドキやれ (だ) 言うて、帰る時言うんか  
(言うのか)。それから 外れる時言うんか、商売し  
ととも (していても) やめたり、会社い (へ) 行とて  
も (行っている) やめたりすんのなあ (するの)、  
まあ 今し (今) 丁度ええ (よい) しおどきやれ  
(だ) ヒケドキやれ (だ)。

**ひげぶり** (火煙)【名詞】火と煙 [会話] ヒケブリな  
(が) 立って来た言うなあ (言います)。よけ (沢  
山) ひい (火) 焚いて くすぼって (けむって) 来る  
となあ、ひい (火) と、けぶり (煙) ヒケブリ。ひい  
(火) 焚いとると (していると) けぶりな (煙が) ぼお  
ぼおして来るやんかい (来ます) そいな (そんな) 時  
を言うんやろなあ (言うのでしょうか)。

**ひげぼぼ。ひげまんじゅう**【名詞】毛深い女陰 [会話]  
髭のよけ (沢山) 生えとる (ている) 人、ひげもぞや  
(だ) 言うて。おなご (女) でも 毛深いなあ (の  
は) ヒゲボボや (だ) 言うて 親から譲りのヒゲボボ  
や (だ) 言うて。

**ひげぼら**【名詞】法螺貝の一つ [会話] ヒゲボラ言う  
法螺な (が) あんのなあ (有るのです)、みいな (身  
が) ちっちゃおて (小さくて) 旨いんけどなあ (のだ  
が) やいこおて (柔らかくて)、法螺な (が) 髭ぼっ  
か (ばかり) 生えとて (ていて) 髭な (が) よけあん

の(沢山有ります) 貝に、赤髭な(が) 一糶ぐらいん  
のな(ぐらいののが) よっけ生えとんね(沢山生えて  
いるのです) あや(あれは) 旨いね(のです) やいこ  
おて。

ひげまんじゅう【名詞】女陰 ひげまぼ参照

ひげめ【名詞】弱点 自分が他人より劣っているような  
感じ おいめ 負目参照 [会話] 負ける 謝る 言  
う事やわい(です) ヒケメやなあ(だ) 言うて。

ひげもじゃ【名詞】毛の多い人 髭の濃い人(南)

ひげもぞ【名詞】毛の多い人 髭の濃い人 毛深いさま  
又 その人 [会話] 髭のよけ(沢山) 生えとる(て  
居る) 人なあ(です)、ヒゲモンやなあ(だ) 言うて。  
そして おなご(女)でも 毛深いな(のは) 髭まぼ  
や(だ) 言うて 親から譲りの ひげまぼや言うて  
よお言うやんかい(よく言います)。

ひけらかす【他サ五】見せびらかす 自慢する 誇る  
(志(甲賀)、津) [会話] あの人 ヒケラカシテ言  
うて、なんでも(何でも) よけ(沢山) 有るよおん  
(ように) おっさいよおん(大きいように) 大風呂敷  
を 広げる事を ふっからかす言うてなあ。俺げや  
(俺の家は) なんな(なにが) よけ(沢山) 有るてや  
ら(とか)、俺家のこおな(子が) 偉いたら(とか)、  
おや(俺は) なん(に) ても よお(よく) するたら  
言うてなあ 自慢すん(る) のを ヒケラカス言うの  
なあ(です)。

ひける【自カ下一】臆す 怖がる ひるむ

ひける 引く 心が傾く 興味を持つ

ひける【自カ下一】1) 終る 学校ひけたら子守せえ  
2) 布が擦り切れる 3) 盗まれる 少なくなる  
4) 声が出なくなる [会話] <sup>3)</sup> なんやかや 物がヒ  
ケル ヒケテク(て行く) 言うて、物が盗まれたりす  
ると ヒケル。今日は 割り木(薪)も 一杯して有  
ったのん(に) えらい(大変) ヒケテタナイ(少なく  
なって居る) 言うて、盗まれたる(てやる) 事を。ひ  
いてく(ていく)、ひかれたた(てしまった) 言うの  
(のです)。盗まれたた言うのなあ(のを)。ヒカレタ  
タかして(てしまったと見えて) どいらい(大変) 少  
ななってたれ(少なくなつて行った) 言うて、なんでも  
盗むのおを(のを)。ひいて来た言うて。<sup>2)</sup> 綺麗  
な着物な(が) 古なって(古くなって) ヒケテキタ言  
うなあ(言います)、目がヒケル言うて、傷んで来ると  
生地な(が) うすなって(薄くなって) 来ると  
目がヒケテキタレ(来た) 言うて。<sup>1)</sup> がっこな(学校  
が) 終つて 帰つて来ると ヒケテキタ ヒケル 時

分や(頃だ) 言うて 終る頃を。学校やとか(だと  
か) 役場の 人やてやなあ(人です) そいなのおを  
(そんなのを) ひけて帰つて来た 言うのなあ(ので  
す)。

ひこ(孫)【名詞】1) 着物の襦(まち) 2) 狭い所に  
足して広くする物 3) 方形でない田畑の端に出来る  
短かい畝 又は作りの下手な畝 途中で切れて居る畝  
(志(鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、  
阿、張、賀) [会話] <sup>1)</sup> 羽織のひこ、言うのも有るし  
脇に入れるのは ヒコ 羽織のヒコや言うやんかい  
(と言います)。きもな(着物は) せばいと(狭い  
と) ヒコ 入れとけ(ておけ) 言うて。中へ入れるの  
を ヒコ入れとけ言うて。羽織や はんこ(半纏) は  
ヒコな(が) 入つとるやんない(入つて居るでしょ  
う)、<sup>2)</sup> なんでも、せばいと(何でも狭いと) 足すの  
を ヒコ入れとけ(ておけ) 言うて。<sup>3)</sup> 畑でも 畝あ  
げても(作つても) はあな(端・半端が) 出来て 来  
んのを(来るのを) ヒコな(が) 出来て来てなあ 言  
うて、畑い(へ) ヒコ こしゃえるとはざんねど(作  
るといけないのだ) 言うて。真ん中い(に) ヒコする  
と 縁起な(が) わり(悪い) 言うて 嫌いおつたの  
(居たのです)。ふち(外側) は 端やよつて(だから)  
ヒコ 出来ても ほつときやええけど(はうつて  
おけばよいが)、はあ(端・はんば) に なつて来る  
のなあ(のです) 真ん中で 畝に ならせんと(なら  
ないと) それ ヒコや(だ) 言うのなあ(言うので  
す)。

ひこ【名詞】曾孫 孫の子供(志、四、鈴郡、安、津、  
一、度、伊、北、尾) [会話] ヒコ ヒコ言うと 十  
人位 有るやろ(でしょう) やしゃご無しやよつて  
(玄孫は無いから)。ヒコな(が) 此れから まだ出  
来るやろ(でしょう) 生きとりさいしゃ(生きて居り  
さえすれば) やごな(が) 咲くな(のは) 又、早い。  
やご言うと 枝な(が) さくのな(が) やごや(だ)  
言う。やごな(が) よけ(沢山) 咲いて ええなあ  
(よいですね) 言うて。きい(木) ても 一本立ちで  
すつとしとるやんない(して居るでしょう) 枝な  
(が) 出て来ると、やごな(が) 咲いた言うて。家でも  
子供な二人出来 三人出来するやんな(するでし  
ょう)、そや(それは) やごや(です)。そつと(する  
と) 又 その下に 孫が出来 ヒコな(が) 出来 や  
しゃごな(が) 出来して、みんな(皆) そや(それ  
は) やごになつてく(なつて行きます)。もと(源)  
を たどつてくと(行くと) 和具中 皆 やごやわい

(です)。お爺さん お婆さんの方から見て 孫の子は ヒコやし (ですし) 子の方から見て 大爺さん 大婆さんやなあ (です)。大爺 大婆言うて。大爺 大婆から見ると ヒコ、やしゃご (玄孫) ずんずらご やら (とか) 言うて 九十 (才) 過ぎやな (なければ) やしゃごん (に) ならへんもんなあ (なりません)、娘な (が) 早よ (く) 結婚すると やしゃごな (が) 出来るけど おっそいと (遅いと) やしゃごは 出来やへん (出来ません)。やしゃごだこ (抱こう) 言や (言へば) 九十 過ぎんなくて くわな (行きます)。きんさん ぎんさん ずんずらご 有るやろなあ (でしょう) あいら (あの人達) 百やよってなあ (だから) ずんずらごまで言うたら (言へば) 五代やんなあ (です) そやよって (それだから) なかなか ずんずらご抱かれやせん (抱けません)。やしゃご 抱くひた (人は) ちよいちよ (少し) 有るけど (けれど) ずんずらご言うたら なかなかや (大変) です。

**ひご【名詞】** 1) 竹を細く削ったもの 2) 藁などの茎の細い物 細工用 (志 (布施田)) [会話] ② ちすじ (乳腺) 止まったの (のは) 通さな (なければ) 治らせん (ない) 言うて 藁のヒゴで 通してもろて (もらって) その痛かったの (のは)。

**ひこおび (彦帯)【名詞】** ひこびに同じ 腰紐 引紐の意 (広辞苑) (志 (浜島)、張) [会話] 細いひぼ (紐) は ヒコオビ、ヒコオビにくけとこか (縫っておこうか) 言うてなあ、きれな (布が) 有ると。そして きもんえ (着物へ) 付けん (る) のも、ヒコビやなあ (です)。ヒコビな (が) 付けんと (ずに) 有って 言うて 子供らんのんなあ (ののに) 紐つけて、ヒコビも付けんと (ずに) おんね (居るのだ) 言うてなあ。

**ひこじいさん【名詞】** 子供から四代上の爺 (志 (鶴方、神明、立神、志島、国府)、一、多、飯、度、北)

**ひこじじ【名詞】** 曾祖父 (志 (鶴方、神明、立神、国府、安乗)、鳥)

**ひこずる (ひこづる)【他ラ五】** 引き擦る (志 (浜島)、鈴市、松、多、度、伊、南、熊)

**ひこつく【自カ五】** 瀕死状態 ひこはひくひくのひくの訛 ひくひくは息が絶え絶えになり、少しずつ動く状態

**ひごづち【名詞】** 振るい分けた様な 綺麗な畑の土 [会話] 土でも ヒゴツチ きめなええ (地肌がよい) 土やなあ (だ) 言うて、きめなええ土で 芋もう まいねなあ (おいしいのだ) 言うて。篩 したよんな

(したように) 土を ヒゴツチ言うね (言うのです)。

**ひごと (日毎)【名詞】** 毎日

**ひごとよごと (日毎夜毎)【名詞】** 毎日毎晩 いつも常に [用例] 爺やんな 寝込んだもんで (病気で寝たので) ヒゴトヨゴト しもの世話せんらんで (大小便の世話をしなければならぬので) どっこいも行かれやせんわい (何処へもいけません)。

**ひごぬく** 仲間から抜ける [会話] 仲間うち (間) で 話ししとて (していても) おりやいな (折り合が) わりいて (悪るくて)、いくらしても きまらせんもんで (まとまらないので) わしやおるわい (私はやめます) 言うて、ヒゴヌク ことを。ヒゴヌク 言うな (のは) その仲間から 抜ける 言うこと。

**ひごぬけ** 藁で穂のつく所が節から折れる事 [会話] 藁の節な (が) へしよれてくの (折れて行くのです)。へしよれて (折れて) 抜けてくの (て行くのを) ヒゴヌケ。

**ひこばあさん【名詞】** 曾祖母 (志 (鶴方、神明、立神、志島、国府))

**ひこばば【名詞】** 曾祖母 (志 (鶴方、神明、立神、国府、安乗)、鳥)

**ひこび【名詞】** 紐 細い紐 腰紐 ひこおび (志 (浜島、布施田、鶴方、神明、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥 (相差)) [会話] 細紐の事 ヒコビ言うんや (言うのです)。今し (今) で言う 腰紐を ヒコビ、まいかけ (前掛け) の ヒコビやら (とか)。細いおな (のが) 有ると こや (此れは) 前掛けの ヒコビに 丁度ええなあ (よい) 言うたり、なかね (腰紐) の ヒコビに ええなあ 言うて 紐の事。

**ひこひこ【副詞】** 1) 死にそうなさま 氣息えんえん ひこつく参照 (志 (片田、甲賀)) 2) 弱そうな様 [会話] ② ヒコヒコしとられ (して居る) 言うて、きやあしやなのおなあ (華奢のです)。頼り無いよおんしとんの (にして居るのを)。ヒコヒコしとる (して居る) あや 弱そやれ (だ) 言うて、ほっそおて (細くて) 痛わしよおんしとんのなあ (にして居るのを)。<sup>1)</sup> 死んでく (で行く) 前ん (に) ヒコヒコしとる 言うて、重体で ヒコヒコしとんねよって (して居るのだから) 長いこた (事は) 無いわい (有りません) 言うて。あやまあ (彼はもう) じっきん (近々) 死んでくど (で行くぞ) ヒコヒコしとるもんなあ (して居るから) 言うて。

**ひごろ (日頃)【名詞】** 日常、いつも [会話] ヒゴロ 人に憎まれとる (ている) 人ら (は) ごおさらしや



(恥さらした) 言うて。  
**ひざ (火座) 【名詞】** 火の燃えて居る所 [会話] ヒザな (が) 外の方へ 鍋の下んおらんと (におらずに) 鍋の下より こっちい燃えて ひざってくんのを (来るのを) ひざり火言うて。  
**ひざあて (膝当) 【名詞】** ズボンなど膝の部分に当てる布切れ [会話] 桶屋ん (の) 爺やん 竹 削ん (の) ヒザアテを しとよおった (していました)。ズボンな (が) 破れるもんで (ので) 破れんよんなあ (ように) ヒザアテもせんとおって (せずに居て) すね (膝) 皆 破ったたない (てしまった) 言うて。  
**ひざがしら (膝頭) 【名詞】** 膝の関節の前面 ひざ小僧 (一、飯、上、阿、張、賀) [会話] ヒザガシラ 言うな (のは) すね (膝) の事やわい (です)。ヒザガシラ 打ってまあ言うて すね (膝) 打つとなあ。  
**ひさかたぶり (久方振) 前に** そのことをしてから 長い時間がたって再びするさま しばらくぶり [会話] 久し振り 言うのを、ヒサカタブリ 言うのなあ (です)。ヒサカタブリ やのお (だ) 言うて 長い事 逢わんとおるとなあ (ずに居ると)。  
**ひざかり (日盛) 【名詞】** 日の照る最も盛かんな時 日中  
**ひざかりぶき 【名詞】** 日中に 西の強風の吹く事 [会話] 日の真ん中 ごろん (頃に) になると、よお (よく) 吹いて来るわい (来ます)。こや (これは) まあ ヒザカリブキ やなあ (だ) 言うんなし (言うのです)、ヒサカリブキ しとて (していて) 夕方ん (に) になると なんでくわい (風いで行きます) 真西 (西風) のヒザガリブキ言うて。  
**ひざくずす** 正座をしていたのを解いて、楽に座る。胡座をかく [会話] ヒザクズス 言うのは、正座しとんのおを (しているのを)、おいざ (胡座) かくのを、ヒザクズス 言うてなあ、ヒザモクズシテ だくんしてくれえ (楽にして下さい) 言うやんかい (言います)。胡座かいたり、おなごら (女) は よこむかいんなあ (横座りに)。  
**ひざぐみ (膝組) 【名詞】** 座ること 立膝で座る 胡座で座る事 [会話] ヒザグミ 言うてなあ、すね (膝) 立ててなあ こげんしとんのを (しているのを) ヒザグミ 言うね (言うのです)。立てひざしとんのおを (しているのを) ヒザグミ。  
**ひざくむ** 座る 胡座で座る (上、阿)  
**ひざこぶ 【名詞】** 膝がしら 膝 [会話] ヒザコブ。すねこぶ 言うねわい (のです)。すねこぶな (が) いと

おて (痛くて) 言うのんなあ (に)、すねな (膝が) 痛い時でも、すねこぶな (が) 痛い、言うけどなあ (言います)。  
**ひざこぶし 【名詞】** ひざがしら ひざこぶ に同じ (志、鳥) [会話] すね (膝) の事を言うんやろなあ (言うのでしょうか) ヒザコブシ。ひざこそ (膝小僧) 言うねよって (のだから)、すねの事やになあ (でしょう)。  
**ひさし 【名詞】** 家屋の庇 (三重県全域) [会話] ヒサシ。ヒサシ 出して言うて、軒い (へ) しぶちな (しぶきが) かかるよって (から)、ヒサシ ちよいとばかふ っこお (少し位深く) して貫へとか、ヒサシ 出して おだれん (に) しよお (しましよう) とか 屋根を なんごおすんのを (長くするのを) ヒサシ。雨戸の とこい (所へ) さすのを ヒサシ 言うて、ヒサシな (が) よけ (多く) 出とると (て居ると) しぶちな (しぶきが) かからんでええわれ (かからなくてよいです) 言うて。  
**ひさし (久) 【形容詞】** 久しく 長らく (志 (布施田)) [会話] 人な (が) たまに (久し振りに) たまたま 会うと ヒサシノオ (久しいですね)、ヒサシ 振りに おおてのお (会って) 言うて、しばらく 会わんとおると (会わずに居ると) ヒサシノオ、ヒサシ 事 会わんかったのお (会わなかったですなあ) とか 久し振り 言うのを。  
**ひざし (日指) 【名詞】** 日の光の照りつける事  
**ひさしこと** 久しぶり 長い間 ひさし (久) 参照  
**ひざだく** 自分の膝を抱える、孤独なさまを表す 無為に過す。[会話] 立てひざして すんの (するのを)、ヒザダク 言うね (言うのです)。四角な箱い (棺へ) 入いる時みたよん (のように) ヒザダイテ 言うやんかい (言います)。ヒザダイテ、むことる (座っている) 人な (が) よお有るんなあ (よく有ります)。  
**ひざなわらう** 下り坂や階段などを降りる時、膝ががくがくする 力が抜ける [会話] ヒザナ (膝が) ワラウ 言うのは、すねな わろたよお 言うて すねながつ がつすんのを (するのを) すねなわろて (笑って) がつがつすねよお (するのだ) 言うて。  
**ひざのさら 【名詞】** 膝蓋骨 形が皿を伏せた様で有る事から (志 (浜島)、張、賀) [会話] 膝小僧 すねの皿 言うやんかい (言います)。ひざや (だ) 言うて 脛をなあ。  
**ひさびさ (久久) 【形容詞】 【副詞】** 久しい事 長い間  
**ひざまづく** 座る 正座する

**ひざもと** (膝元) 【名詞】 1) 身に近い所、附近 2) 両親の側 [会話] 2) ヒザモト言うな (のは) 親のとこい (所に) 行くのをなあ。親のヒザモトで 育ててまあ言うて、ヒザモト 離れると 今し (今) の子ら親の恩忘れてまあ言うて。1) 近くに言うのを ヒザモトん (に) あんのん (有るのに) そやれ (それ) まあ言うて。1) ヒザモトい (に) 置いて まあ 娘を言うて、ねきん (近くに) おると、娘な (が) はたん (近所に) おると 娘 ヒザモトい (に) おいて言うて。娘な (が) 近いとこ 嫁すると (嫁に行く) と此の時の膝は 近くや (です)。

**ひざり**、**ひざりび** 【名詞】 薪が手前の方迄燃えて来て居る火 いざりび参照 [会話] 燃えて 鍋の下におらんと (いなくて)、鍋の下より こっちい 燃えてひざつてくんの (来るのを) ヒザリビ。

**ひさる** 退く 後退する (志 (神明、立神、甲賀、国府、安乘)) [会話] ヒサツレ言うやんかい (言います) 控えとれ (ておれ) 言う事をなあ。そして 後へよつとれ言う事を ヒサツレ言うてなあ。ひい (火) 焚いとてなあ (ていて) ひいたきざで 当つとると (ていとう) あたとなつて (熱くなつて) 来るやんない (でしょう)、そすと ヒサツレ言うて 後いよれ言うのをなあ。

**ひざる** 退く 後へさがる (上、阿) [会話] あと (後) へ ひざつとると、古い石塔石な (が) 後へヒサツラレ (ている) 言うて。

**ひざわり** (日障り) 【名詞】 1) 熱射病 高温環境に暴露されるため起る疾患で 熱中症 熱疲労、熱痙攣の三種が有る 夏季子供が長時間外で遊んで犯されやすい 2) 日のよく当る所 [会話] 2) 日当たりな (が) ええ (よい) 言うのなあ (のです)。日な (が) よお (よく) 射すとこ (所)、日な (が) よけ射さんと (多く射さない) ヒザワリな (が) わりな あ (悪い) 言うなあ (言います) 日廻りな (が) 悪いとか、日のてり (照り) 日な照り言う 日な照りい (へ) 廻しとけ (ておけ) とか 日の照る事を ひなてや (だ) 言うの (のです)。ひなてい (へ) 廻しとけ 洗濯もん (物) も、言うて 干しもん (物) とか。1) 夏ん (に) 照られて 熱 出して 寝込むな (のは) ヒザワリ。

**ひざわる** 胡座で座る [会話] ヒザワル言うて、胡座かいとる言うの (のを)。

**ひざわれ** 楽に座れ 胡座で座れ [会話] ちんとかし こまつとるもんで (正座している)ので、ヒザワレエ

言うと、おいざかけ言う事や (です)。おいざかけヒザワレ。おいざ言うな (のは)、あぐら (胡座) ふんばつて 足組むの。今し (今の) の子ら (は) おなご (女) でも おいざかいて言うて。わしら (私達) おいざかいたら (胡座で座つたら) 女子ざいで、おいざかいて言うて おこられおつた (怒られて居ました)。おなございは 女の分際で おいざかいて言うて。

**ひし** 【名詞】 めじな メジナ科の海魚 全長50cmに達す。体は楕円形で側扁する。体色は紫黒色で、クロダイに似ているがそれよりも濃い。両頬の歯は小さく、その外側の物は三尖頭を持っている。背鰭と尾鰭の軟条部は密に鱗で覆われない。(志、鳥、伊、度 (阿曾浦))

**ひし** (魚杖) (菱) 【名詞】 目的物を突き刺して漁獲する漁具の一、漁獲物を突き刺す。鉄製の尖端部と此れに連なる多くは竹製の柄からなり、此の二つは強固に固着させてある 鉄製の部は一〜数本の物が有り逆鉤をつけて有るものが多い、やす、箆、籠 (志 (浜島、布施田、鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乘)、鳥 (鳥羽、国崎)、北) [会話] 二本ビシや (とか) 三本ビシや (だ)、てつぽ (鉄砲) ビシや (だ) 言うて。わしら (私は) 三本ビシで 突きおつたけど (突いて居たが) 今しや (今は) てつぽビシや。

**びし** 【名詞】 釣り糸の途中につける小さな重り (度、熊野灘沿岸) [会話] ちっちゃあい (小さい) ながの (延べ縄) に つけて有る 重りみたいな (のよう) な。ふかし (ふかし釣り) の時 道糸な (が) あがつてこんよおん (浮き上がらないように) 途中へ ちっちゃあい鉛な (が)、此の位あいに (1~2m間隔) で 米粒よりおっきいのおを (大きいのを) のみで つついといて (ておいて) それい まがいをはさけて (道糸挟んで) 石で ちよんちよんと その口 止めて 鉛つけんの (付けるのです) ビシ言うね (のです)。それを やま (道具) にすると 浮いて来やせんもんで (来ないので) あげんすんねやろなあ (あんなにするのでしょうか)。くちもと (口許 はりす) の方いは (へは) おっきいの (大きいのを) 付けて やまの 長い間は ちっちゃい 米粒の上みたいなの (のようなの)を 付けおつたわい (付けて居ました)。くちもと くちもと言うな (のは) てんぐす (てぐす) を 釣付けんの (釣針付けるのに) てんぐす 付けるやんない (でしょう) くちもには ほつそおおい (細い) ええ (よい) てんぐす付けんねやんかい

(付けるのです)。くちもとい (へ) すんななあ (するのは)、じっぱな (立派な) すかして 見ると 玉な (塊が) 少ないのな (のが) 有るわい (有ります)、こや (此れは) くちもとや (だ) 言うて、釣 (釣針) 付けるとこ (所) 鉛のあい (間) に つけるの (のを) くちもとや (だ) 言うて、そして (そうして) 釣 (釣針) そこい (其処) 付けると 此の位 (1m)、あい (間隔) おいて 鉛 おもしろのおを (重り石ののを) つけるの (ののです)。とごる (沈む) よおん (に)。やまいは (釣糸へは) 米粒みたいな (のような) ちっちゃあいのつけて、浮いてかんよおん (て行かないように)。潮な (海流が) 早やかったりすると 島な (岩礁の) たっかいのな (高いのが) 有ると、それん (に) 引っ掛けて くんやる (て行くのでしょ) う) そすと 道具 かからかしたて (引っ掛けてしま) った) 言うて、そして (そうして) 医者どん 頼んだんやけど (頼のんだのだが) はざんか (駄目だった)、医者どん 竹を節を切ったて (てや) った) 此の 位んして (にして、20cm) 此れ位 (手拳大) の 石をしばりつけんね (くくり付けます)、じょおほお (両方) しば (って) その竹の筒い 道具のいっちはし (一番端) から つっこで (突っ込んで) それ さが らかしたると (落してやると) 掛つとるとこ (て居る所) 行くと とれる (はずれる) 時な (が) 有るんや ろなあ (有るのでしょ) う)。それやもんで (それだから) 医者どん 頼んだけど (が) はざんか (駄目だった)、道具 かからかしたて (引っ掛けてしま) った) 切らしたた (切ってしまった) 言うて、医者どん 言うな (のは) 竹の筒い、石つけたの (のを) 医者どん んや (です)。

**ひじがね (ひぢがね) (肘金) 【名詞】** 1) 肘 肘関節 2) 蝶番 [会話] 1) ヒジガネ こいなとこ (こんな所・肘) ヒジガネ 言うんやんかい (言うのです)。ヒジガネな (が) いと (お) (痛くて) 言うて、肘でええんけど (よいのだが) かね付ける (付けます)。2) ひらき (開き戸) の 蝶番い あれを ヒジガネ言う ね (言うのです)。こや (此れは) ヒジガネな 腐つ とるよ (て居るから) 替えなはざんわれ (なけれ) ばいけ (ない) 言うて、よお替へお (よく替へて居) ました)。今しゃ (今は) ドアや (だ) 言うて はい からん (に) 言うけど (けれど) 昔や (は) ひらきや (と) 言うて 開き戸ん (に) すると、ヒジガネ つけ なはざんやんかい (なけれ) ばいけ (ないのです) 今し や 蝶番 付けるけど (けれど) 昔んなあ (ののは)

こお (して) 曲ったの (のを) しよお (った) やんかい (し) て居 (ました)。

**ひじきのやまもり** 女性の陰毛 [会話] 前な (が) く うろい やんない (黒いでしょ) う)、くうろお、けえな (黒く毛が) 生えとるもんで (ているので) ヒジキノ ヤマモリや (だ) 言うてなあ。

**ひじきりがま 【名詞】** ひじきを刈る小さな鎌 (志 (御座)) [会話] ヒジキリガマ、ひじきかん (のん) (刈るの) に ちっさい (小さい) 鎌な (が) あよ (お) つたわい (有りました)。

**ひしこ 【名詞】** かたくち鯛 かたくち参照 片口鯛の古名。(志 (鶴方、神明、立神、甲賀、安乗)、鳥 (桃取)、桑市、鈴市、安、津) [会話] ヒシコ だ (し) こ。煮干しにする鯛は いりこ (言うて、ちっちゃあいの お を (小さいのを) いりこ (鯛))

**ひしご 【名詞】** 魚 ぐれの小さいもの めじなの子 ひし 参照 [会話] 魚、ヒシゴ (言うて) ひしの こお な (子が) よお (お) おる やんかな (よく居ます)、ちっちゃあいの な (小さいのが) よけ (お) つて なあ (沢山居) かせ (河岸) (に)。

**ひしざわ 【名詞】** 魚を突く銚に付ける竿 [会話] 突き 手 (魚を突く人) の さわ (竿) を なあ、ヒシザワ ひしな (魚杖が) 付いとん (のを) (ているのを) ヒシザワ。

**びしと 【副詞】** 強く 立派に [会話] ピシット 躰 しとけ (してお) (け) 言うて 子供らも あんまり (あ) まり 甘口みせん (と) (見せずに) ピシット 躰 せな は ざん われ (しな) (ければ) 駄目 (だ)。あや まあ (彼は) ぐ れて くど (て) 行く (ぞ) 言うてなあ、正確 (に) と か きち つと と か し つ かり と と か。

**びしと 【副詞】** 正確に 丁度 (張) [会話] ピシット 言うのも びしと (言うのも) 一緒 (や) (です)、し つ かり し と け (してお) (け) き び しい せえ (き) び しく し な さい 言う事 や わい なあ (です)。

**ひじつぼ (ひぢつぼ) (肘壺) 【名詞】** 一方が丸く、一方がくの字になり丸の中に一方を入れて戸などを閉じる錠、その丸くなっているもの [会話] ヒジツボ (言う) な (のは) 止め 金 (で)、ぼら (穴) あい とん (の) (ている) のを し と いて (して) お (いて) 曲 が つ とん (の) で と め て、わ あ ん な つ と る (輪) (にな) (っている) 方 (は) ヒジツボ、曲 つ と る (ている) 方 (は) ひ じ が ね、て え (手) の ひ じ が ね (肘関節) 外 側、ひ じ が ね や よ つ て (だ) から 曲 つ とん (の) (ている) の です (の)。ま る く た い の ヒジツボ、こ え ん し て 引 つ 掛 ける か ね ヒジツボ な

(が) うちやれて (壊れてしまって) 言うて、みずまどやどけん (水窓などに) あんな (あれが) して有ると、じつきんうちやれて、ま ヒジツボな (が) うちやれてたよお (壊れてしまった) 言うて。

**ひじばる (ひちばる) (肘張) 【自ラ五】** 得意になって威張る 肘を張る [会話] 威張つとる (ている) 意地張る言うのは 頑固のを ヒジバル。

**ひしび 【名詞】** 魚 めじな 魚ひし参照 (志、四、伊、鳥、尾)

**ひじまくり (ひちまくり) (肘捲) 【名詞】** 肘にかかる衣類の袖をまくりあげること 働いたり威勢をつけたりする時の姿 腕まくり [会話] 腕まくりするのを ヒジマクリ。

**ひしやいたる** 1) 押し潰す 潰してしまう、壊してしまう (志 (立神)) 2) 激しく叱る

**ひしやいてくる** 急激に変化が起る 雷なビシャイテクル (志 (布施田))

**ひしやきむぎ 【名詞】** 押し麦 蒸した大麦を押し潰して平たくし 乾したもの (志) [会話] ビシャキムギの事を 押し麦やし (です)。搗いてすんの (するのは) 丸麦空 (だ) 言うて。

**ひしやく (柄杓) 【名詞】** 液体を汲み上げる長柄のついた器 (熊) [会話] ミズビシヤク (水柄杓) コビシヤク (小柄杓) 言うて、茶釜いすんの (へするのを) コビシヤク。水瓶いすんな (するのは) ミズビシヤク、こえ (肥料) かえんな (汲み取るのは) コエビシヤク、あか (舟の水) かえんな (汲みとるのは) アカカエジャク。にわかしよおったわい (俄 即興芝居しました) ちっちゃあい、しやく (小さい杓) 桶い (へ) 入れといて (ておいて)、にわか にわか言うといて (言っておいて) こしやくな (小杓 小癩な) おけ (桶 やめる) 言うて。シヤクは 使い道ん (用途 使う所 方法に) 依って 皆 それぞれの名前つけて。

**ひしやく 【動詞】** 1) 押し潰す ひしやく、拉 ペしヤんこにする 押し潰す (志 (片田、浜島、鶴方、神明、立神、甲賀、国府、安乗)、鳥羽市全域)、熊) 2) 怒る 3) 叩く 打つ (一、久、多、上、阿、張、賀) [会話] 1) ビシヤク 砕く言うのを ビシヤク言うの なあ (言うのです)。ビシヤイトケ (ておけ)、ビシヤイトレ (てやれ) 言うて。はたぶら (椿の実) ビシヤカナはざんわれ (なればいけな) 言うて。油 搾るよおん (に) になると、ひとつつつ (一つづつ) ビシヤイトレ 言うて。踏みビシヤイトレ言うて 足で踏んで ねじつけとんのおな (て居るのが) 踏み ビシ

ヤイトタ (てやった) 言うて。ビシヤケル言うのは 潰れた ひとり (自然に) 潰れとんのおを (て居るのを) ビシヤケテタ、言うて わがとらな (自分達が) なんもしやせんのん (なにもしないのに) 自然にして くの (して行くのを) ビシヤケテタ 言うて、ずくしな (熟柿が) なつとたけど (なつて居たが) 落ちたや (たら) ビシヤケテタ言うて。わがとら (自分が) ビシヤイトロ、おもて (てやろう思って) すんな (するのは) ビシヤイトラなはざんわれ (てやらなければ駄目だ) とか、ビシヤイトタレ (てやった) とか言うて。

**びしやけた** 潰れた、押し潰された (志 (甲賀))

**びしやける (拉) 【自力下一】** 押し潰されて平になる ひしやげる 潰れる (志 (浜島、布施田)、度、北、南)

**びしやつと 【副詞】** 強く (志 (布施田))

**びしやつと 【副詞】** 正確に [会話] 正確に きちんと しめとけ (閉めておけ) 言うのをなあ、ビシヤット しめとけ (ておけ) とか びしつと しめとけ (ておけ) とか、ほべた (頬) びたんと 叩かれたとか言うて。

**びしよつく** 濡れて居る 湿気を帯びている (熊) [会話] ビシヨツイトルワイ (ています) こや (これは) 言うて。乾きな (が) 前の事なあ。水気を 含んどて (でいて) びしよびしよしとるよつて (しているから) もっと 干しとかなはざんわれ (ておかなければ駄目だ) 言うてなあ。

**びしよぬれ 【名詞】** ずぶ濡れ びしよびしよ参照 (志 (布施田))

**びしよびしよ 【形容詞】 【副詞】** 水気を多く含むさま (志 (布施田、鶴方、神明、安乗)、尾) [会話] 水で濡らしたり、しょんべ (小便) したりして、びちやびちや (湿って居る) しとんのおを (して居るのを)、尻や (は) ビシヨビシヨやれ (だ) 言うて。子供らおむつ代える時でも おむつあ (は) しょんべで ビシヨビシヨやれ (だ) 言うて。よけ (沢山) 濡れると ビシヨビシヨや (だ) 言うの (のです)。雨ん (に) 濡れて 体 ビシヨビシヨや (だ) ビシヨヌレヤヨオ (だ) 言うて。

**ヒス 【名詞】** ヒステリイの略 疝高い人。自分の事のみを主張し、すぐ怒る人

**ひぜん 【名詞】** 日銭 毎日収入として手元に入る金銭 毎日の現金収入 ヒゼニ (日銭) の訛 (方言俗語語源辞典)

**ひぜん (皮癬) 【名詞】** 皮膚病の一種 疥癬 (かいせん) 伝染性皮膚病の一つ。指の間、手足の関節の内側、大腿部の内側、乳房の下、下腹部、陰部などに出来る淡紅色、又は肌色の小さな丘疹、先端に小さな水泡や、膿を持つ事もある。夜間激しい痒みがあり、疥癬虫が媒介する。[会話] ヒゼンかき とかき、こせかき (乾癬)。出来もん (物) 今しゃ (今は) ヒゼン搔く にげや (人は) 無いけど (が)、昔や (は) よお (よく) ヒゼンかきな (が)、わしら (私達) 十六人な (が) おったや (居たら) みんな (皆) かいて、〇さん家 (げ) で 風呂 焚かしてもおて (貰って) いらしてもおて やうちな (一同が) 葉 塗って 葉な (が) 効く迄ん しょづくって ううなつびほした よおん (に) して。

**ひぜんかき (皮癬搔) 【名詞】** 皮癬をわずらっている人  
ひぜん参照 (員)

**ひぜんどっくり 【名詞】** 器量の悪い人。備前徳利は中央が凹んで居るので。[会話] 器量な (が) わりと (悪いと) ビゼンドッキリみたいいなあ (のようだ) 言うけど (言います)。ビゼンドッキリ 真ん中が へっこんどうるやんない (でいるでしょう)、そやもんで (それで) なかびく (中央が低い) の 器量のわりの (悪いのを) 見ると、ビゼンドッキリみたいいなあ (のようだ)。

**ひぜんやみ (皮癬病) 【名詞】** 皮癬をわずらっている人  
ひぜんかきと同じ

**ひそひそごえ 【名詞】** 小さく囁く声 内緒話しをする声

**ひそひそばなし 【名詞】** 内緒話 小声です話 [会話] こそこそと あや (あれ) 内緒話ししとられ (している) 言うて ヒソヒソバナシししとんのおを (しているのを)。

**ひそませる** 隠す 隠しておく (熊)

**ひそまっとる** 1) 片付いて居る 2) 小さくなって居る

**ひそまっとれ** 隠れて居れ 小さくなっておれ

**ひそまる (潜) 【自ラ五】** 1) 片付いて居る 2) かくれている

**ひそむ (潜) 【自マ五】** 人目を避けて こっそりかくれる かくれて静かにする

**ひそめる (潜) 【他マ下一】** 片付ける しまう 潜める 自分の体をかくす 存在や行動が目立たなくなる (志 (鶴方、神明、立神、志島、甲賀、国府、安乗)、南) [会話] ヒソメル。片付ける事を言うのなあ (のです)。ヒソメトケ (ておけ)、ヒソメトカナはざんわ

れ (ておかなければいけない) ひろげさがしとかと (散らばせて居ないで) 言うて。きもん (着物) も着たら たとで (たたんで) ヒソメトケマア (ておきなさい) 言うて、きもんも のんで (脱いで) 引っ掛けとくと (ておくと)、ヒソメもせんと (せずに) 言うて、よお (よく) 怒られおったわい (居ました)。片付ける事を ヒソメル。ヒソメル ひっそりとせえ (しなさい) 言う事を ヒソメル言うて。ひっそりと しときや (しておけば) ばあもふせがんだけど (場・場所取らないが)、ひろげさがしとると (していると) 場ふせぐよって (ふさぐから) ヒソメトケ (ておけ)。かくれんぼや (とか) なんや すん (する) 時、自分の体 ちっそおして (小さくして) 陰い かくれとんのおも (て居るのも) ヒソメル。ちっちょおなつとる (小さくなっている) 時ん (に) ヒソマッテ 隠れたんよお (て居たのです) 言うて。宴会で 隅の方ん (に) おると、おら (俺は) 隅い (へ) いて (行つて) ヒソマッタンよお (て居ました) 歌よお唱わん と言うて。

**ひそめる (蹶) 【他マ下一】** 眉の辺りに皺をよせる 嫌な顔をする

**ひた** 人は (一、張、南) [会話] あのヒタ あいな (あんな) 言葉より よお使かわんね (使かわないのだ)。

**びた 【名詞】** 1) 不器量な女性 2) 少女 [会話] 2) ビタ おなご (女) の子を ビタ。そして (そうして) 器量の悪い言うのおを (のを) ひらべた 言うのおを、ビタ 言うて。ひらべた言うな (のは)、顔な ひらくたい (平) と ひらべたやなあ (だ) 言うやんない (でしよう)。それを べた 言うて。器量の悪りのおなあ (のです)。べたやなあ (だ) 言うて。おなごのこお (子) もおけると (産むと) べたもおけたよお (産んだ) 言うて。器量が 悪りのも言うし、女の子な (が) 産れた時ん (に) ビタ 言うて、ビタやとか (だとか) あまやとか、びくや (だ) 言うて、おなごの子もおけると。男の子もおけると 大将 もおけた 言うて。

**びた (鏝) 【名詞】** 粗悪な銭貨 小額の金 [会話] ビタイチモ (一文) 出させん (ない) 言うて、けちん坊の事やなあ (です)。ビタも出させんねよお (ないのだ) 言うて。ビタセン 言うて 一番金額の小さいのを 言うんやんかな (言うのです)。ビタセンも無いね (のだ) 言うて、よお言うやんかな (よく言います)。昔で言う いちり (一厘) か五厘か言う そいな

ぜんやなあ (そんな銭です) ビタイチモ 言う時は  
全く少ない金、言う事や (です)。

**びたいちも**【名詞】極めて僅かの金銭 びた参照

**ひたえ (ひたひ)**【名詞】額 したいの訛 顔面上部の  
毛髪の生え際から眉のあたり迄の部分 (三、四、鈴市、  
亀、安、一、松、張、度、伊、北、尾、南) [会話]  
ヒタエ、したえ、おでこの事 したいや (だ) 言うて  
“ひ” やのおて (でなくて) “しい” や (です) ヒタ  
イ 割られたよお言うて。

**ひだかい (日高)**【形容詞】日が高い 昼の盛りである  
[会話] ヒダカイ言うな (のは)、ひいな (日が) ま  
だ高い ヒダカイやんか (でないか) 今し (今) おか  
んでも (終らなくても) 言うよおな事や (です)。

**ひたきざ**【名詞】火を焚く所 竈の前 (志、伊、多)  
[会話] ヒタキザ言うのは ひいたきざ 言うて。そこ  
い (そこへ) 皆 座ってなあ 其処を、ひいたきざ  
うねやんかな (言うのです)。ひい (火) 焚くとこな  
(所が) 決まっとんね (ているのです) ひいたきざえ、  
寄って来い、さぶいよって (寒いから) 言うて 其処  
で 皆 当りおった (当って居ました) さぶいひい  
(寒い日)。

**ひだこ (干蛸)**【名詞】干した蛸 蛸の干物 めえほお  
参照 [会話] 蛸の皮、皆 剥いたて (てやって) それ  
を はけで (竹で) はりこおて (支えて) 干しと  
くの (ておくのを) それを ヒダコンしとんあ (に  
している)。

**ひだこ**【名詞】海女が暖を取るため火に当って出来る皮  
膚の斑、茹蛸のような色になるところからか (日本国  
語大辞典) [会話] 海女さんな (が) 出来る 斑点  
海女の鱗言うね (言うのです) アマメ。ヒダコ。

**ひたし**【名詞】浸し物 ゆでた野菜に醤油 鰹節などを  
掛けた料理 [会話] なあや (菜とか) 大根の ヒタ  
シも有るし (有ります) しよい (醤油) 入れて だし  
(削り節) して 味付けして 喰うのを ヒタシや  
(です)。昔や (は) さい (菜・副食) 言うたら た  
いがい (大体・大抵) なあ (の菜の) ヒタシや (で  
す)。今頃やったら (冬だったら) だいこの (大根  
の) ヒタシなあ (です)。

**ひたし**【形容詞】親しい 深くつきあって居る [会話]  
こいごし (濃い・仲よし) するにげや (人間は) ヒタ  
シ 友達な (が) 有ってええなあ (よいですね) 言う  
て。親しい事を ヒタシなあ (です) 言うて。ヒタシ  
友達な (が) 有ってええなあお前ら言うて、こいごし  
すると、ヒタシイ言うて なあお言わせんね (長く

言いません) ヒタシ言うて。

**ひたじ**【名詞】したじ (下地) の変化したもの 1) つ  
け汁 (志 (布施田)、南) 2) もとになるもの

**ひたしい (親しい)** 仲良く交際している [会話] 親し  
い ひたしも 一緒やけどなあ (です) 言う人に依っ  
てなあ ひたし言う人も有るし ヒタシイ言う人も有  
るし。

**ひたす (浸)**【他サ五】物を液体の中に入れる 液体を  
物全体に含ませる [会話] 水へ くざける (つけ  
る) 事を、ヒタス言うのなあ (のです)。水い (へ)  
びたびたん (に) して するやんない (でしょう)、  
それを 水い (へ) ヒタシトケ (ておけ) 言うて。な  
んやかや (何彼) 乾燥したもん (物) を 戻す時ん  
(に) 水い (に) 入れるやんない、それを 水い  
(へ) 入れて ヒタシトカナはざんわれ (ておかなけ  
ればいけない) 言うて。麦の時は よます 麦をざつ  
とすんのを (するのを) 麦 よましとけ 言うて。なあ  
やどけ (野菜など) 茹でる時や (は) さつと 茹でと  
けとか、麦の時は よましや (と) 言う (言います)。  
麦、よましとけよお (ておきなさい) 言うて、よまし  
たら おらしもさいとけ (差ししておけ、入れなさい)  
言うて、沸騰して来ると 水、ひとしゃく (一杓) 入  
れて おらし 言うて、でんぐりがへつとんのおを (ひ  
っくり返って居るのを) ちよいと (少し) とごらして、  
ほとらす (沈殿させてむらす) 言う事やろなあ (でし  
ょう)。おらしさいとけ 言おうて。おらしささんと  
(入れないと) よましな (が) 飯みたよん (のよう  
に) ひやがってくんやんかい (ひあがる、水分がなく  
なって行くでしょう)。そやもんで (それで)、おらし  
さいとけ 言おうて、そえんしとくと (そんなにして  
おく) 水な (が) ひたひたん (に) なって ぱつと  
開いて 朝 それを ざあるい (ざるへ) あけ といて  
(入れて) 鍋い (へ) 入れて 米 入れて炊くんやん  
かい (炊くのです)。そやけど (しかし) おらしせん  
とおくと (しないで置くと) よましたながり (ま  
ま) おくと ひやがって (干上って) 飯みたよん (のよう  
に) しとんねけど (して居るのだが)、又 かったい  
とこ (堅い所) も あんねてや (有るのです)。おら  
ししたると (してやると) 程よおなんね (よくなるの  
です)。おらし言うな (のは) 沸騰してから 入れる  
差し水。差し水しとかなはざん (しておかなければ駄  
目だ)。そすと (そうすると) おどつとんのな (踊っ  
て居るのが、跳び廻って居るのが) おるやんない (沈  
むでしょう)。下へ、とごるやんない (沈むでしょ

う) そやもんで (それで) おらしさせ言う。おらすよおん (に)。そすと (そうすると) 最後 万遍冷やすんやんかい (平均に冷やすのです) 水な (が) すけな いと (少ないと) 上は かちかちみたよん (のように) して、下 飯んなつとんねやんかい (になって居るのです)。そやよって (それだから) 麦な (が) したる (ひたる・浸る) 迄 おらし水で しとくと (しておくと) 万遍 麦な (が) 開くのおで (ので)。沸騰しとるのおを (して居るのを) おとなしさを しといて (おとなしくさせておいて) 水一杯 含ましとくと (含ませておくと) 朝迄 皆 万遍 ふくらむの (のです)。

**ひたす** (鍍出) 【他サ五】 簀で、選り分ける (桑市、北)

**びたせん** (鑼銭) 【名詞】 粗悪な銭貨 わずかな金銭 明治以前の銭貨 びた参照 [会話] ビタセン言うのも びたいちも 言うのも 一緒やわいなあ (です)。びたいちも も よお出さん (出せない) おら (俺は) あげな (あんな) 人にや (には) 言うてなあ。わがと (自分が) 出した無い人にや 言うてなあ。ビタセン言う時は 普通 通用すんのやなしん (するのでなくて) 文久銭や かええ (嘉永) 通宝やら そいなのおを (そんなのを) ビタセンや (だ) 言うて。

**ひたたり** 【形容詞】 着物などに水分を多くふくんで 嫌な感じがする したたるい (志 (布施田)) [会話] ヒタタリヨオ言うのをなあ、びしょびしょと 汚い事をなあ。雨降りやどけ (など) さっぱりと 家い 入りぬくいやんかなあ (ぬくいでしょう)、じめじめと しとて (して) おおた ヒタタリよお 思うやろ (でしょう) それを言うのなあ。じとつと しとて (して) さらつと しとらせん (していない)。此処ら 浜辺はなあ 潮風な (が) 有る もんでなあ (ので)、はえん (梅雨に) になると ヒタタレてくん (濡れて来るのやす)、びしょついて来る。海岸通りはなあ 潮風でヒタタリ。ヒタタリ言うのは 湿気持つ言う事 塩気な (が) 有ると こ (所) は 雨な (が) 降ると しとつて (湿気を帯びて) 来て じめじめすんのなあ (するのです)。

**ひたたる** したたる 滴る 液体が滴となって 落ちる 垂れる みずみずしさが溢れるばかり 有る [会話] ヒタタル。今日は ませ (南風) の 風な (が) 吹いて したたりわれ (です) 言うて、ませな (が) 吹くと、しとつてくんね (湿って来るのです)。じめじめして くんね、西の風になると さんざり (乾燥した状態)

なるし、ません (に) になると ちよいと (少し) 塩気な (が) 有ると じたじた湿つてくんの なあ (来るのです)。そやもんで (それで) ヒタタル言う。

**ひたたるい** 【形容詞】 しめっばい (北、尾)

**ひだち** (肥立) 【名詞】 日の経つこと 出産後 病後の 日の経つこと、経過 日立ちの意 (広辞苑) (熊) [会話] こおもおけて (子産んで) おびや (産小屋) へいても (行っても)、わりな汁 (ずいきの具の味噌汁) 喰うと あくちな (悪血が) でてく (出て行く) 言うて。おびや 行くと わりな汁必ず 食べおった (食べました) 産後のヒダチに。

**ひだつ** (肥立) 【自タ五】 産後や病気の経過がよく回復する 日数の立つ義 (大言海) 日が経過する意 (広辞苑) (津) [会話] 産後のひだちな (が) わり (悪い) 言うて、ヒダツてきやせんわれ (来ません) 言うて。元気な (が) 出てきやせんと なあ (来ないと)、今しや (今は) こおもおけたて (子産んでも) なんでも 普通の食と おなしよおん (ように) して 食わすよってなあ (食べさせるから)、じっきん (すぐに) ヒダツて来て 普通の体になんねけど (なるのだが)、昔や (は) ああ なん (何) 食うとは ざん (いけない)、かあ食うとは ざん 言うてなあ、こおもおけても (子産んでも) わりな (里芋の茎) の汁 ばつか (ばかり) 食わして、栄養ん (に) なる もん (物) 食うとなあ 腹下すと はざんてやら (いけないとか) こおな (子が) 腹下すと やら (とか) 言うて、おびやあげくは (出産後は) なんも (なにも) 食わ せざつたの (させなかったのです)。柿も食うたら はざん (食べたらいけない) 一年も食うたら はざん 言うてなあ、柿やどけも (なども) めつたん (絶対に) 食わせざつた ねんなあ (食べさせなかったのです)。ヒダツ言うのは 日が経って 健康になって来る言うのを ヒダツてきやせん (来ない) 言うのは 健康に ならへん (ならない) 言う事や (です)。

**ひたつく** 【自カ五】 べたべたする 1) 湿気が多くまた 粘り気が有って張りつく 2) 子供などがまとわりつく 異性につきまとう [会話] 1) ビタツク言うな (のは) びちよびちよ する。したたり (湿気が多い) 言うのと 一緒や (です)。したたりわれ (です) 今日 言うて、ませな (南風が) 吹くと おおた ませ の 風やもんで (なので) したたり なあ言うて、西の 風な (が) 吹くと さんざり と ええけど (乾燥してよいが)、ませやもんで したたり なあ言うて びちよ ついて来る。

**ひだて (日建) 【名詞】** 一日分の給金 [会話] 日給いくらどい (幾らですか) 言うなあ。日給もきめんと (決めずに) 働いとんね (ているのだ) 言うてなあ、日雇いの家は 一日幾らで雇う。日雇いか (ですか) 月給か (ですか) 言うて、日雇い言うな (のは) その日かんじょ (計算) でなあ、もらうんなし (ののですし)、月給や (だ) 言うと、ひとつきかんじょ (一ヶ月勘定) で 貰らうのなあ、ヒダテ言う と 日給で 一日 幾らで。

**ひたてのけた** 知らずにしてしまった (鳥)

**ひたてのける** 知らずにしてしまう (志) [会話] 悪い事したてのけたよお (してしまった) 言うて、したた (してしまった) 事を ヒダテノケタ言うて。してしもた (しまった) 言うのを、したたよお言う。知らんとしたる (知らずにしてやる) 事を ヒダテノケタ言うて。

**びたぬれ 【名詞】** 完全に濡れること ずぶ濡れ 水浸し [会話] ビタヌレ びたびたも びちよびちよも びたびたも一緒や (です)。

**びたびた 【副詞】** 濡れたさま びしょびしょ 気持の悪いくらい濡れているさま [会話] びちよびちよも ビタビタも 一緒や (です)。水にひたすねよって (浸すのだから) 一緒の事や (です)。

**ひだまり (日溜) 【名詞】** 日光がよく射して暖かい所ある程度狭い所を言う [会話] ひい (日) の 当るところ (所を) ヒダマリでぬくとまって (温まって) 言うてなあ、日当りのええところ (よい所を) 言うんやろなあ (のでしょう) ヒダマリ。

**ひだり (左) 【名詞】** 酒 酒呑む事 左手を撃手 (飲手に掛ける) と言うに依る [会話] 酒の事もヒダリヒダリな (が) 好きで、こして (こうして) 受けて飲むんよって (のだから) 左手で そんで (それで) ヒダリ言うんやろ (言うのでしょう)。あや (彼は) ヒダリな (が) 利くねよってん (のだから) 言うて酒飲む人。

**ひだり 【形容詞】** 疲れた 空腹で疲れて居る ひだるい 参照 (南) [会話] 腹な (が) ヒダリて 腹のひもじい事を ヒダリてまあ言うて。腹へらすと 腹な (が) いとなって (痛くなって) 来る時な (が) 有る やんない (でしょう)。ヒダリバラやれ (だ) 言うて。ひだるい言うのを ヒダリ ヒダリなあ (です) 言うて。

**ひだりがって 【名詞】** 左利き [会話] 左のてえ (手) を 先いすんのなあ (にするのを) ヒダリガッテ。

**ひだりがって (左勝手) 【名詞】** 家の間取りで炊事場が 玄関の左に有る事、凶の兆とされる。

**ひだりきき 【名詞】** 1) 酒飲み ひだり参照 2) 左利き

**ひだりぎっちょ 【名詞】** 左利き (志 (御座、布施田、志島、鶴方、神明、立神、甲賀、国府、安乗)、鳥 (相差、国崎)) [会話] ヒダリギッチョ 左な (が) よお (よく) きくひた (利用する人は) 利口なてわい (器用だそう) 言うて。わしゃ (私は) ひだや (左は) ぼんたくで なんもはざんね (全く駄目なので) す。ぼんたく 言う事きかせん (利かない) なんも (全く、少しも) まに合わせん (ない) 言う事 ぼんたく、ぼんたくやなあ (だ) 言うて。

**ひだりつかい (ひだりつかひ) (左使) 【名詞】** 左利き [会話] ひだりぎっちょ。ヒダリツカイ言う。ぎっちょの にげは利口 (人間は器用) でなあ。

**ひだりばら 【名詞】** 空腹によっておこる腹痛。ひだり参照

**ひだりべ 【名詞】** 空腹時にでる屁 [会話] ヒダリベ言うて 腹へつとる (ている) 時ん (に) へるへえ (する屁) は 臭いてわい (そうです)。昔 一番臭いもん (物) 言へ (言いなさい) 言うたら にら にん にく ヒダリベ 言うて。

**ひだりべた 【名詞】** 左側 [会話] ヒダリベタ言うのは 左のてえ (手) の方、べた (側)。ヒダリベタえ寄せとけ (ておけ) 言うてなあ、左の方へやとけ (寄せておけ) 言うのをなあ。左側とか 右側とか言うのをなあ ヒダリベタや みぎべたや言うの (のです)。

**ひだりまい (左前) 【名詞】** ひだりまへの訛 1) 着物の右前を左前の上に重ねて着る事 2) 商売などがうまくいかなくて又 資産を浪費して倒産すること [会話] 1) ヒダリマイ言うのは 反対に合わすの、着物は こやて (こおして) 合すやろ (でしょう)、服は こやて (こうして) 合すやろ、服を ヒダリマイ言うね (言うのです) 着物にするとなあ。2) ふつてん (貧乏に) なって来ると、家な (が) ヒダリマイで まあ 言うやんかい (言います)、ヒダリマイで まあ あの家や (は) さがりぐちや (下り坂だ) 言うてなあ。

**ひだりまき (左巻) 【名詞】** 魚 たかのはだい タカノハダイ科の海魚。全長約 40 cmに達す。体は側偏し、体側に九條の黒褐色をした太い斜走帯がある。各鱗は、黄褐色で尾鱗に白い小円紋が散在する。食用になるが美味でない。[会話] 魚ノ ヒダマキも有るし、ちょ



いと (少し) 頭な (が) まずいの あや (彼は) ヒダマキや (だ) 言うて。

**ひだりまき** (左巻) 【名詞】 1) 愚鈍な者 間抜け 前項 ひだりまき参照 2) 精神状態の正常でない人

**ひだるい** 【形容詞】 だるい 空腹である 飢へてひもじい (鈴木、員、安、上、阿、張、賀、北、尾、南、熊) [会話] ヒダルイ かいだり (かいだるい・疲れた) 言うのを、ヒダルイ。腹な (が) へつとて (空いて居て) かいだりと ひだりてなあ言うて。

**ひだるがる** (餓) 【自ラ五】 空腹を訴える 空腹で疲れている事を訴える [会話] ヒダルガル言うのは 腹な (が) へつて 疲れとる (ている) 言うのを。

**ひだるさ** (餓) 【名詞】 空腹で疲れていること 又 その程度 [会話] ヒダルサ言うのは 腹がすいて かいだりて (疲れて) かいだりて しょおな無いね (のです)。腹な (が) へつて かいだりて いごかれやせん (働けない) 言うのなあ、ヒダルサ言うのは その程度や (です)。

**ひち** (七) 【名詞】 1) 七 しちと 発音出来ない ‘ひ’ と ‘し’ の間に交差がある。(志、鳥、桑市、員、三、鈴木、鈴郡、安、一、松、多、上、阿、張、賀、度、伊、尾、南) 2) ひち 接頭語 しちの転主として形容詞 形容動詞について 程度が甚だしいの意を添へる 不快感を伴うような場合に用いられる。[会話] ① ヒチ ななつ (七つ) を ヒチ言うし (言います) ひちや (七夜) 子供のなあつけ (命名祝い) ひちや 昔や (は) なぬか (七日) たつと ひちやしよおったわい (して居ました)。そして ヒチ (七) のつくひい (日) は 稲荷さんで 何処でも なぬか (七日) は 稲荷さん。ヒチ、はち (八) 言うて ヒチや (と) 言うね (のです)。ひちや (質屋) 通いして なんもかも (すべて) 売ったて (てしまつて) 言うて。

**ひちがつ** 【名詞】 七月 (鈴木、津、多、伊賀地方、伊) [会話] ヒチガツ。ヒチガツ生れで とおる臭いねなあ (のだ) 言うて、ヒチガツ生れで ぼんやりもんやなあ (者だ) 言うて。昔は ヒチガツな (が) 盆やんない (でしょう) そやもんで (それで) お盆になると皆 とおる (灯籠) 灯すやんない。そやよつて (それだから) ヒチガツ 生れは 灯籠臭い とろくさい (鈍い)、そして ヒチガツ 盆やもんでなあ (なので) ぼんやりもんやなあ (者だ) ヒチガツ生れやなあ (だ) こや (これは) 言うて。

**ひちくどい** 【形容詞】 くどくどしい (しちくどい) くど

いを強めて言う語 ひどくどい しつっこい (津、多、上、阿、張、度) [会話] もの いくくら (なん度) も 繰り返して 言うて、よけ (あまり) ヒチクドオ言うなまあ (な) 言うて、繰り返して 何回も 言うたよおな事ばっか (ばかり) 言うて、ほん (本当に) ヒチクドオテ (ひちくどくて) 言うて。

**ひちじ** 【名詞】 七時 (伊)

**ひちつと** 【副詞】 隙間なく完全に合うさまを表す [会話] ピチット 言うのも きちつと 言うのも 一緒やけどなあ (です)。ぴしゃつと 言うのもなあ、きちんととせえ (しなさい) 言う事やよつてなあ (だから)。

**ひちどはんのつかい** 【名詞】 結婚式の嫁を迎える使者。使者七度は来たり、八度の時に途中にて出会うに由つて半と為るなり。旧しき事なれども敢えて正礼にも非ずして俗礼なるにや。獅子頭神事に子良館へ七度半の便等と云事あり。(伊勢の浜荻) (志 (布施田)) [会話] 昔 嫁入りするとなあ、ヒチドハンノツカイ 言うてなあ、嫁さんを 迎い (へ) に行くのに ヒチド行といて (行つておいて) はんぶ (半分) は 途中で逢うのを ヒチドハンノツカイ 言うの。嫁さんを 結婚式すんのんなあ (するの)に むかいじよるや (迎女郎だ) 言うて、迎えん (に) 行くの 一緒の人な (が) 行くの (のです)、ちゃんと 二人決めて有つて 提灯つけて むかいじよるな出んね (出発するのだ) 言うて、出るやんない (でしょう)。そすとなあ ななくら (七度) 帰つて来てな 又 行きしてなあ そして はんぶ (半分) は 道中で迎う (迎える) よおん (に) して、そんで ヒチドハン。そやよつて ヒチドハンノツカイやなあ 嫁さんみたよん (のように) 言うて、いくくら (幾度) も、早よ来てくれえ (下さい)、来てくれえ言うてく (言つて行く) 時な (が) 有るんなあ (有るのです) こんで (来なくて)。

**ひちなんからげ** 【名詞】 縄で数多く捲いてある事 [会話] よけ (沢山) 捲いて有ると ヒチナンカラゲン (に) してあんない (有る)。

**びちびち**、**びちびち** 【名詞】 下痢便 [会話] びりくそ (大便) ピチピチしとる (して居る) 言うて、ピチピチ 言うたら うんこ (大便) の事 びりくその事やわい (です)。

**びちびち** 【副詞】 1) 活発なさま (上、阿) 2) 魚の跳ねるさま [会話] ① 生き生きしとる 事を ピチピチ ピチピチしとる (している) 言うけどなあ (言います)。あのひた (人は) まだ ピチピチしとる (している) 言う人もあるやんかい (有ります)。びんびん

とか。

**ひちむつかし**【**形容詞**】むずかしい 難を強めた語(上、阿) [会話] ひちむつかしのおを、なんやかや(いろいろ) むつかし事を。ああ そげん(そんなに) すると はざん(駄目だ)、そげんしたら 縁起な(が) わり(悪るい)。なん(に)してもなあ それい文句つける人を ヒチムツカシ言うの(のです)。

**ひちめんどお**(**ひちめんどう** **ひちめんだう**)【**形容詞**】非常に面倒なさま 非常に煩わしいさま [会話] ヒチメンドオ。めんどくさいのなあ(です)、そいな(そんな) 事すると、せわなれ(面倒だ) 言うてなあ。手芸ししても(していても) ヒチメンドクサイのん(に) こいなもんしたないわ(こんな物したくない) 言うよおな事やわなあ(です)。せんならん(しなければならない) 事を せせかし(面倒だ) 言うてなあ、せせかしがんのを(面倒臭さがるのを) めんどくさい ヒチメンドオ言うてなあ。ヒチメンドクサイ そいな(そんな) 事せんでも(しなくても) こえんしときや(こんなにしておけば) ええない(よろしい) 言うて簡単になあ 片付けたんのをなあ(てやるのです)。

**ひちめんどおな**(**ひちめんどうな**) 面倒くさい ひちめんどくさい 非常に面倒臭い [会話] めんどくさい(面倒臭い) 事 ヒチメンドオナ言うて。やっかい(困難) な事 めんどくさい ヒチメンドクサイ。ものすごい(大変) やっかい 掛けん(に) 来ると まあ おとっしや(やれやれ) ヒチメンドクサイなあ言うの(のです)。言うたよおな事ばっか(ばかり) 言うて、此れ おせてくれ(教しへて下さい)、こか(此は) どげんすんねど(どんなにするのですか) 言うて 聞かれたりする時も めんどくさがって ちよいと(少し)の事は言わせんねけど(言わないが) あんまり しつこい言うもんで(ので)。

**ひちめんどくさい**【**形容詞**】非常に面倒だ 大変煩わしい ひちめんどお参照(多、阿、張、賀、度)

**ひちや**(七夜)【**名詞**】出産祝 命名祝(志、鳥、桑郡、員、尾) [会話] なあつけ(命名)の ヒチヤも有るしなあ(有ります)、道具のヒチヤ(質屋)も有るし。

**ひちや**【**名詞**】質屋 前項 ひちや参照(三、鈴市、鈴郡、安、津、多、上、阿、張、賀、度、伊、南、熊)

**ひちやかまし**【**形容詞**】うるさい やかましい [会話] ヒチヤカマシ。やかましなあ いろいろの事を ああでも無い こおでもねえ(無い) 言うて 喋るやんない(でしょう)。そすと ヒチヤカマシのん(に) よけ(あまり) 喋ん(る) なまあ言うて、ヒチヤカマシ

とか ひちむつかしとか ひちめんどくさい言うてこの時のひち言うのは、非常にとか 大変とか 言う意味や(です)。非常に喧かましいとか 難しいとか 言う事やなあ。

**びちやびちや**【**形容詞**】【**副詞**】水などに ひどく濡れるさま [会話] しめつとんのおを(ているのを) ビチャビチャしとる(している)。ビチャビチャしとられ(している) こや(これは) 言うてなあ、なんやかや(いろいろ) やいこいとなあ(柔らかいと)、飯でも 水な(が) 多いとなあ、今日の飯 ビチャビチャしとるやんかあ(しているでないか) 言うてなあ、水な(が) おいかって(多くて) やいこいと(軟らかいと)。

**びちよ**【**形容詞**】物に水分を多く含むさま。湿気の多いこと [会話] 水な(が) よけしとんの(沢山しているのを) ビチョビチョ 道でもなあ、雨な(が) 降って 水な(が) 溜って おた ビチョビチョしとて(して) 歩るかれやへんない(ない)、高下 駄履かな、はざんわれ(なければ駄目だ) 言うてなあ、そして タオルやどけ(なども) 絞ってもなあ えごと(完全に) 絞らんとおると(ずに居ると) ビチョビチョしとて(して) しるな(水が) たつとるやんかあ(たれているでないか) 言うてなあ。

**びちよびちよ**【**形容詞**】【**副詞**】衣服や土地の湿気の多い時に用いる 水などに ひどく濡れるさま 水侵しになるさま びしょびしょ(志) [会話] ビチョビチョ言うのも びたびた、ひたひた、言うのも 一緒の事や(です)。意味は 一緒やけど(だが) ビチョビチョしとられ(して居る) 言うのも有るし、びたびた やれ(だ) こやまあ(これは) 言うて。雨な(が) 降って 道や(は) びたびたやれ言うて。あしこら(あの辺り) 通ると じとじとしとんねよお(して居るのだ) 言う時も有るし(有ります)。雨ん(に) しじくだって(濡れて) びたびたん(に) なって来た、ビチョビチョ言う時も有るし(有ります)。一緒の事やけど(だが) その人ん(に) よって 言い方な(が) 違うだけで。

**ひちりん**【**名詞**】七輪 こんろ 物を煮るのに価が七厘ほどの炭でまにあう意から(志、桑市、桑郡、員、鈴市、南) [会話] こんろの事を ヒチリン言うて、ヒチリンで 飯 炊いて言うてなあ こんろ言うのは 土でしたのおで(作ったので)。

**ひつ**(櫃)【**名詞**】1) 衣服を入れて置く木箱 物を入れる木箱 米ピツ 2) 飯櫃 蓋があくようになった

大形の箱 おひつの形で飯を入れておく器（桑市、桑郡、員、三、四、鈴郡、鈴市、亀、安）〔会話〕<sup>1)</sup> 着物入れるヒツ、<sup>2)</sup> オヒツ言うのも有るし（有ります）、飯 入れんのも（入れるのも）。はんたい（飯櫃）言うて 昔や（は）言よおったけど（言って居たが）、オヒツや（だ）言うて、じょおし（漁師）の人ら メシビツや（だ）言う人も有るんなあ（有ります）。メシビツも有るし コメビツもあるし 着物入れる ヒツもあるし、一番 要らんのが ガンビツ（棺桶）。ホビツ（帆櫃）、じょおしな持つな（のは）ホビツ、ほお（帆）入れんのなあ（入れるのです）。まるととおて（丸くて）帆を入れて 濡したらんよおん（濡らさないように）、桶い（に）うちおいして 雨や潮な（海水が）かからんよおん（かからないように）じょおしの一番大事の道具や（です）。うちおいぶた言うて、上から あっさい（浅い）蓋でかぶせんのなあ（かぶせます）。縁な（が）廻らん（に）有って すえぶたや（だ）言うて よったり（動いたり）するやんな（でしょう）よらんよおん（動かないように）うちおいぶた。

**ひついとる** 1) くっついて居る 2) 男女が仲よくなつて居る

**ひつかえ**【名詞】引替 交換すること とり変えること ひきかえの急呼〔会話〕引き替えん（に）しょおや（しましよう）言うて、ヒッカヨヤ（えましよう）言うて あつちと こつちと 替える事なあ。ヒッカヨヤ言うて、ヒッカエ言う時は 交換とか。引き替え言うのを、ヒッカエしょおや言うて 物を交換すんのをな（するのを）。

**ひつかえず**（ひつかへず）【自サ五】引き返す もとに戻る 戻って来る ひきかえすの急呼〔会話〕引き返す言うの（のを）用事な（が）出来て来て、途中まで来たけどなあ（が）引き返してかな（て行かなければ）いかん言うのを、ヒッカエス ヒッカヤシテタネエ（えして行つた）言うてなあ。ヒッカヤシテ来た言うたり ヒッカエス言うたりなあ。

**ひつかかえる**（ひつかかへる）【自ア下一】抱く 持つ ひつは強調の接頭詞 ひんだく参照 ひきかかえるの急呼〔会話〕ひんだいてたない（ていった）あやあれ（あれ）言うて、ヒッカカエテタ（ていった）言う時もあるし ひつさげてた（ていった）言う時もあるし。

**ひつかかる**（引掛）【自ラ五】1) 相手に向かって行く 喧嘩などをする（上、阿、熊）2) だまされる 計略

などにはまる 3) 気に掛る 4) 遠縁に当る〔会話〕<sup>3)</sup> おおた あの人な（が）言うた事な（が）、なんか ヒッカカルなあ言うて。気に掛る言うのを ヒッカカル言うし。<sup>2)</sup> 騙された事も ヒッカカル言うしなあ、<sup>1)</sup> ヒッカカッテキタ言うて ヒッカカッテク（て行く）喧嘩すん（る）のを、ヒッカカッテキタネ（のだ）言うて。

**ひっかきまあす**（ひっかきまはす）【他サ五】引き掻き廻す 1) 激しい勢いで掻き回す 乱暴にあちこちいじくりまわす 2) 我儘、勝手な振舞をする 物事の秩序や順序を乱す〔会話〕<sup>1)</sup> ヒッカキマアス言うな（のは）そこらん（に）有るもん（物）こねまあすやんない（でしょう）それを ヒッカキマアス。

**ひっかきやい**【名詞】お互いに引つ掻き合う事 喧嘩〔会話〕ごおなわいて来て 喧嘩して、掻きむしりやいするやる。それ ヒッカキヤイした言うのなあ。

**ひっかく**（引撥）【他カ五】ひきかく 爪などで強く掻く ヒキカクの音便（広辞苑）

**ひっかけ**【名詞】レの字形をし 綱をつけて物を引き上げるのに用いる器具 主に木で作った〔会話〕二階物置に 物上げる 引つ掛ける鉤なあ（です）。股い（に）しといて（しておいて）引つ掛けといて（ておいて）にかえ（二階）から、ヒッカケヤ（だ）言うて こげな（レ字形）鉤こさえといて（作っておいて）、家の屋根い（屋根裏へ）割木やとか（薪だとか）はぎやとか（葉木だとか）あげんの（上げるのを）ヒッカケ。

**ひっかけざお**【名詞】遠い所 海の底 又高い所の物をひっかけて取るため 先端に鉤のついた竿〔会話〕鉤竿言うな（のは）、ヒッカケザオな（が）有るやんかい（有るで有りませんか）。鉤竹で ひっかけ（引つ掛けよ）言うて 綱を（が）底ん（に）とごつとんのおを（沈んでしるのを）引つ掛けるもんな（物が）ついとんの（ついているのです）。

**ひっかけのみ**【名詞】海女を持つ長い金属製の鑿 手の届かない所にある鮑などの獲物を引つ掛けて獲るのに用いる（志）〔会話〕ふくだめとんのん（獲るのに）ヒッカケノミ言うて、海女さんな（が）持つなあ（のです）。

**ひっかける**（引掛）【他カ下一】1) 酒などを飲む 一息に飲む 2) 相手をだます 計略にはめる 3) 女性をもて遊ぶ（志（布施田））4) 何事にもすぐ因縁をつける〔会話〕<sup>2)</sup> 人をヒッカケル 騙すのおを（のを）ヒッカケタタ（てやつた）言うし。騙された

ら、ヒッカケラレた言うし、ヒッカカッタとかなあ。

1) 一杯ヒッカケル 居酒屋で 一杯 ヒッカケテ来た  
さぶいのおで (寒いので) 言うてなあ。

**ひっかたぐ** 傾く 倒れかかっている 曲って居る  
[会話] かたんでくのを (傾いて行くを) ヒッカタグ  
言うのなあ。体でも かたんどる (傾いている) 人な  
(が) ヒッカタンドンナイ (でいる) 言うし、物でも  
かたんどると、ヒッカタンデ やつからかえってかれ  
(倒れて行く) 言うてなあ。くどい、鍋 据えると  
ヒッカタンドルやんかあ (でいるでないか) なおさん  
かれ (なおしなさい) 言うて。

**ひっかたげる** 【他ガ下一】 傾ける 倒れるようにする  
[会話] なんやかや (いろいろ) 物 あける時ん  
(に) ヒッカタゲタレ (てやれ) 言うて、かたげる  
(傾ける) 事を 傾ける、ヒッカタゲル。

**ひっかづく** 【他カ五】 担ぐ になう 肩に掛けて運ぶ  
ひっは強調の語 [会話] 荷物 ヒッカズイテ行くね  
(行くのです)。

**ひっかびか** 【副詞】 びかびか 光り輝くさま 新しいも  
の [会話] ピッカピカ 言うな (のは) まあ 立派  
にしとる (している) 事をなあ。ピッカピカに 光ら  
しとけ (ておけ) 言うて、鍋でもなあ くうろおしと  
ん (黒くしている) のを 軽石ですつたとと (こすつ  
てやると) おおた ピッカピカ (に) なったなあ言  
うて。ピッカピカの一年生や (だ) 言うて 新しい言  
う事もなあ。ピッカピカ 言うなあ。

**ひっかぶせる** 【他サ下一】 覆ぶせる 浴ぶせる ひっは  
強調の接頭語 [会話] 水ヒッカブセル言うて。

**ひっかぶる** 【他ラ五】 1) 引被る 頭からかぶる (水  
寝具 かぶり物など) (志 (布施田)) 2) 引き受ける  
責任などを負う [会話] 1) ほっかぶりすんのを (頬  
かぶりするのを) ヒッカブル 言うてなあ。ほっかぶ  
りでも、ふっこお (深く) 被つとるとなあ (てい  
ると) ほっかぶりも ヒッカブツンナイ (て居る) 言  
うて、たいがい (大体) 額も出る位 被つとんのん  
(ているのに)、めえ (目) も めえんよんして (見  
えないようにして) 被つとると (ていると) あやれ  
(あれ) ヒッカブツル 言うて。布団 ヒッカブ  
テ寝んな (るのが) 好きで、頭い (に) 迄 被つ  
て寝る 時な (が) あんね (有るのです)。あのひた  
(人は) まあ、布団ヒッカブトラレ (ている) 言う  
たり 水を ヒッカブサレタ言うたり。

**ひっかやす** 引き返す [会話] 途中まで、来たけど  
(が) 引き返してかな (て行かなければ) あかん言う

のを ヒッカエス、ヒッカヤシテたねえ (のだ) 言う  
てなあ。

**ひっかよか** 交換しましょう、ひっかえ参照

**ひっからかす** ひけらかす 光らす 自慢する (南)  
[会話] ふいて (自慢して) ふいて ヒッカラカス  
言うて、頭でも 油つけて 黒光りん (に) しとると、  
鳥の濡れ羽色みたよおん (のように) ヒッカラカス  
言うて。

**ひっからかんどる** 潮が干いて乾いて居る [会話] 夜  
潮 行くと 潮な (が) ヒッカラカンドンン (でい  
るのに)、掘つたるもんで (てやるので) ひんなか  
(晝間) 行くと どこまでいても (行っても) 皆 か  
いた (掘つた) 跡ばつかん (ばかりに) なつてくね  
(なつて行くのです)。

**ひっからげる** (引紫) 【他ガ下一】 全部まとめてくる  
強く縛る

**ひっかり** 【副詞】 光り輝いているさま [会話] ピッカ  
リなんでた (風いで行った) 言うて、風な (が) なん  
でくとなあ (風いで行くと)。あや (あれ) あの人の  
頭みよまあ (見なさい) ピッカリ光つとんない (てい  
る) 言うてなあ。そして 油つけとる人でもなあ ピ  
ッカリと あやれ 光つとんない、よけ (沢山) つけ  
て言うてなあ 油 とろましとる (とろりとさせてい  
る) 言いおつたなあ (言っていました)。

**ひっかりな**ぎ (光風) 【名詞】 上風 波が無く水面が鏡  
のように平で光って見える (志) [会話] 油 ひいた  
よおな、風のなんも (全く) 無い、無風の時 海な  
(が) すべつとしとる (滑かにして居る) 時 ピッカ  
リナギ。ピカナギしとんねよお (して居るのだ) 今日  
は言うて。きによお (昨日) は ピカナギやつたんけ  
ど (だったが) “本日 西風 激しく そせき (種々  
の石) 眼入して 漁師 困難の至り” 言うて。西の風  
な (が) よけ (多く) 吹いて来て めえ (目) へ 石  
な (が) 入るのなあ (のです) つちぼりな (土埃  
が) して めえい砂な (が) 入つて言うて、西風激し  
く しよせき 眼入言うて むつかし事ばつか言うて。  
西瓜ののおも (のもの)、“西瓜 此の西瓜 腐敗せざる  
か はた又 如何に” 言うて “当店に おいては 腐  
敗なる物品は 売却致さん 疑い有れば包丁持って  
中央より 断絶せよ” 言うて 八百屋い (へ) 西瓜  
買いんいて (に行つて) 腐つとるか (て居るか) 腐つ  
とらせんか (て居ないか) 言うて 西瓜叩いて見て言  
うたら、店の人も “拙者 僕宅に於て腐敗なる物品は  
売却致さん” 言うて その人も言うたんてわい (言っ

たそうです。

**ひっかわく** よく乾いて居る [会話] 喉な (が) ヒックワク言うて、ちゃあな (茶が) 飲みたいのを 喉な (が) ヒックワク言うて。若布やどけ (など) 干しても ヒックワカシタよお (てしまった) 言うて、乾かしたると (てやると)。なる (棒) が みな (全部) くたんねやんかい (食べてしまいます・引っ付いて行く) そやもんで (それで) ヒックワカシタ。今日は 潮な (海が) ヒックワイテタ (て行った) 言うて。潮な (が) 干いて 島な (暗礁が) ほやがって (放り出て、上) 来ると、遠いとこ (所) 迄 浜ん (砂のある場所に) なつてくの (なつて行くのを) それを ヒックワク。喉がヒックワク時は 水な (が) 飲みたい時なあ (です)。喉な ヒックワイテタヨオ言うて 口な (が) ヒックワイテタやら (とか)。若布やなんや 干した時 乾いてくと (て行くと) 言うし、よお (よく) 乾く事、乾いてた (ていった) 事をヒックワク言うのなあ (のです)。畑の植えもん (物) も 雨な (が) 降らせんで (ないので) ヒックワイてたよお (て行った) 言うて、うるおいな (雨が) のおて (無くて) かわいそげなよおなてやら (可愛想のようだとか) 言うて。

**ひつきりなし** 【形容詞】絶え間なく続くさま 切れ目のないさま [会話] 間なしに言う事 シッキリナシに、車な (が) 通って 喧まして言うて しきりなし言うてもええし (よいし)、しつきりなしや (だ) 言うてもええし、ヒッキリナシ言う人も有るし。

**ひつきる** 【他ラ五】 1) 引っ張って切る 挽いて来る ひききるの急呼 2) 死ぬ 息ひつきるの形で 3) よく潮が干く [会話] 1) きい (木) も ヒッキル言うてなあ、3) 今日はまあ あまなきじおで ヒッキツテタよお (て行った) 早よ行こや (早く行きましよう) 言うてなあ。潮な (が) よお (よく) ひいとると なあ (ていると)、ヒッキツテタレ (て行った) まあ言うて。2) 息 ヒッキル 息ひききってたんでわれ (て行ったそうだ) 言うしなあ (言います)。ヒキトルのをなあ。

**ひっくい** 【形容詞】低い (志、鳥 (浦村)、一、久、松、度、伊、北) [会話] 下がつとると (て居ると) ヒックイとこやなあ (低い所だ) 言うなあ (言います)。なんでも (何でも) 吊がってしとると (して居ると)、ヒックイとこん (所に) よけなつとんねよお (沢山なつて居るのだ) 言うて、なりもん (果物) でも。てえ (手) で もじくとこ (もぎ取る所) を、上ん (に)

なつとると (て居ると) よお取らんもんで (取れないので) ヒックイとこんなつとんのおを (なつて居るのを) 嬉んで ヒックウウイとこんなつとて (なつて居て) 取りよおいねよお (やすいのだ) 言うて。低い言うのが ヒックイ せえな (身長が) ヒックイ言うて。

**ひっくうい** 【形容詞】低い、ひっくいより更に低いを表す ひっくい参照

**ひっくくる** 【他ラ五】 縄や紐などで強くしばる [会話] ヒッククル言うのは くくる事を 縛る事をなあ。まあ 其処い (へ) ヒッククotte (ておけ) 言うてなあ 犬つなぐのでもなあ。

**ひっくむ** 【自マ五】 引組 互いに相手を押さえようとして組み打ちする とつくむ 喧嘩して相手と組合う [会話] ヒックンデ来たねよお (来たのだ) 言うて。喧嘩すんのん (するのに) すもとりな (相撲取りが) ヒックンドル (でいる) とか。

**びっくり** 【副詞】驚く 不意の出来事 意外な事に驚く事を表す びくりの音便 (大言海) (志) [会話] おどける (驚く) 事を、あんまりおどけると (あまり驚くと) おおた ビッキリぎよおてんしたない (仰天しました) 言うて 驚く事を。

**ひっくりかえす** (ひっくりかへす) (引繰返) 【他サ五】 引つ繰り返す 転倒する 物の位置を上下 裏表を逆にする うら返す 立って居る物や正しい位置に置かれた物を倒す 転倒させる 決まって居る 序列や関係を逆転させる くつがえす (志 (御座)) [会話] ヒックリカエス うつぶいとおのおを (うつむいて居るのを) あおぬけんの (あおむけるのを) ヒックリカエス言うし、わがと (自分) かいんのおも (転ぶのも) ヒックリカエッタヨオ (かへりました) 言うて。あおぬいてたり (て行ったり) すると。此処い (へ) 登ったら からうす踏んで ヒックリカエッタヨオ言うて、わがと、かえってくと (転ぶと)。約束しても うらがへった言うて、ヒックリカエッタ (て行った) 言うて、こつちや組 (こちら組) やったの (だったのに)、ヒックリカエッタ、あつちや (あちら) 向いて言うて 選挙やどけ (など) よお言うやんかい (よく言います)。

**ひっくりかえり** 【名詞】 1) 裏返り 寝返り 2) 前転 空中回転 (一) [会話] 1) どんでんがえり うてかえつてくの (倒れるのを)、そやれ それも 早よせな (早くしなければ) ヒックリカエツテヤンカア (て行くでないか)、早よ おこしとけ (ておけ) 言うてなあ。にげ (人間) でも ヒックリカエルとか

でんぐりかえるとか言うてなあ。2) 空中回転すん(る)のも ヒックリカエリ ひっくりかえるとかどんでんがえりとか言うてなあ。

**ひっくりかえる (ひっくりかへる) 【自ラ五】** 1) 上下表裏 順序などが反対になる 2) 立って居たものが転倒する 倒れる (志 (御座、立神)、桑郡) 3) 今までの気持や考えを急に変える 4) 裏切る [会話] 4) 約束しても ヒックリカエル言うて、こっちや (こちら) 組やったの (だったのに) ヒックリカエル。あ っちや (あちら) 向いてた (ていった) 言うて、選挙やどけでも (などでも) 言うやんない (言うでしょう)。

**ひっくりかやす 【他サ五】** 上下、表裏を逆にする 逆転させる ひっくりかえす参照

**びっくりぎょおてん (びっくりぎやうてん) 【名詞】** 非常に驚くさま ぎょおてんは仰天か [会話] あんまり (あまり) おどけると (驚くと) おおた ビックリギョオテンしたない (しました)。

**びっくりさす** 脅す 脅かす (阿、張、賀) [会話] おどかす (脅かす) 言うのを ビックリサス。ビックリサシタなあ言うて、よけ (あまり) おどかすなあ言うて 脅かした言うのを。

**びっくりしやす** 脅す 驚かす

**びっくりする** 驚ろく 感心する (桑郡、員、鈴郡、阿、張、鳥、尾、熊) [会話] ビックリスル言うのは、驚いた言うの (のを)。おどけられ (驚きます) そいな (そんな) 事すると言うてなあ、おどけたない (驚いた) 言うのも 同じ意味やけどなあ (ですが)。ビックリスル言うて おとして (怖くて) ビックリスル言うのと、立派なもんもろて (物貰らつて) ビックリシタヨオ (しました) 言うて、どいらい (大変) 怖い時も ものすごい (大変) 嬉し時も言うね (言うのです)。

**びっくりみず 【名詞】** 物を茹でる時一度沸騰した後へ入れる水 (鈴市、津、安) [会話] 豆でも 素麺でも茹でると、煮やがって (え上って) 泡な吹いて来るやんない (でしょう)、それをなあ こんだ (今度は) 水 ちよつとしたると (少し入れてやると) しゅつと引いてくのでなあ (て行くので)、それを ビックリミズ さしたれ (入れてやれ) 言う人も有るしなあ。

**ひつけらかす** 自慢する 見せびらかす ひつけらかす [会話] ふっからかす、ひつけらかす言うて。法螺吹くの (のを) 自慢すん (するのを) ヒッケラカス。

**ひつける** 1) 当てる 側に寄せる ひつつける (南

2) 結婚させる [会話] 1) なんやかや (いろいろ) ヒツケル。なんか (なにか) 離れとるもん (ている物) をなあ セメンダインか なんかでなあ くつけるのなあ ヒツケル言うて。糊で ヒツケルとかなあ、なあ (糺) でも しばって (縛って) ヒツケル言う時もあるしなあ。

**ひつこい 【形容詞】** 1) 色 味などがきわめて濃厚である 2) 執拗である うるさい くだい (志 (立神、甲賀)、鈴市、安、松、上、阿、度、伊、尾、南、熊) 3) まとわりついてうるさい [会話] 3) ヒツコイなあ まあ よけ (あまり) 追わやあるいて (て) おぞげやなあ (嫌だ) 言う時もあるし。1) 食うのでも油こかったりなあ、しょつから (塩辛) かったり、あんま (甘) かったりすると どくらしわれ (くだいで) こや (これは) 言うて どくらしのおを、ヒツコイナア。2) ヒツコイ、まあ 追わえあるいて (追えて)、男ん (に) おなごな (女が) 惚れて 追わやあるいとると (追わえていると) ヒツコオすんな (するな) ヒツコイなあ うるさいのん (に) 言うて 男は怒るし、惚れとる (ている) 人な (が) して来ると まあ ほんとな おぞげな 立って来るやんかい (来ます)。嫌やと思えば 見る目も嫌やや (だ) 言うて まあ きらいや (だ) 思うとさいご (その時) よけ (更に) 好かんよんなって (嫌になって)。

**ひっこかす (引転) 【他サ五】** 1) 倒す 倒すを強めて言う語 2) 引きて倒す

**ひっこける** 倒れる 転倒する [会話] ヒッコケル。倒れるのおを (のを)。

**ひっこみ (引込) 【名詞】** 引き入れるところ 喉

**ひっこむ (引込) 【自マ五】** 1) 引き込む 飲食物や唾液を気道の方に入れてしまう。ヒキコム (引込) の音便 (大言海) 2) へこむ くぼむ

**ひっこめる 【他マ下一】** 一度出した物を元に戻す ヒキコメルの音便 (広辞苑) [会話] ヒッコメル言うたり、すっこめる言うたりなあ。てえ (手) を ヒッコメトケ (ておけ) 言うて、てえ (手) でも のべとんの (伸ばしているのを) ヒッコメトランカレ (ていなさい) 言うし。ヒッコメトレ (ておれ) 言うてなあ。出て来ると あんまり (あまり) 出過ぎとるやんかあ (ているでないか) もおちよいと (少し) ヒッコメトケマア (ておけ) 言う時も あんなあ。出しゃばったらいかん 言う事やろなあ。昔や ダンプ (ランブ) つけるもんでなあ (ので)、あかる (芯) へっこめとけまあ (ひっ込めておけ) ヒッコメトケマア 言うてな

あ、ひい(火)を ちっそおせえ(小さくしなさい) 石油な(が) よけ(沢山) 要る言うのをなあ へっこめとけまあ、ヒッコメトケマア言うて、ちよいと、かりたてるとなあ(少し多くすると)。

ひっころぶ 転ぶ 転倒する

ひっこんどる 1) 窪んで居る(鳥(加茂)) 2) 退いて居る

ひっさく(引裂)【他カ五】破る 裂く ヒキサク(引裂)の音便(大言海 広辞苑) [会話] ヒッサイタンドオ(てやる)言うて、ごおなわいてくると(腹が立って来ると)此れも ヒッサイタロカイナア(てやろうか)言うたり、胸もヒッサカレルよおな(ようだ)言うたり(言ったり)。きれ(布)破ったり、紙破ったりすんのを(するのを)ヒッサク言うて。腹の立つとる(て居る)時に 力入れて 破ったる(てやる)事を言うんやろなあ(言うのでしょうか)。男女の仲も 添いたいのん(に) そわさせんと(添わさない)と かわいそげん(可愛想に)生木さくよおん(に)ひきさいて言うて。生木さく言うな(のは)生木はばんと 割れやへんもんで(ないので)枯木ん(に)なると へしおれるけど(折れるが)生木はヒッサケルもんなあ(ひきさけます)。生木は 枝 折ると きさけるやんかい(裂けます)。そやもんで(それで)好きで好きで しゃあのおて(仕方なくて)そいたいのおを 反対して 添わさせんと(さない)と かわいそげんなあれ(可愛想になあ)生木さくよおん(に)ヒッサイテ言うて。

ひっさける 裂ける 破れる

ひっさげる【他ガ下一】持つ 引き提げる 携帯する ヒキサグの音便(広辞苑) [会話] どひん(土瓶)をヒッサゲル。かあるい(軽い) こいな(こんな)かあるいな(物は)ヒッサゲタラレ(てやる)言うて。なんやかや やったら(与へたら)嬉んで ヒッサゲタラレ(て行った)言うやんかい(言います)。

ひっさらえる(ひっさらへる)(引渡)【他ハ下一】すっかり集め取る ことごとく寄せ集める [会話] ヒッサラエテナイ(て行った)言うて、なんもかも(すべて)皆 もてく(持って行く)事をなあ ヒッサラエタラレ(て行った)まあ なんもかも言うてなあ。

ひつじ【名詞】蝟 烏賊の墨 [会話] 烏賊や蝟のヒツジ、くうろい(黒い)のなあ(です)、墨なあ、墨をしゅつと 吐いておこしてなあ おおた ヒツジ吐かれて 真っ黒けんなつたれ(になりました)何処もかも言うて。蝟でも しゅつと吐いておこして、磯なか

ね(腰巻)真っ黒ん(に)する時な(が) あんね(有るのです)。ヒツジ吐いておこして言うて、烏賊の墨や(だ)言う人も有るしなあ おおた(大体)ヒツジや(だ)言うたなあ(言いました)。

ひっしゃくる 奪い取る 力を入れて急激に引っぱり奪う ひつたくる参照 [会話] しゃくられた ヒツジャクラレタ。ヒツジャクッテタ(ていった)言うて、無理やりん(に)力まかせん(に) 取ったんのを(取ってやるのを)。

ひっしゃげたる 徹底的にやっつける 平に潰す

ひっしゃんこ 押し潰された状態 ペしゃんこ(阿、張、賀)

びっしょ【副詞】すっかり濡れるさま ひどく濡れるさま ずぶ濡れ びっしょり(南) [会話] ビッショ濡れや(だ)言うて、ビッショ言うな(のは)濡れる事なあ(です)。そして なんかつけんのも(何かつけるのも) ビッショリ したしとけよお(浸しておきなさい)とか、ビショット しとけ(しておけ)言うて。水 びたびたん(に)して てたきん(に) しとけよお(しておきなさい)とか、ビショット しとけよお(しておきなさい)とか言うて。てたき言うな(のは)水を すれすれん(に)して 手 置くと水な(が)手のひらぐらいん(に)着ぐらいを てたき言うのなあ(のです)。

びっしょぬれ【名詞】ずぶ濡れ

びっしょびしょ【副詞】ずぶ濡れ びっしょり参照

びっしょり【副詞】【形容詞】ひどく濡れているさま ずぶ濡れ [会話] ビッショリ 濡れて来てまあ言うてなあ、おおた 今日ではまあ あつうて(暑くて) ビッショリ 汗やったよお(だった)言うてなあ。雨な(が)時化て来て びしょ濡れやよお(だ) ビショビション(に)なったよお言うてなあ。

びっしり【副詞】1) 物が沢山詰まって隙間なく並んで居るさま 十分に物事を行うさま(南) 2) いつも終始 度々(志(布施田)、南) [会話] 1) ビッシリ言うのは 全部 詰まる言う事やんかい(です)。時間 ビッシリ言うて 時間一杯 三時間なら 三時間 務めんのん(務めるのに)三時間 ビッシリ務めて言うのと、物を一杯にすんの(するのを) ビッシリつめとけよお(詰めておきなさい)言うて。あきめな(空間が)無い程すんのを ビッシリ詰めとけ(ておけ)言うて ぎっしりも 一緒(です)。

ひっそく(逼塞)【名詞】家運が傾く事 落ちぶれる事 ひきそくの音便(大言海)(志、鳥、阿、張、賀)

**ひっそまる【自ラ五】** 片付く 隅の方に居る ひっそまる  
[会話] ヒツソマツトケ (ておけ) 言うて、にげ (人間) でも としよや (年寄り)は 邪魔ん (に) なるよって (から) ヒツソマツレマアヤ (て居なさい) 言うて。邪魔ん (に) なると さいご (その時) まあ そっちや い (そちらへ) 行て ヒツソマツレマアヤ (ていなさい) 言うて、片付いとれ (ておれ) 言うのをなあ。ヒツソマル言うのは 隅の方に ひっそらとしとんのお を (静かにしているのを) 言うね (のです)。

**ひっそめる** ひっそめるに同じ 1) 静かにする 2) 片付ける 広がって居た物を整える 隠す 取り入れる ひっそめる参照 (志 (布施田)) [会話] 1) ヒツソメル ひっそりとせえ (しなさい) 言う事を、2) ひっそりと しときや (しておけば) ばあ (場) も ふせがせんけ ど (占めないが)、広げさがしとると (ていとう) ばあ も ふせぐよって (ふさぐから)。

**ひっそら【副詞】** 静かなさま

**ひっそらしとる** 静かにして居る

**ひっそり【副詞】** 1) 瘦せて細くなった 2) 物静かなさま [会話] 1) 瘦せて 体な (が) ヒツソリな って た (なっていた)。

**ひっそりかん【副詞】** 物静かなさま 静まり返っている様 ひっそりに同意の漢字「閑」をつけて意を強めた。(阿、張)

**びった【形容詞】** びしょ濡れ ずぶ濡れ 水浸し [会話] ビッタ びたびたも びちよびちよ ひたひたも 一緒や (です)。同じ意味やけど (だが) その時ん (に) よって 雨な (が) 降って来て 逃げ込んで来た時ん、びしょ濡れんなったよお 言うし、どこや かや (何処かへ) いとて (行つて居て) 濡れて来ると びたびたなって来たよお (来ました) とか言うて。

**ひったくる【他ラ五】** 引手操る 他人の持って居る物を無理に奪い取る たくる 無理やり奪い取る (志 (布施田)、張) [会話] しゃくられた言うて、ひっしゃくられた ひっしゃくってた (て行つた) 言うのを ヒツタクル 言うて、無理やりん (に) 力まかせん (に) 取つたのを (取つてやるのを)。

**びったし** びつたり よく適合する

**びたびた【副詞】** びしょ濡れ ずぶ濡れ

**びつたり【副詞】** 1) 完全に付いて居るさま べつたり びつたり 2) 物事に夢中になっているさま [会話] 1) ビツタリ ひつついとんない (ている) 言うて、あやまあ (あれ) ビツタリ ひつついとんない、あやれ (あれ) 言うてなあ。なん (に) でも ひつつとく

と (ておくと)。友達でも 何時でも おるやんない (居るでしょう)、そすと ふたんな (二人が) ビツタリ ひつついとられ (ている) いつでも言うてなあ 朋輩やなあ (だ) 言うて。

**ひつたる** 1) 大小便、放屁をする (熊) 2) 穀物の実と殻とを箕で選り分ける

**ひつたれ** 1) 穀類の実と殻とを選り分けよ 選り分けました。2) 大小便、屁をしてしまえ しました。[会話] 1) みい (箕) で ヒツタレ言うてなあ。ほこりとみい (実) と えり分けんの (より分けるのを)、ひると ほこりや (は) 先い 行くやんない (行くでしょう)、そして みい (実) は残るもんでなあ (ので) みい (箕) で ヒツタレ言うて。子供でも あんごしのおな (馬鹿なのが) 有ると みい (箕) で ヒツタタヨオナ (てやつたよな) こおやなあ (子だ) こあんごして (馬鹿で) 言うて。

**びつたんこ【名詞】** 1) 二つの物が丁度具合よく合うさま 2) 薄く潰れているさま べたんこ [会話] 2) かんびんたん言う時は 薄い、ビツタンコ かんから こ言うな (のは) まるつぼごち (そのまま) 乾いて かつとおなつとんの (堅くなっているのを)。

**ひちぎる【他ラ五】** 引きちぎる 破る 引っ張つて無理に切る [会話] ヒッチギル ヒッチギツタレ (てやれ) 言うやんかいなあ (言います)。そやれ びらびらん (に) さがつとられ (ている) 邪魔んなんのん (になるのに) ヒチギツタレマア言うてなあ。ヒッチギル言う時と ひちぎる言う時と ちぎつたれとかも じいたれ言うのをなあ、ヒッチギツタレ言うてなあ。なすび (茄子) でも、胡瓜でも もじいて (もいで) 来い 言う時な (が) 有ると ヒッチギツテ来たんよ お (来ました) 言うてなあ。

**びつちや【名詞】**【形容詞】 水浸し ずぶ濡れ びつたに同じ

**ひつちやかる** 開いて居る [会話] ヒツチャカル言うな (のは) 踏ん張つとんのおを (股を開いて居るのを) 踏ん張んのおを (張るのを) ヒツチャカトル (て居る) 言うて。ヒツチャカッテ 座つとんねよお (て居るのだ) 言うて、ヒツチャケトルてやら (て居るとか)。

**ひつちやける** 広げる 狭いものを開く 広くする (志 (布施田)) [会話] きもん (着物) の前も ヒツチャケテ、股も ヒツチャケテ 広げる言う事を ヒツチャケル言うて、巾着や (とか) 入れもん (物) でも 口な (が) すぼんどると (狭いと) ヒツチャケ



エマア 入れのくいわれ (入れぬくいです) 言うて、なんでも開けんのを ヒツチャケル 言うの (のを)。

**びっちゅう** (備中) 【**名詞**】 備中鯨 二内至五ケの股歯の有る鯨 (桑市、上、張、賀、鳥)

**びつちよ** 【**形容詞**】 ずぶ濡れ 水浸し びった びつちや

**びつちり** 【**副詞**】 ぎっしり 隙間なく [会話] ビツチリ 一杯や (だ) 言うてなあ、ぎっちりやわい (です)。こがん (樽に) ぎっちり 一杯有ったよお (有りました)。きつちり一杯 丁度 あつたれ (有りました) 言うてなあ ビツチリ言う人も おんねやろな あ (居るのでしょうか)。

**ひつつ** 【**名詞**】 櫃 (志、員、三、鈴市)

**ひつついとる** 1) くつついて居る 2) 男と女が仲よくして居る 情交が有る (志 (布施田))

**ひつつかむ** (引摺) 【**他マ五**】 荒々しく摺む ひきつかむの音便

**ひつつかめたれ** 1) つかまえてやれ、捕まえてやれ 2) 捕まえました、つかまえた

**ひつつかめられる** 捕まえられる、つかまる ひつつかめる参照

**ひつつかめる** 捕まへる (志 (布施田)) [会話] 捕まえる ヒツツカメル、ヒツツカメラレテ言うて あの人 (に) ヒツツカメラレたヤ (たら) 弱った (困まった)、話な (が) なあごおててやら (長くてとか) 言うて。

**ひつつきさがす** 1) まとわりつく 2) 粘りつく (志 (布施田))

**ひつつく** (引付く) 【**自カ五**】 1) ひつは接頭語 びつたりくつつく 粘りつく (志 (片田、浜島、鶴方)、鳥 (答志、鳥羽)、鈴市) 2) 男女が親しくなって一緒になる 野合 姦通 (志 (片田、浜島、鶴方、神明、甲賀、国府)、鳥 (鳥羽、答志)) [会話] 1) ピタットヒツツくのな あ (のです)、2) 男の側い (へ) ヒツツイとて (て居て) 言うて、ねきい (近くへ) 寄つとると (て居ると)、男のとこい (所へ) ヒツツイトンネ (て居る) 言うて。

**ひつつける** 【**他カ下一**】 1) 男女を一緒にする 結婚させる 仲介する 2) 貼り合わせる [会話] 2) なん やかや (いろいろ) くつつける事を ヒツツケル。

**ひつつこい** 【**形容詞**】 1) 味や色が濃い 2) くだい 執念深い (度) [会話] ヒツツコイも ヒツツコイも 一緒やな あ (です) ヒツツラコイも。

**ひつつこお** くだく [会話] 言うたよおな事ばっか

(ばかり) ヒツツコオ 言うと、あや (彼は) ひつつら こおて (ひつつこくて)。

**ひつつめる** 【**他マ下一**】 ひきつめる 引っ張ってきつくする [会話] 髪のけえ (毛) ヒツツメル。ひきつめる 引き締とられ言うの (のです) 髪をまあ し っかりと 結うとると な あ (ていとう) きちつと引き締めとて (ていて) 髪のねえな (根が) とりげな (鳥毛が) 立つ迄 引き締めとよおった (ていました)。ねえな (根が) 飛び出て来て 鳥肌みたよん (のように) なって来る迄 頭の髪 引き締めて きちつと 締めとよおったわい (ていました) 今しみたよん (今のように) ふわふわしやせんし (しないので)。

**ひつつらこい** 【**形容詞**】 1) 味が濃厚である くだい ひつつこい参照 2) 執念深い (鳥 (鳥羽)、三、鈴市、安、度)

**ひつつらめる** 捕らまえる

**びつて**、**びつてえ**、**びつてこ** 【**名詞**】 1) 頭頂部に張る、硬い膏葉状のもの 胎毒を除くと言われた。 2) 禿の事 [会話] 1) 頭 へつこんどるとこ (でいる所) ビツテエ貼りおった (貼って居ました)。2) ビツテ言うと禿のことや。ビツテコ、ビツテコ言よおった (言っている) 居ました。禿げとる事。

**ひつぱつてもらう** 世話をして貰らう。[会話] ヒツパツテモラウ、ひつぱつてくれる 言うな (のは) 世話 して貰うて (面倒を見て貰って) 船へ乗せて貰うて かしきは こげんすんのやど (こんなにするのだ) 言うのを 教えて 貰うの な (のです) 初め 何んも 判らせんもんで (何も判らないので) かしきは そげん (そんなに) するもんやど 飯もる (よそう) 時は かしき そこもり 言うて。そげん (そんなに) 言うて 何もかも 教え込むんやん かな (込むのです) そんな のを ヒツパツテモラウ 言うて 世話して 貰うのを。

**ひつぱり** (引張) 【**名詞**】 1) 引き立て 引き上げ 関わり 最良 2) 親類 [会話] 1) ヒツパリダコ やな あ (だ) 言うて。あつちや (あちら) から 来てくれ (下さい) こつちや (こちら) から来てくれ言うて 男ん (の) ヒツパリダコ (に) 遭うん ならええ けど (よいが)。あや (彼は) あの人の ヒツパリで あ んげん (あんなに) なった んどお (のだ) 言うて 最良 すんのを (するのを)。2) あ すこの 家 や (は) 家のヒツパリやん かあ (だ) 言うて 親戚をなあ 血のつながりをなあ あの家と ヒツパリの縁やん か 言うて、あの人も 血 な (が) つなが が つとん ねどお (が

っているのだ) 言うてなあ。

**ひっぱりさがす** 1) 引き摺る 2) 散らかす(熊)

**ひっぱりなある** 1) 親類関係が有る 血縁関係が有る  
2) 引き立ててくれる人が有る 支持者を持って居る

**ひっぱりやい【名詞】** 引っ張り合い [会話] みいる言うて 丸 三つ書いといて(ておいて) ヒツパリヤイして、わがとな(自分の) 陣へ 引っ張って来ると 勝やし(です)し 引っ張られてくと(て行く)と 負けやんかい(です)。

**ひっぱり【他ラ五】** 1) 世話をする 仲介する 紹介する 雇入れる 最負する 仲間に入れる 2) 引伸す 3) 線を引く(上、阿)

**ひつらこい【形容詞】** 1) しつこい しつこい 一つの事に執着して離れようとしな。執念深い 2) 味香 色などが濃厚である 不快な程強い [会話] 1) ヒツラコイうのは、あんたん(貴方)に わしな(私が) 惚れるやんな(でしょう)。そすと あんたんとこいばっか(所へばかり) いて(行って) ひつつとんのおを(て居るのを) ヒツラコイ言うのなあ(のです)。ひつこおてまあ言うて おわえて(追って) 来てばっかおつて(ばかり居て) ひつこおて まあ言うて。2) おかず(副食) 炊いても ものすごい(大変) あぶらこいのおを(油濃いのを) ヒツラコイ、ひつこい言うて。ぜんざいしても あんまり(あまり) 甘すぎると、ひつこい言うて あんまりさとな(砂糖が) よお(よく) 利いとると(て居ると)、しつこいなあ(です) 言うて。味付けな(が) 濃いと そげん言うし(そんなに言います)、砂糖も 油も ヒツラコイ言うて 酢や塩は しつこい言わせん(言いません)、しょからいとか すっぱいなあ言うて。

**ひつらこおて** 1) 執念深くて 2) 味が濃すぎて [会話] 1) ひつこおて ひつこおてまあ言うて。ぜん(銭) 貸してくれてやら(下さいとか) なん(何) 貸してくれてやら、ヒツラコオテ あんな(彼が) 来たら おぞげやてや(嫌だ) 言うて、あれくれ、これくれ言うたりなあ、なんでもほし(なにでも欲しい) 人な(が) 有って、来た事なら あれくれ、これくれ言うて 大嫌いやなあ(だ) あひひた(人は) 言うて 来た事なら あいな(あんな) 事言うとんねない(言っているのだ)。ひつこいも ヒツラコイも一緒やけどなあ 何回もなん回も言うてすんの(するのを) ヒツラコイ言うの(のです)。

**ひつれい【名詞】** 失礼(上、阿) [会話] 失礼言うのを ヒツレイ言うね(言うのです)。失礼しました言うの

を ヒツレイしました言うて。

**ひて【名詞】** ある日 一日 ひいてに同じ [会話] 一日の事を ヒテ。ヒテ 俺家も 来てくれやええやんかい(くれればよいのに) 言うて 頼むのんなあ(のに)。一日来てくれえ(下さい) 言うのをなあ、ヒイテ(一日) でも ふっか(二日) でも来てくれやええやあれ(くれればよいのに) 言うてなあ かんじよすんのん(計算するのに) ひいて(一日) ついたち(一日) ふっか(二日) みっか(三日) 言うもんで(ので) かんじよな(計算が) 合わんよん(ように) なって来て 弱んね(困るのだ) 言うて 帳面する人な(が)。

**ひて【接続詞】** そうして

**ひでた** 冷えた

**ひでり(日照)【名詞】** 晴天 連日雨がなく日の照りつけること ヒデリ(日照)の義(大言海) [会話] 川尻で 水浴びたり 洗濯したりして、いくら ヒデリな(が) 続いても めったん絶えやせん(絶対に絶えません)。

**ひでりそお(日照草)【名詞】** まつばぼたん スベリヒユ科の一年草。高さ約10cm、茎は地面をはい、葉とともに肉質、葉は線形で長さ1~2cm、夏から秋にかけ茎頂に径約3cmの五弁花が咲く。花は赤、黄、白、紫色などで、絞りや八重咲のものも有り、晴天の日に開花し、午後にしぼむ。葉を松に花を牡丹に見立ててこの名が有る。ブラジル原産。(志、鳥(鳥羽)、度、伊、員、安) [会話] まつばくさ(松葉草)の事をヒデリソオ言うて。うつくしのなあ(のです) 赤や(だ) きいや(黄だ) 言うて。日な(が) 照つとる(て居る) 時は 咲いて 日な(が) 暮れてくと(て行く)と すぼんでくやんない(で行くでしょう)、あれを ヒデリソオ言うの(のです)。水な(が) なんも(なにも) 無いとこ(所) でも 花な(が) ぱっぱっと咲いて 夕方ん(に) になると すぼんで ヒデリソオや(だ) 言うて 今しは(今は) 松葉草や(です)。

**ひと(一)** 一つ 又は 同一の意を表す [会話] 一つ言うし(言います)、ヒト ふた(二) みい(三) 言うのも有るし、一つ 二つ 三つ言うのも、一、二、三、言うのも有るし ひいや ふうや みいや よおや 一つ言うし(言います)。一ヶ 二ヶ言う 勘定(数へ方) も有るし いろいろやもんなあ(です)。その しなもん(品物) によって 魚やったら(だったら) 一匹 二匹言うしなあ(言います)。ヒト ふ

た みい よお言うよおな 数え方 (方法)。物を ふたつつを (二ヶ宛を) 一遍 (一度) に 数へんのおを (るのを) ひとつん ふたわん 言うて。昔の ひた (人は) ひに (一) ふうに (二) ふんだら (三) だらすけ (四) ちゃびんに (五) ちゃんどく (六) やあよ に (七) あぶらげ (八) ちゃびんに (九) ちゃあ (十) 言うて それも とお (十) 迄あんね (有るのです)。ゆわしの かんぴんたんも 十まで有るしな あ (有ります)。十迄の かぞへ方 (遊び歌) “いわしのかんぴんたん” い (一) わ (二) し (三) の (四) か (五) ん (六) び (七) ん (八) た (九) ん (十)。“ひに ふうに ふんだら だらすけ ちゃびんに ちゃんどく やあよに あぶらげ ちゃびん ちゃ” “ひいに (一) ふうに (二) ふんだら (三) だらすけ (四) すずめに (五) こんにやく (六) やあよに (七) あぶらげ (八) ちゃびん (九) ちゃあ (十)” “一人くや 二人くる 見にくや (三) よって来る (四) いつのこた (五) 昔 (六) なんのこた (七) やかまし (八) ここらで (九) とめとけ (十)” “一人くや (来れば) 二人くる 見にくや 寄って来る いつのこた 昔 なんのかた やかまし 今度来たら 戸閉めたろん”

ひと (人) 【名詞】 客 (上、阿)

ひとあし (一足) 【名詞】 少しの間 すこしの差 [会話] ヒトアシ 先い (へ) 行てくれへ (行て下さい) 言うやんかい (言います)。一緒に 行こやんかい (行きましょう) 言うて、わしも (私も) 行くけど (けれど) ヒトアシ先い (へ) 歩きかけてくれへとか言うて、ちよいと (少し) 先い (へ) 行てくれ言うのな (のを)、ヒトアシ先い (に) 歩きかけてくれへ (下さい) とか、先い (に) 行てくれ言うのなし (です)。今し (今) ヒトアシ 違いやったのん (だったのに) 先い (に) 行たたんよお (行てしまいました) 言うて、先い (に) 行たると (行てしまうと) 今し迄 おったのん (居たのに) よお待つとらんと (待てなくて) 行たたわい (行てしまいました) ヒトアシ 違いやったのお (だった) 言うて。

ひとあしさきに 少し先に、先刻に ひとあし参照

ひとあしちがい 僅かな時間の差 ひとあし参照

ひとあしあとから 少し遅れてから

ひとあしらひ (ひとあしらひ) 【名詞】 人をもてなす事  
その仕方 応待

ひとあせ (一汗) 【名詞】 骨折る事 働く事 [会話]  
てめえに 一番惚れ込んだが 女 つけ、やお言わず

に、草根、枕に ヒトアセ しっぽり かかせてたも れ言うて。ヒトアセ しっぽり かいて言うて 仕事い、いて (に行て) いっしょけんめ (一生懸命) で 朝のうち (間) でも行くと ヒトアセ かいて来たよお (来ました) 言うて、一仕事 して来ると。

ひとあたり (一当) 【名詞】 海女が暖を取る事 [会話]  
二時間位 いって (潜ぐて居て) あがって ヒトア タリし といて、又 おりて (潜ぐて)。

ひとあほんして 俺を馬鹿にして

ひとあほんする 馬鹿にする 馬鹿扱いにする

ひとあほんすんな 馬鹿にするな

ひといき (一息) 【名詞】 1) 過去の有る時期 ひとこ  
ろ 一時期 いとき (志 (布施田)、鳥、三、鈴郡、  
安、北、尾、南、熊) 2) 海女の一回の潜水 (志  
3) ひとしきり 4) 一気に 續けて 休まずにする  
事 5) 休憩 [会話] ヒトイキ やすもやんかあ  
(休みましょう) 言うて、ちよいとやすもや (少し休  
憩しよう) 言うのを ヒトイキシよおや (しましよ  
う) 言うて。4) もおヒトイキ 頑張つてもらおや (貰  
いましょう) 言うて、それから 後でする事を ちよ  
いと休んどいて (でおいで) 又 もおヒトイキ 踏ん張  
つてくれるかい (頑張つてくれますか) 言うの (ので  
す)。もおちよいと (少し) してくれるかい 言うのを  
もおヒトイキ してくれるかい 言うて。4) 休まんと (休  
まずに) ヒトイキン やつたろや (にしてしましましよ  
う) 言う時も有るし。休んどると (でおると) おそな  
つてくよつてん (遅くなるから) ヒトイキン やつとい  
て (にやておいで) おこや (置きましよう、終りま  
しよう) 言う時も有るしな あ (有ります)。

ひといきいつ 一定の時間を置いて 間を置いて 時々  
(志 (布施田))

ひといきいれる 休む [会話] 一服言うな (のは) 仕  
事休むこと、ヒトイキイレル言う事。

ひといきつく 1) 安心する 2) 休憩する 3) 長雨  
の晴れ間 雨が小降になり降り止む (熊) [会話] 2)  
ヒトイキ ツカナマア (なければ) かいだりわれ (疲  
れる) 言うて。一休みせな (しなければ) 言うてな あ  
ちよつと (少し) 休もや (休みましよう) 言うの、ち  
よつと、ヒトイキ ツカナマア (なければ) 言うてな あ。  
苦勞ばつかしとて (ばかりしていて) まあ ちよいと、  
ヒトイキ ヤナア (だ) 言うて、あいな (暇が) 有ると  
な あ。

ひといきにする。ひといきにやつたる 休まずにする

ひといきや 一時は 過去のある時は (阿、張、北)

ひといきれ【**名詞**】人が多く集まり熱気、臭気が立つ事

ひとえもん【**名詞**】裏地のついていない和服 ひとえもの 単物 [会話] 裏のついたらせんきもん (ついていない着物) を ヒトエモン。

ひとおこと【**名詞**】一言 [会話] おおた あのひた (人は) ヒトオコトも もの言わせんね (言わないのだ) ほんどん (本当に) おしごろやなあ (唾だ)、道でおおても (逢っても) ものも ヒトオコトも言わせんね言うて。

ひとおじ (ひとおぢ) (人怖)【**名詞**】幼児などが見知らぬ人を見て怖じる事 ひとおめ

ひとおつ【**名詞**】一つ (三、鈴市、伊)

ひとおつも 少しも 全く ひとつつも参照 [会話] ヒトオツモ無いねない (無いのだ)。豆 撒いても、鳩や雀な (が) くたて (食べてしまつて) ヒトオツモ 無いよおん (ように) 喰たたねない (食べてしまったのだ) 言うて、喰われたると (てやると)。

ひとおめ (人怖)【**名詞**】見知らぬ人の前で怖わがったり、尻ごみしたりすること。ひとおじ (阿、張) [会話] ヒトオメ。人をオメトル (臆している)、恥かしがり屋なあ (です)。あの人 人をオメトテ (ていて) なんも (なにも) よお言わんね (言えないのだ) 言うてなあ。ヒトオメしとて (していて) 言うてなあ。子供でも ひとめするらなあ (です)、こやれ (これ) 言うて 泣いて かんまえとんのな (準備しているのが) 有つて、ほん ヒトオメして このかあ (子は) 嫌いやてや (だ)、むつきで 顔拭いとくと (ておくと) ひとめしやせんよつて (しないから) むつきで 顔拭いとけ (ておけ)、ヒトオメするこお (子) わ 損やどお (だぞ) 言うて。

ひとおり【**名詞**】一人 (伊) [会話] にげ (人間) の虫もおらへん (居ない) 言うな (のは)、ヒトオリも 人な (が) おらへん (居ない) 言う事。

ひとかいら (ひとかへり) (一返)【**名詞**】一度 今一度 動作 事柄のひとつとまり ひとかえり [会話] ヒトカエリ 帰りましょう。ヒトカイリ いてこおに (行って来ましょう) 言うて、芋でも こえ (肥料) でも ヒトカイリいて来い (行って来なさい) 言うて。荷物持つと ヒトカイリ行てこい 言うて。一遍言うのを ヒトカイリ言うて、もおひとくら (一度) 行て こおかいなあ (行ってこようか) 言うたり。

ひとかえり【**名詞**】ひとかいらに同じ 一度 一往復

ひとかさね (一重)【**名詞**】二つでそろいになる物の一揃 二つ重ねて一つになる物 [会話] ひとならべ

一つ並べる 重ねると ヒトカサネ。

ひとかしら【**名詞**】海女が一回潜る事 頭を濡らす事 (志 (甲賀、国府)、鳥 (国崎)) [会話] 磯 (海女作業) 一遍いつてくのを (潜るのを) かしら言うのなあ (言います)。まあ、みかしら (もう三回潜る) きばろかいなあ (努力しようか) 言うて。あがりしなん (上りぎわに、間際に) となると、みかしら (三度) きばつとけ (ておけ) 言うて。ヒトカシラ ふたかしら言う (言います)。そして 一回 かづくのおを (潜る時間を) ひとかづき。

ひとかづき【**名詞**】海女が定められた時間作業する事 (志、鳥 (国崎)) [会話] ヒトカズキ あさかづき (朝潜き) とか 昔 (は) みいくらしよつたけど (三度して居たが) 今しや (今は) 朝と よさと (夜、午後) 二回 入るだけ。朝かづき 今日 なんもはざんかったよつて (全く駄目だったから) 中かづき 大漁せな (しなければ) とか ゆかづき (夕かづき) 採らな (なければ) とか言うて。あさかづき 朝の九時頃から 十一時頃迄 入 (イ) つとんのやるなあ (て居るのでしょう)、二時間位。今はおりて (海女作業が解禁になって) すぐは 一時間位やなあ (です)。三月頃 口開けた時は (解禁にした時) さぶいよつてん (寒いから) 一時間ぐらい、それから又 月な (が) 代つて ぬくとお (暖かく) となると 一時間半とか 二時間とか言うて ぬくとおなつて来るごとに (度に) 時間な (が) なんごお (長く) なるの (のです)。二時間ぐらい ぬくとおなつて来ると おつて (潜つて居て) あがつて (陸にあがつて) ひとあたりしといて (一当たり・火で温を取つてしておいて) 又 おりて (海に入つて)、又 二時間ぐらいなあ (です)。なかかづき言うのは 十二時から一時なあ (です)、ゆかづきは 三時から 四時頃までなあ。ゆかづきは ちよいとやけど (少しだけれど) 島影な (が) 立つて来て、かつんどると (潜つて採つて居ると) くらごおて (暗らがりくて) はざんなあ (いけません)。日な (が) 正面におる時や (は) 明るいんけど (明るい) が、ちよいとかたごと (少し傾くと) 島の影が出来て来て くらごおてまあ 島影な (が) 出来て来て はざんよお (いけない) 言うて、ゆかづきん (に)。影な (が) 出来て来て 底いもつて (潜つても) 見えのくいもんで (ぬくいので) ゆかづきや (は) 島影な (が) 立つてこんうちん (来ない間に) はよおりよや (早く海に入りましょう) 言うて。ヒトカズキ言うのは ゆかづきとか 朝かづきとか言う、一回 はい

んのを (海に入るのを) ヒトカズキ言うの (のです)。朝は 朝かずきで 晝は なかなかずき言うし 夕方は ゆかずき 船から降りて 舟い あがる迄のあい (間) を ヒトカズキ。

**ひとかせぎ (一稼) 【名詞】** 一働きすること 一度働く事 働きに行く事

**ひとがた (人形) 【名詞】** 禊 祈祷の時に用いる人の形に紙や藁で作し、自分又は呪の相手の代りにしたもの (志) [会話] いのり釘。ヒトガタをこさえて (作って) いのり釘 四十九本打って 五十本目は喉を打つてわい (打つそうです)。そんで息な切れる (それで死ぬ) 言うて。

**ひとかたぎ。ひとかたげ 【名詞】** 一食分 かたげ かたけ 片食 けは食物 食事の意 朝夕 二度の食事が普通であった時に出来た語 一回分の食事 一度の食事 食事の回数を数へるのに用いる ひとかたげ ふたかたげ (志 (布施田)、南、熊) [会話] ヒトカタゲ言うのは 御飯を ヒトカタゲ。朝飯 ヒトカタゲ、昼飯 ヒトカタゲ。ヒトカタゲ 抜きや (だ) 言うて、朝飯 喰わんと (食べないと)、昼 ヒトカタゲ抜いたとか、ひとくら喰わんと (一度食わずに) おるとヒトカタゲ 抜きや (だ)。朝昼晩 三回のうち 一回を ヒトカタゲ言うの (のです)。ヒトカタゲで皆 くたた (食べてしまった) とか、よお (よく) 食べる時は、兵隊 行くのんなあ (のに) たちいわいや (出発祝いだ) 言うて、皆 よびおったわい (招待して居ました) そしたら いっしょあげはんだい (一升入る飯櫃) 一杯 炊いといて (ておいて) こんで (これで) よれやおもたや (充分だと思ったら) ヒトカタゲ ん、皆 喰といて来た (全部食べて来た) 言うて、ほおた (ああ) よお喰うのお (よく食べます) 言うて、兵隊 行くもな (者は) 体もおつきいし (大きくて)、喰いざかりやし (よく食べる時です)、御飯一杯あんの (有るのを) ヒトカタゲ 皆 くといてた (食べて行った) 言うて、よおくうねてや (よく食べるのです) あのこら (頃は)、がらも有るし (有ります)。がら言うな (のは) 体格や (です)、そして (そうして) 食な太いにげ (人間) と、細いにげ (人間) と。体が おつきい (大きい) ても そげんよけ (そんなに沢山) よお喰わんにげな (食べない人間が) 有るし (有ります)、食が太い言うな (のは) よおくうねてや (よく食べるのです)。

**ひとかまど 【名詞】** 一つの竈 同居している家族 (志) [会話] ヒトカマドの飯 食うたもんやのんな

あ (者だのに) 言うて、一軒の家に住んでると、ヒトカマドで 炊いた飯 みんな (皆で) 食うやんない (食べるでしょう)。ヒトカマドの 飯食うたもんやのん 仲よおせな (よくしなければ) 言うてなあ、ヒトカマド言うと 一軒の家。一軒の家の中で 他人でもなあ 一緒ん (に) 御飯 食べるやろ (でしょう) 他人でもなあ ヒトカマドの 飯くうたもんやのんとか、一棟ん (に) 住んだもんやのん言うてなあ。

**ひとかまどのめしくうたのん 【俚諺】** 仲好くしていたのに [会話] ヒトカマドノメシクウタモンヤノンナア (者だのに) 言う時も有るし。ひとかまどの飯 くうたねよってなれ (のだから) 言う時も有るし。のん言うのは、のに言う事や。一緒ん (に) 生活したのおに (のに)、一緒ん (に) おったのん言うて、のん言うね (言うのです)。一緒ん (に) 飯食うたのん、あげん (あんなに) そげのおして (無愛想にして) 言うてなあ。

**ひとかまどのめしくうたもん 【俚諺】** 仲好し 同じ家で生活していた者 同じ職場で働いた仲間 ひとかまど 参照

**ひとかねぎ 【名詞】** 人に依頼すること [会話] 京から来ても立ちつんで (ついで)、それ もて来ておくれ (持って来て下さい) 言うて。ヒトカネギして言うてヒトカネギ よけすんなまあ (あまりするな) 言うて。

**ひとかめ 【名詞】** 一重脛 ひとかわめ参照 (度)

**ひとかめ 【名詞】** 一甕 鯉船の餌の單位

**ひとからげ** 一束 一緒にする 同じ様に扱う [会話] ヒトカラゲンしとけ (にしておけ) それも、二つも三つも分けると 邪魔くそな (くさい) のん (のに) ヒトカラゲンして 積んどけ (でおけ) 言うてなあ。にげ (人間) でも あやまあ (彼は) ヒトカラゲやれ (だ) よお似とられ (よく似ている) 言うてなあ、似とるにげや (似ている人間は) あや ヒトカラゲやれ 言うて。

**ひとかわめ (ひとかはめ) (一皮目) 【名詞】** 脛が一重であること ひとえまぶた 一重脛 ふたこめ参照 [会話] ヒトカメ ヒトカメ言うのを ヒトカワメ ヒトコメ言うて、“か”と“こ”と 一緒みたよん (のように)。

**ひとかわり (ひとかはり) 【名詞】** 1) 今一度 一度 2) 交代 他の人と代ること

**ひどき 【名詞】** 月経 (志 (安乗))

**ひどきなわり** 月経中である 月経が始まった [会話] ひいな (が) わりなって 言うてな。かりやん (月経

に)なる、ひいな(日)来ると ヒドキナワリんよ  
お(悪るいです) ちょおど そのひい(日)は言うて。  
**ひときばり (一気張)【名詞】** 一段と気張ること 更に  
仕事を続けること

**ひときり (一切)【名詞】** ひとくぎり 一段落 [会話]  
仕事な(が) 終わったの(のを)、こんで(此れで) ヒ  
トキリやなあ(だ) きまったなあ(終った)。

**ひとくさり【名詞】** 一段落 クサリはクサリ(鏈)の義  
でヒトツヅキ(一段落)の意(大言海)

**ひとくせ (一癖)【名詞】** 人と異なった特有の性質

**ひとくぼ【名詞】** 餅をつく時 一臼の単位 くぼ参照  
(志) [会話] 一回搗くだけ それを ヒトクボ言う  
ね(言うのです)。

**ひとくぼもち【名詞】** ひとくぼで搗いた餅を一つにした  
もの お供えにする(志) [会話] ヒトクボモチ言う  
な(のは)、じゅう(蒸し器)に 一杯ん(の)のを、  
一臼すん(するのを)。ひとくぼ 搗いたながり  
(ま)を、切つたらんと(切らずに) 鏡にすんのな  
あ(鏡餅するのです)、ヒトクボモチや(だ) 言うて。  
三升餅や(だ) 言うて、たいがい(大体) あれも 三  
升つやなあ(です) そやけど(しかし) にしよくぼん  
せな(二升の器にしなければ) さんじよくぼん(三升  
に) 言うて、おらすのん(こなすのに) おなごら  
(女)は なかなか 杵を よお通させん(通せませ  
ん) 男なら ええけど(よいが)。

**ひとくら【名詞】** 一度 一回 一ぺん ひとかいり参照  
(志(片田、浜島、鶴方、神明、志島、国府、安乗)、  
鳥(鳥羽、神島)、飯) [会話] 一回言う事 ヒトク  
ラや(だ) 言うの(のです)。ヒトクラいてこい(行  
って来い) 言うて、一回いてこい言うのを ヒトクラ  
言うの(のです)。ヒトクラとか、ひとかいりとか言  
うて。いっぺんに 皆 食べる事でも ヒトクラん  
(に) 皆 喰たらんか(食べてしまいなさい)、そ  
んだけのもん(それだけの物) 言うて。ヒトクラん、  
ほぼくつたたよお(ほうぼってしまった) 言うて、ま  
くりこんだたてやら(急いで食べてやったとか) あ  
のよけのもん(沢山の物) まくりこんだたんなあ言うて。

**ひとくらあつ** 時々

**ひとくろお【名詞】** 大変な、困難な

**ひとけ (人気)【名詞】** 人の居る気配 [会話] ヒトケ  
な(が) 無い言うて、にげな(人間が) だれんもおら  
へんと(誰れも居ないと)、なんも(全く) しとけな  
(が) 無いわれ(有りません)、にげの虫も おらせ  
んわれ(居ません) 言うて。おや(俺は) 此の家 来

たてや(来たのに) ヒトケな(が) 無いし にげ(人  
間)のむしも おらせんわれ言うて。にげの虫も  
おらへん言うな(のは) ひとりも(一人も) 人が  
おらへん(居ない) 言う事(事です)。

**ひとげ (人家)【名詞】** 他人の家 ひとらげ [会話]  
あのヒトゲ。あのヒトゲい(へ) 行てこおかいのお  
(行って来ましょう)、あのヒトゲい(に) 借したや  
(てやったら) なんも、もてきやせんね(なにも持っ  
て来ないのだ) 言うたり。あのヒトゲや(は) なん  
(に) でも よれやし(沢山だし)、あのヒトゲや金  
持ちでなあ まあ 空飛ぶ鳥も 落す位やれ(だ) 今  
しゃ(今は) 言うてなあ。人の家 他人の家 よその  
人の事をなあ、あのヒトゲや 言うて。名前言や(言  
えば) そんでええねけど(それでよいのだが) 名前言  
わんと(言わずに) あのヒトゲや 言うて、あのヒト  
ゲてや(とは) 何処お(ですか) てや(言えば)、  
あのヒトゲ言うて。

**ひとこ【名詞】** 1) 一個 密柑を剥いた時の一袋(南)  
2) 一重 [会話] 1) ヒトコ ふたこ。密柑ののおで  
も(のでも) ヒトコ ふたこ言うし、2) 縄なうのでも  
ヒトコ ふたこ言うて。ふご(畚)の ひぼやどけ  
(紐など) なうな(なうのは) みいこん(三重に) せ  
なはざんし(しなければ駄目です)、他に 使うな  
(のは) ふたこで、なやええし(二重でなえばよい)。

**ひどこ (火床)【名詞】** 1) 木の杵を組み 粘土を底に  
入れて火を焚くもの 船上で用いる(志、鳥(答志)、  
津、度) 2) 海女の休憩する時 火を焚く所(志(布  
施田)、鳥(石鏡)、度) [会話] 1) ヒドコは きい  
(木)で 杵組んで 赤土 塗って 砂 入れて ヒ  
ドコこさえて(作って) 火 当って。火を焚くの(の  
です) 舟の上やもんで(だから)、底へ通って来るも  
んで(温度が伝わるので) 杵こさえて(作って) それ  
へ 赤土 塗って 火 焚くの(のです) その上でな  
あ。そんで(それで) ヒドコ言うの(のです)。かと  
船な(鰐船が) 飯 炊くの(のです) 皆 くどき  
立派ん(に) して、ヒドコん(に) しおったわい(し  
て居ました)。朝鮮いても(行っても) ヒドコ 針金  
張って それへ 土な(が) 無いもんで(ので) 砂を  
しいといて(敷いておいて) よさり(夜)になると  
それの上へ 板、敷いといて(敷いておいて)、それ  
の上へ寝ると 尻な(が) ほこほこしてきて あつ  
うて 温床入つるとるよおなもんや(て居るようなもの  
です)。

**ひとこっぱ** 一度に [会話] 借金しとてもな(してい

ても)、一円戻し 五十銭戻ししい(して) しぎりだして (少しづつ出して) ほんおとつしゃ (本当に) おぞげやれ (腹が立つ)、ヒトコッパン (に) だしゃええのん (出せばよいのに)。

**ひとこっばい** 一度に(志(布施田)) [会話] ヒトコッパイも 一遍に。ヒトコッパイに ろん (の) 中い (へ) 入れたたない (入れてしまった) 言う時な(が) 有るやんかい (有ります)。仕事でも ヒトコッパイん (に) したたなあ (してしまった)、よお (よく) 働く人やなあ (だ) 言うてなあ。

**ひとこま** ひとまわり [会話] 今し (今の) 海苔より ヒトコマ おっきいの (大きいのです)。

**ひとこめ** 【名詞】一重験 ひとかわめ参照 (度、北)

**ひとこら (一頃)** 【名詞】以前のある時 一時(志(布施田)) [会話] ヒトコロ 言うのは あの時言うのを ヒトコロ 言うて。ヒトコロ あいな (あんな) 事な (が) あったやんかあ (有ったではありませんか) 言うて。ヒトコラ (一頃は) あの子と あのか (子は) どいらい (大変) 仲 良かったのん (に)、今は ちよいと (少し) 熱な (が) 冷めた 言うて。昔の ある 時期は 言うのなあ (のです) ヒトコロ 言うな (のは)。

**ひとさしいび** 【名詞】人示指 いび、ゆびの訛(鈴市、伊) [会話] あの 人 言うて 指さすもんで (ので)。指 言わんと (言わずに) いび 言うて、ヒトサシイビ、なかいび (中指)、おやいび (親指) 言うて。中指 言わせん (言いません) なかいびや (です)。

**ひとしお (ひとしほ) (一塩)** 【名詞】魚 野菜などに薄く塩を振ること またそのもの

**ひとしきり (一頻)** 【名詞】ある時間を中心としてその前後のまとまった時間 しばらくの間(志(布施田)) [会話] おれげ (俺の家) の畑 行てくれたんか (たのですか) 言うて、そして ヒトシキリ 行て来たねえ (来たのです) 言うて。ヒトシキリ 言うと、ちよいと (少し)、いっとき (一時) の ヒトシキリ 行て来たれ (来た) 言うて。

**ひとしごと (一仕事)** 【名詞】あるまとまった仕事 [会話] ヒトシゴト して来ると 一汗 かいて来たよお言うて。

**ひとしごとや** 大変手間の要る仕事だ(志(布施田))

**ひとしゃくし** 【名詞】一回に 御飯などを茶碗によそう事 一回でよそう事 [会話] 御飯 ものでも (よそうのでも)、ヒトシャクシ めつたんもらせん (絶対によそいません)。まねでも そえもりすんの (二度目します)。

**ひとしゃくしめし** 【名詞】一度に茶碗一杯に御飯をよそう事 [会話] いっぺん (一度) に 一杯 ごしと もって (よそって) くつとして、そや (それ) 言うて すんの (するのを) ヒトシャクシメシ。

**ひとじゃれ** 【名詞】子供が客などの前でいい気になって、はしゃいだり、いたずらしたりすること。ひとそばえ [会話] 人 そばえ 言うのは、子供が じゃれんのなあ (じゃれるのです)。ヒトジャレするとか 人 そばえ するとか言うて、なんやかや (色々) よけ (沢山) さわわたりすんのなあ (するのです)。

**ひとしろ** 【名詞】一人前の配当 一代(北) [会話] ヒトシロ、ふたしろ。買い山のきい (木) 分けんの なあ (るのに)、五軒 な (が) すると 五つん (に) 分けんの (るのです) ヒトシロ。はんしろの家や (は) ヒトシロん (の) のを また 分けて はんしろ 言うてなあ。わがとらな (自分達の) 当りを しろや (だ) 言うてなあ。お菓子でも とお なら とおん (十に) 分けると とお (十) しろん (に) わけとけとか (ておけとか)、七つん (に) 分けると ななしろん 分けなはざんわれ (なければ駄目だ)。そしたら俺家 ふたしろ 貰らうわ (貰います) 言うてなあ 二人 分 貰らう時は ふたしろ 貰らう 言うて。ヒトシロ 言うて 一人の 当り分。おら (俺は) まあ ヒトシロ 貰らう どお (貰います) 言うて。わが (自分の) 当りを ヒトシロや (だ) 言うて そすと、おらげや (俺の家は) 二人 やよって (だから) ふたしろ 貰らう わ 言うて 二人 分 貰らう 時や (は)。

**ひとしろいわい (一代祝)** 【名詞】一人前の給与を得た時 仲介をして貰った人に対して御礼をする事 [会話] ひとしろ もおたもんで (貰ったので) ヒトシロ イワイや (だ) 言うて、世話しても おた 人ん (貰った人に) 反物 とか 足袋 とか くれよったわい (呉れました)。

**ひとしろがこ** 【名詞】平の水夫 役職の無い水夫

**ひとしろかせぎ (一代稼)** 【名詞】1) 一人前の給与を貰う事 2) 一人前の収入 [会話] 1) ヒトシロ かせぎ する よん (ように) になって来て 偉い なあ 言うて まあ がっこ おりて (学校卒業して) ひとしろ もろて (貰らって) 親ん (に) 渡すと、ヒトシロ かせぎ する よん (ように) になったなあ そん でも (それでも) 言うて。親らは 嬉ぶの なあ (です)。

**ひとすじ (ひとすぢ) (一筋)** 【名詞】一本 手拭などを数える時に使用する [会話] わた しゃ (私は) 貴方 に ヒトスジ や (だ) 言うのも有るし、ども ならん こ

お(どうにもならない子)をなあ、あや(彼は)ヒトスジなわで くられる(喰べられる)しろもんやねえわれ(者で無いです)言うて。たちの(性質)わり(悪るい)事すると。手拭やなんや(なども)数えるのも ヒトスジ、ふたすじ。ヒトスジもろて(貰らつて)まあ 言うて 葬式行くなあ ヒトスジ いつ(づつ) もろて。

**ひとすの【名詞】** 子守り 女中等の働く期間 一期分 半年 すのは単位 [会話] もりて(子守)ヒトスノ 言うて 半年おると ヒトスノ。

**ひとずれ(人摺)【名詞】** 人慣れして居る事 場慣れしていて臆さない事

**ひとそおど(ひとそうど)(一騒動)【名詞】** ひとしきり あれやこれやと騒ぐこと

**ひとそばえ(ひとそばえへ)【名詞】** 子供が客などの前でいい気になってはしゃいだり いたずらしたりする事(志(立神)、鳥(鳥羽)、上、阿)[会話] ヒトソバエ言うのは 子供が じゃれんのなあ(るのです)。ひとじゃれするとか、ヒトソバエするとか言うて、なんやかや よけ(沢山) さわったりすんのなあ(するのを) そばえてまあ言うて。ひとぼじれて。そばえて やら(とか) ちょおけてやら言うて。ちょおけどんね どお(ふざけて居るのだ) あや(彼は) 言うて、はしゃいどる(で居る)事を、ちょおけとんね(て居るのだ) 言うて。ヒトソバエ 言うな(のは) ふざげるとか ちょおけるとか言うのを そばえる言うて。

**ひとだかり【名詞】** 人が寄り集まって居ること 人ごみ [会話] 人な(が) よけ(沢山) 寄つとんのおを(ているのを)、たかとられ(集まっている)。ヒトダカリな(が) えらい(大変だ)。

**ひとたて(一立)【名詞】** 一度 一通り(阿、張)[会話] ヒトタテ喰たると(食べてやると)又 替り出し、替り出しして いかわり(何度)でも 出しおったやんかい(て居たで有りませんか)。

**ひとだのみ(人頼)【名詞】** 1) 他人をあてにすること 他人に頼のんでしてもらうこと 事を行なうのに人に任せて関知しないこと。2) 人を頼むこと 人を雇う事(志(布施田))[会話] ② 仕事の量な(が) おいて(多くて) 忙がして(しくて)、てえな(手が) まあらせんね(回らないのです)ヒトダノミせなはざん(しなければいけない) 言うて。ヒトダノミ よおしよおった(よくして居ました)。

**ひとたんじょお【名詞】** 生後一年目の誕生日 満一才(阿、張、賀)

**ひとちがえ(ひとちがへ)(人違)【名詞】** 人を間違える事

**ひとつつつ** 一つづつ(鈴市)[会話] ヒトツツツ 分けえよお(なさい) 言うて、とおつつ(一つづ)言う人な(が) あんなあ(有ります)。一つ言わんとなあ(言わずに)、とつ言うてなあ 一つづつ言うのをヒトツツツ言うて。

**ひとつがね【名詞】** 最も程度の低い葬式 [会話] ヒトツガネでいた(行った) 言うて、一番わり(悪るい)葬式は言うやんかい(言います)。

**ひとつきやい(ひとつきあい ひとつきあひ)【名詞】** 人付合 ひとつきあい 他人との交り 交際 [会話] ヒトツキヤイな(が) ええにげやなあ(よい人間だ) 言うて、あれともつきやい(交際し) これとも仲よおし(よくして)、交際よけ(沢山) する人を、あのひた(人は) ヒトツキヤイな(が) よおてなあ(よくて) 言うて、ヒトツキヤイな(が) わりひた(悪るい人は) あの人 顔 よお(よく) ばっかしとて(ばかりして) 人ん(に) おおても ものも言わせんし(ないし) 言うて、がいん(あまり) てれんばれん(はきはき) 言わん(ぬ) にぎやなあ(人間は) ヒトツキヤイな(が) わりわい(悪るいです)。

**ひとつごつと** その毎に 毎回 [会話] いっぺんごつと あげん(あんなに) 言うて。ヒトツゴット あげん 言うて 口答えすんねない(するのだ) 言うて。いっぺんごつとと言うのは 今の言葉やけど(ですが)、ヒトツゴット言うのなあ(のです)。ヒトツゴットいろいろと 口答えして言うて わるわれよおった(叱られて居ました)。

**ひとつざい【名詞】** 副食が一品であること 一品の副食 [会話] ヒトツザイ言うのな(のです)。一つしか(より) 無いの(のを)、一品しか(より) ないの(のです)。なあ漬(菜漬け)なら なあ漬だけ、味噌汁なら 味噌汁だけ。

**ひとつちがひ【名詞】** 一歳違い 年子(南)[会話] 一年違いの にげ(人間)をなあ、おらげや(俺の家は)ヒトツチガイやよお(だ) 言うやんかい(言います)。とつ(一つ) ちがひやよお(だ) 言うてなあ。

**ひとつつも** 一つも 少しも 全く(上、阿、張、賀)[会話] ヒトツツモも無いよおんしたた(にしてみました) 言うて。なんも(なんにも) 無いよおにしたあと、一つも無い言うて。ヒトツツモ無いよおんしとてた(にしておいていった)、ヒトツツモ無いよおん喰たた(食べてしまった) てやら。ひとおつも無いね



ない(無いのだ)言うて、鳩や雀な(が)喰たて(食べてしまって) おおた(ああ) ひとつも無いよおん(に) 喰たたねえない(食べてしまったのだ) 言うて、喰われたると(てやると)。ヒトツツモ言うて 全然無い事を ヒトツツモ無い。ちよいと(少し) 残してくと(て行くと) ちよいと(少し) 残しといてた(ておいて行った) 言うて。なあんも(なんにも) 無かったれ(有りませんでした) なあんも無いわれ(無い) ちよいとも(少しも) 無いのは なんも(なんにも) 無いわれ、ヒトツツモ無いわれ言うて、ヒトツツモあるかれ(有りません) なあんもあるかれ(なんにも有りません) 言うて、ちよいと(少し) 有ると 尻糞程、残しといてた(ておいて行った) 目糞程より 残しといて、いかにぎった(ておいていかなかった) 言うて。

ひとつづて(人伝)【名詞】1) 他人によって事を伝える事 ヒトツツへ(人伝)の約(大言海) 2) 風聞 噂

ひとつぼ【名詞】一粒(鈴郡、鈴市、伊)【会話】米の 中い(へ) 豆 ヒトツボ入れて まめ(健康) なよおに言うて。

ひとつづみ【名詞】大勢の人が集まる事 人が集まって混雑していること【会話】席な(が) つむ(一杯になる) 事を、今日はヒトズミな(が) えるおて(大変で)。

ひとつめがね【名詞】海女が潜る時に用いる眼鏡 両眼と鼻を一緒に覆うようになっている。(志)【会話】今しの(今の) 磯眼鏡なあ(です)。ふたつうつなあ(二つづつ) 昔や(は) 蛸のめえみたよん(目のように) ぼちぼちとしおったの(していたのです)。まあ 一つん(に) なったもんで(ので)、ヒトツメガネ よお買わんと(買えなくて) 言うて。始めなあ 二つ眼鏡で、こんだ(今度は) ヒトツメガネやけど(だが)、鼻出して はなだしや(だ) 言よおってなあ(言って居まして)。こんだ 今し(今)の 眼鏡 豚眼鏡や(だ) 言うて言よおったんなあ(言いました)。豚の口ん(に) よお似とるもんで(よく似ているので)。

ひとつも【副詞】少しも 全く【会話】ヒトツツモ 無いよんしたたない(ようにしてしまった) まあ言うてなあ、まあなあ よつけ(沢山) 有ったや(ら) 何時の間に くだたねやかなあ(食べてしまったのでしょ) う) ヒトツツモねえない(有りません)、おおた かけちる(かけら) も 無いよんくたてとか(ように食べてしまつてとか) 言うてなあ。

ひとつもない 何も無い 全く無い

ひとつもん【名詞】1) 一つより無い物 2) 一つ 丸のまま 割ったり切ったりしない物(志(布施田))

ひとつづら【名詞】1) 人の顔 2) 人当り 他人に対する態度【会話】<sub>1)</sub> あひた(人は) きよるきよるとヒトツツ眺めて。

ひとつて 同類

ひとつで(人手)【名詞】人の手 転じて働く人 働く人の数

ひとつで(人出)【名詞】人の多く出て集まる事

ひとつとき(一時)【名詞】1) しばらくの間 僅かな時間 2) ある時【会話】<sub>1)</sub> いっとき言うの(のです) いっとき休めなあ(休みなさい) 言うたり。ヒトトキの間 休んどいて(ておいて) しょおやんか(しましよう) 言うたり。ヒトトキ休もや(休みましよう) 言うて、ちよつとの(少しの) 間 休む時やなあ(です)。<sub>2)</sub> ヒトトキや(は) あの人も 世な(が) わり(悪) かったんかして(のか) 言うて、ヒトイキや(は) あの家も えらかつたけど(大変だったが) 今しゃまあ(今は) お多福に三味線やなあ(だ) ふくつんやなあ(幸福だ) 言うてなあ。

ひとつこ【名詞】一ヶ所 ひとつところ(三、鈴市、伊)【会話】広の浜い行くと ヒトトコ掘ると ふご一杯つ 卵へつとりおったの(産んで居ました)。

ひとつなええ 1) お人好し 好人物 2) 心の広い人【会話】<sub>2)</sub> ヒトナエエよって(のだから)、心な(が) ええにげ(よい人間) なあ。<sub>1)</sub> ヒトナエエねよって(のだから) 嘘ん(に) 言うても ほんとん(本当に) して 騙されて言うてなあ。人な(が)、こか(冗談) 言うても それほんとんして 人疑う事 知らんねよって(ないのだから) 言うてなあ。

ひとつなか(人中)【名詞】1) 人が大勢よって居ること 又その場所 人ごみ(志(布施田)) 2) 他人の中世間【会話】<sub>1)</sub> ヒトナカへ行くと、へえな(屁)が 出て来ると、音立てるとはざんもんで(いけないので)、足のとも(踵)で 尻のぼら(穴) おさえといて(ておいて)。

ひとつながれ(一流)【名詞】衣服一揃いを言う 布団の一揃い イチリュウを文字読みにした語(大言海)(松)【会話】きもん(着物) 質ん(に) やつても、ヒトナガレ、流したた(てしまった) 言うてなあ。きもんでも 一揃い言うのなあ、服でも言うやんかい(言います) ズボンと上着をなあ。

ひとつなさけ【名詞】人情(志(布施田))

**ひとなつこい (人懐) 【形容詞】** 誰に対しても好意的でうちとける性質や様子である [会話] ヒトナツコオテ (こくて) あのねか (猫は) まあ言うて、まつのやあるいて (まとわりついて) 来ると。あの人も ヒトナツコオテ (こくて) 人見ると 離さんで (なくて) 喋る (喋ろう) 言うて。

**ひとなのか 【名詞】** 初七日 死後七日目 (阿、張、熊)

**ひとなぶり (人馴) 【名詞】** 人をなぶる事 からかい、馬鹿にする事

**ひとなみ (人並) 【名詞】** 人と同じように 一般の人と同様であること またそのさま 世間なみ [会話] 仕事しても ヒトナミン (に) よおせん (出来ない) 人を とろくさい。

**ひとならび** 平に並べる事 重ねずに置く事 [会話] ヒトナラベ 一つ並べる。重ねると ひとかさね 言うし (言います)。一つつつしとると (一ヶ宛して居ると) ヒトナラベ。鮎も ヒトナラベえつ (一列づつ) どいらい (大きい) のおへ。ヒトナラベえつ 鮎くれても、くれるやんかい (くれます) 昔みたいん (のよう)に 重ねんと (重ねずに)。四十五積んで もんねけど (盛るのだが) 昔や (は) 四角のおへ (器へ) もりおったやんな (入れたでしょう)、それでも四十五位もって。そして 今しゃ (今は) 丸いのん (に) ヒトナラべんつにして (ひとならべにして) そんでも勘定すると (それでも数えると) 四十五きれ (切れ) 有る、勘定してくれんねやんなあ (数へてくれるのでしよう)。四十五言う かず (数) は 下へ 七つもりに (七ヶ並べて) その上 五つもりしてくやんな (して行くでしょう) そすと たいがい (大体) 四十五になんね (なるのです)。四十五並べると 見た格構もええし (良いのです)、重ねたと (てやると) こんなほし (此れが欲しい) おもても (思っても) 取られやせんし (取れないし) ヒトナラベすると 欲しの (のが) 取られるやんない (取れるでしょう)。積んだると 四段か五段 積んだると欲しの (のが) 取られやせんやんな (取れないでしょう) そやよって (それだから) ヒトナラベの方がええんなあ (よいのです)、喰うのん (に)。

**ひとならべ** 積み重ねずに 一段に平に並べること [会話] ヒトナラベ 一つ並べる、重ねると ひとかさね 言うし 一つつつしとると (一つづつしている) ヒトナラベ 鮎も ヒトナラベえつ (づつ) どいらいのおへ (大きなへ)。

**ひとなる (人成) 【自ラ五】** 成長する 育つ 成人する

人なるの意 (方言俗語語源辞典) (志 (鶴方、志島、国府、安乗、甲賀)、鳥 (国崎)、員、多) [会話] ヒトナル。おっきい (大きく) なる言うのなあ (のです)。なんでも (なにでも) なえもん (苗物) でも こやし (肥料) やって 今度 (次に) 行くと どいらいおっきになった (大変大きくなった) 言うのを、ヒトナツたなあ言うて。子供らでも どいらい (大変) せえな (身長が) ヒトナツたなあ言うて おっきい になった言う事を。

**ひとにわ 【名詞】** 麦を唐竿で脱穀する時の量 [会話] ヒトニワ言うて、麦 叩く時 まるくとお (丸く) 一杯 積んどいて (でにおいて) 一叩きすん (る) のをなあ、まあ ヒトニワ 叩いたたんこ (のですか)、おた 早いなあ、力な (が) えらい (強い) 若いもんや よってなあ (者だから) 言うて。今日は よお (四) にわ 叩いたたら (とか) 言よおった (言っていました)。はしかな 付いとる (ている) 穂麦を叩いて みいんすんのなあ (実にするのです)。それを ヒトニワや (だ) ふたにお言うて なあ。ヒトニワ言うたてで (言っても) みいん (実に) したら ほんだあら (半俵) 二斗位も 出や (出れば) 大きな事やわい (です)、すつぼな (空穂が) よけ有るやんかい (沢山有ります)。そやよって (だから) すつぼとつたると (空穂除くと)、みい (実) とごるのはなあ (沈むのは) ほんだあら 二斗位なあ。

**ひとねいり 【名詞】** 一睡 ひと眠り (一)

**ひとねぶり 【名詞】** 一睡 ひとねむり 少し眠ること しばらくの間眠ること 次項 ひとねぶり参照

**ひとねぶり 【名詞】** 少し舐めること 一度舐めること [会話] ヒトネブリしよおか (しましようか) 言うて ぐうつとなあ いどころ寝 (ごろ寝) でもなあ、すんのん (するのに) ヒトネブリしよおか 言うて。飴など (でも) ヒトネブリしよおか (しようか) 言うて、飴は ヒトネブリするけど (が) にげ (人間) でも いっとき (少しの時間) 休んで ちよいと (少し) 寝ん (る) のを ヒトネブリしよおや (しましよう) 言うてなあ。一銭の膏葉しよおや (しましよう) 言うてなあ なとすんねどい (どうするのですか) 言うて、一銭の膏葉言うて ちっちゃあい (小さい) しじめ (蜆) 貝みたよなのおい (のよなの)に 膏葉な (が) 入いとて (ていて)、出来もんな (出来物が) 出来ると それぬくとめて (温めておいて) 紙い (に) 延べて ねぶといはよおったね (出来物へ貼って居ました) 一銭の膏葉 ひとねりよりいっくら

せんやんない (入っていないでしょう) そやもんで  
(それで) 一銭の膏薬 ちよいとしょおやんかあ (少  
ししましょう) 言よおった (言っていました)。

**ひとのかってや** 俺の勝手だ 要らぬ世話だ (上、阿)

**ひとのかみんたつ** 1) 人より偉くなる 出世する

2) 多勢の人を統率して指揮をする (志 (布施田))

**ひとのくち【名詞】** 噂

**ひとのくちんかかる** 噂になる

**ひとのくちんる** 1) 噂になる 2) 騙される

**ひとのしたいく。ひとのしたまある** 人を立てて自分は  
慎ましくする

**ひとのしりひろう** 揚げ足をとる

**ひとのやま (人山)【名詞】** 多くの人が集まった状態

**ひとばえ【名詞】** 播かないのに生える植物 ひとりばえ  
ひとらばえ

**ひとばか【副詞】** 少しばかり ちとばか ちよつとばか  
し 些と少し いささか、少しの間 ちよつと。副  
詞 ばっかり ばかし 体言 又は体言的なもの 副  
詞活用語の連体形などに接続する物事を限定する意を  
表すだけ のみ 数量を表す語について だいたいの  
分量 時刻 距離を表す[会話] ヒトバカ言うのは、  
ちよいと (少し) の事 ヒトバカ。あつついと (密生  
して居ると) ヒトバカ こぬきたらなはざんわれ  
(間抜きしてやらなければ駄目だ) とか、俺家にも  
ヒトバカくれまあえ (下さい) とか、ちよいと 言うの  
を ヒトバカ。ヒトバカくれへ (下さい)、ヒトバカ  
もろてこかいなあ (貰って行きましょうか) 言うて。  
ちよいと (少し) 言うのと 一緒の事やけど (です)。  
仕事すんのも (するのもの) ヒトバカ、てつとてくれま  
あ (手伝って下さい) 仕事な (が) はるわい (手に余  
る) とか、えらいよってん (大変だから) お前らも  
ちよいと てつとてくれ (少し手伝って下さい) 言う  
のなあ ヒトバカてつとてくれ言うの (のです)。少  
ない事を言うのん (に) ヒトバカ、ヒトバカ休んでか  
んかい (休んで行きなさい)、ひとしきり休まんかい  
(休みなさい) とか、ひとしきり 仕事てつとてくれ  
まあ言う時も有るし (有ります)。

**ひとのはだ (人肌)【名詞】** 1) 人の皮膚、転じて人、異  
性 2) 人の体温程度の温かさ

**ひとのはだぬぐ** 協力する

**ひとはなさかす** 出世する

**ひとのはら (一腹)【名詞】** 1) 一匹の魚の腹に入ってい  
る卵巣 精巣全体 二つで対になる。2) 同じ両  
親から生れた兄弟 3) 鯉船の餌の単位 [会話] 2)

ヒトハラや (だ) 言うて。同じ腹から出た兄弟を ヒ  
トハラにげやけど (人間だが) あんげんも (あんな  
にも) 違うもんかなあ (ものか) 言うて。皆、性格な  
(が) ちごてなあ (違って)。3) かと (鯉) 船行ても  
餌 活けんのん (るのに) ヒトハラ ふたはら言うて  
なあ。ひとかめ言う人も有るし ヒトハラ言う人も有  
るしなあ。1) 魚の 腹ん (の) 中ん (に) 入いっとる  
(ている) 卵な (が) ふたあつ (二つ) 入いっとん  
(ているのを)、二つを ヒトハラ言うてなあ。さい  
ら (秋刀魚) でも なんでも 皆 にほおつやもん  
あ (二本づつです)。つぶこ (卵巣) と、しらこ (精  
巣) と有って しらこ (白子) も ふたあつ (二つ)  
入いっとるしなあ (ています)。

**びとびと【副詞】** 湿気の多い事 べとべと [会話] び  
たつとしとんのおを (して居るのを) ビトビトしとる  
(して居る) とか、水で ビトビトしとるとか、しお  
たれて来て ビトビトしとるとか しとつとる (湿気  
を含んでいる) 事を ビトビトしとる。

**ひとひば【名詞】** 焚火で暖を取る海女の一群 (志、鳥)

**ひとふし (一節)【名詞】** 1) 魚の片身を縦に二分した  
もの 背節と腹節になる (鈴郡、安) 2) 歌などの一  
曲 [会話] 1) かどぶし (鯉節) ヒトフシ、よつわり  
ん (ののを) ヒトフシ。

**ひとぼじれる** 子供が他人が来ると喜んでさわぎ廻る事。  
ひとそばえ参照 (志 (浜島)、度) [会話] 子供が、  
人な (が) 来ると 嬉しがって、おっちゃく (横着、  
暴れる) したり なんやかやすると、ヒトボジレル言  
うて。人が来ると うれしのおで (嬉しいので)、は  
しゃぐのおを (のを) ヒトボジレル。よお おっちゃ  
くしたり (よく乱暴したり) つねせんよおな (普段し  
ないような) 事するわい (します)。そいな時ん (そ  
んな時に) ヒトボジレル言うて。

**ひとまあり** 1) 一廻り 一巡 (志 (布施田) 2) 少し  
ひとまありおつきい 3) 十三年目 干支の一巡  
4) 少しの散歩

**ひとまえ (ひとまへ)【名詞】** 1) 他人の前 2) 大勢  
の人の手前 世間体 (志 (布施田))

**ひとまく (一幕)【名詞】** 一つの場面 事件の一経過  
短かい事件 一挙動 [会話] 芝居のヒトマク、二幕。  
ヒトマク上げて言うてなあ、あいらな (彼等の) ヒト  
マク見たよお (見ました) 言うて、喧嘩したりしとん  
の (しているのを) 見とると (見ていると) 言うね  
(言うのです)。一から (始めから) 終い迄 ヒトマ  
ク見て来たよお (来ました) 言うしなあ。

ひとまち (一町) 【名詞】 人家の集まって居る所

ひとむかし (一昔) 【名詞】 十年を言う

ひとむねにすんだもん 一軒の家で生活した者 [会話]  
他人でも 一軒の家ん (に) 住むと、ヒトムネニスン  
ダモンやのんなあ (だのに)、仲よお (よく) すやえ  
えんけどなあ (すればよいのだが) 言うてなあ。

ひとめ (人怖) 【名詞】 子供が見慣れない人を見て恐れるさま ひとおめ ひとみしり 子供が見慣れない人に対し不安を感じたり恥かしがったりする事 (志、鳥、鈴市、上、阿、張、賀、南) [会話] ヒトメする言うて、恥かしがりやなあ (です)。人 見ると べつつんも (特に) 恥かしそおんしてくのなあ (そうにして行くのです)。ヒトメしとて (して居て) 言うて。子供でも 親とばっかおって (ばかり居て)、他のもん (者) 見ると 怖い言うてすんのを (するのを)、ほん (本当に) ヒトメシで言うて、むつき (おしめ) で顔 拭いてくれやなはざんわれ (くれなければいけない)、ヒトメするよって (から) 言うて。むつきで顔 拭くと ヒトメすんのな (するのが) 治る言うてヒトメせんよおんなるよって (しないようになるから)、むつきで 顔 拭いてくれまあ (下さい) 言うて、此のか (子は) ヒトメシで言うて。

ひとめ (人目) 【名詞】 1) 外聞 世間態 2) 世間の注目 [用例] ヒトメなあんのん (が有るのに) あいな事 (あんな事) して。

ひとめし 【名詞】 見慣れない人を怖がる子供 ひとめ参照 [会話] 子供でも 親とばっかおって (ばかり居て) ほかのもん (者) 見ると怖い言うて すんのを (するのを) ヒトメシ。

ひとめする 人おじする (志 (布施田)、員) [会話] ひとめしよ言うて 人みしりするのを ヒトメスル言うて。

ひとめなあある 他人が見ている [会話] 人らな (が) どげん (どんなに) 言う、こげん (こんなに) 言う、言うて。噂ん (に) なることなあ (です)。ヒトメナアルとか 人目な (が) わり (悪い) 言うて。

ひとめなわり 外聞が悪い 恥かしい [会話] ヒトメナワリ。人らな (人達が) どげん (どんなに) 言う、こげん (こんなに) 言う 言うて 噂ん (に) なる事なあ (です)。ヒトメナアルとか ヒトメナワリ (悪い) 言うて。きみなりな (着た格好が) 悪りと (悪いと)、ヒトメナ (が) ワリワレ (悪いです) もつとええ (よい) 格好せえまあ (しなさい)。世間の人ん (に) 恥かしよおな事すんなまあ (するな) ヒトメナ

ワリノオニ (のに) 言うて。

ひとつじ (一文字) 【名詞】 1) 葱 一つの文字 女房言葉 葱の事を“き”と一言で言った事から (津、南) 2) わけぎ (志、鳥、伊) 3) 一筆 証文 [会話] わけぎ (葱の一種) を ヒトモジ言うやんかい (言います)。字 (じい) を書いても ひとつじ (一文字) 言うし (言います)。ヒトモジ書いてくれまあ (下さい)。ヒトモジ書いたとか、一筆 (ひとふで) 書いてくれ (下さい) 言うのを、ヒトモジ言うんかいなあ (言うのでしょうか)。ヒトモジ 書いといてもらやなあ (ておいて貰へば) とか、言う時な (が) あんなあ (有ります)。なんやかや もおた (貰った) 時でも 又 おこせ (よこせ) 言うて来ると はざんよって (いけないから) ヒトモジ書いといてくれ (ておいて下さい) 言うて。昔の人らな (人が) 恋文みたよおん (のように) して。 “一筆 (一) しめし まいらせ候 にあわぬ (二、似合わぬ) 私心から 散々 (三) 貴方に恋をして よろず (四) もろずの苦勞して 御縁の深さ (五) 貴方様 ろくに (六) 夜の目も寝やさずに (寝ささずに) 七十五日 (七) のそのあいだ やよに (八) 心を砕かれて 腐れ鮑の片想い (九)、砕く心の切なさ) 重々 (十) 私が 悪るかった 万一御返事下されたく候 あらあらかしこ” 言うて なんごお (長く) 書くと、おやまのふみや (女郎の手紙だ) 言うて、おやまの文 (ふみ) 程 書いておこした言うて なあごお (長く) 手紙 書くと。一筆 しめし (おむつ) まいかけ (前掛け) ふんどし (褲) 言うて、よお (よく) 若いしな (若い衆が) 作り替えん (に) 言いおったわい (言っていました)。

ひとつち (一餅) 【名詞】 一塊り 団子状態 多くの物 (者) が集まって一塊りになっている状態 [会話] もさ言うなだ (のは)、ヒトモチんなつとる (になっている)、かたまつとる (塊まっている) 事を、まるけたたよおん (丸めたように) しとんのおを (しているのを)。

ひとつちんなる 一塊りになる (南) [会話] あやれまあ (あれ) ふたんな (二人が) 朋輩で じょつく (いつも) ヒトモチンナツトラレ (になっている) 言うてなあ。ヒトモチン (に) ナツテ ふたんな じょつく あそんどんね (いつも遊んで居るのだ) 言うてなあ。糸やどけな (などが) まつなつてもなあ (こんがらがっていても)、おおた ヒトモチンナツテ (になつていて) なつとも かつとも 出来やへんよお (出

来ません) ヒトモチンシタタヨオ (にってしまった)  
言うて。一塊りんしたて (にってしまった) ほどかれ  
やせん (解けない) 言うのを。

**ひとつもと (一本) 【名詞】** 草や木の一本 一株 (志) [会  
話] びんぼぐさ ヒトモト、秋ん (に) 割ったら  
(実が割れたら) 此処ら 一面に なつてくんの (来  
るのです)。

**ひとつもやい 【名詞】** 男女が仲よくする。一対 もやう参  
照 [会話] 男と おなごな (女が) 仲よおすんのも  
(仲よくするの) もやいやよつて (だから)、ヒト  
モヤイや (だ) 言うて。

**ひとつやまづいとる。ひとつやまづいとる** 多勢の人か集ま  
って居る 一山 或は人山 [会話] 人な (が) よけ  
たかつとると (沢山集まっていると) ヒトヤマツイト  
ル (ついている) 言うて。

**ひとつよ 【名詞】** 一重 ひとへ 單衣 次項 ひとつよ参照  
(阿、張、賀)

**ひとつよ (一夜) 【名詞】** 一夜 ひと晩 ある晩 [会話]  
今宵 ヒトヨはお泊りか言うて、今宵 ヒトヨ言うの  
も有るし。なんでも 一枚のもん (物) を ヒトヨ言  
うて。重ねて有るもんを ふたよ言うし。ひとえ 一  
枚のもんを ひとこや (だ) 言うて。ひとえのもんや  
(だ) 言うて、ふたあつ (二ケ) あわせると あわせ  
言うし (言います)。ヒトヨ言うのは 一枚 そして  
ひとよさ (一晚) 言うのも ヒトヨ言うやんかい (言  
います)。今宵 ヒトヨは お泊りなせ言うやんかい。

**ひとつよご 【名詞】** 一度の性交で出来た子供 一夜子

**ひとつよご 【名詞】** 髪<sup>の</sup>結い方の一種 三つ組の変形  
[会話] ヒトヨゴ言うとなあ、此れを こやつて (こ  
うして) 結すんどいて (でにおいて) 入れるもんで (の  
で) 端を こやつて曲げてするもんでな (するので)  
三つになるんやんかな (なるのです)。

**ひとつよさ (一夜) 【名詞】** 一夜 一晚 (志 (志島)) [会  
話] 一晚の事を ヒトヨサ言うの (のです)。ヒトヨ  
サじゅう ねやらつた (寝なかつた) とか、考えとた  
(て居た) とか言うのなあ (のです)。ひとつよのよ  
(夜) も そわんと (沿わずに) 死んだてなあ (死ん  
だそうだ) 言うて。

**ひとつら 【名詞】** 他人 人は (志 (布施田)) [会話] わ  
たしや (私は) 此れしとんねよお (しているのです)  
言うて、ヒトラナ (が) しとるのおは (しているの  
は) しとたんよお (していました) 言うて。

**ひとつらげ (人家) 【名詞】** 他人の家 よその家 [会話]  
ヒトラゲの かあさんな (母さまが)、磯 (海女) か

ら 上つて来て 榮螺焼いたりしとると (して居る  
と) けなりて (うらやましくて)。

**ひとつらご 【名詞】** 一人子 ただ一人の子供 (南) [会話]  
ヒトラゴで おちよげの花 (大切なもの) で 育つて  
言うて。

**ひとつらごと 【名詞】** 独り言 (志) [会話] ほん (本当  
に) おとつしや (ああ)、今日は一人で さべして  
(寂しくて) 誰も来やせんし (誰も来ないし)、歌  
でも うとてしとろかなあ (歌ってしてしようか) お  
もて (思つて) 独り言言うて、ぶつぶつ言うとの  
(言っているのを) ヒトラゴとなあ。

**ひとつらし 【形容詞】** 人間らしい 普通の人としての行動  
に言う。

**ひとつらなる** 一人前になる 生長する ひとつなると同じ  
[会話] ずずつと 次から次へすんの (するのを) ヒ  
トラナル。

**ひとつらばえ** 自生の植物 種を播かなくて生えた植物  
ひとりばえ [会話] 自然になあ、ひとり (自然に)  
土手ん (に) 生えんのなあ (るのです)。種 播かん  
でも (なくても) 小鳥な (が) くわえて来てなあ、糞  
たれると そんな (それが) はえんのなあ (るの  
です)。ヒトラバエ 自然に はえてくんのを (来るの  
を)、種とらんとほつとくと (採らずにほうっておく  
と) ヒトラバエ。種 採つて 播くのは 播いた言う  
し (言います)、種な (が) 落ちて 一人で 時期な  
(季節が) 来ると 生えて来るやんかい (来ます)。  
そいなのおを (そんなのを) ヒトラバエや (だ) 言う  
(言います)。畔豆なら 畔豆 (大豆) を ちよいと  
(少し) みい (実) 入らしたて (成熟させてしまつ  
て)、はじけて、種な (が) 落ちたのおを (のを) 来  
年なると (になると) ほつとくと ヒトラバエして来  
んのなあるわい (来るのが有ります)。なすび (茄  
子) の ヒトラバエ 喰わんもんや (食べないもの  
だ) 言うて。一回 植え替えななあ (なければ)、ヒ  
トラバエでも取つて 植え替えるとええんけど (よい  
のだが)、ヒトラバエんのお (ののを) そんなり (そ  
のまま) 喰うと 悪り (悪い) 言うて、ヒトラバエ  
んな (のは) 喰わせんの (食べないのです)。ほて  
(そうして) それは べつに (特に) どお 言う事は  
無いけど (が)、ヒトラバエんのお引いたや (引き抜  
いたら)、にげ (人間) の しらくびやら (白骨と  
か) 目やら (とか) 歯やら (とか) かあ (皮) から  
芽が出とたんのおを (出て居たのを)、そんな (それ  
が) 出て来て。植えんねやつたら (るのだったら) そ

げなのおの (そんなの)、上ん (に) 植えやせんけど (植えないが)、ヒトラバエ しらこべ (白頭蓋骨) のあい (間) から 生えたのな (のが) 有ったん やるなあ (有ったのでしょう)。そんで (それで) それから ヒトラバエは 喰わんもんやてわれ (食べないものだそう) 言うて。

**ひとりみ【名詞】** 一人身 独身 (志 (布施田、鶴方、神明、志島、国府、安乗))

**ひとりむすこ【名詞】** 一人息子 唯一人の男の子 ひとりむすめ参照

**ひとりむすめ【名詞】** 一人娘 ただ一人の女の子 [会話] 一人より無いのをなあ、男のこお (子) ならヒトラムスコ。おなご (女) のこおなら ヒトラムスメ。あや (彼女は) まあ ヒトラムスメな (で) 盟の水やあれ (だ) 言うて、持ちも かたげも (傾けも) 出来やせん (ない) 言うて。気儘に育つとなあ、我儘ばっかすので (ばかりするので) 盟の水も一緒に一人で たごたごして持たれやせんやんない (持てないでしょう)。それん (に) 例えてあんねやるなあ (有るでしょう) なつと (なんと) 言うても 聞かへんしなあ (ないし)、ひとりご (一人子) で 気儘ん (に) 育つもんで (ているので) 我儘ばっか (ばかり) でああ。

**ひとりむすめとたらいのみず【俚諺】** 手に負えない。ひとりむすめ 参照

**ひとりめ (人目)【名詞】** 人の目 世間の人の見ていること 世間の目

**ひとりめ【名詞】** 一人者 (志 (神明、甲賀)) [会話] まにし (強い西風) と、ヒトラメ 陰な (が) 無い言うて。ヒトラメのもな (者は) 陰も日向も無しん (に) 働かなはざんもんで (なければいけないので)、ヒトラメ 陰な (が) 無い言うて。

**ひとり** 自然に ひとりでに 勝手に [会話] ぞらす (落す・崩す) 言うのは 人な (が) するし。ぞれる (落ちる・崩れる) 言うのは ヒトリぞれて (落ちて) 来るのを。

**ひとりあたま** 一人当り

**ひとりあるき【名詞】** 1) 自主独立 2) 赤ん坊の歩き始め

**ひとりご (独子)【名詞】** 兄弟姉妹の無い子

**ひとりでん【副詞】** 自然に んとにの音便 [会話] ヒトリデニ して来た 言うのは ぐわれて来て。ヒトリデン そげなつてたれ (そんなになつていった) 言うてなあ。自然に言うのをなあ、ヒトリデニ言うの。

なんも (少しも) てえ (手) 加えやせんけど (ないのだが) 自然に生えて 自然とあげん (あんなに) おつきなつたない (大きくなった) 言う事を、ヒトリデン おつき (大きく) なつたなあ言うて。なんも世話しや せんのん (しないのに) ひとりまあ。

**ひとりど。ひとりどん【名詞】** 一人の人 彼 あいつ [会話] ヒトリドン来たれまあ (来ました) 言うて。なんかちよいと (何か少し) 変つたよおな人をなあ、ヒトリドン来たどよ (来たぞ) 言うてなあ。仲間外れん (に) しとるよおな (しているような) のおをなあ、あの人な (が) 来たれ (来た) いやえねけど (言えよいのだが) ちよいと変つた人やもんでなあ (なので)、ヒトリドンや (だ) 言うんやんかい (のです)。

**ひとりばえ【名詞】** 種を播かないのに 生えて来る植物 ひとりばえに同じ (志 (鶴方、神明、立神、志島、国府) [会話] 種 播かへんのん (ないのに) 生えてく んの (来るのを)、鳥な (が) 喰わえて来ると よおヒトリバエしとるわい (しています)。密柑の種やたら (とか) 柿の種や (だ) 梨や (だ) 言うて、鳥な (が) 喰わえて 来るもんでなあ (ので、なんも (なにも) 植えやせんの (ないのに) ヒトリハエと んの (ているのを) ヒトリバエ。鳥な (が) 喰わえて来て はこ (便) たれるやんない (するでしょう)。そすと そん (その) 中ん (に) まぜつと んのお な (ているのが) 生えんのなあ (るのです)。

**ひとりまわり** その人一人の持ち分 一人当り [会話] ヒトリマワリ、桶やてら (とか) 布団やてら (とか) 三つ四つうつ (づつ) 有りおつて (有って)。

**ひとりもん (一人者)【名詞】** 独り暮らし 独身生活者 1) 未亡人 2) 男やもめ [会話] 1) 2) ひとりみも、ヒトリモン (者) も 一緒に事やなあ (です)。一人おるもん (者) を ひとりみ。あや (彼は) ひとりみやよつてん (だから) 言うて。後家や やまめ (やもめ) は 結婚した事有るけど (が)、オールドも ひとりみ言うわい (言います)。結婚せんと (せずに) 若い時なら、娘や (と) 言うくど (が)、その時期過ぎてくと ヒトリモんや (者だ) 言うて、お な ご (女) でも 男でも。後家か やまめか 親無しか言うて。

**ひとりや** 一人は あの人 第三者を示す (志 (布施田))

**ひとりやで** 一人だから

**ひとりやよつてに。ひとりやよつてん** 一人だから

**ひとりわり (一応)【副詞】【名詞】** 全員に割り当てられ

た物が行き渡る事。一応。

**ひとわん。ひとわんふたわん** 数のかぞへ方 二つのも  
のを一として数へる時に用いる。[会話] 物を ふた  
あつ (二ケ) を いっぺん (一遍) に 数えんのおを  
(数えるのを) ヒトワン フタワン言うて。

**ひなおりる** 月経になる 火が降りる [会話] 月経に  
なると、今日は ヒナオリル言よおったもん (言っ  
て居たものです)。

**ひなか (日中) 【名詞】** 昼間 日中 (志 (甲賀)、鳥 (神  
島)、安) [会話] ひんなか言うて ヒナカ言うのを。

**ひなた (日向) 【名詞】** 日光のよく当る所 [会話] ヒ  
ナタ言うな (のは) 日のよお (よく) 当るとこなあ  
(所です)。かいとのひなて (日の当る所) 言うて、  
家のどてぎわん (土堤際に) ぬくたいとこな (温い所  
が) 有ると、はよ (早く) かいとのひなて 行け言うて、  
ヒナタ いて (行つて) ぬくとまったり (温まったり)、  
火 焚いて 当ったり。かいと言うな (のは)  
家の廻りのとこ (所) を かいと言うの (のです)。  
ひなてで 虱 取る言うて、ひなて行て (日の当る所  
行つて) しらめ (虱) 取つとりおった (取つて居まし  
た)。

**ひなたあめ 【名詞】** 日が照っているのに降る雨 晴れて  
いるのに降る雨 ひなてりあめ参照 [会話] けつね  
(狐) の 嫁どりや (結婚式だ) 言うて、ヒナタアメ  
な (が) 降ると。

**ひなたくさい (日向臭い) 【形容詞】** 日光によく照らさ  
れた物の持つ持の臭さが有る (志 (布施田)、南)  
[会話] 芋の切り干しでも しらきり干し、炊かんと  
(炊かずに) 切つて干したのおを (のを) そんなり  
(そのまま) 飯 炊くと ヒナタクソオテ (臭くて)  
うまないんてや (美味く無いのです)。ちよいと (少  
し) ざあつと 炊いたのおは (のは) 臭さないんけど  
(く無いが)、しらきりぼし 切つたまま 飯 炊く  
と ヒナタクソオテ。ヒナタクサイ言うても くてみ  
やな判らせん (食べてみなければ判らない) 嚙んでみ  
やな 判らせん、なつと (なんと) 言うて ええんや  
ら判らせん (よいのか判らない) かざやなあ (嗅いで  
す)。喰うとさいご (食べると) ヒナタクサイ言うん  
けど (言うのです)。

**ひなたぐそ 【名詞】** 最も臭いもの [会話] 一番臭いも  
ん (物) を 言え (言いなさい) 言うたら、にらに  
にんにく だいこ (大根) の げつぷ、ヒナタグソ言  
うて にえて来ると (熱せられると) くさいんやろな  
あ (臭いなのでしょう)。ひなて (日の当る所) で 糞

たれて ぬくとなつて (温かくなつて) 来てすると、  
臭いねなあ (のです)、しょおしよ (少々) のかざや  
ねえね (嗅いでありません)。そんで (それで) ヒナ  
タグソ言うねやろなあ (言うのでしょうか)。ヒナタグ  
ソを言うな (のは) 臭いもん (物) の 代名詞や (で  
す)。

**ひなたぶくろ 【名詞】** 日光のよく当る所で暖をとること  
ひなたぼっこ。ひなたぼこりの変化した語 陽光に身  
を温むるをヒナタブクリと言うはヒナタボコリなり。  
古今著聞集云、或田舎人京上して侍りけるが、宿にて  
天道 (ヒナタ) ぼこりして居たりけるに云々。ひなた  
ぼこり ヒナタであたたまること。ひなたぼっこ ひ  
なたぼこ ひなたぶくり ひなたぼこう ひなた な  
は のの意。た は こなた そなたの たと同じ方  
向を表すものか。日の方の意から日の光の当たる方、  
またその場所。[会話] ヒナタブクロしとるてやら  
(していると)、ひなてり (日の当る所) で 色  
くろまして (黒くして) 言うて、冬の頃なら ひなて  
りに おると (居ると) 真つ黒んなつててなあ (にな  
つてしまつて)。

**ひなたぼっこ 【名詞】** 日光のよく当る所で暖まる事  
(志 (浜島)) [会話] ヒナタボッコ言うのは ひな  
た (日の当る所) で ぬくとまつとんの (暖まつて居  
るのを) ヒナタボッコして言うて。かいと (土堤の日  
の当る所) で ぬくとまつとんのなあ (暖つたまつて  
居るのです)。

**ひなたみず (ひなたみづ) (日向水) 【名詞】** 日に当つて  
あつたかくなつて居る水。また、なまぬるい水 (志  
(布施田)) [会話] ヒナタミズしといて (しておい  
て) あびよやんかあ (浴びましょう) 言うて、夏ん  
(に) なると ヒナタミズしといてなあ、ひんなか  
(日中) 畑から来ると 浴びてなあ。ヒナタミズ言  
うのは 盥え 水汲んどいて (でにおいて) ひなて (日の  
当る所) え やつとくの (置いておきます) 畑から来  
ると、それ 浴びてなあ。

**ひなつく** 水気が少なくなる 萎れる

**ひなて 【名詞】** 日の当る所 [会話] 虱な (が)、ヒナ  
テおると (居ると) うわばい (上の方へ匂い出して)  
して 髪の上ん (に) ほおとりおった (匂つていまし  
た)。

**ひなでこ 【名詞】** 人形 ひな 接頭語 名詞について小  
さい、愛らしいの意を表す (志 (神明)) [会話] ヒ  
ナデコ言うな (のは) 人形の事。ヒナデコ こおて  
(買って) 貰うと、嬉して 嬉して まいきつてく

(舞い上る)程 嬉しねけど (嬉しいのだが)、よおこおてもらおかい (買って貰へません)。おかつぱん (頭髮の型に) して。立派な ヒナデコな (が) 有って、そして 器量のええ (よい) 子見ると ヒナデコみたいなあ (のようだ)。わしらな (私達の) 孫のときゃ (時は)、おまつでこやったけど (だったが) わしらな時や (は) ヒナデコで、ヒナデコ 持つとる (て居る) 子ら (子供は) そげん無かったなあ (そんなに有りませんでした)。ヒナデコ こおて貰おや (貰おう) 言うたや (言へば)、どいらい (大変) 金持ちの家やなけな (で無ければ) こおてくれよかい (買ってくれません)。あいな (あんな) ねだかいもん (高価な物)。てのげい (手拭) を まるめてしといて (しておいて)、でこや (人形だ) 言うて 持つとりおったの (持って居たのです)。てのげ (手拭) で、こさえて (作って) それを抱いて でこごとしよおや (人形遊びしましょう) 言うて そいんしよおったの (そんなにして居たのです)。ヒナデコ言うとおかつぱで 立派ん (に) しとんのなあ (して居るのです)。器量な (が) ええもんで (よいので)、赤ちゃんな (が) 生れても おおた (おお) 此のか (子は) ヒナデコみたい (のよ様な) じっぱ (立派) な子やなあ (だ) 言うて。ヒナデコは あねさんにんぎよ (姉さん人形) と 又 ちごて (違って)、おかつぱん (に) して きもん (着物) は 振り袖着せて ねりもんみたい (ねり物・粘土のような) もんやったなあ (物でした)。

**ひなてり【名詞】** 日光の当る所 (志 (布施田)) [会話] 日な (が) 照るとこなあ (所です)。ヒナテリや (だ) 言うて、ひなたやとか (だとか) ひなたへしとけ (しておけ) とか、ヒナテリへ しとけとか 日当りのええとこ (よい所) を ヒナテリや (です)。せんたくもん (洗濯物) も 日当りのええ (よい) 方へ廻せとか 日の照る方を ヒナテや (と) 言うて。ひなても ひなたも ヒナテリも 皆 一緒の言葉やけどなあ (です)。

**ひなてりあめ (日照雨)【名詞】** 晴れて居る時に降る雨日 日が照って居るのに降る雨 (志 (船越)) [会話] ヒナテリアメ 言うて、日な (が) 照っとても (て居ても) ひげ雨な (細雨が) 降っとる (て居る) 時な (が) 有るやんない (有るでしょう)。けつね (狐) の 嫁取りや (結婚式だ) 言うて、狐な嫁取っとんねて わい (取って居るそうだ) 言うて ひなた雨な (が) 降ると。

**ひなぶり (火弄)【名詞】** 火を持って遊ぶ事 火遊び (員、張、賀) [会話] ヒナブリ 言うて、ひい (火) 弄ると しょんべたれんど (小便するぞ) 言うて 子供らな (が) ひいたくさん (火を焚く座) で 火なぶると、そや (それ) ヒナブリすると しょんべたれんねど (小便するのだぞ)、よさり (夜) 寝しょんべ (小便) を言うて 言いおったの (言って居たのです)。

**ひなわりなる** 月経になる 火が悪くなる [会話] 月経になると ヒナワリナル 言うて。

**ひにぐれ【名詞】** 日暮れ 夕方 [会話] ひいてや (一日とか) 二日潮や (だ) 言うて、朝な (が) 早いね (早いのです) そすと ここのか (九日) や とおか (十日) 言うて ヒニグレン (に) なつてくやんかい (なつて行きます)。ここのかじおのにちぐらし (九日潮の満暮し) 言うて、日な (が) 短かい時や (は) 日暮れん (に) なつてくね (なつて行くのです)。

**ひにげ。ひにげにやに** 人を除く時の言葉 [会話] お前 のけ (やめよ) 言われやせんもんで (言えないので)、ヒニゲニしよおや (しましょう) 言うて、当たたもんな (者が) のく (やめる) 事に しよおったやんかい (していたのです)。

**ひにごつと【名詞】** 毎日 ひんごつと 参照 (志 (布施田)) [会話] 毎日の事を言うのなあ (です)。ヒニゴツト こいな (こな) おかつぱか (副食ばかり) で。

**ひにちぐすり (日日薬)【名詞】** 疾病が日が経つにつれてよくなること、日の経つのが薬と同じ役割をすること。(南) [会話] ヒニチグスリ。まあ ひにちな (日数が) 薬やれ (だ) 言うてなあ。おびやどな (産婦が) ひだちな (が) わりと (悪るいと)、まあなあ ひにちな薬やれ、ひにちなたちや (日数が経てば) よお (よく) なつてくられ (来ます) 言うて。

**ひにちに** 毎日毎日

**ひにちまいにち (日日毎日)【名詞】** 毎日、毎日毎日 (志 (布施田)) [会話] 毎日の事をなあ (です)。ヒニチマイニチ 来とんねてやら (来て居るのだとか) 毎日来ると そげん (そんなに) 言うし 毎日 仕事せん と (せずに) おると ヒニチマイニチ あそで (遊んで) 暮して 言うて 毎日の事を ヒニチマイニチ。

**ひにちん** 毎日毎日 (志 (布施田))

**ひにのびた** 妊娠した [会話] 今しや (今は) 妊娠する 言う やんない (でしょう)。孕んだね (のだ) 言う



人も有るしなあ。まあ ヒノビテ まあ言うて。月経な(が)止まるとなあ ヒノビト<sup>ン</sup>ネテナイ(ているのだそうだ)言うてなあ、妊娠した言う事や(です)。

**ひにひに【副詞】** 一日過ぎる毎に [会話] ヒニヒニ おっきな<sup>って</sup> (大きくなって) 来たなあや<sup>ら</sup> (とか)、ヒニヒニ すかんよ<sup>ん</sup> (嫌なように) なって来たなどか言うて。日にましすかん事言うよ<sup>ん</sup> (ように) なって来たたら (とか)、日にまし おっきな<sup>って</sup> 来たたら、一日毎に言うのな (言うのです)。子供らでも日にまし おっちゃん (横着・乱暴に) なって来て言うて、ひにち たつご<sup>つとん</sup> (たびに) おっちゃん<sup>ん</sup> なって来ると 日にまし おっちゃん<sup>ん</sup> なって言うて。

**ひにまし【副詞】** 一日ごと 日が増すにつれて ひにひに参照

**ひにもまいにも【形容詞】** 毎日 毎日毎日 [会話] ヒニモマイニモ言うて、毎日すると。あした (明日) もあさ<sup>って</sup> (明後日) もすると ヒニモマエニモ うな<sup>し</sup> (同じ) 事し<sup>とる</sup> (している) 言うて。

**ひにもまえにも【形容詞】** 毎日 [会話] 嫌な事な (が) 有ると、やけ酒飲んで ヒニモマエニモ 飲<sup>ん</sup> どんね<sup>てない</sup> (飲んでいるのだそうだ)。

**ひね (陳)【名詞】** 1) 用いられないまま古くなった物 古くなった穀物や野菜 特に一年以上前に取れた穀物 (志 (浜島、布施田)、鈴市、一、飯、阿、張、賀) 2) 老熟して居る事 ませ<sup>て</sup>居る事 又その人[会話] 1) 今年<sup>ん</sup>のおは (ののは) 新米言うし、去年 (昨年) の、のおは (ののは) ヒネ、一年ヒネ<sup>ん</sup>のおを (古くなるのを) ヒネや<sup>とか</sup> (だとか)、二年ヒネや (だ) とか、年数な (が) たつのを 勘定して (数へて)、三年目も ヒネや<sup>れ</sup> (だ) こや (此れは) 三年ヒネや (だ) とか言うて。2) にげ (人間) でも、ひねこ<sup>し</sup>とヒネコや (だ) あや (彼は) 言うて、子供で<sup>おっ</sup>てん (ありながら) 大人み<sup>たい</sup>な (のよ<sup>う</sup>な) 事すると、ましえこや<sup>な</sup>あ (だ) とか、ヒネコや<sup>な</sup>あとか。そす<sup>と</sup> (そおすると) そお言うよ<sup>お</sup>な事をするのを ヒネコシ言う<sup>の</sup> (のです)。子供で<sup>おっ</sup>てん (有りながら) 大人み<sup>たい</sup>な事をするこ<sup>お</sup>な (子が) 有るや<sup>ん</sup>かい (有ります)。言うたり、したりするこ<sup>お</sup>な (子が) ヒネコシ言うて。

**ひねぎる【動詞】** 指先でひねる つめぎる参照 (志 (布施田)、松、北、尾、南) [会話] ヒネギル言う<sup>の</sup> (のです)。爪たてて 爪で捻<sup>じ</sup>って、爪ぎ<sup>っ</sup>ておこ

した (よこした) 指で<sup>す</sup>んの (するのを) ヒネギル えぐる言うて。

**ひねくさい【形容詞】** 古くなっている 古くなってにおう

**ひねくりま<sup>あ</sup>す (ひねくりま<sup>は</sup>す)【他サ五】** あちらこちら触りま<sup>わ</sup>る こねま<sup>わ</sup>す

**ひねくる (捻)【他ラ五】** 1) 曲げる ひねる (上、阿、張、賀) 2) 無理やりにこじつけた理屈を言う [会話] 1) 歩いても 腰 曲<sup>げ</sup>たり ヒネク<sup>ッ</sup>たりし<sup>と</sup>ると (していると)、あのた<sup>っ</sup>ばい見よ<sup>ま</sup>あ (格好見なさい)。

**ひねくれ【名詞】** 1) 根性曲り 意地悪い者

**ひねくれと<sup>る</sup>** 1) 性質がねじ曲<sup>っ</sup>て居る 2) 形が曲<sup>っ</sup>て居る [会話] 1) あや (彼は) まあ ヒネクレ<sup>ト</sup>ンネヨ<sup>ッ</sup>て (ているのだから) 言うて、なんか、ええ (なにかよい) 事言うても わ<sup>り</sup> (悪い) 方面へ<sup>と</sup>てくのな<sup>あ</sup> (取<sup>っ</sup>て行くのです)。

**ひねくれも<sup>ん</sup>【名詞】** 性質のねじ曲<sup>っ</sup>て居る者 [会話] あや<sup>な</sup>あ (彼は) ち<sup>っ</sup>さいから (小さい時から) あげ<sup>ん</sup>、ねじ<sup>く</sup>れた (あんなに曲<sup>つ</sup>た) 事ば<sup>っ</sup>か<sup>し</sup>と<sup>る</sup>も<sup>ん</sup>で (ばかりしているの) その癖な (が) う<sup>さ</sup>らせ<sup>ん</sup>ねや<sup>れ</sup> (なくならないのだ) 言うてな。ほん<sup>と</sup> (本当) の ヒネクレ<sup>モ</sup>ん<sup>な</sup> (が) お<sup>る</sup>も<sup>ん</sup>な<sup>あ</sup> (居ます)。

**ひねくれる (捻)【自ラ下一】** 性質がねじけて素直でなくなる ひがむ すねる また一風変<sup>っ</sup>て居る。(熊) 捻<sup>け</sup>れる まがる ゆがむ 性質が素直でなくねじけて居る 2) 曲る 3) すねる 怒る [会話] 1) ヒネクレ<sup>と</sup>んのおは (て居るのは) ぐれ<sup>と</sup>んのお<sup>な</sup>あ (て居るのです)。ヒネクレ<sup>と</sup>る (て居る)。ぐれ<sup>て</sup>くと (て行く)と 親の言う事 聞か<sup>ん</sup> (聞かない)、だ<sup>な</sup> (誰の) 言う事 聞か<sup>ん</sup>、したい事、し放題してし<sup>と</sup>ると (して居ると) あや<sup>ま</sup>あ (彼は) ヒネクレ<sup>ト</sup>ルとか ぐれ<sup>と</sup>るとか言うて。ヒネクレ<sup>ト</sup>ルよ<sup>っ</sup>てん (て居るから) あや (彼は) 人の言う事聞か<sup>せ</sup>んのや<sup>れ</sup> (聞かないのだ)。わ<sup>が</sup>と (自分が) ち<sup>よ</sup>いと (少し) 気に喰<sup>わ</sup>ん (入らない) 事な (が) 有ると、それを ね<sup>た</sup>ん (原因に) して、したい放題し<sup>と</sup>ると、あや ぐれ<sup>と</sup>んね<sup>ど</sup>お (て居るのだ)。

**ひねこ【名詞】** 年令以上に大人のように振るまう子供 [会話] ヒネコ<sup>の</sup> ○○や (だ) 言うて 若い時 ひねこ<sup>し</sup>ふう (大人のような格好) し<sup>よ</sup>ったも<sup>ん</sup>で (して居たのだ)。

**ひねこし【形容詞】** ませた子供 大人ぶる ひねこ<sup>び</sup>る

陳(ひね) こびる 古びた様子で有る 古めいて居る  
ませて居る こましゃくれて居る ませる 子供が年  
令のわりに大人びる。ひね参照(志(布施田、鶴方、  
神明、甲賀、国府)、度)

**ひねこびとる** ひねを強めた語 年令以上に見える

**ひねこびる【自バ上一】** ませている ひねている ひね  
るを強めた語 こびる こびりつく 堅くつくの意  
(一、尾、北)

**ひねた** 1) 古くなった 2) 年寄りじみた。大人のよ  
うだ [会話] 2) ヒネテキタナア あのかあ (子は)  
言うて。成長して来るのをなあ、ヒネテキタ言うて、  
ませこ (ませ子) と一緒。ヒネテナア (ていて) あ  
や (彼は) 言うて。

**ひねづけ(陳演)** 1) 長時間漬けた漬け物(四、多)  
2) 時代遅れの人 [会話] 1) 去年 (昨年) したのお  
を (のを) ヒネツケや (だ)。去年 漬けたもん  
(物) は言うし (言います)。なんでもだ (何でも)  
ひねん (古く) なったもん (物) は ヒネツケや なあ  
(だ) 言う時もあるし。2) にげ (人間) でも 遅れた  
(昔の) 事言うて あや (彼は) ヒネツケや れ (だ)  
言うやんかい (言います)。昔かたぎで 現代の事言  
うても (言っても) それを まにしえんと (真・真実  
せずに) 昔の事ばっか (ばかり) 言うたり したりし  
とると (していると)、あやまあ (彼は) ヒネツケや  
よお (だ) 言うやんかい。

**ひねとる** 1) 古くなって居る 2) 年令以上に大人び  
て居る(志(片田、布施田、立神)) [会話] 2) こつ  
べとる (老成している) 言うな (のは) ヒネトル事。

**ひねみそ【名詞】** 年教を経た味噌 [会話] 三年も 四  
年も経つとなあ、ヒネミソ。おつけ喰うても 後で  
口な (が) しぶくんね (渋くなります)。

**ひねり【名詞】** 1) おひねり 花 投げ銭 2) 洗米を  
紙に包んだ神前の供物(阿) [会話] 2) 米を 神さん  
に 参ったりすんの (するの)に、紙い (に) 入れと  
いて (ておいて) 捨るやんない (でしょう)。そやも  
んで (それで) ヒネリ言うねやろ (言うのでしょうか)。  
ヒネリして 神さんへあげとけ (供へておけ) 言うて。  
あらくさ (豆播き) の豆でも 捨って神さんへ あげ  
るやんない (供へるでしょう)。神さんや 佛さんへ  
紙い (に) 包んで ヒネリや (と) 言う。しらかみ  
(白紙) でも ちり紙い (へ) でも 入れといて (て  
おいて) 一つ 捨じとくわい (捨じっておきます)。  
口 あいてこんよおん (来ないように) そいなのおを  
(そんなのを) ヒネリ言うの (のです)。あらくさ

あらくさ言うて 撒くやんな (でしょう) 神さんや  
ふべつさん (恵美須様) と、佛さんへは ひねってし  
とくと (しておくと)、雷な (が) 鳴って来ると、お  
ととし (一昨年) の豆 頂ただけ言うて、それ 噛み  
よおったの (噛んで居たのです)。まじないや (です)。  
悪病除けやなあ (です) 災難よけや (です)。1) 銭  
包んで 芝居で あや 花や (です) 花入れへ (入れ  
なさい) 言うて。只今の花は言うて ヒネリして ほ  
った (投げた) 言う時もあるけど たいがい (大体)  
花や (です)。花 投げたとか 花 入れたとか言う  
やんかい (言います)。

**ひねりそで【名詞】** 袖付けの一種 布を斜にしてつける  
袖 [会話] ヒネリソデ言うて きれ (布) を ちよ  
おいと (少し) はすかい (斜に) ねじってすると き  
れな (布が) よけ要らへん (沢山要りません)。

**ひねる(陳)【自ナ下一】** 古くなる 年を取る ませる  
ひね ひねこし参照(志(浜島))

**ひねる【他ラ五】** つねる 指の先に挟んで振る。引き練  
るの意(大言海)

**ひのいり(日入)【名詞】** 日没 太陽が西の地平線又は  
水平線下に入ること また その時刻 [会話] 日  
の いってく (入って行く) 事、日没の事。ヒノイ  
リ迄 まあ 今日 は 仕事してなあ言うてなあ。ヒノ  
イリン (に) なったら こなはざんどお (来なければ  
駄目だ) 言うて、子ららな (子供達が) 遊びんいとる  
となあ (に行って居ると) 夕方言うの (のを) ヒノイ  
リ。

**ひのいりやい【名詞】** 日没 夕方 [会話] 日没の事  
ひのいりや (だ)。ヒノイリヤイや (だ) 言うてなあ  
西へ落ちてくと (て行くと) ヒノイリヤイ迄 仕事し  
とて (して) 言うて。

**ひのきがえ。ひのけがえ【名詞】** 月末のかまどを始め台  
所の掃除 ひがえ参照 [会話] 今日は ヒノケガエ  
で言うて おつごも (大晦日) 言うて、特に丁寧にし  
て。ヒノケガエ 月ん (に) 一回つなあ 戸棚な  
(の) もん (物) も、棚のもん (物) も 降ろして、  
あろて (洗って) 神さんや佛さんも 皆 掃除してな  
あ、ひがえもせんとおんね (せずに居るのだ) 言うて  
なあ。あんで (あれで) おなごな (女が) よけ (沢  
山) おるよつてなあ (ので) 穢れるし、それを浄める  
言うよおな 意味やろなあ (でしょう) そして 綺麗  
に つね (普段) は しておられやせんもんで (して  
おれないので)、月に一回つ そげんして (そんなに  
して) 鍋の炭も じっばん (立派に) 軽石ですって

(こすつて) ぴかぴか (に) して、鍋の炭でも 毎日 軽石ですつとる (こすつている) 言う こた (事は) 出来やせんやんない (ないでしょう)。束子でしゅつと しとく だけで (しておく)、束子も 縄の束子で そして そんでええねもん (それでよいのです)。かめだあし (亀の子束子) するとなあ 炭 (が) 飛んで そこら中 ばちばちと だっぴん (べたべたに) なるけど (が)、なあまる けといて (縄丸めて) すると、飛ばんで ええんでや (よいのです)。

**ひのくれ (日暮) 【名詞】** 太陽が沈んで暮くなる頃 夕暮 夕方 (志 (布施田、越賀)、鳥 (相差)、員、三、安、松、多、阿、張、賀、北) [会話] ヒノクレのそおれん (葬式)。ヒノクレ ん (に) なって来ると はよ (早く) ヒノクレ ん (に) なって来たの ん (に) 行かんかれ (行きなさい) 言うて。日没 ん (に) なって 暗がり (暗く) なって来ると、日 な (が) 暮れたのん (に) はよ、家 いかんかれ 言うて、遊びん (に) いとたり (行っていたり) すると。夕方の事を 夕暮とか 日暮とか 今しや言うけど (今は言うけれど) ヒノクレ 言う (言います)。日 な (が) 暮れてくと (て行くと) 此のヒノクレの 山いりん (山入りに) 忙しの ん (に) まあ言うて、こらら (子供) わるうのん (叱るのに) ヒノクレの山入り言うのを 山いれや (と) 言うて。山入れ 山い (に) お日さん な (が) おつてく (沈む) のを、山入れ言うのを、山入り言うて ヒノクレの山入りに 忙しのん (に)。日 な (が) 西い 落ちてく (て行く) 時を 山入り言うの (のです)。西へ 沈めば 山 な (が) 有るよつてん (から) 山い (へ) 沈む事を 日没の事を ヒノクレノヤマイリ。

**ひのくれやまいり。ひのくれやまいれ 【名詞】** 日没、太陽が西の山に沈む事 ひのくれ参照 (志 (布施田)) [会話] ヒノクレヤマイリン (に)、忙しのおん (の) に 言うて。ヒノクレノヤマイリン (に)、ヤマイレン (に) 忙しのん (の) に ぎゃんぎゃん泣き やあるいて (泣いて) 言うて。夕方 ん (に) 飯 食うよんなあ (ように) 仕度せんならん (用意しなければいけない)、畑から おっそお (遅く) 来て 天手古舞しとんのんなあ (しているのに)、子供 な (が) ぎゃあぎゃあ 言うて、ほん (本当に) 忙し ヒノクレヤマイレン (に) ぎゃんぎゃん泣き あるいて 言うて。ヒノクレヤマイレン (に) 言うて 日 な (が) 山 え いつてく のん (入っていくのに) 言う 事 やけどなあ (です)。  
**ひのけがえ 【名詞】** 1) 月末の台所の掃除 2) 婚家を

出たり入ったりする嫁 [会話] 2) あやまあ (彼女は) ヒノケガエ やれ (だ) 言うて、出たり 入ったりするとなあ ヒノケガエ やなあ (だ) 言うて。そして、ひとくらごとと (その度に)、な こと おや な (仲人が) つれん いたり (に行ったり)、つれて 来たり してなあ、な こと おや 世話 やか し お つ た (面倒かけて居ました)。

**ひのし (火熨斗) 【名詞】** 布 衣服の皺を取る道具 底の平な金属の容器に木の柄をつけ 炭火を入れて使う [会話] シヤクビノシ 言うてなあ、めつば みた よ な のお に (のようなのに) ええ な つ い と て (柄がついていて)、それ な (が) 真鍮 で して 有 つ て、あん まり (あまり) ひい な (火が) じ かん (直接に) 行 かん よ お ん (ないように) 中に ぐ じゅ ぐ じゅ (渦) 丸 丸 ん (に) す じ な (條が) して あん ね (有るのです) それ ん (に) 堅 炭 入 れ て ヒノシ 言うて、皺 と ん の ん (取るのに)。今 し (今) の アイ ロン の代り。鏝はなあ 焼 き 鏝 言 う て 火 鉢 い (に) 突 つ 込 ん ど い て (でおいで) き き め (大切な) の と こ (所) は それ で して、お つ き い の す な (大きい伸ばすのは) その シヤク ビ ノ シ。

**ひのてり 【名詞】** 日の当る所 日光の射す所 [会話] ヒノテリ 日 な 照 り 言 う。日 な 照 り い (へ) 廻 し と け (ておけ) 洗 濯 も ん (物) も。

**ひのべ (日延) 【名詞】** 期間を延ばす事 先送りする事 [会話] ヒノベ して くれ へ (下さい) 言うて。今日十五日 こ げ ん し ょ お か (こんなにしましょう) 言うても、都合 な (が) わり よ つ て ん (悪いから) ヒノ ベ し て くれ え、二 十 日 (はつか) に 延 ば し て くれ え 言うのを、ヒノ ベ し て くれ (下さい) 言うて。二、三日 ヒノ ベ し て も ろ て (貰って) 言うて。延期してくれ言うのを ヒノ ベ や (だ) 言うて。

**ひのぼり 【名詞】** 炎 [会話] け ぶ り (煙) あ つ ち や い (あちらへ) 行 け、ヒノ ボ ヤ (ひのぼりは) こ つ ち や い (こちらへ) 来 い。

**ひのまる 【名詞】** 月経 (上、阿、張、賀)

**ひのめ (日目) 【名詞】** 日の光 太陽の光線 日ざし 太陽、太陽の顔と言う様な表現 [会話] 陰 ん (に) ば つ か お お と (ばかり居ると) ヒノ メ し や せん よ つ て (しないから) 色 な (が) 美 く し な あ 言 う て、太 陽 の 光 の 事。

**ひのめしやせん** 日が当たらない 日光がささない。 [会話] ヒノ メ シヤ セン (しない) 言うて。日の さ き ん と こ (当たらない所) を、暗 が り て (暗くて) ヒノ メ

シヤセン言うて。今日は くもって (曇って居て) 日の目も無いねない (無いのだ)。お日さんな見えん (太陽が見えない) 事を 今日 ヒノメシヤセン 言うて。日の目言うのは おひいさん (太陽) の事なありな (が) ええ (よい) 言うし 日の当らんとか (所は、ひあたり) な (が) ええ (よい) 言うし 日の当らんとか (所は) ヒノメシヤセン。

**ひのめなさす** 日が射す 雨や曇りの空から少し晴れて 日が射す

**ひば (火場) 【名詞】** 海女作業の後 暖を取り 休憩のため火を焚く所 (志 (布施田)、鳥) [会話] 磯人のヒバ。ヒバいいて (へ行って) 芋 焼いて喰うたり (喰ったり) して、ひい (火) 焚いて あたらとこ (暖を取る所) ヒバや (だ) 言うの (のです)。ヒバいいて、はついてこお (食べて来よう) 言うて。はつく言うて あれ喰い 此れ喰いして いやし (いやしい) 事する言う事。よけ (あまり) はつくなまあ言うて、こららな (子供達が) あれ喰い 此れ喰いすると よけ はつくなまあ言うて。 いっぺん (一変) に よけ (沢山) 喰うのは はつくとは言わせん (言いません)。あれ取って喰い 此れとって喰いすると、よけはつくなまあ 言うて。 大喰いやなしん (でなくて) きんこ喰い 芋喰い あられ喰い 豆喰いしてするのを ありだけのもん (有るだけの物) を ちよいちよいつ (少しづつ) 取って喰うのを はつく言うの (のです)。ヒバいいて (行って) はついてこお言うのは、磯人の持つとる (て居る) きんこやら 餅やら 蚕豆やら 言うて 皆 もてくやんかい (持って行きます)。家ん (に) 有るもん (物) を、ヒバで 喰うのん (に) 言うて、やうちな (仲間一同が) 火ん (に) あたりもて (ながら) 喋りもて (ながら) ヒバで喰うと美味いねてや (のです)。鮑 焼いたり 海胆 焼いて喰うたり いろいろのもん (物) 喰うてなあ うた (ああ) 今日 よけ はついて 家いても (行っても) 夕飯や (は) いらんわれてな (いらないと言うような) 事言うて。今日は よけ (沢山) はついたら 腹な (が) 張るよお言うて、腹のかあな (皮が) 張ったら 目のかあな だるんで来た (たるんで来た) 言うて。 ねぶとなって (眠くなって) 来ると、火ん (に) 当つとると (していると) ぬくたいし (暖かい) 喰うて 喋ってしとると (していると) とろとると 目のかあな (皮が) たるんで来たよお 言うて。

**ひばかり 【名詞】** 蛇 赤い細い毒蛇 朝、咬まれてヒル (日中) に死ぬので言う (大言海) (志 (布施田、甲

賀)、上、阿) [会話] ヒバカリ 言うな (のは) 蛇。蝮のあつかいのおを (赤いのを) ヒバカリ。 ヒバカリん (に) 噛まれると おとしんどお (怖いぞ) 言うて、 ヒバカリ 言うな (のは) ほっそおて (細くて)、 殻な かさかさすんのやんない (するのでしょうか)、 小紋 型の。からすくちなわ 言うのは 黒いやんない (のでしょうか) それ 怖い 言うやんない (でしょうか) 真つ黒な蛇で。蝮は おなご (雌) 蝮は おなごまむし 言うねけど (のだが)、 男蝮 の事言わせんのかい (言うのでありませんか) ヒバカリ 言うな (のは)。 ふくのり は ふくのり 言うし、 ちっさいのおは (小さいのは) ふくのり 言うて、 おっき (大きく) なって来るの な (が) 蝮や (だ) 言うし。そして からすくちなわ 言うて がら がら、 やら (とか) 言うて。 そやけど (それだけれども) ちっさい (小さい) 箸位 のときや (時は) ふくのり な おおて (が居て) 言うて。 ふくのり の いら (色は) 蝮の色と違うやんかい (違います) しらけとて (白っぽくて)。蝮は 赤いよおな 黒いよおな 照ると最後 (光に当たると) ぴかぴか 光るよおな の おやんかい (のです)。青大将言う のな (のが) なんも (少しも) 喰いつかせんのな (ないので) す。

**ひばこ (火箱) 【名詞】** 火をつける用具を入れておく箱 (志 (神明、立神、国府)、鳥、度) [会話] ひゅうちばこ (火打ち箱) 言うてなあ、 きい (木) の箱のなあ。 それい (に) マッチ や 付け木 や言うて 入れて 有って、 きよくば (薪置き場) の ねきん (近くに) 置いて有って ヒバコ 言うて。

**ひばさみ (火挾) 【名詞】** 火箸 炭火を挟む物 [会話] ヒバサミ にほ (二本) で、 にほ 離れて かんよおん (いかにように) わあな (輪が) ついとて (ていて) そんでしよおった (それでしました)。

**ひばな (火花) 【名詞】** 火の粉 細かく飛び散る火 (熊) [会話] ヒバナ な (が) 散った 言うてなあ。鉄を焼き入れると、 鍛冶屋 な (が) 叩く となあ、 ヒバナ な (が) 散って なあ。 おらも (俺も) なりたや 鍛冶屋 の かか (妻) に、 足で まま (飯) 炊く 手で 金 延ばす 鼻 の先まで くろおする (黒く・苦労) 言うて 足で 輪 引いて 飯、 炊く やんない (でしょうか)、 てえ (手) は叩いて、 金 延ばす やんない。そして 鼻 の先 や (は) 炭 つける やんない、 鼻 の先まで くろおする 言うて、 ひい (火) 焚く時ん (に) ヒバナ な (が) ばつぱつ と 紅葉 みたよんなあ (のように) 薪、 火場 (海女の火を当る所) で くべとて も (焚いていて

も) ぱちぱちとなあ ヒバナな (が) 散るやんかい (散ります)。ぱちぱちと飛んで、やけずってなあ (火傷して)、いそじよつき (磯着) も 皆 ぼらばかん (穴ばかりに) したんねやんかい (してしまうのです)。

**ひばり【名詞】** 割れ目 亀裂 ひびに同じ (志 (布施田)) [会話] ひびな (が) 割れた言うの、ヒバリな (が) 割れたれ言うてなあ。ヒバリな (が) 割れてて (ていって) こや (これは) じっきん、うちやれてくんやれ (すぐに壊れて行くのだ) 言うて 茶碗でも。今しの (今の) 漬けもん桶 (漬け物桶) あらんの (新しいのを) こおて (買って) 来るやんない (でしよう)、そすとなあ 漬けもん (物) すると なんも (なにも) しやせんねけど (しないのだが) おもいし (重石) すん (る) のでやかなあ (でしょうか) みんな (皆) ひびな (が) 割れてなあ、だいこ漬け (大根漬け) 漬けたや (ら) 皆 塩な (が) もってて (漏れていって) 見て見よまあ (見なさい) 言うたら 底な (が) 皆 ヒバリな (が) 割れとんね (ているのです)。それ知らんと (ずに) 漬けたや (ら) 皆 汁な (が) もってて。

**ひばれ【名詞】** ひび 割れ目 [会話] ヒバレな (が) してて (してしまって) まあ言うて、ひびな (が) 入ったのおを (のを) こやれ (これ) まあ これも ヒバレな (が) 割れとられ (ている) じっきんうちやれてくねなあ (すぐに壊れて行くのだ) 言うて。

**ひび【名詞】** 亀裂 割れ目 [会話] 割れ目な (が) ついて来ると、ひびりな (が) いって来た (入って来た)。茶碗でも すじな (條が) 入って来ると ヒビな (が) いって来たれ (入って来ました)、そいなな、ほったれ (そんなのは捨てなさい) 言うて、ちよいと (少し) 割れかけて (始めて) 来たのを ヒビな (が) 割れて来た言うのなあ (のです)。餅でも やいこいのおな (柔いのが)、かった (堅く) なって来ると、割れて来るやんない (でしよう)。まあ ヒビな (が) いって来たれ 言うて、すじな (條が) いつて 来ると

**ひび (鱗)【名詞】** 冬に見られる皮膚の変化 寒冷の刺激等によって皮膚は乾燥し、割れて赤くただれ かゆみ強い [会話] てえ (手) へ ヒビな割れる 今しや (今は) ヒビな (が) 割れる言うこた (事は) 無いけど (けれど)、昔や (は) ヒビきらして、冷たい事ばっか (ばかり) すんので (するので)、そいといて (そうしておいて) 土仕事 (畑仕事) するもんで

(ので) ばんばんと割れて ちいな (血が) 出て来よおった (来て居ました)。血な出て して来ると その痛いのおな (のが)。勝手 (台所・炊事) しても どくたま (十分に) 手も拭かんと (拭かずに) 忙しもんで (ので)、まいかけ (前掛け) きつきつとしよおったもんで (して居たので)、西の風な (が) それい (へ) 当ると、乾くと ばんばんと割れて 血な (が) 出て来て 夕方ん (に) になると いとおて (痛くて) 風呂いいって (へ入って) 櫛柑のかあや、なんや (皮かなにか) すりつけて しよおったの (して居たのです)。

**ひびかす (響)【他サ五】** 1) 広く世間に知れ渡らせる 噂的にされる 2) 音が響く [会話] ② ヒビカス 響く音な (が) する。叩くと どんと響くのおを (のを) ひびかれ (きます) 響いてわりわれ (悪るいです) 言うてなあ。① ヒビカスで、知られる言うんか (のか) 広げる言うのなあ 人に 知られる言うかなあ (のか)。

**ひびなきれる** 鱗が出来る [会話] てえ (手) え 割れてくんのを (来るのを) ヒビな (が) キレル言うしなあ。ひびだらけや (だ) 言うけど (が)、今しや (今は) 水使いしても 手袋 掛けるよって (から)、なんもなあ (なにもです)。

**ひびなはいる** 細かい割れ目が出る [会話] ヒビナ ハイッテ、今しの (今の) プラスチックは、ひとり (自然に) ひびな はいってくね (て行きます)。まあ 年期な (が) 経つとなあ、日な (が) 照るとこ (所) 置いとくと (ておくと)、はざんなあ (いけません)。水 入れとても (ていても) ヒビナハイネ (が入ります) ひこち (日数) が経っていくとなあ。ヒビナハイル言うのは 割れ目な (が) 出来る言う事 や (です)。

**ひびよおいん (ひびょういん ひびやういん) (避病院)**

**【名詞】** 法定伝染病にかかった人を隔離収容治療する病院 [会話] ヒビョオイン言うたら、今し (今) 無いけど、墓のとこんなあ (所に)。あしこい (あすこに) 朝鮮から来ると、家い (に) 入いらんと (入らずに) 汽船から 降りてすぐん (に) みつかあつ (三日づつ) 入いりおったね (入って居たのです)。そすと なあ (すると) 家え ぬすで (かくれて) 寝えん (寝に) 行てなあ、朝 くらがり (暗い間) で来て 知らん顔して寝とんね (ているのです)。役場の人らな (が) まあつてくんね (廻って来るのです) ひとまありいつ (一回づつ)。そすと よさや (夜は) ねどこ

ら(寝床は)からんなつとんね(になっているのです)、家い 泊りいいて(に)行つて)。赤痢や、コレラ な(が) はやりおつてなあ(流行して居て)、コレラ な(が) はやると おとしてなあ(怖くて) コレラン(に) なると てえ(手)の のかあ(皮)引つ張ると 伸びてくね(来るのだ) 言うてなあ。やうちな(一同が) てえ(手)の のかあぼつか(皮ばかり)引つ張つて、コレラン(に) なつたら 尻な(が) 行き抜けん(に) なつてなあ。

**ひびり【名詞】** 亀裂 割れ目 ひび参照(志(鶴方)、桑市、上、阿、張、賀)

**ひびる【自ラ五】** 怖れおののく(鈴市、安)

**ひぶくれ(火膨れ)【名詞】** 腫瘍、火傷等にて赤く腫れ上つた部分 水泡(志(布施田)) [会話] できもん な(出来物、腫瘍が) 水ぶくれて ヒブクレ 言うて。大豆位いん(に) なつて 水ぶくれん(に) なつて、ヒブクレな(が) 出来て来たなあ(来ました) 言うて。ヒブクレの時、水ぶくれて 赤味持つて ざあ(座・場所) 取つて痛いねてや(痛いのです)。そん な(それが) 潰れてくと(て行くと) うじやけて 膿 な(が) 出て来て、かさぶたん(痂皮に) なつて、できもん(腫物) に なりおつたの(なつたのです)。やけど(火傷)の時、あれは違うねてや(違ふのです)。みずぼおそな(水痘が) して来るやんな(でしよう)、あげんして(あんなにして) 始めして来て、赤味持つて、ふちな(周囲) あつこお(赤く) なつて、そのふちな(が) 痛いねてや(痛いのです) はりかへると(交換すると) みずぼおその おっきいのやなあ(大きいのです)。ヒブクレ よお出来よつた(よく出来ました)。又 ヒブクレな(が) 出来た 言うて ほかへ(他へ) 出来やせんの なあ(出来ないのです) すね(膝) から下へ よお出来んねてや(よく出来るのです)。

**ひぼ(紐)【名詞】** 1) 糸又は布ぎれを組んだり編んだりまた縫い合せたりして ある程度の太さ又は幅を持つた細長い物 ひもの訛(志(磯部、浜島、布施田、神明、立神、国府、安乗)、鳥(坂手)、桑郡、桑市、三、四、鈴郡、鈴市、津、一、久、松、多、上、阿、張、賀、度、伊、北、尾、南、熊) 2) 情夫 [会話] 1) 羽織のひも言わんと(言わずに)、羽織のヒボ 言うの(のです)。なかね(腰巻)の ヒボ、まいかけ(前掛け)の ヒボ、エプロンのヒボ 言うて。ほそひも(細紐)を ヒボ、結ぶもんや(ものです)。男な(が) おなご(女) に こおてもおとると(飼つて、

養なつてもらつて居ると) ヒボや(だ) 言うやんかい(言うで有りませんか)。ヒボつき で 言うて ひもつき 言うのを。腰紐言わんと(言わずに) 腰ヒボや(とか) ほそおびや(細帯と) 言いおつたの(言つて居たのです)。細帯くけんのん(作るのに) 言うて なん やかや きれな(布が) 有ると、くけんのんええなあ(よいのだ) 言うて。物 くくつたり 止めたりすん の(するのを) 荷作り(荷物)の ヒボ でも ひもや(だ) 言わんと(言わずに) ヒボや(だ) 言う(言います)。きもん(着物)の ヒボ つけとけてや(つけておきなさい) 言うて、ひつちやかつてくと(開いて来ると) きもんの ヒボ つけとけまあ(つけておきなさい) 言うて。しぼるもん(くくる物)を ヒボや(だ) 言うて。ふご(畚)の ヒボ つけえ(つけなさい) 籠の ヒボ つけえとか。

**ひぼし(日乾)【名詞】** 日光に当てて乾燥させた物(志(立神))

**ひぼし(干乾)【名詞】** 飲食物を与へない事

**ひぼたび【名詞】** こはぜの代りに紐を足首にまいて止める足袋 [会話] ひぼつきのたび 言うな(のは、こはぜな(金属の爪が) つかんと(着かずに)、此処で(足首) 結ぶねてや(結ぶのです)。ここと こつちや(こちら) と になあ、ふたあつ(二ヶ所) 着いとて(て居て)、こおして あわして(合せて)、ここで(足首) 結びおつたの(居たのです)。足の甲で こはぜせんと(せずに)。昔や(は) 家で こしやえん ので(作るので) ヒボタビや(だ) 言うて。そいなあ(そんなのを) こさえて、ちつさい(小さい) 時分に や(には) 履かしてもらいおつたなあ(居ました)。

**ひぼつき【名詞】** 紐付 情夫のあること [会話] 男がおなご(女) に こおてもおとると(養つてもらつて居ると) ひぼや(だ) 言うやんかい(言います) ヒボツキ 言うて。

**ひま(閑)【名詞】** 時間 少しの時間 仕事のない時手すきの時間(志(布施田)) [会話] 下駄 はいとる(はいている) ヒマねえし(無い)。

**ひま【名詞】** 休職 退職 免職 いとま

**ひまがとれる** 1) 時間がかかる(桑市) 2) 休みが取れる 仕事をやめる [会話] 2) ヒマガトレル 言うのは、雇われて 行とる(行つて居る) のが、休まして 貰らう 言うの なあ。ひまもろて(貰らつて) 言うやんない(言うでしょう)。休暇貰らう 言うの を な ひまもろて来たね(のだ) 言うて なあ。あの家い(に) 雇われとんねけど(て居るのだが) まあ 体な(が) わ

りて (悪くて) ちよいと (少し) 暇もろて 休ましてもろた (貰った) 言うて、ひまもろた言うて。

**ひまけ (日負) 【名詞】** 強い日光にあたって体が弱ること 日射病 (志 (布施田))

**ひまし (日増し) 【名詞】** 1) 日数がたつにつれて その傾向程度が強まる事 2) 日数がたつて古くなって居る事 又その物 (南) [会話] 2) ヒマシ、今日 獲った魚 あしたん (明日に) なるヒマシモンや (だ) 言うて。古いのおお (のを) ヒマシや (です)。きのう (昨日) や、おととい (一昨日) 獲って こや (此れは) ヒマシモンや (だ)、おとつい (一昨日) からののおやのん (のだのに) 言うて。ヒマシんしと いたら (にしておいたら) 美味ないわれ (美味くない) 言うて。なんでも ヒマシん (に) すると 美味ない。1) 日数がたつて 古るう (古く) なったもん (物) を、ヒマシモンやなあ (だ) 言うて。日に増し言うて 日に増し おっきなつて来た (大きくなって来た) とか、日に増し わり (悪く) なつて来たとか、日に増し わりなつてくんねない (悪くなって来るのだ) 言うて、病気でも なんでも 百姓のもん (農作物) でも 見やんとおつたら (見ずに居たら) 日に増しおっきなつて言うて。

**ひましごと (暇仕事) 【名詞】** 片手間にする仕事 仕事の暇な時にする仕事 [会話] ヒマシゴト言うて、暇の有る時ん (に) しゃええわれ (すればよろしい)、忙し時んせんでも (にしなくても)。今日は仕事は まともな (まとまった・完全な) しごと (仕事は) 無いし、暇やよつてん (だから) なんなと (なんでも) 有る仕事しよおか (しましよう) 言うのな (のが) ヒマシゴトや言うて (だ言つて)。暇の有る時ん、あい (時間の余裕) の有る時ん (に) あいまにする事なあ (です)。暇 (が) 有つたらする言う、仕事の あ い あ い ん (に) すんのを (するのを)。

**ひましもん 【名詞】** 日数がたつて古くなった野菜、菓子、副食等の食品、日増物 ひまし参照 [会話] 日数がたつて 古るう (古く) なつたもん (物) を、ヒマシモンや (だ) 言うて。

**ひまじん (閑人) 【名詞】** 仕事を持たず自由に暮して居る人 自由な時間の多い人 ひまな人 (志 (布施田))

**ひまだす** 1) 解雇する 2) 離縁する (志) [会話] 2) あすこのよみや (嫁は) わりいて (悪くて) ヒマダサレタねてわれ (のだそうだ) 言うて。そして 人なみ (人と同じ) よおせんで (出来なくて) どことこい

(へ) 勤めにいとたけど (行っていたが) ヒマダサレテキタとか。暇もろた (貰った) 言うて、わがと (自分が) やめさしてくれ (させて下さい) 言うな (のは) 暇もろた言うね (言うのです)。向うから出されるのおは (出されるのは) ヒマダサレタ言うの (のです)。離縁する言うのも ヒマダス、ヒマダシタ言うて。嫁さん戻すと ヒマダシタ あいな (あんな) ど じもんぐさ (怠け者・不精者) ヒマダシタた (出してやつて) 言うて。昔の人ら (は) な こと おやん (仲人親に) 暇もらいん (に) いてもろたや ら (行って貰ったとか) 言うて いいおつた (言っていました)。今 しゃ (今は) な こと おや に 通 じ や せん やん か (通しません)。わがと ら (自分達) 勝 手 に (思うように) 暇出したり、入れたり な こと おや の 手 掛 け と ら せ ん よ つ て (掛けて居ないから) 嫁 も お た (貰った) 言うて、嬉 ん で お ら れ や せ ん (おれません)。じ っ き に (すぐに) 飛 び 出 し て く ね よ つ て (て行くのだだから)。ふうたいごち出 て く ね よ つ て ん (出て行くのだから) うっかりしたこ た (事は) 言 わ れ や せ ん (言へません)。ふうたいごち言うのは 子供も 男 (夫) も言うのを ふうたい。嫁や 子供を ふうたいや (です)。ふうたいごち出 て た ね て わ い (出て行ったのだそうだ) 言うな (のは)、夫婦で出 て 行 つ て。 “此処にや 置 か ん け ん (置かないから) 出ておくれ 子も連れて” 言うんならええんけど (言うのならよいのだが)、わ が と も (自分も) 出 て く ん よ つ て ん (出て行くのだから)。今しゃふうたいつけて出てくんよつて、こ い な (こんな) 家 や (は) お ら ん で え え わ (居なくてよろしい) 出 て こ や ん か い (出て行きましょう) い て (行つて) どこでもか つ て (借りて) お や え え わ れ (居ればよろしい) 言うて、出 て く ね よ つ て ん、うっかりしと ら れ や せ ん (して居られません)。今しの人らは し ん ぼ (辛抱) する言うこ た (事は) 無 い ね よ つ て ん (無いのだから)。昔は 忍耐 忍耐で 忍耐せ な (しなければ)。今しの子ら 忍耐出来やせんよつて (出来ないから) わ が と ら な (自分の) 思う通りに ならなかつたら め つ た ん (絶対に) 忍耐し と ら せ ん (して居ません)。今しのおなご (女) の子ら ど き よ お な あ ん ね (度胸が有りります、気が強い)。子供でも 男でも よ お (よく) ぼんと ほ つ と い て (ほうつておいて) 行 く ね よ つ て ん (行くのだから)。“山 な (が) 焼 け ん な (焼けるぞ) た た ん か (飛び立ちなさい) 雉よ な に が 立 た よ か (立たれようか) こ お (子) 置いて” 言うて 雉

でさい(へ) そお言うねよって(言うのだから)、にげな(人間が) こお(子) 置いて めったんよお戻らんで(戻れなくて) どげな(どんな) むつかし(難かし) 事な(が) 有っても 此の子らの為 おもて(思つて) しんぼ(辛抱) するけど、今しの子ら 子でも男でも よおぼんとほったんねよって(ほおつてやるのだから)。忍耐する言うな(のは) 辛抱 どいな事言われたてて(どんな事言はれても) 勘忍して、辛抱して 此の子ら ほつて行かれよか、おもて(行けない思つて) しとんのおを(して居るのを) 忍耐。一にも忍耐 二にも忍耐 忍耐力の杖をはれ言うて、忍耐力で生きて来たのん(に)、昔のにげや(人間は) 忍耐力な(が) 強いよってん(から) 子 ほつていく(て行く) 言うな(のは) よくせきやなけな(よほどでなければ) 無いけど(けれど)、やんな(でしょう)。今しの子ら いくらでもよおほつていくね、子な 有るよってん(から) 錨うったよってん 大丈夫やよってん言うて、昔や(は) 子な(が) 出来ると 錨うったよってん、大丈夫や(だ) 言うて言よおったやんない(言つて居たでしょう)。今しや錨な(が) あるな(有ろうが) 綱な(が) あるな、よおちぎつていくのな(て行くのが) よれやんかい(沢山です)。錨うつ言うのは 子供が出来ると 錨うったよってん大丈夫やなあ(だ) 言よおったやんかい(言つて居ました)。

**ひまち(日待)【名詞】** 1) ある集団が一ヶ所に集まり忌籠り(いみごもり)して話す ひまちのまちは待つと解されて居るがまつりの意と解すべきである(志、尾) 2) 出漁出来ない(荒天続きで)時の酒宴 3) 仕事が終った時、又暇な時 人々が集まってする会飲(志(浜島))いそどひまち 荒天の続く節 あるいは漁日の続くなかで一日海女が集まり御馳走して体を休める或は荒天の快復を持つ集日【会話】<sup>1)</sup> ヒマチ 昔や(は) ぐあいなわりいても(病氣しても)大病しても シンジンヒマチヤ(信心日待だ) 言うて、かんのんさんや(観音様だ)とか、何処や(だ) 言うて 頼んで 三日籠りや(だ) 言うて 隣中な(が) 親戚中ないて(が行つて) 籠つて 唱へして チカラヒマチすんね(するのだ) 言うて、そすと最後(そうすると) 今度 よおなつても(よくなつても)、わりい(悪く)なつても、れえごもり(礼籠り) 言うて、三日信心しといて(しておいて) レエヒマチや(だ) 言うて 又 後ですんの(するのを)。<sup>3)</sup> ゴヒマチ(郷日待) 言うの(のを)、昔や(は) しょおつたわ

い(して居ました)。郷で ごおがしらな(郷頭が) 有るやんない(でしょう)。その家で ヒマチや(だ) 言うて 子供らも 皆 行きおつたわい(行つて居ました)。十銭づ(づつ) わりやい(割合・負担金) 出して、すと(そうすると) 小豆つけたもち(握り飯) 腹一杯喰うても 十銭でええんなし(よいのですし) 朝ん(に) になると ゴヒマチのもちや(だ) 言うて、家一軒な(に) ふたつつ(二ヶ) ヒマチのもちを、郷頭の家から こばつて来んね(配つて来るのです)。すと十銭出すね(出すのです)。ヒマチダイを そげんして(そんなにして) 昔や(は) ゴヒマチや(だ) 言うて、郷で ヒマチしよおつたの(して居たのです)。子供らな(が) 嬉んでいて(行つて) 喰いおつたわい(食べて居ました)。大人も行くし(行きます) 行きたないもな(行きたく無い者は) 行かんで(なくて) よかつたけど(けれど)。<sup>2)</sup> いそどヒマチや(は) 磯人な(海女が) 三月ヒマチ、五月ヒマチ、六月ヒマチ、それから あがりに(終りに) 又 ヒマチして、節句 節句で ヒマチしよおつた(して居ました)。三月は 節句な(が) 有つて、節句で 日待ちするやんない(でしょう)。五月は 五月の節句して、六月あ(は) 六月ヒマチ言うて ございな(御祭が) 有るもんで(ので) いそべさん(磯部の伊雑宮) へ 詣つたり あおのめさん(青峰山) へ 詣つたりして ヒマチしよおつたの(しました)。磯人は わがとらな いっぱいぶねな(同一の船に乗って居るの) もんな(者が) 一緒にするし、船 船でちごて(違って) 皆 ヒマチすんね(するのです)。三月と五月と六月ん(に)。シンジンヒマチやどげや(などは) 親戚とか 隣近所とか 友達とか その家い(へ) つきやいしとる(交際して居る) もんらな(者達が) 知つとると(て居ると) 行くし。イソドヒマチは 節句 節句んすんの(にするのです) 天気な(が) 荒れるとか 言うな(のは) 関係なしん(無しに) 三月ヒマチせんならん(しなければいけない) 言うて、今日は 休みやよってん(だから) 三月ヒマチしよおか(しましようか)。五月ん(に) になると、今日は 磯な(海女作業が) 休みやよってん(だから) ヒマチしたるか(してやろうか) 言うて、わがとらな(自分達の) じゅん(都合) みて いつでもすんの(するのです) その月に、そすと(そうすると) そや(それは) わがとらな(が) 実費 割りやうんやんかい(割りあうのです) につちんがさつちん(珠算の割り算) で いらよお(入用・費用) みんな(全部) 頭



割りん (に) わん (割るのです)。シンジンヒマチとゴヒマチと磯人ヒマチ 網かけのヒマチ 網かけゃ (は) 網かけて ヒマチするし こじょおしゃ (小漁師・一人でする漁師は) こじょおしで わがとらな (自分達の) グループな (が) 有って すんねやる (するのでしょうか)。

**ひまちだんご。ひまちのもち【名詞】** 日待の時に作る団子 米飯を丸めた物に塩味の小麦餡をつけた物 [会話] 団子へ 小麦つけて ヒマチダngo、ヒマチノモチ言うて。あれ さと (砂糖) 入れやせんなあ (入れません) 牡丹餅ゃ (は) さと (砂糖) 入れるけど (が)。

**ひまづいえ (ひまづいへ)【名詞】** 相手の仕事を中断させる事 時間を費す事 暇つぶし (志 (布施田)) [会話] 今日は どいらい (大変) ヒマヅイエ したよお (しました) 言うの (のです)。今日は ヒマヅイエした言うのは 失敗したて (してしまって) それを なおして ひまな (時間が) 倍も掛るやんな (でしょう)、そお言うよおな 場合を、ヒマヅイエ 言うの (のです)。人 (他人) の家で 喋つとて (て居て) 仕事しえんと (せずに) ヒマヅイエさせたなあ (させました) 言うて、仕事な (が) 出来だったなあ (なかったですね)、わしな (私が) おったんで (居たので) 言うの (のを)、ひまづえさしたなあ (させました) 言う。ヒマヅイエ言わんと (言わずに) ひまづえ言うね (言うのです) ひまづえしたなあ言うて。

**ひまづえ【名詞】** ひまづいえに同じ [会話] ヒマヅエ すんなまあ (するな) 言うて、ヒマヅエやなあ (だ) 言うて。時間な (が) かかるとなあ、今日は お前家え わしな (私が) 来て、ヒマヅエさしたのお (させました) 言うてなあ。喋つとて (ていて) 仕事させやせんと (させないと)、仕事させざったなあ (させなかった) 言うのなあ (です)、ヒマヅエさしたなあ (させました) 言うてなあ。

**ひまどる (暇取)【自ラ五】** 時間がかかる てまどる [会話] ヒマドル言うのも、ひまづえも 一緒の事や (です)。てまどる (手間取る) 言うのも有るしなあ。どいらい (大変) こや (これは) てまどったなあ言うのも 時間な (が) かかったなあ言うのなあ (です)、ヒマドル言うのも。

**ひまな** 暇だ

**ひまなかかる** 時間がかかる 多くの時間を必要とする [会話] 仕事しとんの (している) 時間かかる言うの、ヒマナカカル。暇な (が) よけ (沢山) かかって言う

てなあ、こやまあ (これは) どいらい (大変) ヒマナカカルナア言うて 手間どる 言う事をなあ。

**ひまなかつたら** 暇だったら 仕事をして居ないのだったら

**ひまのかあ** 大変だ 取り返しがつかない (志 (浜島)) [会話] ヒマノカアアイタ (惜しい事をした)、ヒマノカアや (だ) 言うて。昔ゃ (は) ヒマノカアあいて言うて くやみ (悔み) の言葉。そして なんか (そうして何か) わりことしたると (悪い事してやると)、おおた (ああ) ヒマノカアやなあ (だ)、こや (これは) 言うて。失敗したると (してやると) ヒマノカアやれ (だ)、えらい事したたなあ (大変な事してしまった) 言うて。大変や (だ) 言う事を、こや (これは) えらい事したたれ (してしまった) ヒマノカアやれ (だ) 言うて、まあ おとつしゃ (やれやれ) えらい事やった (だった) 言うのを、ヒマノカアやった言うの (のです)。大病ん (に) になると 心配やなあ (です) ヒマノカアや (だ)、はよ (早く) よおなやええけどなあ (よくなればよいのに) 言うて。葬式の時ん (に) 悔みん (に) 行くと なぐさめの言葉で 力落しやなあ (です) ヒマノカアアイテなあ言うて。

**ひまのかああいた** 大変な事になった ひまのかあ参照 (志 (布施田、志島、甲賀)、度)

**ひまのかああいて。ひまのかああけた** 1) 死んだ家に 悔に行く時の挨拶 ひまのかあ参照 2) 大変だ 大変な事になった

**ひまのかわ** 大変だ 取り返しが出来ない ひまのかあ参照 (志)

**ひまひま (暇々)【名詞】** 用事のないあいだ 用事のあいまいま [会話] 仕事の間 ヒマヒマに言うのなあ、ヒマヒマに、此れしといてくれよお (しておいて下さい) 言うて。仕事のあいあいに 出来たら 此れしといてくれよお言う時な (が) 有るもんなあ (有ります)。

**ひまもらう** 勤務先をやめる ひま参照

**ひまわり (日廻)** 日射し 日の当る方向 ひざわり参照 [会話] 日当りな (が) ええ (よい) 言うな (のは)、日な (が) よお (よく) 射すと、日な (が) よけ射さんと (沢山射さない) 日ざわりな (が) わり (悪い) 言う。ヒマワリとか。

**ひめ (姫)【名詞】** 1) 若い女の子 (熊) 2) 遊女 女郎 (鈴市、安、津、上、阿、張、賀、伊) [会話] 1) ヒメよ言うて、女のこおを ヒメや (だ) 言うてなあ。

大事のこお(子)を おれげ(俺の家)のヒメな(が)言うて、よお言うやんかい(よく言います)。

2) 女郎の事を ヒメかいに行く言うて、おやまかい(女郎買)して言うのを ヒメかいぼっか(ばかり)してまあ言うてなあ。

**ひめうなぎ【名詞】** ひめ 姫 媛 貴人の娘 女子の美稱 遊女 娼妓 とらうつぼ ウツボ科 とらうつぼは両顎は湾曲しており、完全に閉じる事は出来ない。両顎歯は牙状で鋭い。体は黒褐色に縁取られる白色点を多く持ち、よくめだつ。

**ひめかい(姫買)【名詞】** 女郎買 [会話] おやま買いや(です)。淫売買いすんの(するのを)、ヒメカイしてとか、じょろ(女郎)買いしてとか、花魁はあんで(あれで)格な(が) 上やかなあ(上でしょう)か。花魁は あんで違うねなあ(あれで違うのです) こっぼり下駄履いて きゅつと 歩るくのなあ(のです) きゅつと 足をあげて すつとおろして あげな(あんな) 歩るき方しとたや(していたら) 一日ん なんぼ歩るくんかいなあ(何程歩るくのか) 思うよおん(ように)して、花魁は ちよいと(少し)格な(が) 上や(です)。あやなんやら(あれは何か) こまがたな(が) ついとるもんなあ(ついて居ます)。花魁や(だ)言うて 頭飾もん(物)から 帯や(だ)とか あげな(あんな) 事して いごかれんねやか(動かれるのか) 思うよおん(に)して。こまがた言うな(のは) 今しの(今の) 付き人やわい(です)。その人の世話する役。

**ひめくり(日捲)【名詞】** 毎日一枚ずつはぎとって使う 曆 柱曆(上、阿、張、賀、南) [会話] 曆の事 ヒメクリ。毎日まくるのを ヒメクリ言うのなあ。曆は そんなり(そのまま)してあんのを(有るのを) 曆。神宮曆言うて 神宮からくんの(来るのです) 一年中の事な(が) 書いて有る。

**ひめごと(秘事)【名詞】** 内緒事 隠して置く事 人に知られたく無い事

**ひもち(日持)【名詞】** 日数を経た時の質の変化の状態 [会話] ヒモチな(が) ええ(よい) 言うのは、長持ちする事をなあ。今しや(今は) 冷蔵庫へ 入れるけど(が)、昔しや(は) 入れやせんけど(ないが)、こやまあ よけ(沢山) 干して 乾燥して有るよつて(から) ヒモチなええなあ(よい) 言うてなあ 保存期間やなあ(です)。

**ひもと(火元)【名詞】** 1) 火事の出火場所 2) 噂の出所 原因の有る処

**ひもん【名詞】** 干物 魚を開いて干した物 [会話] くさはぎ ヒモンにすんのかい(するのです)か。

**びや(枇杷)【名詞】** びわ 根が太く葉の下面と共に淡黄褐色の綿毛を密生する常緑の果樹 果実は夏に熟し、黄色で丸中に大型褐色の種子を数ヶ入れる(志(御座、和具、浜島、神明、立神、甲賀、国府)、鳥(浦村、石鏡、鳥羽)、桑郡、員、三、鈴市、鈴郡、一、久、松、上、阿、張、賀、度、伊、南) [会話] ビヤのきい(木) 枇杷を ビヤ言うて。ビヤの花咲く 年の暮言うて、年の暮ん(に) 咲くもんで(ので) 縁起な(が) わりもんで(悪いので) 祭り事んしやせんもんなあ(にしません)。十一月や十二月ん(に) 花かけるやんない、そやよつて(それだから) ビヤの花咲く年の暮言うて、ええとこい(よい所へ) 使わせんやんかい(使いません)。花かける 花咲く 咲いたとこを(処を) 花かけた言うの(のです)。ビヤのきい(木) に よけ登るな(あまり登るな) 言うて よお さけんなもんで(よくさけるのです)、さけやすいの(のです)。

**ひやあく【数詞】** 百(三、鈴市、度、伊)

**ひやか(冷)【形容詞】** 冷たい ひやこい 参照(志(布施田、鶴方、神明、立神、甲賀、国府、安乗)、鳥(国崎)、三、鈴市、安、津、一、久、松、多、阿、張、度、伊、北) [会話] 冷めたい言うの(のを)。ひやこい言う人も有るし、ヒヤカイのくれえ(下さい) 言う人も有るし。昔の人ら よお(よく) ひやこい 言いおつた(言って居ました)。ひやこい言うて、言う人ら な(が) 有るてや(有ります)。ひや酒や(だ) 言うのを ひやこいのくれ(のを下さい)とか、ヒヤカイのくれとか、わしらは(私達は) つめたいのくれ言うやんない(言うでしょう)。

**ひやかす(冷)【他サ五】** からかう 買い物をしないうに店員にあれこれ言う。仲好くしているのに水をさす(志(浜島))

**ひやかす(冷)【他サ五】** 冷やす(志)

**ひやがる(干上) 水分が無くなる ひあがる(志(布施田)) [会話] たあな(田が) ヒヤガル、川な(が) ヒヤガルとか 水な(が) 無いよおんなつてくの(になつて行くの) ヒヤガル。川も 雨な(が) 近いんなあ(近いでしょう) ヒヤガル言うて、雨な(が) 降る前ん(に) になると 川の水な かんからこん(乾いて居るに) なつてくのなあ(なつて行くのです)。口な(が) ヒヤガッタヨオ(干上りました) 言うて、仕事な(が) 無いよん(ように) になると くちや(口**

は) ヒヤガツヨオ言うて。くちやあまやよお (かまどの上に有る簀の子だ) 言うて、口やあまい (へ) 釣つとかなはざんよお (ておかなければいけない) 言うて、仕事な (が) 切れると、口な (が) ヒヤガル言うて。口やあまい (へ) つつとけ (吊しておけ) 言うて、喰わんでええよおん (食べなくてよいように) つつとけ言う事やわい (です)。

**ひゃくいんぼ【名詞】** 水疣 百疣 伝染性軟属腫 粟粒大から小豆大までの表面に光沢を持ち、淡紅色から常色の単発～数個～無数に生ずる 自覚症状はなく、周囲が湿疹化すると痒みがある 小児の病気で3～7歳頃に一番よく発症するが合併症 後遺症もなく自然に治療する [会話] ヒヤクインボ言うて、百も出来てくんのな有るやんかい (来るのが有ります) よっけ (沢山) 出来てくんのなあ (来るのです) 子ららな (が)。あやなつとすんのやかなあ (あれはなんとするのでしょうか) そすと (すると) なつちやらすると (なんとかすると) ないよん (無いように) なつてく (のなあ (行くのです)、自然と ないよんなつてくの)。

**ひゃくおとし【名詞】** 足の甲 さんり参照 [会話] 弁慶泣かせの かみそりぼね言うて、こことこ (足の甲) を ヒヤクオトシ言うて、ひやくも (百文) 落とすと死んでく (でいく) 言うて。

**ひゃくさい (百才)【名詞】** 長寿の老人 [会話] ヒヤクサイ言うて、百の人を ヒヤクサイや (だ) 言うて。俺家のヒヤクサイな (が) 言うて。百んならんでも (にならなくても) 年取ると 大年寄りん (に) なると、俺家のヒヤクサイ言うて よお言うやんかい (よく言います)。長生きしとる (して居る) 人 ヒヤクサイや (だ) 言うて 年寄りの事を 百いとらんでも (達しなくても) 言うの (です)。

**ひゃくしょおぎり【名詞】** 大根漬けなど全部切り離さず連続して一部を残す切り方 ちゃんちゃ参照 [会話] 昔や (は) だめなぎりやとか (だとか)、ヒヤクショオギリやとか言うて だいこ (大根) 切つたらんと (切り離さずに) はすかい (斜) に つなげて (つないで) すると、ヒヤクショウギリやとか、だめな切りやとか言うて、そげんしてしよおつた (そんなにして居ました)。

**ひゃくしょおどこ (百姓所)【名詞】** 農村 [会話] 神子のひぼ (紐) したのおを (のを) おいね言よおつた (言つて居ました) ヒヤクショオドコの人ら (は) 皆着とよおつた (着て居ました)。

**ひやくにちかずら【名詞】** 長く乱れた髪。

**ひやくにちそう (ひやくにちさう) (百日草)【名詞】**

松葉ぼたん ひでりそおに同じ 参照

**ひやくにちなき【名詞】** 長泣き [用例] いつ泣泣いて、ヒヤクニチナキ してられ (して居る)。

**ひやくにんし。ひやくにんしゅ【名詞】** 百人一首 百人の歌人の和歌を一首づつ集めた歌集 又それをカルタにしたもの 小倉百人一首が有名 (熊) [会話] ヒヤクニンシュしよおつた (して居ました)。今しも (今も) 又 はやって来たなあ。ヒヤクニンシュ 取つとるもんなあ (て居ます)。〇〇さんな (が) 読むのん (に) 上手で、ヒヤクニンシュすると いっしょけんめ (一生懸命) でしとると (していると) 替へ読みして来て、はちろんなつとると “乙女のちやんころ 火箸で こつつく” てやら (とか) 言うて来て。はちろん (に) なつとる いっしょけんめで あつちや (あちら) 見い、こつちや (こちら) 見いして、探しとるやんない (て居るでしょう) そや (それ) めえひつちやけて (目開いて) はちろんなつとる (になつて居る) 言うて。“ほめられて 誠にほめると思うなよ 誠に ほめる人は少なし” 言うて そんげん言うて来ると いっしょけんめ見とると (一生懸命見ていると) 目 はちろん (に) して。

**ひやくひろ (百尋)。ひやくひろわた【名詞】** 非常に長い事からはらわた 腸。ひろ 尋 両手を左右にひろげた時 一方の指先から他方の指先迄の距離 一尋六尺、一・八米 (尾) [会話] 一間有るわい (有ります) 一尋すると そんな (それが) 百あんのなあ (有るのです)。腹のわた (内臓) も ヒヤクヒロ言うて腸の事を ヒヤクヒロ、ヒヤクヒロワタ言うて。百尋もないけど (けれど) なんがい (長い) 言う事を言うんやろ (言うのでしょう)、例へ事や (です)。

**ひやくまんだら (百万陀羅)【名詞】** 幾度も幾度も繰り返す事 百万遍 (志 (布施田)) [会話] ヒヤクマンダラ言うても 聞かせんねない (ないのだ) 言うて。ひやつべらべんも言う時も有るしなあ。なん回言うても 聞かせん (ない) 言う事を 大袈裟に、これしたらいかんぞよ (駄目だ) 言うて 一言言うて 聞きやええ (聞けばよい) 事ん (に)、なん回 これしたらいかん いかん言うても 聞かんとしとる (ずにして居る) いくら言うても 聞かせん、ヒヤクマンダラも言うても 言うて。ヒヤクマンダラ もがいたてて (ても) 出来よかれ (出来るものか) 言う時も有るやんかい (有ります)。いっしょけんめ (一生懸命) としても、めつたん (絶対に) 出来やせん言う事なあ。

のななあ (お前が) いくら もがいたてて (ても) 出来よかれ、ヒヤクマンダラもがいたてて、よおしよおかれ (出来ない) 言うてなあ 大袈裟に言うのなあ。

**ひやけ (日焼け) (陽焼け) 【名詞】** 1) 日光、特に夏の強い日射しのため 皮膚が浅黒くなったり 炎症を起したりする事 2) 日光に照されて物の表面が変色退色する事 3) 日光に照され野菜等が萎縮する事 (上、阿) 4) 日照りのため池・田などの水が涸れる事 (上、阿、張、賀) [会話] 4) ヒヤケした言うて、たあな (田が) ひびな (割れ目が) 割れて来ると。ひやけだ (日焼け田) 言うて、水な (が) 貯らせんのな (貯らないのが)。底な (が) がらだ (礫田) で、地床や (下が岩の所だと) 言うと 水な (が) 貯つとん ねえけど (貯って居るのだが) ひやけだ言うな (のは) 下な (が) すいてくねもんで (浸んで行くので) いしひく 言うて、石 引きおった (引いて居ました)。いつでも 水な (が) 貯まらんと (貯まらなと) その田は ひやけだ 言うて、水 汲まなはざんね (なければいけないのです)。<sup>3)</sup> 野菜やなんか (など) 畑の作りもんしとでも (物して居ても)、夏ん (に) なって みずけな (水分が) 無いよん (ように) なってくと (ていくと) 日に焼けて言うて、首かたげて (傾けて) 憐なよおなよお (ようだ) 言うて。<sup>1)</sup> にげ (人間の) 顔も ヒヤケする、くうろお (黒く) なる。スキーいて (行って) 来ると 真っ黒んしとる (にして居る)、水泳いたり (行ったり)。真っ黒ん なって来て 日に焼けて。“磨きいれても 根が鉄なれば 元の地金にや (には) 錆が浮く” 言うて もと (始めから) くうろいもな (者は) いくら 美し (美しく) しよ お言うても 美しくならせん (なりません)。

**ひやけだ (日焼田) 【名詞】** 日照り続きで水が涸れた田 また 少し日照が続くとすぐ水が涸れる田 (張) [会話] 水な (が) じっきん (すぐに) きれてくたあ (なくなる田) を、ヒヤケダや (です)。ひびりな (割れ目が) 割れてくねてや (て行くのです)。まあ ちよいと (少し) 雨な (が) 降らんと なあ、床な (が) わりいて なあ (悪くて)。

**ひやこい (冷) 【形容詞】** 冷やこい ひやっこい 冷めたい ひやかい 参照 (桑市、三、鈴市、安、一、上、阿、張、賀、南)

**びやこぐ** 失敗した

**ひやごぜん 【名詞】** 冷たい御飯 冷飯 ひや 冷や 名詞の上について冷たい あたためて無い意を表す ござん 御膳 食事 飯を丁寧と言う語 天皇や主君の

食事の事 供御 (南、熊) [会話] 冷めたい御飯。冷飯を ヒヤゴゼン、冷飯も みんなな (皆が) 分けて 喰わなはざん (なければいけない) 言うて。冷飯い (へ) 味噌かけて ちゃんちゃ汁 して、ほぼって (食べて) 来た言うて。味噌入れといて (ておいて) あたたい ちやあ (熱い茶) して、ちゃんちゃ汁 で がさが さつと、がっこい (学校へ) 行くよん (ように) なる。あたたい (熱い) 茶かけんな (かけるのは) まだ ええけど (よいのだが) 冷茶で喰うて、まいこまし てきおった (急いで行きました)。さい (菜・副食) も なんも (少しも) 無いし 戸棚開けると 味噌出して来て。

**ひやごはん 【名詞】** 冷めたい御飯

**びやこんだ** 失敗した 駄目だった [会話] びや言う事は はざんよお (駄目なように) なった、ピヤコンダ (漕いだ) 言うし。駄目にしたた (してしまった) 事なあ (です) びやこぐ (漕ぐ)。

**ひやしお (冷潮) 【名詞】** 冷たい海流 [会話] おおびな (鮑が) 中い (へ) 入いってくわい (入って行きます)、潮な (が) ヒヤシオや (だ) 言うと。

**ひやじる (冷汁) 【名詞】** 冷めた味噌汁 [会話] 冷めた汁 ヒヤジル ぼつかよ ばれて まあ (ばかり食べて)。朝寝 ぼつかし とるもんで (ばかりしているの) 言うて。朝 はよ (早く) 起きて 一緒ん (に) くやなあ (食べれば) ぬきたいな 食われんねけど (温かいのが食べれるのだが)、朝寝 しとると (していると)。そやけど (しかし) がっこ (学校) から来て、潮浴びん (海水浴に) 行って来て 腹な (が) へつとると (ていると) ヒヤジル を 麦飯い (に) かけて喰うて、そん でも 旨かりおったなあ (それでも旨かった)。

**ひやちゃ (冷茶) 【名詞】** 冷めて冷めたいお茶 [会話] がっこ (学校) から来ると ヒヤチャ でも ちゃんちゃしいおったの (したのです) さいな (副食が) 無いと。

**ひやつかにち (ひやくかにち) (百箇日) 【名詞】** 人の死んで百日目、又その日に行なう法要

**ひやっかんでぶ (ひやくくわんでぶ) 【名詞】** 非常に太って居る人をあざけって言う語 [会話] どいらい、よお (大変よく) 肥えとんの (ているのを)、あや (彼は) ヒヤッカンドブや なあ (だ) 言うてなあ。“行たら見て来い 〇〇の××× まるの裸で 二十貫” 言うてなあ、どいろおて (大きくて) ほん (本当に) ヒヤッカンドブ でああ がっこ (学校) の行きな帰りな かまうね (からかうのです)。

**ひやつく (冷) 【自カ五】** ひんやりした状態になる 冷たく感じる [会話] さぶなつて (寒くなつて) 来たなあ言うのをなあ、ヒヤツイテキタナア言うてなあ夕方になると ヒヤツイテキタナア言うて。日な(が) 照つとるうちや (ている間は) ぬくたいねけど (温かいのだが)、日な(が) 陰つて来たや (ら)、おた ヒヤツイテキタナア言うて、寒なつてくんのを なあ (来るのを) ぞおぞおと 背中な (が) して来ると ヒヤツク言うて。

**ひゃっぺらべん** 幾度も (志 (布施田)、阿、張、賀) [会話] 行たり (行ったり) 来たり ヒャッペラベんもするわ (する) 言うて。行たり来たりすると、行たり来たり ヒャッペラベんも 百度参りやなあ (だ) 言うて。起きよ 起きよ言うて ヒャッペラベんも言うても 起きやせんと (ないと)、おぞげやてや (腹が立ちます)、床離れな (が) わりいて (悪るくて) 俺家のこのかあ (子は) 言うてなあ。

**ひやでいそがし** 忙しいを表す語 [会話] ヒヤデイン ガシヤ言うて よなべん (に) でも ちよいと (少し) 編んでもしいおつたわい (して居ました)。

**ひやとい (日雇) 【名詞】** 日給で働く人 一日単位の契約で雇うこと 又その雇われる人 (南) [会話] ヒヤトイ言うて、一日雇われて行くのなあ。ヒヤトイ稼ぎで しんしょ、やんの (生活するのは) えらいなあ (大変だ) 言うて。

**ひやひやする** 1) なんとなく冷たく感じる ひやつくに同じ 2) はらはらする 心配する

**ひやめし (冷飯) 【名詞】** 1) 冷たくなった御飯 (南) 2) 次男以下の男兄弟 (志 (甲賀)、鳥 (鳥羽)、松、多、上)

**ひやめしぐい。ひやめしぐひ (ひやめしぐひ) 【名詞】** 1) 次男以下を言う 冷遇されて居る人 家督を相続する長男に比較し冷遇されたので次男以下の俗稱 (志 (鶴方)、張、賀、南) 2) 婿

**ひやめしじょおり (ひやめしごうり) 【名詞】** 冷飯草履 粗末な草履 尻のほつれた草履

**ひやれ 【名詞】** 幾日も続く曇天 だれびより参照 [会話] なあごお (長く) 風な (が) 吹いて、曇つたりして、はつきりせん (しない) 天気な (が) 続くと、雨は 降らせんねけど (降らないのだが)。すと (すると) ヒヤレや (だ) ヒヤレ日やなあ (だ) こや (これは)。

**ひやれごち 【名詞】** 幾日も続く東風 曇天を伴う [会話] こちな (東風が) 幾日も そおよりと (そろ

りと) 吹いて、三日も四日も 曇つてしとると (して居ると)。ヒヤレゴチ言うな、雨降らせんけど (降らないが) 三日も四日も 東風な (が) 吹くと、こや (これは) ヒヤレゴチやなあ (だ) 言うて。子守歌に、ああまいて来た まいて来た 蝶々にまいて来た、ヒヤレゴチ ヒヤレゴチ言うて、もり (子守) の歌に、浜ん (の) 土手 (土堤) で歌よおつたの (歌って居たのです)。ヒヤレゴチん (に) なんと。風はまぜみたよん (南風みたい)に わりねえけど (悪くないが)、東風な 三日位吹いとると (て居ると)、ヒヤレゴチや (だ) 言うわい (言います)。沖い (に) 行かれん (行けない) 事も無いけど、南風みたよん風な (が) わりこた (悪い事は) 無いけど、東風な (が) そおよりと 三日も四日も曇つて吹いとると (て居る) おりな (時が) 有るわい (有ります)。こや (これは) ヒヤレゴチや (だ) 言う。

**ひやれび 【名詞】** ひやれに同じ

**ひゅうきだけ 【名詞】** 火吹き竹 吹いて火をおこすのに用いる 先に小穴をあけた竹筒 (志 (浜島、鶴方、神明、立神、甲賀、国府、安乗)、鳥 (答志)、三、鈴郡、鈴市、安、多) [会話] ひい (火) 吹く竹 ヒュウキダケ。ふしい (節へ) 穴 開けといて (ておいて) ふうと 吹いて 火おこしおつた (おこして居ました)。あんななけな (あれが無ければ) ふうふうと 吹いて 灰だらけん (に) なるて。

**ひゅうちいし (火打ち石) 【名詞】** 玉髓に似た石英の一種 質はすこぶる堅い 火打ち金と打ち合わせると火を発生し、古来火付け道具として用いた [会話] ヒュウチイシ言うて。石で かちかち言うて、そすと (そおすると) ひいな (火が) ぱつと 出て来て。四角な入れ箱 (箱) 置いとて (て居て) ひうちばこや (火打ち箱だ) 言うて、それい (へ) 入れといて (ておいて) 火打ち箱取つておこせ (よこせ) 言うて。火打ち箱や (だ) 言うて ちっちゃい (小さい) 入れ箱な (が) 有つて それい (へ) つけ木 (薄い板の先に硫黄のついた物) 入れたり ヒュウチイシ入れたりして くど (火を焚く所) のとこん (所に) 置いてあねてや (有るのです)。マッチが 少ないもんで (ので) マッチの代りんしょおつたね (にして居たのです)。かちかち言うて すと 火な ぱつぱつと 出て来る わい (来るのです)。そすと (そうすると) それい (へ) すつと もらいびすんの (貰い火するのです)。もらい火言うて ぱつとして来たのい (のへ) しゅつと はぎ (葉のついた小枝) の 乾いとんのい (て居

るのに やると 火な(が) ぼおと ついてくるやん  
かい(来ます)。それ もらい火や(と) 言うの(の  
です)。

**びゅうと【副詞】** 1) 激しく(阿、張、賀) 2) 立派に  
(志、鳥、松、伊) [会話] 1) ビュウト 飛んで来た  
言うて、いきよいて(勢いよく) 行くのなあ(ので  
す)。ビュウトして 飛んで来たてやら(とか) ビュ  
ウト 打っておこしたてやら言うて。2) 頭も てかて  
かして ええ(よい) 着物着て 行くやんない(でし  
ょう)。ビュウトして いたよお(行った) 言うて  
粋なふうしとると(格好して居ると)。ビュウトコイ  
やなあ(だ) 言うて、じっばん(立派に) しとる事を。  
今で言うて 素敵な、素敵やわ(だ) あのひた(人  
は) 言うの、ビュウトコイヤ(だ) 言うて。ビュウト  
シテ 何処やら(かへ) いた(行った) 言うて。

**びゅっとこい【副詞】** 1) 立派に びゅうと参照  
(志、鳥、松、伊) 2) 勢いよく(阿、張、賀)

**ひよ(鶇)【名詞】** ひよどり 人家近くに表れる つぐ  
み大の鳥 翼長 12~14 糶、尾は長く 10~13 糶 附  
蹠は短かく 2~2.5 糶 うちばしやや頑丈 口角付近に  
剛毛有り。体の背面は灰褐色 胸は灰色の地に白斑あり  
腹は白色 頭頂の羽毛は灰白で細長く、多少羽冠  
状を呈し耳毛はくり色(志(鶇方、神明、立神、国  
府)、鈴市、安、松、南) [会話] ヒヨドリ さんも  
(三文) に 百舌あ(は) 一文言うて。百舌な(が)  
価がせで きいきと鳴いた言うて、ヒヨドリや(は)  
ちよいと(少し) 価な(が) ええね(よいのです)。  
働きんいても(に行っても) ヒヨドリ(日傭取り) 言  
うやんかい(言います)、日給を貰うのを ヒヨドリ。  
ヒヨドリで ぼちぼち(なんとか) 言うて、どんと  
つかみどり(掴み取り) 出来やせんけど(無いが) ヒ  
ヨドリで その日暮しや(だ) 言うて ヒヨドリで  
その日くてく(食べて行く) ぐらい出来るわい(出来  
ます) 言うて。今の サラリーマン ヒヨドリ言うて  
昔。ヒヨドリは お金貰うのを、昔や(は) 三十銭。  
わしらな(私達が) あきいとて(秋、秋の収穫の手伝  
い行って居て) 尻から けぶり(煙) なしとても(し  
て居ても)、ヒヨドリやよってん(だから) 三十銭。  
仕事に雇われた言う事を ヒヨ(日傭) に雇われた  
日傭人を やとて(雇って) 言うて。

**ひよ(日傭)【名詞】** ひよう 一日に限って傭う事 ひ  
やとい 又その費用 前項 ひよ参照(志(浜島、布  
施田)、三、鈴郡、鈴市、松、尾)

**ひよいと【副詞】** つと 突然 無意識で(志(布施

田))

**びよお(びょう、びやう)(紙)【名詞】** 止め釘 びんど  
め [会話] 頭いも(えも) 昔や(は) ビョオヤ(紙  
だ) 言うて、刺しおったし(ていたし)。菅笠の 頭  
い(に) かね(金属) のまるくたい(丸い) の ビョ  
オヤ(だ) 言うて、打つし。頭のついとんの(付いて  
居るのを) ビョオ釘言うて、釘 ばかやなしん(ばか  
りでなくて) 座をやるやんない(でしょう) あの座の  
ついとんの(付いて居るのを) ビョオ釘や(だ) 言う  
て。頭へさすの ビョオ 言うのは かんざしやなし  
んあ(で無くて) ピンみたよおなのをなあ(のような  
のを)、ちよいと(少し) わあんなつとんの(輪にな  
って居るのです)。磯まげん(髪(の形)に) 結うても、  
そのビョオで ちよいと止めときおったわい(止めて  
おきました)。髪まるけると(結うと) おつてくるも  
んで(落ちて来るので)。

**ひよおきんだま(ひょうきんだま へうきんだま)(剽  
軽玉)【名詞】** 軽率な者 粗忽者 ひょうきん 剽軽  
剽の軽くして浮ぶさま ウカレヒヨン(浮剽)の意  
[会話] ほかほかと、ひよかひよかしとんのおを(し  
ているのを)、ヒョオキングマヤ(だ) 言うて。ひよ  
かひよかと なんも(少しも) 取り柄な(取る所が)  
無いよおなのおを(のを)。

**ひよおきんたん(ひょうきんたん へうきんたん)【名  
詞】** 道化者 よくふざける者 ひよおきんだま  
(志(布施田))

**ひよおけ(ひょうけ へうけ)【名詞】【形容詞】** 悪ふ  
ざけ、又それをする人(桑市)

**ひよおけもん(ひょうけもん へうけもん)【名詞】**  
剽軽者。悪ふざけをする人

**ひよおける(ひょうける、へうける)(剽戯)【自ガ下  
一】** 1) ふざける(志、鳥、員、四、鈴市、一、松、  
多、上、度) 2) とぼける(志) [会話] 1) あや(彼  
は) まあ ヒョオケト~~ン~~ネド(ているのだ) 言うてな  
あ。ちよいと、ひよげた(少しふざけた) よおな事言  
うとなあ、あや(彼は) ヒョオケト~~ン~~ネド、ひよげや  
なあ(だ) 言う時も有るわい(有ります)。“ひよげの  
〇〇に、惚気の×××、煽て△△△に 世話 □□  
□” 言うて ひよおやく(冗談) 言よおったわい。

**ひよおし(ひょうし、ひやうし)(拍子)【名詞】** 1) 時  
期 機会 チャンス ついで 2) 調子 [会話] 1)  
こげんした(こんなにした) ヒョウシに、まあそや  
(それ) 言うて。此のヒョウシん(に) それもしたら  
な(してやらなければ) 言うて、ついで言う事やろな

あ(でしよう)。<sup>2)</sup> ヒョオシ ヒョオシ取って言うて  
よいとしよ こらしよ言うて はやすの (掛け声を出  
すのを) ヒョオシ取って言うて。ヒョオシ とりもて  
(ながら) やとられ (やって居る) 言うて。

**びょおしんもん (びやうしんもん) (病身者) 【名詞】** 体  
の弱い人 必ずしも病人とは限らない

**ひょおそお (ひょうそう、ひょうさう、へうそう) 【名  
詞】** 瘰癧 手足の指の末節の急性化膿性炎症 局所は  
化膿、腫張、発赤、熱感と共に激痛がある [会話]  
ヒョオソオ言うな (のは) 黴菌入れてなあ。指やたら  
(だとか)、ヒョオソオ病んで言うてなあ、指な  
(が) 曲ってくのな (て行くのが) 有るやんかい (有  
るで有りませんか)。ヒョオソオよおで (病んで) や  
めて (痛めて) やめて、あのやめんのな (痛むのが)  
違うね (のです)。千切れてく (て行く) 程 やめん  
ねもんなあ (痛めるのです)。

**ひょおぞお (ひょうぞう) 【名詞】** 魚 あかはた スズ  
キ科 体長約 30 cm、体は朱赤色で体側に不定形の白  
い斑紋が有る。

**ひょおそく (ひょうそく、ひょうそく) (柄燭) 【名詞】**  
金属板で作った丸い小さな燈火用具 (志 (布施田))  
[会話] あんど (行燈) の中い (え) 入れる ヒョオ  
ソク言うて。かね (金属) の まるくとおし いて  
(丸くしておいて) 上へ としみ差 いて (燈芯差し  
て) 油さいて (さして・入れて) ちよろ ちよろと。

**ひょおたんあたま 【名詞】** 馬鹿 [会話] 足らん (馬鹿  
な) 人も ひよこたん。頭な (が) かあるいと (軽い  
と)、あや (彼は) 瓢箪で、頭な (が) かあるいねよ  
って (軽いのだから) ヒョオタンアタマや (だ) 言う  
て。

**ひょおたんうき 【名詞】** 水に溺れて浮かんでいる状態  
[会話] 海に溺れてぼんと浮いとると (ていと)、  
おぼれて (溺れて) ヒョオタンウキシとた (してい  
た) 言うて。息な (が) 切れや (切れれば) とごって  
くのやけど (沈ずんで行くのだが) 息な (が) 有るう  
ち (間) は、浮いとて (ていて) おぼれて ヒョオタ  
ンウキシとる (している) 言うて。

ひょおたんうきしとんない 溺れて浮いている

**ひょおばん (ひょうばん、ひょうばん) (評判) 【名詞】**  
噂 (熊)

**ひょおやく (ひょうやく) (表白) 【名詞】** 冗談 おどけ  
又そのさま (志 (布施田)) [会話] ヒョオヤク言い。  
冗談言うの、こか言うの (のを) ヒョオヤク。ヒョオ  
ヤク言うて、今日は 磯い (海女へ) 行くのん (に)

出てたけど (出て行ったが)、磯人あ (海女は) 休み  
やし (だし) はまんどて (浜の土堤) で ヒョオヤク  
言うて 遊んどたよお (で居ました) 言うて。あのひ  
た (人は) こかばつか (ばかり) 言うとる (言うて居  
る) 言うて、冗談言うとる 言うのを、ヒョオヤクやた  
ら (だとか)、こかやとか (だとか)。ヒョオヤク言う  
て、ヒョオヤクユイやなあ (言う人だ) 言うて こか  
ゆいやなあ 言うたり。こかも ヒョオヤクも 一緒や  
(です)。ヒョオヤクユイ言うのは 冗談言いなあ  
(です)。

**ひょおやくゆい (ひょおやくい) 【名詞】** ざれ事を言  
う人 冗談ばかり言う人 ひょおやく参照

**ひょおろくだま (ひょうろくだま、へうろくだま) (表  
六) (兵六) 【名詞】** 人をののしって言う語 馬鹿 間  
抜け (志、上、阿) [会話] ヒョオロクダマ言うな  
(のは) ひよかひよかしとる (して居る) 事なあ (で  
す)。むたいな (途方もなく) あんごしのおやわい  
(馬鹿なのです)。ヒョオロクダマ、飛ばしたよおな  
(だ) 言うて。むたいなあんごしのおを (のを) ヒョ  
オロクダマや (です)。ちよいと (少し) あんごしな  
(のは) こあんごし言うけどなあ (けれども)、むた  
いな なつともかつとも (なんともかんととも) ならん  
程 あんごしねえやわい (のです) むたいな言うな  
(のは)。むたいなもんや (者だ) 言うと、はざんも  
ん (駄目な者) を むたいなもんや (者だ)、なんも  
ならんと (なんにも出来ない)と むたいなもんや 言う  
て、なんもよおせんと (なにも出来ない)と そいな事  
出来やせんのか (そんな事出来ないのか) むたいなも  
んや言うて。

**ひよかすか 【副詞】** 考へもなく気軽に言動するさま  
(志 (布施田)) [会話] ヒョカスカ言うて、ちよ  
いと (少し) かあるいのをなあ (軽るいのを)。あ  
んごしのおを (馬鹿なのを)。あや (彼は) ヒョカスカ  
で なん言うたてて (なに言っても)、じっきん (す  
ぐに) 忘れたたり (てしまったり)、がいん (あま  
り) 記憶な (が) 無いにげ (人間) をなあ。あや (彼  
は) ヒョカスカや (で) じっきん忘れたんねど (てし  
まうのだ) 言うて。

**ひよかせぎ 【名詞】** 日当を稼ぐこと また その人 土  
方 (賀) [会話] ヒョカセギも 日雇いも 一緒やわ  
い (です)。そのひい (日) そのひい働いて ぜん  
(銭) もおてくんの (貰らつて来るのを)、ヒョカセ  
ギやたら (だとか) 日雇いてやら、ひよどりやてら言  
うてなあ。

ひよかつと【副詞】突然

ひよかひよか【副詞】軽率に行動するさまを表す語 落ちつきのないさま 又その人 [会話] ヒョカヒョカ言うのも ひよかすか言うのも 一緒やわい (です)。

ひよからすから【副詞】落ちつきのない様 とりとめのない様 軽薄なさま [用例] ヒョカラスカラト あんごし事ばっか (馬鹿な事ばかり) しとんね (して居るのだ)。

ひよかんと【副詞】突然 (志 (布施田、鶴方、神明、甲賀、国府))

ひよくる 嘲笑する からかう あやかす ちよつからかす (志 (浜島、鶴方、神明、立神、甲賀、国府、安乗)、鳥 (鳥羽、鈴市、一) [会話] ヒョクツンネナイ (て居るのだ) 俺を言うて。ちよくつとるとか、ヒョクツトル、きよくつとるとか、人 あやかすのを (馬鹿にする) 人 ちよくつとんね (て居るのだ) 言うて。ちよくつとも、ヒョクツトルも言うやんかい (言うので有りませんか)。俺を 馬鹿にしとんねやれ (して居るのだ) 言う事を、俺 ちよくつとる 言うて。ちよつからかす そばやかしてしとんの (そばへさせてして居るのを) ちよつからかす言うやんかい (言うので有りませんか)。ヒョクトルも 一緒に事やけどなあ (ですが)。言い方な (が) 違うだけでなあ (す)。

ひよげ【名詞】とぼげ とぼげる人 [会話] ○やん、どいらい (大変) すばくらすんの (誤魔かしているのが) 上手なんてや (なのです)。あいな (あんな) ヒョゲみたよんしておって (のよにして居て)。ヒョゲの××やわい (です)、あんごしのおを (馬鹿のを) 言うんやわい (言うのです)。ちよいとなあ (少し) ひよからすからとなあ がいん (あまり) とりとめの無いよおな事言うて、ひよかすかと なん言うたてて (何言っても) 聞いとんねやら (ているのか) 聞かんねやら判らんよんしとんの (ようにしているのを)、ヒョゲタ よんしとて (ようにしていて)。なん言うたてて張りやいな (あいの) 無いよななあ (ようだ) 言うて。とぼけたよんしとんのなあ (ようにしているのです)、ヒョゲタ よんしとんね (ようにしているのだ) 言うて。

ひよげる とぼげる

ひよこたん【名詞】1) 瓢箪 (南、熊) 2) 軽薄な者 (上、阿、張、賀) [会話] 1) ヒョコタンで ぼぼ (女陰) 叩く言う、瓢箪 かあるいやんない (軽いでしよう)。槌やどけでも (などでも) かあるいのおな

(軽いのが) 有ると、なんどこや (なんだ此れは) ヒョコタンで ぼぼ叩くよおんしとるやんか (にして居る) 言うて。2) 頭のかあるい人 あや (彼は) 瓢箪や よって (だから) 言うて、かあるいと、おっばるいねよってん 言うて。ちよいと (少し) 足らん人を 寸足らずや (だ) 瓢箪や (だ) 言うて。“うかうかと暮すようでも 瓢箪は 胸のあたりに くくれ有り” 言うんけど (言うのだが) 瓢箪で ぼぼ叩く言うてかあるいもん (軽い物) 見ると そげん (そんなに) 言うて。ヒョコタン言うて 瓢箪の事 瓢箪の川流れよ言うて 怒られよおったやんかい (怒られて居たで有りませんか)。“浮いたか 瓢箪 軽るそに (そうに) 流れる” 私らも あんな、みい (あのような身) になって見たい言うて。うかうかと 流れとるもんで (て居るので) 言うんけど (言うのだが)、そんでも (それでも) 胸のあたりに くくり有り言うてしまつとるやんない (しまつて居るでしょう)。2) 足らん人 (馬鹿な人) も ヒョコタン。頭な (が) かあるいと あや (彼は) 瓢箪で 頭な (が) かあるいねよって (軽いのだから) 言うて 瓢箪頭や (だ) 言うて。

ひよこつと【副詞】急に出現したり出会ったりするなど、思いがけなくその状態になるさまを表す語 (南、熊) [会話] ヒョコットやって来て、びっくりしたよお言うて。きやせん (来ない) おもとると (思っている) 、ヒョコット 顔出して来て、まあ びっくりしたない (しました) 言うて。突然やって来た言うのをなあ ヒョッコリやって来たどよ (ぞ) 言うたり。

ひよこひよこ【副詞】【名詞】落ち着きのないこと またその人 (阿)

ひよこん【副詞】ぼんやりとしているさま [会話] とんぼりしとんのおを (しているのを) ヒョコンとしとる (している)。なんも (なにも) ものも言わせんし (言わないし)、何 するでも無し、ヒョコンとして おるやんかい (居ます)。ヒョコンとしとるてやら (しているとか) しょぼんと しとるてやらなあ。

ひよちん【名詞】日雇賃 日給 一日働いた給料 (志 (布施田、鶴方、神明、立神、国府、安乗)、南) [会話] あの家や (は) ヒョチンな (が) 安いよって (から)、こんだ (今度は) ええとこ (よい所) へ変らな (なければ) 言うてな。賃な (が) 安いと、そすと こつちやい (こちらへ) 代ったら、働きな (が) えろおて (大変で)、賃こぎや (ねぎれば) みい (身) こぎる言うて、賃よお (よく) 貰らをてや (と云えば) 働きもえらいわい (大変だ) 言う訳や



(です)。

**ひよっこり**【副詞】突然(志(布施田)) [用例] ヒョッコリやって来た

**ひよっと**【副詞】ふと 不意に 突然に 万一 ひよっとして ひよっとすると(志) [会話] ヒョットして言うんかい(言うのですか)。ヒョットして あんな来てくれや(彼が来てくれれば) 言うて。ヒョットして言うて、まさかちごて(まかりまちがって) 言う事やろなあ(でしょう)。ヒョットして 今日はあんな(あれが) 来るか判らん言うて。ヒョットした時ん(に) 言うて 言うのなあ(のです)。

**ひよっとすると** 万一にも 偶然に [会話] ヒョットスルト あの家や(は) ぜん(銭) も、くれやせんやら(くれないか) 判らせんない(ない)。ひよちん(日雇賃) も くれやせんやら判らせんど(ないぞ) 吝やよって(だから) 言うて。

**ひよっとするとさいが** 万一の時には(員、鈴市、安)

**ひよど**【名詞】日雇い人(志(浜島、鶴方、神明、立神、甲賀、国府、安乗)、鳥(答志)) [会話] ひよ(日当) 貰うひた(人は) ヒヨド言うて、あの家へ ヒヨドにいて(行って)、ヒヨドたのだ(頼のんだ) 言うて。てったいん(手伝いに) 行くにげや(人間は) なんも貰らわせんよって(なんにも貰らわないから) てったいど。

**ひよとり**【名詞】一日の労賃を定め、日数で働く人。日雇人夫。ひよど、ひよにん参照(志(鶴方、神明、立神、国府))

**ひよどり**【名詞】日雇い人夫 ひよ参照(鈴市、安、伊、熊) [会話] ひよかせぎすんのを(日当取りするのを) ヒヨドリ。ヒヨドリやよってんなあ(だから) 一日やすだや(休んでしまうと)、生活に 困ってくれ(来る) 言うて。

**ひよにん**【名詞】日雇人 ひよ ひよとり参照(志(船越、立神、国府)、鳥(答志)) [会話] 仕事に雇われた言う事を、ひよ(日雇) に雇われた。ヒヨニンを雇とて(とつて) 言うて。

**ひよひよ**【副詞】弱々しいさま(志(布施田)) [会話] ひこひこしとる(している) 言うのを、ヒヨヒヨしとられ(している) 言うて。まああの人 何処かわりんかして(悪るいのか) ヒヨヒヨと 歩るいとんない(ている) 言うてなあ。元氣な(が) 無いよんしとるとなあ(ようにしている)と。

**ひよひよしとる** 1) 弱々しくしている 2) 大切にしている [会話] 1) 体な(が) 弱つとんのおも(てい

るのも) ヒヨヒヨシトル(している)。ひよひよと、よるけてく(転んで行く) よおんしとられ(にしている)る)。

**ひよめき**【名詞】乳児の頭頂にあり、頭蓋骨の縫合が完了しないで有る状態、幼児期に閉じる大小二つあり頭頂骨と前頭骨、頭頂骨と後頭骨の間 泉門 ヒヨヒヨと動く様を名とする(大言海) [会話] 頭の此処おどりがみ、おどりがみをヒヨメキ言うて。昔や(は) おどりがみを押すと ものが言えんよおん な ってくねどお(なつて行くのだぞ) 言うて。おおども(背負つて居ても) なぶりん(に) 来ると、おどりがみ押すなよお 言うて おとしかった(怖かった)。昔の子ら 生れると 赤ちゃんに おどりがみい(へ) べつべ(紙) 貼つとりおつた(て居ました)。胎毒の子らな(が) 貼つとりおつた。それ貼つとると(て居ると) こんだ(今度は) それい(へ) けえな(毛が) 生えやせんもんで(生えないので) おつきいなつても(大きくなつても、成人しても) びつて(禿だ) や言うて、びつてな(が) よばん(夜遣い) しん 来たんよお(しに来た) 言うて 嫌いおつたの(嫌つて居たのです)。

**ひより(日和)**【名詞】1) 晴天 上天気(志、鳥、北、尾、南) 2) 天候(志、三、南) 3) その日の機嫌又機嫌のよし悪しをすぐ表面に出す人 [会話] 1) 天氣のええ事(よい事)、ヒヨリな(が) ええ(よい) 言うし。3) 人間でも 気嫌な(が) ええ日と、わりひい(悪い日)と有る にげな(人間が) 有るもんで(ので)、あのにげや(人間は) ヒヨリやよってん(だから)、2) ええひい(よい日)と わりひいと有る言うて。ヒヨリな(が) わり(悪い) 言う時は 雨。天氣の事を ヒヨリや(だ) 言うて。今日は ヒヨリな(が) よおてなあ(よくて) 言うて、ええひいんなると言うやんない(でしょう) 此処らの人の 挨拶なあ(です)。今日は ええひいやのお(よい日です) 言うて 天氣な(が) ええと(よいと)。

**ひよりあめ(日和雨)**【名詞】日が照っている時に降る雨 ひなてりあめ参照(志、鳥(相差)、南) [会話] 日な(が) 照つておつて(いて)、雨な(が) 降る時な 有るやんかい(有ります)。ヒヨリアメやれ(だ)、狐の嫁どりやあれ言うて。

**ひよりげた(日和下駄)**【名詞】駒下駄 下駄の齒の低い物(志(志島、的矢、越賀)、鳥(坂手)、上、阿、張、賀) [会話] ヒヨリゲタ言うと、はあな(齒が) 高下駄より ちよいと(少し) ひつくいの(低いので

す)、うっすうて (薄くて) 樫齒すると からころからころ言うて。○○の△で からころ からころ言うて。 雨の降らん (ない) ひい (日) に 履くもんで (ので) ヒヨリゲタ言うの (のです)。高下駄は雨のひいに 履くわけや (のです)。ヒヨリゲタ言うと、齒な (が) ひっくいんやんかい (低いのです)。そいなのおを (そんなのを) ひよりのええひいん (天候のよい日に)。すけろく下駄言うのな (が) 流行って まあうて (丸くて)、あつつうて (厚くて) そやけど (しかし) ヒヨリゲタんなって (になつて居て)、それを 嬉して (しくて) 履きおったわい (ました)。

**ひよりのある** 1) 陰日向がある 2) 気嫌がすぐ変わる (志 (布施田))

**ひよりのまち (日和待) 【名詞】** 天候の回復を待つこと 1) 船の航海に適した好天順風を待つこと 2) 漁師海女などが作業に適した海の状態になるのを待つこと [会話] 1) まあ 今日 風な (が) がいな (大変) 吹いとる (ている)。なぐ (風ぐ) 迄待とるか (ていましょう) 言うてなあ、待とんね (ているのです)。ヒヨリマチしとる (している) 言うて。2) 雨な (が) 降つたりなあ、しとると (していると)、雨な (が) 止む迄 待とれ (ておれ) 言うて、待とて (ていて)、止んだら 出んのなあ (出るのを) ヒヨリマチ言うて。ヒヨリマチしといて (しておいて) 行こやんかあ (行きましょう) 言うて。

**ひよりのれん 【形容詞】** ぼろぼろになった状態 びろびろ [会話] 着るもん (物) の 着やれん (着れない) ヒヨレンになったのを ためといて (ておいて) マッチや 付け木とかえんね (代えるのです)。

**ひよりのけ 【名詞】** 中風にかかった人。中風にかかった人は足許がしっかりせず、よろめくので。

**ひよりのける 【自カ下一】** ひよろひよろする よろける ひよろつく 足許がしっかりしない (志 (鶴方、甲賀、立神)、鳥 (鳥羽)) [会話] ひよろひよろして 足な (が) ふらつくのを ヒヨロケル言うて、足な (が) ヒヨロケテ まあ (もう) 言うて。足ん (に) たわいな (力が) 無いよん (ように) して ふらふらしとると (して居ると) ヒヨロケテク (て行く) 言うて。ひよろひよろも 一緒や (だ) 言うて。ほっそおて (細くて) 痩せ乾いて たわいな (が) 無いよん (ように) して、ひよろひよろ ひよろひよろ 道歩いとても (ていても) ヒヨロケル。

**ひよろつく 【自カ五】** 足もとが定まらないでひよろひよ

ろする (志 (布施田)、三、員、久、上、阿、張) [会話] ひよろひよろしとる (している)。歩くの、足や 腰な (が) 痛いと、ふらふらしとるやんない (しているでしょう)。ひよろひよろと 歩いてたない (行った) 言うて、何処か痛いと まあ しゃんとよ お歩かんやんない (歩けないでしょう)。そすとまあ (すると) ひよろひよろしたよんしとると (ようにしていると)、まあ 何処か わりんかして (悪るいのか) ひよろひよろ ひよろけて (ながら) 行たれ (行きました) 言うて。ヒヨロツク言うのなあ。ふらふらしとんのなあ (しているのです)。ひよろけて まあ あやれ (あれ) 言うの。体な (が) しゃんとならんと (ならず) ひよろけんね (るのです)。

**ひよろつと 【副詞】** やせて 身長の高いさまを表す語 [会話] ほっそおて (細くて) なあがいのなあ (長いのです)。ヒヨロットしとられ (している) あや (彼は) 言うてなあ。陰山のとびきみたよん (のように) ヒヨロヒヨロと ひよろけてくよおななあ (ようだ) 言うて。

**ひよろなんがいの 【形容詞】** 弱々しく細長い

**ひよろひよろ 【副詞】 【形容詞】** 1) 足がよろめいてしっかりしないさま 2) 細長くて弱々しいさま ひよろつと参照

**ひよろめく 【自カ五】** よろめく (志、鳥)

**ひよわいの 【形容詞】** もろくて弱い 弱々しい (鳥 (鳥羽))

**ひら (平) 【名詞】** 一般 普通 (志) [会話] ヒラシャインかい (ですか)。ヒラビトや (平人だ) 言うて。一般の人は ヒラビトや 言うて。ヒラビト 言うのは一般の人の事やわい (です)。がいな (大変) 上い (へ) も よお行かんと (行かずに)、賢いこた (事は) よおせんし (出来ない)。

**ひら 【名詞】** ひらぶり (鰯)。ひらまさ。鯆科の魚 鰯に似て居るがやや側扁し、上頭の後上角が角ばらず丸味を持って居る 又体側中央の一本の黄色縦帯の色が濃い。全長2米 [会話] 鰯みたよなのお (のようなので)。ひらくたい (平らいの) ヒラ 言うて、して (そうして) 美味いのなあ (のです) あれわなあ。

**ひら 【名詞】** 長方形の家の長い方を言う ひらいろ参照

**ひら (平) 【名詞】** 本膳につく 平な小鉢 平椀の略、椀のやや浅く平な物 (熊) [会話] 皿は ひらくとおてしとんねけど (平にして居るのだが)、ちよいと (少し) 小鉢みたよおん (のように) なつて、おっきいのな (大きいのが) ヒラで、つばは ちよつと、な

あがいの (少し長いのです)。

**びら (片) (枚) 【名詞】** 広告をする紙 品物の名、価を書き、人に広く知らせる紙 芝居、映画、興行の日時、場所等を記し、人目に立つ所に張り出す物 びらした 参照

**ひらあじ (平鰯) 【名詞】** 真鰯 アジ科の海魚 アジの代表種 全長約35cmに達す 体は細い紡錘形で、やや側扁する 背方はやや灰青色で、腹方は銀白色を呈し、体側には楯鱗と言う特有の隆起した鱗が鯉蓋の直後から尾柄部まで連続して並ぶ

**ひらいちめん (平一面) 【名詞】** 見渡す限り。広い地域 一帯にわたっていること [会話] びんぼぐさ ひと もと (一株) でも 置いとたら (残していたら)、来年になったら ヒライチメン になって来んね (来るのです)。

**ひらいもん (ひらひもん) 【名詞】** 拾い物 [会話] 拾いもん言わせんのかい (言いませんか)。浜い (へ) 荒布 なよって (が打ち寄せて) やうちな (一同が) ヒライモン にいとられ (行っている) 言うて。荒布や (とか) もおな (藻が) 寄るとなあ、今日は だんどり しとる (積み上げしている) 早よ行こやんかれ (早く行きましょう) 言うてなあ。浜い やうちな (一同が) 行く時な (が) 有るわい (有ります) まあ ヒライモン で やうちなしこつとんねよお (一生懸命だ) 言うて。

**ひらいら (平人) 【名詞】** 切妻造りや入母屋造りの建築物で入口が平の方に設けられたもの (志 (布施田)) [会話] 家のヒライリ、長い方ん (に) 玄関な (が) あん の (有るのです)。

**ひらう (ひらふ) 【他ハ五】** 拾う ひろう (拾) の転 (志 (鶉方、神明、立神)、鈴市、鈴郡、安、一、松、多、上、阿、張、賀、伊、北、南、熊)

**ひらおえぎ 【名詞】** 平泳 体を下向きにし 両手を水平に弧をかくように動かし、足は 蛙足を用いる [会話] かんかん流 (観海流) で よお泳ぐね (よく泳ぐのだ) 言いおった (言っていました)。猫おえぎ (犬掻き) から ヒラオエギ して かんかん流 で おえんで (泳よいだ) 言うて。

**ひらおり 【名詞】** 高い波の波頭が砕ける状態 [会話] 波な ヒラオリ して来て言うてなあ。たっこお (高く) あげといて、しいるお (白く) なって、おって くるやんかい (落ちて来るのです)。そいな (そんな) 時ん (に) 言うけどなあ (言います)。ヒラオリ やあれ (だ) 今日は波で言うてなあ。波な たっかい

のおな (高いのが) おって (落ちて) しいるお なって砕けて してくんのをなあ (して来るのを)。今日は潮、浴びん行くなよお (海水浴に行くな) 波で、ヒラオリやあれ 口の島な言うてなあ。たっかい波な 後から後から 続いて来て ヒラオリ して来て、危ない よって (から) 行くなよお 言うて 波うちかぶせて くんのを (来るのを) ヒラオリ したるよって 行くなよお 潮浴びん言うて。

**ひらがお (ひらがほ) 【名詞】** 凹凸の少ない顔

**ひらがしら (平頭) 【名詞】** かぐらざめ カグラザメ科 鰓孔は6対 吻は短くその先端は丸い。口は下位。噴水孔は大きい。尾鰭の背縁には肥大鱗が有る。背鰭は一基のみ。体は暗褐色で、体側に一淡色縦帯が走る。全長8m。頭部が平たく、体は側偏しているなのでこの名が有る。

**ひらき (開) 【名詞】** 1) 開き戸 2) 終り 3) 押し入れ (四) 4) 価値の差 [会話] 1) ドアの事 ヒラキや (と) 言うのなあ (のです)。開き戸。今しや (今は) ドアや (と) 言うけど (けれど)、昔や (は) ヒラキや (だ) 言うて。しき (敷居) の上 すんのを (するのを) ひきどや (引き戸と) 言うし、両方へ 開けんのを (開くのを) ヒラキどや 言うて。ヒラキの中ん (に) いっとんど (入って居るぞ) 言うて、よお言よおったわい (よく言っていました)。その時は 開き戸 で その中の物入れは ヒラキや (だ) 言うて。と お (戸) 開いといて (ておいて) ヒラキん (に) 入れとけ (ておけ) とか、ヒラキん (に) いっとんど、出して来いとか。

**ひらき (開) 【名詞】** 魚を開いて干した物 [会話] 魚のヒラキ、さんまのヒラキ、鰯のヒラキ、背ビラキ 腹ビラキ 言うて。せえ (背・背中) から 開くな (開くのは) 背ビラキ。腹から開くな (のは) 腹ビラキ 言うて。背ビラキんすんのか (するののか) 腹ビラキか 言うて 腹ビラキんすんな (にするのは) 手で おやいび (親指・拇指) の腹で こおしてするし (するのですし) 背ビラキ 言うな ほっちょ (包丁) で 背すじ から 開くのお (のが) 背ビラキや (です)。背ビラキん (に) しても 腹ビラキも ひものやわい (干物です)。ひものやけど (だが) 腹から割ってくのと (て行くのと) 背中から割んのと (割るのと) 違うだけで干物は 干物やけどなあ (です)。腹ビラキん (に) して、いび (指) で きさいたんね (裂いてやるのです)。頭 くじいて (取って) わたとるやんない (内臓取るでしょう)。そすと (そうすると) 腹な (が)

あくやんない (開くでしょう)。それい (へ) 親いび (親指) 突っ込んでいて (でおいで) 親いびの腹で 骨とみい (身) と 分けたんの (てやるのです)。鯨 やとか (だとか) 鯛やとか言うもな (物は) 出来るけど (けれど)、鰻やとか そいな (そんな) かったいもな (固い物は) 切れ物で せな (しなれば) 出来やせん (ません)。ひもな (干物は) おおかた (大多数) 背ビラキやけど (だが)、そやけど (しかし) 家で いわし (鯛) や、鯨 (鯛) 買って、塩して 生で食べるのは (るのは) そげんするやんかい (そんなにします)。親いびで きさい (切って)。鯨 喰うよおん (に) になると 爪 切ったると (てやる) と) かあ (皮) な 剥かれやせん。

**ひらきど (開き戸) 【名詞】** 左右に開閉する戸 ひらき 参照 (志、鳥 (桃取))

**ひらく (開く) 【自カ五】** 宴会が終る 散会になる 戦陣 慶事などの忌み言葉として 退散する 解散する 閉会にする お開きにする [会話] こんで (これで) 開いとこか (ておきましょうか) 言うて、終りの事を、座敷 (宴会) 終る事を たいがいんして (此の位で) ヒラコヤンカア言うて。しまいごと (後かた) ずけも せんならん (しなければいけないから) 言うて。きいきかして (気を利かせて・気配りして) 気な (が) 利かん (ない) もな (者は) いつ迄飲んだり、さおんだりしとるけど (騒いだりして居るが)、責任者が ちょいと (少し) きい (気) 使う人は たいがいんしてヒラコヤンカ (終りましょう) 言うて、おこや (終ろう) 言う事を ヒラコヤ言うて。終り 言わんと (言わずに) しまおや (終りにしよう) 言うのを、ヒラコヤ言うて。座敷 しまおや (しまいましょう) 言う こた (事は) 言わせんなあ (言いません) ヒラコヤ言うね (言うのです)。

**ひらくさ (平草) 【名詞】** 海藻 天草の一種 紅藻類 テングサ科の海藻 太平洋岸でやや深い所に生える 長さ 40 cm 葉状体は紫紅色を帯び、中央部が厚く不規則に線形の側枝を分けて更に小枝を出す 寒天の材料 [会話] てぐさ (天草) の、ヒラクサ はあな (葉が) ひらくとおて (平で) 中な (が) ひいろい (広い)、どいらい (大変) ふっかいとこ (深い所) に 生えとんのおて (生えているので)。

**ひらくた 【名詞】** 顔の平らな人 女性を罵って言う (志、鳥)

**ひらくた。ひらくたい 【形容詞】** 平である たいらで有る事 ひらくたい事 凹凸がなく広がって居る事 (志

(御座、布施田、片田、鶴方、神明、立神、甲賀、国府、安乗)、鳥 (国崎、加茂)、員、三、鈴市、鈴郡、津、一、松、多、上、阿、張、賀、度、伊、北、尾、南、熊) [会話] 顔な (が) おっきいと (大きいと)、あや (彼は) ヒラクタイナア。顔な (が) ひらべたや なあ (だ) とか、なんか ヒラクタイ もん (物) を見ると ヒラクタイナア言うて。角な もん (物) なら角や なあ (だ) とか、ちょんぎとるなあ (尖って居る) 言うけどなあ (言いますが)。ひらたな もん (物) 見ると ヒラクタイ言うて、顔 (でも)、おっきいと (大きいと) ヒラクタイ言う やんない (でしょう)、ひらべたや (だ) 言うて。じべた (地面) でも ヒラクタイ とこや (所だ) 言うて ひらたい とこ (所)。

**ひらけた** 1) 平で広い 2) 世慣れして居る 心が広い

**ひらけたる** 1) 取り散らして居る 2) 世慣れている 世情に通じ野暮でない 3) 大人になって来た (志 (布施田)) [会話] ヒラケトル 言うのは 色気づいて来た言う の (のです)。大人 になって来た 言う事 やわい (です)。大人になって来て、大人の言う事 な (が) わかって来て 色々と言うと あやまあ (彼は) ヒラケトル言うて。

**ひらける 【自カ下一】** 開く (三、鈴市、津、南)

**ひらける 【自カ下一】** 世なれている 細かい事に、気を使わず大胆である

**ひらご。ひらごいわし 【名詞】** 真鯛 イワシ科の海魚。イワシの代表種。全長 25 cm に達す。背方は暗青色、腹方は銀白色を呈し、体側に 7 ケ内外の黒斑が並ぶ。鱗は極めてはなれやすい。(志 (鶴方、神明、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥 (石鏡)、度、北、尾、南、熊) [会話] 鯛のヒラゴ、はかり みたよな (のような) めえなあんの (目が有るのを) ヒラゴ。ヒラゴは 骨な (が) よけ (たくさん) 有って 梅干し入れて炊くと 骨な (が) ぐたぐたん (に) なる。ヒラゴイワシ 相手なし。

**ひらこか** 1) 始めましょうか 2) 終りにしましうか

**ひらこや** 1) 始めましょう 2) 終りにしましう

**ひらさば 【名詞】** まさば サバ科 ヒラサバ ホンサバとも言う。体はごまさばより側扁する。腹側に黒色の小斑点は無く、稀に淡い暗色小斑点が現出することも有る。全長約 50 cm。

**ひらした 【名詞】** 興業物のポスターを貼らせて呉れる場所を、提供する家に謝礼として渡す入場券 (南、熊)

[会話] ピラシタもろて (貰らって) 言うて。貼らしてくれえ (下さい) 言うて、看板を 貼りん (に) 来る家な (が) 有るやんない (有るでしょう)、道ばたの家。その札になあ ふだ (入場券) を一枚二枚つ くれおったなあ (くれて居ました)、ピラシタもろて来たんよお (貰らって来ました) 言うて。

**ひらそで (平袖) (広袖) 【名詞】** ひろそで 和服の袖口を縫わずに全部あけてあるもの。(鳥(鳥羽)) [会話] こおおぶ (子背負う) ねんねこな (が) 有るやんない (でしょう)、あれ、ヒラソデなあ (です)。口な (が) しめんとあんのなあ (閉じずに有るのです)。ヒラソデ言うて。嫁よ ヒラソデはんでん やろこ (あげようか) 言うて。ヒラソデは じょおし (漁師) の人らな 着よおったの (着て居たのです)。昔や ヒラソデな はやり (流行) で、みつめの着物 をはやりで わりご 入れて そおでい (袖へ)、そいなのおな (そんなのが) はれやっただてわい (晴れ着だったそうです)。

**ひらた (平) ひらたい (平) 【形容詞】** 1) 平らである 凹凸がなく平坦である 2) 角がない [会話] 1) ヒラタなもん (物) 見ると ひらくたい 言うて。

**ひらたく** ひりひりと痛む ひらつく (志(布施田)) [会話] ヒラタク 言うの、日に よけ (多く) 照られて。家ん (の) 中んぼっか (にばかり) 入っ取るもな (て居る者は)、たまん (たまたま) 六月ん (に) 照られると 体な (が) ヒラタク 言うて よお言うやんかい (よく言います)。ひりひりするやんかい (するで有りませんか)。たまに ひなてい (日の当る所へ) 行くと 皮な (が) むけて 背中な (が) ヒラタク 言うて よお言うやんかい。やけずり (火傷) したりすると その後な (が) ヒラタイテ どいらい (大変) わり時な有るしなあ (悪い時が有ります)。ひりひり ちゃきちゃき 痛いのを ヒラタク 言うのな (あ) (のです)。やけど (火傷) したり、刺激したりすると とんがらし (唐辛子) でも 皮膚の うっすいとこい (薄い所へ) 塗ったて見よえ (塗って見なさい) ひらひらして ヒラタクやんない (でしょう) ヒラタク ね。〇〇小父な (が)、あのひた (人は) とんがらしな (が) 好きで、とんがらしせんぎり (沢山) 刻んで、おつけい入れんのん (味噌汁入れるのに) 言うて、きざんでしたや (したら)、その手 洗わんと しょんべしいんて (小便しに行つて)、ちんぼ (陰茎) のかあ (皮) ぎちむけん (に) なつて 痛い と言うて ちんぼも 綿で巻いて しとた (して居た) 事な

(が) あんね (あるのです)。おとろしね (怖いのです) とんがらしいろたら (触つたら)。そやよつて (それだから)、とんがらし、いろたら 手を えごつと (よい程に、十分に) 洗わな (なければ)、目こすつたりしたら ものすごいわりね (悪いのです)。そして (そうして) あいな、かあな (あんな皮が) うっすいもんやよつて (薄いものだから) ぎちむけん (に) かあなむけて。こやれ (これ) 言うて 出して 来て 手のひらい 据えて (乗せて) こらこらん しやあるいて (して居て) 綿でつつで (包んで)。きぞだ 言うて 刻むのを きぞだ 言うて、こらこら あっちゃいこかし (あちらへ倒し) こつちやいこかし (こちらへ倒し)。なぶりこたらん (に) する 言う事を こらこらん する 言うやんかい (言います)。

**ひらち 【名詞】** 平坦な場所

**ひらつく 【自カ五】** 1) 火傷した時など皮膚がひりひり痛む (上、阿) 2) はためく [会話] 2) なんやかや (いろいろ) ほちやめる よおんすんのをなあ (ようにするのを) ヒラツク 言うやんかいなあ (言います)。幟りな (が) 立つとて (ていても) 動いととなあ (ていると)、あや ひらひらしとんない (している) 言うやんかい (言います)。1) やけどな (火傷が) ヒラツク ひらたく 言うて “おめこえ 山椒や ひらたきや つばたく” 言うて どびおし (櫓拍子) 言うて 来よおった (来て居ました)。

**ひらつともしやせん** 全く来ない ひらつとは瞬間的にひらめくさま

**ひらなべ (平鍋) 【名詞】** 大きな鍋 底が浅く平な鍋 [会話] ヒラナベ の事を となべ (斗鍋) 言うて ひらくたいのおを (平いらなのを) 斗鍋 言うし 釜 は 斗釜。

**ひらびしゃき 【名詞】** 徹底的にやり込められる 叱られる (志(布施田)) [用例] 親父に ヒラビシャキン おおた (にあつた)。

**ひらびと 【名詞】** 一般の人 ひら (平) 参照

**ひらびら。ひらびら 【副詞】** ひらひら 薄い状態 (志(布施田)) [会話] なんやかや (何彼) 吊つとると (て居ると)、ピラピラ (とか)、ピラピラ 言うて。あんまりうっすいと (あまり薄いと)、ピラピラ 言うの (のです)。うっすういもん (薄い物) を、うっすうて (薄くて) ピラピラ やれ (だ) ぢなうっすうて (地が薄くて) ぺかぺか やれ (だ) 言う時な (が) 有るわい (有ります)。つづれん なつとる (になつて居る) 時でも、つづらん (に) なつて 吊つとられ (て

居る) 言うて つづらの事 ピラピラや言うて。つづら言うな (のは) 露な (が) 落ちたのおな (のが) 凍ってくのを (て行くのを) つづらや (だ) 言うて。きもんやどけでも (着物などでも) 裾な 裂けてしとると (して居ると) つづらやとか (だとか) びろれんやとか言うて。びろれんになっとんない (なつて居る) 言うて ピラピラしとると (して居ると) びろびろん (に) なつとられ (なつて居る) 言うて。

**ひらぶり** 【名詞】 魚 ひらまさ ひら参照 (志)

**ひらべた** 【名詞】 1) 平たい顔 (志 (片田)) 2) 平である [会話] 1) ヒラベタ。顔のおつきいと (大きいと) ひらくたい (平) と、あや (彼は) ヒラベタやなあ (だ) 言うて。2) 物でも ひらくたいと (平いらだと) ヒラベタ言うて。ひいろおて (広くて) べたんとしとんのなあ (して居るのです) 凹凸な (が) 無いのおを (のを)、そして (そおして) たっこおもつとんな (高く盛って居るのは) もやがとる言うけど (けれど)、べたべたん (に) しとんな (して居るのは) ヒラベタやなあ (だ) 言う。ひらくたいねえなあ (のだ) 言うて。にげ (人間) の ひらくたいなあ (のは) ヒラベタやなあ (だ) 言うて。どてかぼちやみたよな (のような) 顔やなあ (だ) 言うて。どてかぼちや でこぼか (凸凹は) 有るけど。どてかぼちや 器量な (が) わりやんな (悪いでしょう)、そやもんで (それで) ひらくたいにげや (人間は) 器量な (が) わりやんない (悪いでしょう) そやもんで (それで) どてかぼちやみたよななあ (のようだ) 言うの (のです)。どてかぼちや言うのは どてい (土堤へ) なるもんでか (なるのでか) おつきいもんでか (大きいからか)。おつきいもんで言うんやろなあ (言うのでしよう)。

**ひらべたい** 【形容詞】 平である 凹凸がない (志、阿、張、賀、伊、鳥) [会話] ひらくたあいのあなあ (平いらなのを)、ヒラベッタイナあ言うてなあ。まんべ (万遍) にしとるとな (している)、ひらたな (平らな) のをなあ 顔な (が) ひらくたいの (平らなのを) ヒラベタよ言うやんかい (言うのです)。

**ひらべったい** 【形容詞】 平たい 平である (志 (浜島)、鳥、阿、張、賀、伊) [会話] 平なとこ (所) を ヒラベッタイなあ言うの (のです)。でこぼこな (が) あや (有れば) でこぼこな (が) 有つてとか、たかびくな (高低が) 有つてとか言うけど (けれど・が)、じべ (地表) の ええとこ (よい所) ヒラベッタイじべたやなあ (地面だ) 言うて。

**ひらまさ** 【名詞】 魚 ひらに同じ (鳥)

**ひらもん** (平物) 【名詞】 梁 はり うつばり 家の柱と柱の上に掛ける横木 (志 (神明、志島、甲賀、国府)) [会話] ヒラモン言うて てんじよ (天井) の ヒラモンも有るし。

**ひらや** (平家) 【名詞】 一階建ての家

**ひらり** 【名詞】 左 ひだりの訛 (鳥) [会話] 左の事を ヒラリ言うにげな (人間が) 有る。

**ひらりがつて** 【名詞】 左利き [会話] ヒラリガツてや (だ) 言うて 左のにげやなあ (人間は)。

**びり** 【名詞】 鰻の幼魚 (志 (国府、鶴方)) [会話] ビリ言うて ちっちゃあいの (小さいの) とて来て (取って来て)、よさり (夜) ガスつけて。なんやら (なにか) の、こおや (仔だ) 言うて、掬りんいこや (に行きましょう) 言うて 行きおつたね (行って居ました)。夕飯喰うと ゆりのとおを 探して行きおつた (いって居ました)。おおた のらよ (お前達) あいまちすんなよお (怪我するな) 言うて、ゆりのと いたり (行ったり) 田のしりいたり。ゆりぐちい (へ) 出てくんのは (来るのは) 鰻のこおやんかい (仔です)。かみのいち (髪の毛) より ちよいと ふつとい (少し太い) よおな。われせひとせ (我も人も) 行きおつたね (行って居たのです)。

**びり** 最後 (志 (浜島))

**びりくそ** 【名詞】 下痢便 軟便 [会話] やいこおい (軟らかい) 便も ビリクソ言うて しゃあしゃあやなしの (水様便で無くて) しゃあしゃあ 行く迄に やいこいのおな (軟いのが) 有るやんかい (有りませ) それを ビリクソ言うの (のです)。“橋の上から ビリクソ たれて 川の魚は 卵とじ”おめこしな がら (性交しながら) ビリクソたれて きんだま なすび (茄子) の辛子あえ” 言うて。ビリクソ言う時は 普通のかたまとる 便やなしの (でなくて) ちよいと やいこいの (少し軟らかいのです) だいぶ (大分) やいこおて (軟らかくて) カレーみたよん (のように)、カレーを飯い (に) かけると ビリクソ たれたよおん (ように)、よお似とるわい (よく似て居ます) あや (あれは) 色もなあ。水みたいん (のように) なつたると (なつてやると) しゃあしゃあで言うて しゃあしゃあで つつ抜けたよお (ました) 言う、あれしたると (してやると) さっぱりしてくけど (して行くが)、ビリクソの時や (は) 行ても 又 じつきん (すぐに) 行きとなつて (行きたくなつて) 来て その時 よけ (沢山) 出やんとおつて (出ずに) しまい

にや (終りには) なめな (粘液が) 出て来て きしよ  
くなわりなあ (気分が悪いのです) なめは 出て来る  
と長びくのなあ (長くなります)。

**びりけつ** 最後

**ひりだす** (放出) 【他サ五】 1) 体外に排泄する 2)  
捻出す

**ひりひり** 【副詞】 痛みの表現

**びりびり** 【副詞】 1) 恐れ怖がるさま 2) 大きな音の  
響くさま 3) 物を破る表現

**ひりひりする** 痛みを表す ひりひりは刺す様な痛みを  
表す

**びりも** 【名詞】 ひるむしろ 水生の雑草 荳蔻 ヒルム  
シロ科の沈水性多年草 各地の池沼 水田などに生え  
る 茎は細く泥中の根茎からのび、長さ10~60c  
m、沈水葉は短柄を持ち 被針形で小さい 浮上葉は  
長い柄を持つ、葉身は長随円形で 長さ5~10cm  
裏面は黄緑色を帯び 葉脈が やや隆起している 夏  
から秋にかけ 水上に花軸を出し 黄緑 緑色の小花  
を穂状に密生する ひるも (荳蔻) の訛か [会話]  
ビリモ言うな (のは) はあな (葉が) ぎざぎざみたい  
んしとて (のようにして居て)。

**ひる** (昼) 【名詞】 1) 昼、正午 (北、尾) 2) 昼食  
[会話] 2) ヒル おひる。ヒルメシなあ (です)。1)  
ヒルヒンナカ (昼中) から言うて、よお言うやんかい  
(よく言います)。ヒルヒンナカから 酒のおでてや  
ら (呑んでとか)、ヒル ヒンナカカラ ねとて、て  
やら (寝て居てとか) 言うて、ひんなか (昼中・日  
中) から 寝とると (て居ると)。ヒル ヒンナカ 言  
うのは まっぴる (真っ昼) の事を言うて、真昼は十  
二時頃から 二時頃迄の事を言うんやろなあ (言うの  
でしょう)。ヒル 言うて 十一時から 一時二時  
その三時間のあいなあ (間です)。三時ん (に) なる  
とやんない (でしょう) おやつなんねよつて (にな  
るのだから)。ヒル 言うた時は 十二時の時と 2)  
ヒルしょおやんか (しましよう) 言うて 食べおった  
けど (食べて居ましたが)。畑で はよ (早く) ヒル  
しょおや (しましよう) 言うて、十一時頃喰うて こ  
んだ (今度は) 又 ゆざげ喰うやんな (食べるでしょ  
う)、夕飯迄に。麦刈る時期は しんがつの夜無し  
(四月の夜無し) 言うて、一番 夜な (が) 短かい時  
や (です)。日な (が) なごおて (長くて)、そやもんで  
十一時頃喰うて 三時頃 ゆざげ喰うと よさり  
おつそおても (夜遅くても) しんばな出来るけど (辛  
抱が出来るが)。朝 四時ん (に) になると 畑いて

(行つて) 磯 (海女) 行く迄 畑 はんぶつ (半分づ  
つ) 刈つといてくんね (刈つておいて来ます)。そし  
といて (そおして) 八時頃ん (に) 来て、磯 行くや  
んな (でしょう)。磯から 来るも 火も 当つてお  
られん (おれない) 言うて、道具ばな (を) 打ちつけ  
といて (投げ捨てて) 畑 向いて そらかして (急  
ぐ・走つて) 七時頃迄いつ (も) 磯 行く迄 刈つた  
の (のを) 家い (へ) 担うてやら (とか)、ほんと  
(本当に) 骨のやもおりおったわい (おつて居まし  
た)。

**ひる** (放) 【他ラ五】 体内より外へ放す 大、小便など  
をする 屁をする へるとも (志 (布施田、鶴方、神  
明、志島、甲賀、国府、安乗)、南、多、上、阿、張、  
賀、度、伊、北、尾、熊) [会話] どぎつい (大変・  
臭い) 屁ヒルト いたちのかんじべや (いたちの最後  
屁だ) ものすごい 臭い屁ヒルト。屁 ヒル言うの  
屁 へる言うて そしたや (そうしたら) 一人娘で  
じっばな (立派な) 娘やけど (だが) 嫁ん (に) 行か  
んとおつて (行かずに居て) じっばな (立派な) 娘や  
のん (だのに) 嫁ん行かせんなあ (に行かない) 言う  
たや (言つたら) そしたや (そうしたら) 屁 よけ  
(沢山) へんので (するので) わしや (私は) 人の家  
い (へ) 行かれやせんね (行けないのです) 言うて  
貰いん (に) 来てくれても 行かせんね (行かないの  
です) 言うて、わしとか (私の所は) だんねえよつて  
(かまわないから) 来てくれ言うて 婆な (が) そげ  
ん (そんなに) 言うて その 屁ヒル嫁 来てもるた  
や (貰つたら) 婆な (が) 縁側で なんやら (何か  
しておつたや (居たら) 嫁な (が) 屁ひつたや (た  
ら) 婆な (が) 畑い (へ) 迄 飛んでた (行つた) 屁  
で 飛ばされて そやもんで (それなので) 嫁な  
(が) わしや (私は) こげな (こんな) 病気な (が)  
あんねもんで (有るので) 嫁ん (に) もらいん (に)  
来ても 行からつたね (行かなかったのです) 言うて  
嫁さんな (が) 婆ん (に) ことわり (許し) 言うて。  
そしたんけど (そうしたが) 病気なら しゃあないよ  
つて (仕方無いから) 屁な へりとなつて来たら 自  
分の寝どこい (寝室へ) いて (行つて) へれ言うて  
あんた (貴方) の部屋に してあんねよつて (して有  
るのだから) 寝どこい (へ) いて、へれえ (行ってし  
なさい) 言うて そやもんで (それだから) 屁 ヒル  
とこやもんで (所なので) へや (部屋・屁屋) 言うて。  
私 屁 へる部屋い (へ) やつてもらいます言うて  
屁な (が) 出て来ると、その部屋い (へ) いて (行つ

て)へりおったもんで(したので)寝るとこ(所)をへや 部屋言う 寝どこは へや言うよおん(ように)名付けた。

**ひる(箒)【他ハ上一】**箒で穀類を実と殻とにより分ける 箒でよりわける(志(布施田)) [会話] みい(箒)でヒル言うてなあ。ほこりは 先い(へ)飛んでて(でいって)、みい(実)は 残ってなあ、こんだ(今度は)二番目んのおを(ののを)ヒルと、みい(箒)先をあげると みい(実)は 残んのなし(残こります)下げると ええ(よい)のでも 飛んでくやんかい(行くのです)。そげんしてええ(そんなにしてよい)のと わり(悪るい)のと しわけんの(区別するのです)、みい(箒)でヒル言うてなあ。みい(箒)で はじめや(は)ほこりばっか(ばかり)飛んでくねんなあ(行くのです) そすとこんだ(すると今度は)後を かあるい(軽るい) しゅなしゆなんのおを(悪いのを)飛んでくよん(行くように) ひんね(ひるのです)。みい(箒)で しわけんの(区別するのです)ひってなあ みい(実)と しわけんの(区別するのを) みい(箒)でヒル言うてなあ。

**ひるあがり(昼上)【名詞】** 1) 昼迄に仕事を終える事 三時上りは午後三時、午後の休憩迄に仕事を終える事 2) 昼食のため仕事をやめて帰ること

**ひるがいかい**とる 昼間から同食している。ひるがいかい(ひるがひ しひるがひ 昼買)昼見世の遊女を買うこと。[会話] ヒルガイ カイトル言うて。ひんなか(昼間)から、とと(夫)と かか(妻)と寝るとなあ あや(あれ)まあ ヒルガイ カイトンネヨオ(ているのだ)言うて。まあ あの家行たや(行ったら)ヒルガイ カイトて(いて)言うて。

**ひるから【名詞】**午後 [会話] ヒルカラ言うて 昼十一時 昼(昼食)喰うて それから。

**ひるぐさ(蛭草)【名詞】**植物 血止草 [会話] たあ(田)へ行くと 蛭ん(に)喰われると ちいな(血が)止まらんで、たあ(田)の泥な(が)あっこお(赤く)なる程 ちいな(血が)出て来んね(来るのです)。めったん止まらせんね(絶対に止まりません)そすと ヒルグサや(だ)言うて まるくたあい(丸い)草を。

**ひるござん【名詞】**昼食 御膳(松) [会話] 昼飯言うの(のを)ヒルゴゼンとか、昼ままとか言うて。子供ら 昼まま 喰うたんかれ(食べたのか)言うて。

**ひるじたく(昼支度)【名詞】**昼食の用意 [会話] ヒ

ルジタクや(と)言うて すんのを(するのを)くいことせなはざん(いけない)言うて。

**ひるづめ(昼詰)【名詞】**昼間の務め 昼間仕事をする事 [会話] 夜詰め ヒルヅメ言うて。よさり(夜) よさごつと(毎晩)よなべしたりすると 夜詰めばっかしとて(ばかりして)体な(が)疲れたなあ、夜詰め ヒルヅメでえらいなあ(大変だ)言うて。

**ひるどき(昼時)【名詞】**正午 昼食を食べる時分 [会話] ひるめし くとる(食べている)時い(に)行くとなあ、おた ヒルドキやのん(だのに)来てのお言うてなあ。

**ひるな【名詞】**瓢箪 ひるなじる参照

**ひるなじる【名詞】**瓢箪を具に入れた味噌汁 [会話] ヒルナノシルも 喰て来たか(食べて来たか)言うて、ヒルナ言うのは 瓢箪。

**ひるひんなか【名詞】**白昼 ひるひなか 昼日中 日中 まっぴるま 昼間 ひる参照(志(布施田))

**ひるま(昼間)【名詞】**正午を挟んだ前後 一、二時間  
**ひるまえ(ひるまへ)(昼前)【名詞】**午前中 正午に近い頃(鳥) [会話] オヒルマエ。午前中に 来てくれえ(下さい)言うとなあ、まあ ヒルマエになると 昼にや(は)おるよつて(居るから)ヒルマエに来てくれえ(下さい)言うて、十時か十一時頃なあ。

**ひるまま【名詞】**昼食 ひるめし まま めし 御飯 まんま(桑市)

**ひるめし(昼飯)【名詞】**昼の食事 [会話] 昼の御飯を ヒルメシ言うの(のです)ヒルメシ 昼寝。

**ひるめしどき(昼飯時)【名詞】**昼の食事をする時刻 [会話] 昼飯 くとるとこい(食べているところに)来ると、ヒルメシドキや(だ)言うね(言うのです)。はよくわんかい(早く食べませんか)言うて、やつて来たよお(食べて来ました)言うて、昔や(は)御飯時ん(に)人な(が)来ると くわんかい言うのな(が)挨拶やつたのなあ(でした)。

**びるも【名詞】**水田、沼に生える雑草 ひるむしろ びりも参照(志(甲賀)、鳥)

**ひるやすみ(晝休)【名詞】**昼食のあとにとる休憩 昼食をとるためにする休憩 [会話] 昼飯 食べた後で やすんどんの(休んでいるのを)ま、ヒルヤスミしとんねよお(しています)言うてなあ。食後三十分言うて まあ ちよいとなあ(少し)。

**ひれ(鰭)【名詞】**魚の鰭のように、泳ぐ力をつけるのに海女が作業中足につける用具。



**ひれじろ**【名詞】よごれ メジロザメ科 眼窩は丸く、  
 鱗は眼窩内に入り込む、噴水孔はない。第一背鰭、胸  
 鰭、尾鰭下葉は丸く、白いぶち紋様がある。上顎歯は  
 幅広い三角形、全長3mになる。

**ひれつぎ**【名詞】布 着物の破れた所を補修する布 色  
 紙 [会話] つぎ当てる (ほころびをなおす) つぎな  
 のおて (布が無くて)、ヒレツギも無いねない (無い  
 のだ) 言うて。

**ひれてく** 痺れて行く [会話] てえな (手が) ヒレタ  
 ヨオ言うて、しびれてく (て行く) 言うのを ヒレテ  
 ク言うの。

**ひれる** 感覚が無くなる (志) [会話] ヒレル いそど  
 (磯人、海女) は 手な (が) ヒレル 言うのなあ  
 (のです)。海い (へ) 入って手な (が) しびれてく  
 のを (て行くのを) 手な (が) ヒレテ おぼえな (感  
 覚が) 無いよん (ように) なってたよお (なって行っ  
 た) 言う。たあい (田に) 田の草 掻いとても (取っ  
 て居ても) さぶい時や (寒い時は) 手な (が) ヒレル  
 言う時な (が) 有るんなあ (有るのです)。手な  
 (が) ヒレタナイ (しびれた) 言うて、あや (あれ  
 は) さぶいと (寒いと) あんげん (あんなに) なんね  
 やるなあ (なるのでしょうか)。じわじわしたよおん  
 (に) して しびれがみ (しびれ) きたよおん  
 (に) 覚えな (が) 無いよおんなってくの (なって行  
 くのです)

**ひろ (尋)**【名詞】長さの単位 両手を一杯に広げた時  
 片一方の指先から反対側の指先まで 大体 1.8m位迄  
 [会話] ヒトヒロ、フタアヒロ (二尋) 言うてなあ。  
 ま ヒトヒロか フタアヒロ なあ (縄) も、のおて  
 (なって) 来い言うて、てえ (手) 一杯。海い (へ)  
 もぐんのも (潜ぐるのも) イクヒロ もぐった言うて。

**ひろいおや (拾親)**【名詞】父母いずれかが厄年の年に  
 生れた子供を思み一度屋外に捨てた格好にし その子  
 を近所の人 出入りの人 或は子供の一生の親として  
 ふさわしい土地の人 名士に拾って貰って親になって  
 貰う。その拾ってくれた人を拾い親と言う。(桑市、  
 桑郡、鈴市、亀、津、多、阿、度、鳥) [会話] ヒロ  
 イオヤ言うな (のは) やくどしん (厄年に) なんと、  
 三十三とか二十五とか言うて、厄 (やく) の年ん  
 (に) 子供な (が) 生れると、厄のこおやよってん  
 (子だから) 言うて 親類の人んでも (にでも) 友達  
 ン (に) でも 拾るてもおて (貰って)。管笠の上い  
 (へ) 着るもん (物) 着せて 乗せて ほっといて来  
 ると (捨てて来ると) 捨て貰うのん (に)。そすと

人な (が) 捨てくれんの (くれるのです) そんな (そ  
 の人を) ヒロイオヤ言うの (のです)。

**ひろいご (ひろひご) (拾子)**【名詞】厄年に生れた子  
 体の弱い子 次々に子を亡くし、残った子を捨てる真  
 似をして仮親に拾って貰う子 (四) [会話] ヒロイゴ。  
 捨子 ヒロイゴや (だ) あや (彼は) 言うて、捨子な  
 (が) して有ってなあ 昔や (は) よお (よく) 拾ろ  
 て来た言うて 厄年で 捨子なあ (です)。

**ひろいしごと (拾仕事)**【名詞】1) まとまった仕事で  
 なく、少しの仕事 2) 仕事の無い時、あちらこちら  
 の修理などを頼まれてする事

**ひろいて (ひろひて) (拾手)**【名詞】他人の落した物  
 捨てた物を拾う人 拾い主 [会話] 餅 撒いたけど  
 (が) ヒロイテなのおて (が無くて)、おら (俺は)  
 よっけ拾るたよお (沢山拾いました) 言うて。拾う人  
 を 撒き手ばっか (ばかりで) ヒロイテなのおて、  
 よっけ拾たよお言うて。

**ひろいもん (ひろひもん)**【名詞】1) 拾物 道などに  
 落ちている物を拾うこと 又 その品物 2) 思いが  
 けない幸運に恵まれること 予想外の儲物 (志 (布施  
 田)) [会話] 1) ヒロイモンに行こやんかあ (行きま  
 しょう)。浜い (に) よっけ (沢山) 寄っとんなあ  
 (ているのです)。てぐさ (天草) 拾たり めえ (若  
 布) 拾たり もお (藻) 拾たり そして、みちなか  
 (道中) で ヒロイモンして けえさつい (警察へ)  
 届けたてやらなあ (とか)。2) こやまあ (これは) ヒ  
 ロイモンやったよお (でした) 言うて、わりもんや  
 (悪い物だ) おもて、こおたや (思っで買ったら)  
 どいらいよおて (大変よくて) こやまあ どいらい  
 (これは大変) ヒロイモンやったよお言うて。安すか  
 ったのん (に) こや (これは) どいらいええもんや  
 (大変よい物だ) ヒロイモンや (だ) 言うて。

**ひろがる (広)**【自ラ五】世間に知れ渡る [会話] 和  
 具中 ヒログატテテナア (ていって) 言うて、和具中  
 つたわってたれ (ていった) 言うのを、ヒログატテ  
 タレまあ言うて。あんな (あれが) 言い こんな (こ  
 れが) 言い するよって (から) 知らんおもとるか  
 (思っているのか) 皆 ヒログატテタレ言うてな。

**ひろげさがし** 散らかって居る [会話] あの人 ほり  
 さんぼんしとる (ほり出しにしている) とか、片付け  
 んと (ずに) ヒログサガシに~~して~~とて (していて)。

**ひろげさがす** 散らかす [会話] 一杯 並べどんの  
 (て居るのを) ヒログサガシテまあ そやれ (それ)  
 片付けまあ (片付けなさい) 言うて。飯台の上も 一

杯やのん (だのに)、なんもかも 皆 ヒログサガシテ言うのなあ (のです)。散らかしとると (ていると) ヒログサガシテ ひとばか (少し) 片付けまあ言ううて。

**ひろげる【他ガ下】** 1) 散らかす 乱雑にする (志、鳥、松、伊、南) 2) 宴席をつくる [会話] <sup>1)</sup> ヒロゲトケマア (ておきなさい) 言うたりなあ。ももぐれてしとんのおも (くしゃくしゃにしているのも) ヒロゲテオコセマア (よこしなさい) 言うてなあ。干す時ん (に) ヒロゲテ 干しとけまあ (ておけ) 言うて。散らかす言うのも ヒロゲル。ひろげさがしとて (ていて) 言うて、<sup>2)</sup> 宴会やどけ (など) 始めん (る) のも ざあ (座) ヒロゲル言うてなあ 前 ヒロゲルたら (とか)。

**ひろそで【広袖】【名詞】** 袖口の綴じてない着物 (鈴市) [会話] ヒロソデ言うな (のは)、くりぐちせんと (せずに) ひいろお (広く) 口 あけばなしししたのおを (にしたのを)。

**ひろそではんてん【名詞】** ひろそでに同じ

**ひろた** 拾った (志、桑市、桑郡、員、鈴市、亀、津、多、度、伊、尾) [会話] 財布 ヒロタ。ひろいもんやったなあ (拾い物だった) 言うて、拾いました言うのを ヒロタ。

**ひろて** 1) 拾って (志、桑市、鈴市、安、度、伊、南) 2) 拾って下さい [会話] <sup>1)</sup> 拾って言うのを ヒロテまあ。どいらい (大変) ええもん (よい物) ヒロテ言うてなあ、もろて (貰らって) 言うて 貰らうのでもなあ。

**ひろてく** 拾って行く 持って行く

**ひろてくる** 拾って来る

**ピロド【名詞】** ピロード 織物の裏面を毛羽で覆った織物 びろろ参照 (員、鈴市、鈴郡、上) [会話] ピロードの事 ピロド言うの (のです)。くうろい (黒い) のをなあ。びろろ言う人な (が) あんね (有ります)。

**びろびろ【形容詞】【副詞】** 破れの甚だしいさま (志 (布施田)、南) [会話] 破れてまあ ピロピロや (だ)、びろれんや (だ) 言うてなあ。きさけて (裂けて) 暖簾みたよん (のように) なつとんのなあ (なっているのです)。ピロピロんなつた (になつていった) びろれんになつとんね (なっているのだ)、まあ 破れて言うて。

**ひろぶた【広蓋】【名詞】** 1) 祝宴の御神酒 盃を乗せる大形の盆 衣服入れる唐櫃、衣笥などの蓋、衣服を

賜わる時にその蓋に載せた事より、それに似た器を作ったのがひろぶたで有る 2) 転じて餅、其の他食品を一時的に入れる木製の浅い器 [会話] <sup>1)</sup> ヒロブタ言うな (のは)、今しや 使わせんけど (今は使わないが) まるくたいのおへ (丸いのおへ)、しょんがつ (正月) になると、ヒロブたい (へ) 御神酒しとて (供えて) やうちな (家内中が) お正月ん (に) 屠蘇酒 頂く時ん (に) ヒロブタの上で しよおつたわい (して居ました)。結婚式でも ヒロブタへ 銚子やとか なんとかを 並べとて (ておいて) しよおつたんなあ (して居たのです)。まあい (丸い) のも有るし、四角なのおも (のも) 有るし (有ります)。その上へ 銚子や 盃や てしよお皿 (小皿) こぼし (小箸) や言うて 置いとて (ておいて) 人な (が) 来ると 最後 (その時) 一とつうつ それい (へ) 乗せてやってしよおつたなあ (して居ました)。亭主役は その前い座つて 亭主役な (が) おこして しよおつたなあ (与へていました) 箸と てしよおと 盃と したのおを (のを) 一とつうつ お客さんな おつそお (遅く) 来ると それい (その人に) 又 遣りして。

**ひろまる【広】【自ラ五】** 広く世間に知れ渡る。普及する。

**ひろめ【披露目】【名詞】** 広く知らせること 特に結婚開業などを広く告げ知らせること 又そのための招宴 (鳥、松、多) [会話] 結婚式のヒロメとか、みきびらきなあ。みきびらきよばれてたんよお (招待されました) 言うて、ヒロメん (に) よばれてくと (招待されると)。みんなん (皆に) 知らせる言うんか (のか) ヒロメする言うて。結婚した言う しるしん (に) 友達とか 親戚とかんなあ (に) ヒロメんのおを (るのを) みきびらき。そして 茶碗一杯つ 酒を隣中 こばりおつたやんかい (配りました) みきびらき もて来たねえ (持って来ました) 言うて。

**ひろめ【広布】【名詞】** 若布の内て 葉の巾の広いもの巾は 30cmに達する褐藻類 コンブ科 あんとくめ食用 (度、北) [会話] 若布のヒロメ、まんとも言うなあ。小島 隔つとるだけん (ているだけに) せだ (布施田) は、布株な (が) ついて 柳布やし (ですし) 和具は まんともや (です)。

**びろれん【形容詞】** ずたずたに破れて吊り下がって居る状態 つづれ参照 吾党の俗に衣服の裾の破れ垂れるを、ピロレノサガルと言うは他に通じる辞にあらず。案ずるにヒロレはヒレにて、口は助語なり。ヒレはヒ

ラなり。離れ離れになりて片片(ヒラヒラ)と垂れたる也(伊勢の浜荻)。【会話】ピロレンや(とは)千切れて 吊がつとるの(ているのを)着ると、あやれ(あれ)ピロレン着とんない(着ている)言うて。

**ピロロ【名詞】**ピロード 織物の一種 ピロド参照(志) 【会話】ピロロ言うな(のは) 今し(今)で言うて べっちゃんや(別珍です)。別珍を 昔や(は)ピロロ、ピロロの帯を言うて。そして(そうして)ピロドの襟を ねんねこの半纏へ。子供な(が)生れると どおしょこさえて(丹前作って)ピロドの襟かけて、掛け布団へ 襟に ピロドかけよおった(かけて居ました)。

**ひわり(日割)【名詞】**給金や支拂いを日数を単位として計算すること 【会話】ヒワリで かんじょしょおや(勘定しましょう)言うて、一日 幾らで。

**ひわるさ【名詞】**火遊び 【会話】火なぶりすんのを(するのを)ヒワルサ言うね(のです)。

**ひわれ(干割)【名詞】**乾き過ぎて割れ目が出来ること またその割れ目 ひび参照(熊) 【会話】ヒワレ ひびな(が)割れてた(ていった)言うの(のを)。ひばれな(が)割れてたれ(ていった)言うてなあ。ひばれなしててまあ(していつて)、これもじつきんうちやれてくんなあ(すぐに壊れて行くのだ)言うて。

**ひん【接頭語】**ひき(引き)の転 動詞について 勢いよくする意を 添へたり 語調を強めたりする 又ののしる意を添へたり 粗暴なさまを表す ひんだくひんまくる(北) 【会話】ヒんまくつたれ(てやれ)言うて、なかね(腰巻)も、ヒんまくれ言うて。雨な(が)降って来ると 着物の裾も ヒんまくらんかれ(まくりなさい)、尻も つぼれてやら(とか)ヒんまくれてやら言うて、まくる事を。ヒん抱いて来たない(来ました)言うて、その子も 泣いとられ(て居る)言うて、抱き上げんのを(上げるのを)ヒん抱いて来た言うて、ヒん抱いて 来たやら、ひっさげて来た てやら言葉 強めんのん(るのに)。

**ひん(品)【名詞】**格好 その人にそなわっている品格や品質(志(片田)) 【会話】ヒんな(が)わりてたら(悪くてとか) 言うやんかい(言います)。ヒんツクリや(だ)言うて 格好作るのおを(のを)。ヒン作る にげな(人間が)有って 又 しよおし(笑止)な程。若い時や(は)はがね 鳴らしたけど(けれど)今度 ならすてや(ならすと言へば) でがねやれ(出棺の合図に打つ鐘だ)言うて。昔や(は)着物着よおったやんない(着て居たでしょう)。そすと

(そうすると)袖を 全部すると きれな(布が) よけ(沢山)要るやんない(でしょう)、無いもんで(ので) こんだけばかの(此だけ・約三寸ばかりの)巾にして 袖口い(へ) ねぶらして(付けて)シナ作りおったの(作って居たのです)。わたしら(私は)てえなきくもんで(ので) とんじゃく(気をつける)の 無いもな(者は)着物だけ着とんねやんかい(着て居るのです)。私ら もすのきれ(布)を一尺 こおてきといて(買って来ておいて)それを ふたあつんわんの(二つに割るのが)勿体ないもんで(ので) 四つん(に)割って 袖い(へ)入れて ヒんつくんねやんかい(作るのです)。あっかいのお(赤いのを)入れて ここ(袖口)に ちよつと出るとさいご(その時は) ええやんない(よいでしょう)。そやもんで(それで) それをつけて ヒン作って。着物の袖口も 五寸に 上しといて(しておいて)中は四寸六分して きちつと 袖口あわしてしとんな(合せてして居るのは) どいらい(大変)伊達で ヒんつくりおった(作って居ました)。そつぼり(すっかり)しよお言うて きれな(が) よけ(沢山)要るもんで(ので) 袖口だけねぶらして ヒン 作りおった。

**ひん(貧)【形容詞】**貧しいこと 貧乏なこと 生活が苦しいこと 【用例】ヒんすや(すれば)鈍する

**ひん** 日に ひんひん参照

**ひん(便)【名詞】**都合のよい機会 便宜 ついで 【会話】 ビン(便)言うて ついでに びんせん言うて ビン もろて(貰って)言うて。ビンショもろてこや(貰って行きましょう)言うて、船い(へ)でも 車い(に)でも 俺も ビンショくれ(下さい)言うて、乗せて貰うの ビンショくれえ言うの(のです)。ついでに 乗せてくれえ言うの(のを) ビンショくれえ言うて 行くついでに 乗せてくれえ言うのなあ(のです)。

**びん(瓶)【名詞】**徳利(志(志島)) 【会話】 とつくり(徳利)とつくりの事を ビンや(だ)言うて。一升 ビンや(です)。一升どつくり言う人も有るしなあ(有ります)。

**びん(鬢)【名詞】**顔の側面 又そこに生やしたり、垂らしたりする髪 【会話】 此処も ビン(鬢)言うの(のです) 今しのまん(今の者は) ビンおかんと(おかずに) 髪 ひきつめとるけど(て居るが) 昔や(は) ビンおきおったやんかい(置いて居ました)。

**ひんがらめ(瞼目)【名詞】**斜視 ヒガラメ(瞼目)の音便(大言海) 両眼の視線の一致しない目(志(浜島、

甲賀)、鳥(鳥羽)、鈴市、上、阿、張、賀、北、南、熊) [会話] ヒンガラメ。ひがらめ言うな(のは)、こげんしてしとんの(こんなにしてして居るのを)ひがらや(だ)言うて、めえな(目が)かたいつぼ(片一方)横目みたよんしとんのな有るやんか(のようにして居るのが有ります)、からすめみたよん(のように)。今し(今)の子らんなあ(子供達のは) どんぱりや(ロンパリだ) 言うね(言うのです)。からすめ言うな(のは)人 見とるんねけど(見て居るが)目は 横向いとんの(て居るのを)からすめや(だ)言うて。すがめやとか(だとか)からすめやとか(だとか)。まともん(まともに・正しく) むいとんねけど(むいて居るが)目尻は 横むいとんね(むいて居るのです)、そいな(そんなのを)ひがめや(とか)からすめや(だ)言うて。

**びんぎ**【名詞】 便り 手紙(北、南、熊)

**ひんけつびょう** (貧欠病)【名詞】 金が無い 金が無くなる [会話] 財布の 中な(が) びいびいや(だ)、からん(空に) なったの(のを) ヒンケツビョオで 財布あ(は) びいびいやよお(だ) 言うて。

**びんこしゃんこ**【副詞】 活潑なさま

**びんこだち** 勢いよく立つさま 姿勢を正して立つさま

**ひんごつと** (日毎)【名詞】 日ごとに 毎日(志、鳥(坂手)) [会話] ヒンゴット言うのなあ(のです)。毎日の事を、日にごつと こいな(こんな) おかずばつか(副食ばかり)でとか、ヒンゴット きとんね(来て居るのだ)。行かなはざんね(なければいけないのだ)言うのなあ(のです)。ひにち 毎日言う事を 日にごつと、ヒンゴット。

**びんしえん**【名詞】 便箋(志、鳥、一、松、度、北、南) [会話] ビンシエンは ビンシエンやねんかい(でないのですか)手紙書く ビンシエン。

**びんしゃん**【副詞】 活潑なさま 元気なさま(志(布施田))

**びんしゃんしとる** 元氣だ [用例] 爺やん まめなかいてや(元氣ですかと言えば) ああ ビンシャンシトルわい(です)。

**びんしよ。びんしよお**【名詞】 ついでに乘せて貰う 機会を利用する 他の人の乗り物と一緒に乗せて貰う 便乗の訛か びん便参照

**ひんすやどんする**【俚諺】 貧乏すれば、する事が不十分であり、へまな事ばかりする

**ひんする** 貧乏する。

**ひんそ** (貧相) **ひんそお** (ひんさう)【名詞】【形容詞】

みずばらしいさま 極めて貧しいこと(上、阿) [会話] さても ヒンソな 〇〇〇言うて。ヒンソな(だ)言うな(のは)、べつんも(特に) びんぼたらしよおな くすぼたよおな しよぼんとしたよおな人な(が) あや(彼は) びんぼたらしよおな顔しとんなあ(して居る)とか言うて、ヒンソな顔しとんなあにこにこと ほたほたしとると べつんも ふくそななあ(福相だ) 言うんけど(言うが)、しよぼんとしよぼくれたよん(ように) しとると ヒンソな顔やなあ(だ)言うて。〇〇〇 なだいて(沖行って)人魚の いお(魚) 釣ったや(たら)人魚の いおな(が) 色々のたたり事言うもんで(ので、いやらしなって来て(気持が悪くなって) 放したたや(てやったら)、行く時ん(に)、さても ヒンソな〇〇〇 肌一枚が千両 千両言うといていた(言っておいて行った)言うて。肌(鱗)一枚 取つても 千両すんのに(するのに) ヒンソな 〇〇〇やなあ(だ)言うて にげぐち(逃げ口)に言うといてた(言っておいて行った)。

**びんた**【名詞】 1) 横面 頬 頭の左右両側の鬢(志(御座)、片田、神明、志島、国府)、鳥(鳥羽) 2) 他人の頬を平手で打つ事

**ひんだく**【他カ五】 抱きかかえる(志(布施田)) [会話] こお寝とんのを(子供寝て居るのを)、起して抱いてくの(て行くのを)。抱いて 怒りもて(ながら)行く時やろなあ(でしよう)、ヒンダイテタナイ(行った) あやれ(あれ)言うて。ひつかかえてた(て行った)言う時も有るし ひっさげてた言う時も有るし、ひきしゃくつてた言う時も有るし(有ります)。ひきしゃくつてく(て行く)ひつたくられた言うて ひきしゃくる言うの(のを)ひつたくられたよお言うて。

**びんだま** (瓶玉)【名詞】 漁網や真珠養殖の綱につけるガラス製の球形のうき [会話] ビンダマ言うな(のは) ガラスののお(のを) 言うんやろなあ(言うのでしよう)。今し 真珠屋な(真珠養殖業者が)皆 つことんのなあ(使つて居るのです)。あれを言うね(のです)。大敷(大敷網)も あれや(あれです)。今しや(今は) ビンやなしん(でなくて) ガラスやなしん、ビニールみたよなのおで(のようなので) ボールみたよんしとんのなあ(ようにして居るのです)。

**びんたまわす** 横面を平手で叩く(志)

**びんちよお** (びんちやう) (鬢長)【名詞】 魚名 びんなが とんぼ参照(度、多) [会話] とんぼしびの事言

うんかい (言うのですか) ピンチョオ言うて。

**ひんつくり**【名詞】格好をつける人 ひん品参照 [会話] ヒンツクリ おちよぼぐち。

**ひんつくる** 格好つける 見栄を張る うわべをよく見せる [会話] 伊達こいて シナ ツクッテ ヒンツクル。

**びんつけ** (鬢付)【名詞】びんつけ油の略。蠟と油を固く練り合せて作った物 髪<sub>の</sub>形を整えるのに用いる

**びんつけいも** (鬢付芋)【名詞】さつま芋の蒸しても柔らかく びんつけ油のようにべたべたする物(鳥) [会話] ビンツケイモ言うの (のは)、やいこお (柔らかく)、びちよびちよしとんのなあ (して居るのです)。こや (此れは) ピンツケイモやなあ (だ) 言うて。こおな (粉が) ふいとると (て居ると) 粉な (が) ふいて 美味そおなけど (そうだが)、こやなあ (此れは) びちよびちよ ピンツケイモや (だ) 言うて。粉な (が) ふいとらせん (ふいて居ない) びちよびちよしとんのおな有るわい (して居るのが有ります)。きみいも (黄み芋) と 又 違う。きみ芋でも ちよいと (少し) 粉な (が) ふくのおも (のも) 有るし、びちよびちよやいこい (柔い) のおも有るわな (有ります)。その芋の やいこいのおを きんこん (芋の煮切干しに) すると 甘味な (が) 有って 美味いんてや (美味しいのです)。にやげて (煮上げて) 喰う時 や (は) びちよびちよしとて (して居て) 美味ねえけど (くないが) きんこん (に) すると うもおて (美味くて)。

**びんづら**【名詞】1) 横面 鬢 頬 (志(布施田、神明、立神、甲賀、国府)) 2) 平手打ち。[会話] 1) ビンヅラ 張り倒したんど (てやるぞ) 言うて。びんたかけて 張り倒したんど お言うて。ビンヅラ張り倒したれ (てやれ) 言うて、片方の顔の事を言うのな (のです) ビンヅラ。2) びんたも ビンヅラも 一緒やわい (です)、よこつら (横面) 真正面から 撲んなないし (撲るのでなくて) 皆 びんたやわい (です)。ヨコビンヅラ張り倒したんど 言うて ヨコビンヅラや (と) 言う。場所も びんた 言うし 叩くのもびんた張り倒したれ、びんたやられたよお言うて。びんた言うと 手 開いて、握ったのな (のは) 拳骨むくったれ、撲ったれ言うね (言うのです)。びんたま 言うのも びんた張ると 張り廻す 言うて、拳骨は むくったんどお (てやるぞ) 言うて。

**びんと**【副詞】しっかり きちんと

**びんとこだち**【名詞】勢いよく立って居る状態 (志(布

施田))

**びんとこぼり**【名詞】勢いよく立って居る事 [会話] たとで (畳んで) 立てると しゃんと立ちおった (立ちました)。ピントコバリんなるよお (になります) 言うて。

**びんどめ**、**びんどめ**【名詞】頭髮の乱れを防ぐための物

**ひんなか** (日中)【名詞】白昼 昼間 ひなか参照 (志(浜島、片田、神明、志島、甲賀、国府、安乗)、鳥、桑市、三、員、鈴市、久、松、多、阿、張、賀) [会話] 昼間の事なあ (です)。ヒンナカん (に) になったら 干しとけよお (干しておきなさい) とか、どげんせえよお (どんなにしなさい) 言うて、昼の事を ヒンナカや (です)。ヒンナカ 言うて ひなか言うのを ヒンナカ。ヒンナカ じゅう ひなた (日光のよく当る所) で、ぬくとまって (温まって) 言うて。 ヒンナカや (と) 言うの (のです) ひなか言うのを。ヒンナカ 言うて、ヒンナカん (に) になったら ひなたいて (日の当る所行つて) ぬくとまって (温まって) 来い 言うて。

**びんなが** (鬢長)【名詞】サバ科の海魚 大形の海魚で 全身1m余になる、胸鰭が第二背鰭の後端に達する程 長いので此の名がある 背方は青黒色、腹側は銀白色 肉は赤味が少ない ヒレナガ(鱈長)の訛、又ビンナガ(鬢長)(大言海)(張、賀、伊)

**ひんなわり** 格好が悪い 恥かしい [会話] ヒンナワリイテ (悪くて)、格好がわり (悪るい) 言う事 かた (形・格好) のわりなあ (悪いのは) ヒンナワリなあ (悪い) 言うて。

**ひんぬく** (引抜)【他カ五】抜くを強めた語

**びんのかみもいごかんひい**【名詞】無風状態の日 [会話] 風な (が) 無いと、今日はなんで (風いで) ピンノカミモ イゴカセンワレ (動きません)。鬢は ちよいと (少し) 風な (が) 吹いても いごくやんない (動くでしょう)。そやよつて (だから) 鬢の髪も 吹けやせん (吹けない) 程 風な (が) 無い 言うて。風の無い日を。

**ひんのく** 退く 逃げる

**ひんのぐ** 脱ぐを強めた語

**ひんのける** 除く のける 退ける [会話] たくまし 言うな (のは) えらいの (大変のを)、人のしと と (している) 事でも ヒンノケトイテ (ておいて) 行くのなあ (です)。人な (が) 先い (へ) いとても (行つていても)、それ ヒンノケトイテ 先い (へ) いたりすの (行つたりするのです)。ヒンノ

ケル言うのは 押しひける 人を のけといてすんの  
を (ておいてするのを)。

**ひんをやまい (貧病) 【名詞】** 貧乏、貧乏なことを病氣  
に例えたもの

**ぴんぴらはぎ 【名詞】** かわはぎ [会話] ピンピラハギ  
言うのは、うまいんてや (美味しいのです)。びくしゃ  
はぎの事や (です)。びくしゃはぎ言うのを ピンピ  
ラや (だ) 言うの。色も違うし きじ (肌の荒さ) も、  
皮な (が) はぎみたいん (に) かっつ (硬く) ないの  
なあ。皮な (が) うっすうて (薄くて)。子供らが  
たべそめ (食べ始め) の時ん (に) 食べやしたり (さ  
せたり)、おこじやたら (おこぜだとか) そいて (そ  
して) 病人が。お産したり、脂な (が) のおて (無く  
て) かあるいもんで (軽いので) びくしゃはぎ食わす。  
あの鮭のこおに 脂つけな (が) のおて (無く) 臭  
味な (が) ねえ (無い) もんで 鮭のこお (具) にし  
たりすと (すると) うまいねてや (美味しいのです)。  
あぶらっけなない、あつさりしとんのを (しているの  
を) 言う。あつさりしとんのおを あぶらけが軽い。  
脂が無い事を、魚な (が) あぶらけな (が) のおて  
(無く) 軽い魚や言うて、あぶらな (が) よけあん  
のは (沢山有るのは) たかなは (たかのは鯛)、やい  
と、そいなな (そんなのは) あぶらっこい。ピンピラ  
ハギやどきや (などは) あぶらな (が) のおて (無く  
て) 軽いもんで (ので) あつさりしとるもんで、昔や  
(は) おびやど (出産した人) 食わすのん (の)に 言  
うて ピンピラハギをくれおったね (くれたのです)。

**ひんひん 【副詞】** 日に日に 日毎に 日を追って 日が  
たつにつれて [会話] 日に日に 成人して来たなあ  
言うけどなあ。ヒンヒン よお (よく) になって来たれ  
(来ました) とか。

**ぴんぴん 【副詞】** 1) 活発なさま 2) 魚の新鮮なさま  
(志 (布施田)) 3) 直立して居るさま [会話] 2) 活  
きて こや (此れは) ピンピンやなあ (だ) とか、3)  
びんとたちやがとると (立ち上って居ると) ピンピ  
ンやなあ 言うて。しゃんとしとると ピンピン やな  
あ (だ) びちびちや なあ言うて。

**ぴんぼ 【名詞】** 貧乏 財産や収入が少なく生活が苦しい  
事 又その人 そのさま (志、上、阿、北、尾) [会  
話] かね (金) も 財産も無いのを ピンボタレ。  
“ぜん (銭) 無い 金ない かいしよ (甲斐性) 無い  
かいしよどころか 家も無い 来てみりや 土瓶のつ  
るも無い”

**ぴんぼがみ 【名詞】** 1) 貧乏神 人にとりついて貧乏さ

せると言う神 2) 厄介者 (上、阿) [会話] 1) ピン  
ボガミ 言うな (のは)、ぴんぼばっかしとるとなあ  
(貧乏ばかりしていると) ピンボガミよ言うて。喧嘩  
すると とと (夫)、と ふたんな じょっく (二人  
がいつも) 喧嘩してなあ。あがみや (貴方は) ピンボ  
ガミやよって (だから) あがみや早よ 死んでけえ  
(行きなさい)、あがみな (貴方が) 死んでかな (行  
かなければ) おや (私は) とくは出来やせんわい (出  
来ません) 言うと、ととあ (夫は) のな (お前が) ピ  
ンボガミやれ、のな 早よ 死んでけ、そえんせな  
(そんなにしなければ) おや、とかあ (俺はとくは)  
出来やせんわれ (ない) 言うて ふたんな じょっく  
そげん 言うて 喧嘩しとんね (しているのです)。

**ぴんぼぐさ 【名詞】** 雑草 むらさきかたばみ [会話]  
ピンボグサ 言うな (のは)、花の ちっちゃあいねけ  
ど (小さいのだが) こおな (子が) 無数ん (に) なっ  
て、今は らっきよみたよん (のように) 一つやけど  
(だが) 秋ん (に) になると 米粒みたよな子ん (こめ  
つぶのような種) になって、皆 分かれて それから  
皆 芽な (が) 出て言うて 子な (が) よけ (沢山)  
出来るもんで (ので) ピンボグサ 言うんやろなあ (言  
うのでしょうか)。親芋な (が) 一つんのおな (のが)  
分かれて 子ん (に) になって、種んなんねやんかい  
(になるのです)。そすと それから みんな (皆)  
芽な出てなあ (出ます)。それを 取つとると (て居  
ると) きり (際限) な無いんやんかい (有りません)。  
幾らでも ふえるもんで (ので) そいなもん (そんな  
事) しとると ぜんかせぎんも行かれやせんやんない  
(銭稼ぎにも行けないでしょう)。そやもんで (それ  
で) ピンボグサ 言うんやろなあ (言うのでしょうか)。  
それと こおな (子供が) よけできんのおと (沢山出  
来るのと)、子な (が) よけ出来ると 子供らん  
(に) 食べさせんならんよって (食べさせなければい  
けないので) ぴんぼ (貧乏) なやんない (でしょう)。  
それと 二あつで例えんのやろなあ (例えるのでしよ  
う)。ひとつと (一株) うちやたら (こわれたら・  
種が飛んだら) 秋に 割つたら (種が割れたら) 此処  
ら 一面になってくんの (来るのです) ひとつとで。  
白髪みたよおんしとんのえ (のようにして居るのに)  
皆 どんびな (囊が) 付いとんね (付いて居るので  
す)。そすと そんな (それが) 秋ん (に) になると  
割れて 子、なんねやんかい (種になります)。そし  
て (そおして) それを ひとつとでも置いたら (残し  
たら) 来年なつたら ひら一面になってくんね (来る

のです)。そやよってん (それだから) ひとと有っても 取って 遠いとこい (所へ) ほりん (に) 行くの (のです)。そこら ころらい (へ) 置いたら ふえてくんのな (来るのが) ものすごいね (のです) 繁殖な (が) 強いね。

**びんぼくさい**【**形容詞**】貧乏臭 貧乏な様子や感じが身についている (南) [会話] ビンボクサイなあ あや (彼は) 言うて。びんぼたらししとんのをなあ (しているのを)、見た格好な (が) ひんそ (貧相) なよおんしとるとなあ (ようにしていると) おおた びんぼたれみたまななあ (のようだ) 言うてなあ、ビンボクサイ言うのを びんぼたれみたいな (のようだ) 言うたりなあ。

**びんぼしょ** (びんぼしゃう)【**貧乏性**】**【名詞**】余裕のない性格 いつも貧乏な様な仕草をする人

**びんぼたらし**【**形容詞**】貧乏くさい 貧乏のようだ (熊) [会話] そおぎ葺 石 おそたりして (おそったりして) どいらい (大変) 見苦し ビンボトラシ思 いおったわい (思いました)。

**びんぼたれ**【**名詞**】貧乏人 たれ 接尾語 つたれとも 体言について その性質や状態をはっきり表す 人を ののしって言うのに用いる (鈴市、一、上、阿、張、賀、度、南、熊)

**びんぼどっくり**【**名詞**】円筒形の上の方に長めの口をつけた陶製の徳利

**びんぼにん**【**名詞**】貧乏人 貧しい人 財産のない人

**びんぼのよざかり**【**名詞**】極貧状態 貧乏の最もひどい時 (志 (布施田))

**びんぼはで**【**名詞**】金が無いのに派手な事をする事 又その人 (志 (布施田)) [会話] ないもせんくせん (有りもしないのに) 派手な事して、ビンボハデな ねよって (のだから)。

**びんぼや**【**名詞**】貧しい家 財産収入が少なく 生活が苦しい家 (志) [会話] 筆筭や長持言う よなもな (ような物は) ビンボヤは あるかい (有りません)。

**びんぼゆすり**【**名詞**】貧乏ゆすり 座って居る時に体の一部 特に 膝などを絶え間なくゆする事 [会話] 膝を むこといて (座って居て) こおこおする (動かす) 人な (が) 有るんなあ (有ります)。ビンボユスリしてすかんわ (嫌だ) 言うて。おいざかいとても (胡座をして居ても) じょつく いごかしとる (いつも動かして居る) 人な (が) 有るわい (有ります)。ビンボユスリしてすかん なあ (嫌だ) 言うて そいな の (そんなのを) ビンボユスリ。

**ひんまくる**【**他ラ五**】まくる まくり上げる (志 (布施田)) [会話] ちんぼな (男根が) 有るか 見よ言うて 前 ヒンマクッテ おこして。

**ひんまげる** (曲)【**他ガ下一**】乱暴に曲げる 勢いよく曲げる (志 (布施田)) [会話] ヒンマゲラレタ あれん 言いまげられた (彼に言いこめられた) 言うのも有るしなあ。針金でも 曲げん (る) のを ヒンマゲル 言うて、なんやかや (いろいろ) 延べとるもん (ている物) を、曲げたい思うとなあ ヒンマゲトケ 言う時 も有るしなあ (有ります)。

**ひんまるける** 丸める 全部まるめる [会話] すれこおて (ずるくて) なんもかも (何も彼も) ヒンマルケテカレ (て行く)、人の もん (物) でも なんでも もてくと (何でも持っていくと)。

**ひんまるめる** (丸)【**他マ下一**】一緒にしてまとめる まるめる 自分に従わせる [会話] ヒンマルメトケ (ておけ) 其処らの もん (物) を、こねこねんし いてなあ (にしておいて) まるけとく (丸めておく) のをなあ、ヒンマルケトイテ (ておいて) ほつといていたない (捨てておいて行った) 言うてなあ。

**ひんむくる**【**他カ五**】1) 勢いよくはがす 手荒くはがす 2) 強く撲る [会話] ② 拳骨 むくったん の (撲るのを) ヒンムクル 言うて、拳骨むくられた言うの (のを) かったあいの (堅いのを) やられた言うて、ものすごお、強お (大変強く) やられたのおを (のを) ヒンムクラレタ 言うの (のです)。むくられた言うな (のは) まだちよいと (少し) 軽い んけど (が)、ヒンムクラレタ 言うと ものすごお 力 入れてしや れた (された) 時の事を なあ (です)。

**ひんむしる**【**他サ五**】筆り取る 奪う [会話] ひん な (が) 付くと えらいね (大変なのです)、引き筆る 言うのなあ ヒンムシラレタ 言うてな まあ ちよいと (少し) 強く やられる (される) 事を ひんが 付くのはなあ。

**ひんやり**【**副詞**】冷たさを感じるさまを表す語 [会話] ヒンヤリ するよお (します) 言うて。ちよいと (少し) 体 な (が) つめと (冷めたく) なって来たのおをなあ。おおた ヒンヤリするなあ ひやつくも 一緒 やわい (です)。夏に 冷めたい水飲むと おおた ひいやりと ええなあ (よい) ヒンヤリと 言うてなあ。ひいやり しい (し) 過ぎて よお (よく) 冷えるなあ 言うて。

**ぴんやろ**【**名詞**】もみあげの毛 鬢に残す毛髪 [会話] ビンヤロ 言うて 昔 や (は) これい (これへ・鬢) お

きおったの (置いて居たのです)。頭 さかやきん  
(に) すつといて (剃っておいて) ここい (此処へ、  
鬢) こげんして (こんなにして・垂らして) 大五郎  
(子連れ狼の子供) 言うのな (が) しとるやんない  
(して居るでしょう)。あげんして (あんなにして)、  
歩くよおん (に) なって来ると さかやきおいといて  
(ておいて) ピンヤロ、かわいらしんてや (可愛らし  
いのです)。上だけ 剃ったといて (剃ってやって)  
ちよおいと ほっそお (少し細く) して 此処の鬢だ  
け さがらかして (下がらせて) なあごお (長く) な  
って来て、どいらい (大変) かわいらしね (のです)。  
おなご (女) の子ら 前髪たらして 上は 束ねとい  
て (ておいて) 前髪 おきおって (置いて居て) 男の  
子は ピンヤロ。がっこい (学校へ) 行くよん (よう  
に) になると 剃ったるけど (てやるが)、がっこい 行  
く迄 ピンヤロ置いとんの (て居るのです)。

**ひんよおわける** 平等に分ける [会話] ヒンヨオワケ  
ル。みんなだ (皆) うなしよおん (同じように) 分け  
る言う事やわい (です)、上下せんと (多い少ないせ  
ずに)。